

中村瑞隆著

梵漢
對照

究竟一乘寶性論研究

山喜房仏書林刊

THE
RATNAGOTRAVIBHĀGA-MAHĀYĀNOTT-
ARATANTRA-ÇĀSTRA

COMPARED WITH
SANSKRIT AND CHINESE

WITH
INTRODUCTION AND NOTES

BY
ZUIRYU NAKAMURA

SANKIBO-BUSSHORIN

TOKYO. 1961

目 次

序 文

1. 訳本に就いて.....	1
2. 漢訳論本偈と釈論.....	4
3. 漢訳異本の調卷と分品.....	6
4. 蔵訳 Śāstra と Vyākhyā.....	10
5. 梵本に就いて.....	14
6. 梵蔵英漢四訳偈頌対照表.....	16
7. 論本偈に就いて.....	31
8. 註釈偈に就いて.....	34
9. 論本偈の思想背景.....	36
10. 註釈偈の展開.....	42
11. 釈疏の意義.....	46
12. 無上依経と宝性論.....	49
13. 仏性論と宝性論.....	53
14. 著者に就いて.....	58

本 文

I. 如来蔵分第一品.....	1
(a) 七種金剛句〔教化品第一〕.....	1
(b) 仏 宝〔仏宝品第二〕.....	11
(c) 法 宝〔法宝品第三〕.....	17
(d) 僧 宝〔僧宝品第四〕.....	25
(e) 一切衆生有如来蔵〔一切衆生有如来蔵品第五〕.....	49
(f) 煩惱の覆障〔煩惱所經品第六〕.....	117
(g) 教説の目的〔為我義品第七〕.....	151
II. 菩提分第二品〔身軀清淨菩提品第八〕.....	155
III. 功德分第三品〔如来功德品第九〕.....	173
IV. 仏業分第四品〔自然不休息仏業品第十〕.....	185
V. 称讃分第五品〔校量信功德品第十一〕.....	211

序 文

1. 訳本に就いて

我々は一九五〇年宝性論の梵本が E.H. Johnston と T. Chowdhury 両教授によつて公刊されるまでは、中天竺三蔵勒那摩提によつて漢訳された（五一～五一五）究竟一乗宝性論四卷（大正大蔵經第三十一卷 No. 1611）と、十一世紀頃インドの大班抵達 Sajjana と西藏の翻譯官比丘 Blo-Idan śes-rab によつて西藏訳された弥勒（Maitreya 二七〇～三五〇）造の Theg-pa chen-po (ḥi) rgyud bla-maḥi bstan-bcos (Mahāyānottaratantra-śāstra) と、無著（Asaṅga 三一〇～三九〇）の Theg-pa chen-po (ḥi) rgyud bla-maḥi bstan-bcos-kyi rnam-par bśad-pa (Mahāyānottaratantra-śāstra-vyākhyā) と、更には E. Obermiller が一九三一年、無著の Vyākhyā を英訳した The Sublime Science of the Great Vehicle to Salvation being a Manual of Buddhist Monism を手にしていた。

そして、梵本に就いては、一九三五年燉煌出土の于闐書体の本論の断簡が H.W. Bailey と Dr. E.H. Johnston 教授によつて公表され、その抜萃が一九四〇年上海での英訳リプリント版に A Fragment of the Uttaratantra in Sanskrit のタイトルのもとに付載された。又一九三五年インドの Rāhula Sāṃkṛityāyana がチベットとネパールに於て、二種の梵文写本を得たことが伝えられ、出版の日が期待されたものであった。

Johnston 教授は、二種の梵本写本の中、十世紀頃の Śāradā 字体の写本 A を主とし、十一世紀頃の Nepali 字体の写本 B を従に、加えて漢蔵英訳を参照し序文を付して、出版を企図しながら死去した。やがて、この出版計画は Johnston 夫人からパटना大学の Dr. T. Chowdhury 教授に托され、同教授は写本と厳密に照合し、一九五〇年この論をパटनाで公刊した。

梵本の論名は Ratnagotravibhāgo mahāyānottaratantra-śāstram（宝性を分別する大乘の最上秘義論）である。これは無著の Vyākhyā の各

品の終りにある題名 Theg pa chen po(hi) rgyud bla maḥi bstan bcos dkonmchog gyis rigs rnam par dbye ba' (Mahāyānottaratantra-śāstra-ratnagotravibhāga) と一致する。然し、西藏訳の論名の音写では弥勒造は Mahāyānottaratantra-śāstra (大乘の最上秘義論)、無著造は Mahāyānottaratantra-śāstra-vyākhyā (大乘の最上秘義論疏)であつて、共に Ratnagotravibhāga (宝性を分別する)を欠いている。弥勒造の Mahāyānottaratantra-śāstra と梵本の論名 Ratnagotravibhāgo mahāyānottaratantra-śāstram とは共に Śāstra とある点、両者は論名の具略に過ぎないかというに、弥勒造の Mahāyānottaratantra-śāstra は根本となる偈頌と、それを註釈する偈頌を兼ね合わせたもので、長行釈を伴わないものである。これに対し、梵本の Ratnagotravibhāgo mahāyānottaratantra-śāstram は、根本偈と註釈偈と長行釈を合せ説くもので、無著の Vyākhyā と全く吻合するものである。

漢訳では論名が究竟一乘宝性論である。経録によれば、別名を宝性分別一乘増上論と記している。究竟一乘・一乘増上は Mahāyānottaratantra の意識、宝性は Ratna-gotra-vibhāga の略訳、宝性分別はその直訳であるから、漢訳の依拠した梵本の論名も、Ratnagotravibhāga-mahāyānottaratantra-śāstra であつたと思われる。論名の解釈に就いては種々考えられるが、Ratna-gotra (宝性)の gotra は姓・性と訳される。Ratna-gotra は gotraṃ ratna-trayaśyāsa viśayaḥ sarva-darśinām (この三宝の性は一切見者の境界である。梵漢対照 p. 39, I-24) とあるから、宝性とは三宝の性の意味である。三宝の性というのは、この論の内容が、仏・法・僧・界(性)・菩提・功德・仏業の七種金剛句に摂せられ、三宝は性即ち如来蔵の因と、菩提・功德・仏業の縁によつて建立されることを説き、特に三宝建立の因である如来蔵に指点がある。漢訳の究竟一乘宝性論の略称である宝性論は、三宝の因即ち如来蔵を説述する意味で、論の教理内容を表示するものである。法界無差別論領要抄に、この論を「三宝性論」と呼んでいるのも、宝性とは三宝性を説くものであることを示すものである。西藏訳の論名 Mahāyānottaratantra-śāstra は至元録巻九に「梵に摩訶衍拏 烏但囉 半特囉_{二合}

沙悉特囉_{二合}と云う」と全く一致し、論の思想的地位の優越性を誇示するものである。Johnston 教授が Ratnagotravibhāga は論の思想的内容を表わし、Mahāyānottaratantra は論の思想的地位を現わしたものと述べているのは、蓋し卓説というべきであろう。

漢訳は一部四巻であるが、大略二部に分けることが出来る。論の劈頭に五言四句の三百偈を掲載している部分と、この三百偈の中、帰敬を説く十八偈七十二句を除く二八二偈を主要偈として、これに註釈偈・長行釈を付加した部分とである。前の部分に就いては宋・元版には三百の主要偈を掲げ終つて、「已説論本偈經一竟」の七字を加えているから、今は三百の主要偈を論本偈と呼び、後の部分は論本偈と、これを註釈する偈と、更に長行釈を伴うものであるが、註釈する偈を註釈偈、長行釈を釈疏、そして、論本偈・註釈偈・釈疏を合したものを釈論と呼ぶことにしよう。

梵本は漢訳と比べると出入はあつても、漢訳の釈論に合し、西藏訳無著造の Vyākhyā は梵本とよく一致する。西藏訳弥勒造の Śāstra は釈疏を欠くもので、論本偈と註釈偈を並べあげた四百十一偈である。

従つて、宝性論のテキスト中、梵本は西藏訳の Vyākhyā と漢訳の釈論に合するが、蔵訳 Śāstra に相当するものは梵本になく、又梵蔵には漢訳のように三百の論本偈だけを別掲したものに相当するものがない。

漢訳は、1 教化品、2 仏宝品、3 法宝品、4 僧宝品、5 一切衆生有如來藏品、6 無量煩惱所纏品、7 為何義品、8 身軀清淨成菩提品、9 如來功德品、10 自然不休息仏業品、11 校量信功德品に分け、梵本と蔵訳 Śāstra, Vyākhyā は共に漢訳の仏・法・僧の三品と如來藏品・煩惱所纏品・為何義品を合して如來藏品第一とし、次の成菩提品を第二、如來功德品を第三、仏業品を第四、校量信功德品を第五とし、分品に関して漢訳と梵蔵の間に徑庭がある。校量信功德品の論本偈には、「三宝と、清淨界と、無垢の菩提と、諸功德と、業との七種の句義を理趣のように解説することによつて……」(梵漢対照 p. 217; V-25) 又同品の論本偈に「仏界と仏菩提と仏法と仏業とは……」(梵漢対照 p. 211; V-1) といつて、この論自身ではその教理的内容を、前文には三宝と如來藏と菩提と功德と仏業の七種句義に区別し、後文には三宝を仏界に包含して

四種法としている。しかし、漢訳の釈論の初めには、梵蔵にない「此論広門有十一品。中則七品。略唯一品。」を挿入して、広門有十一品に従つて、先にあげた教化品から校量品に至る十一品に区分している。これは論自身の教理的区分である七種句義即ち中則七品に教化品を加え、如来蔵に付帯する煩惱論を煩惱所纏品、如来蔵を説く理由を為何義品として夫と独立させ、最後に信謗の禍福を明す校量信功德品を加えたものである。

梵蔵は論本偈に説く七種句義の中の三宝と如来蔵を合して如来蔵品第一、菩提品第二、仏功德品第三、仏業品第四、功德品第五としている。釈疏に三宝を説き終つて、如来蔵を説き起す初めに、*tatra samālāṃ tathatām adhikṛitya*（ここに有垢真如に関して）の句を置いて如来蔵の説明に入っている。これより見るときは、三宝を有垢であるという条件をもつ如来蔵に摂することは妥当でなく、教義上から品名を見るときは、宇井博士の宝性論研究に指摘するように（p.30）、三宝と如来蔵は区別して取扱わなければならないであろう。梵蔵の分品は先に挙げた校量功德品の初めの論本偈に「仏界と仏菩提と仏法と仏業とは」の四種の法を挙げているから、これに信功德品を加えて五品とするのに従つたものであつて、梵蔵の五品の分け方は論本偈の指示するところであるが、七種句義によれば、四種の法の中の仏界は詳しくは三宝と如来蔵とに開かれるものであるから、教理的正確さから見るときは、七種句義に校量信功德品を入れて八品と分けるべきものと考ええる。

2. 漢訳論本偈と釈論

漢訳は第一部論本偈と第二部釈論から成立し、釈論は論本偈を偈をもつて註し、更に長行をもつて釈したものであるから、釈論は論本偈をあげて具さに註釈するのが一般であろうが、漢訳の釈論は梵蔵に比較して遙かに恣意的である。

先ず、論本偈の教化品第一を見るのに、三宝に帰依し、誹謗大乘を教誡して正法久住を榮求した帰敬の十八偈がある。この帰敬偈は漢訳釈論に掲載することも、註釈もなく、又梵本にも西藏訳 *Śāstra, Vyākhyā* の両本にもない所であつて、論本偈作者に帰せしめることは出来ないであろう。無量煩惱所

纏品第六には、如来蔵が無量の煩惱に蔽われていることを巧みに例証した如来蔵經の九喻（一）華仏譬、（二）蜂蜜譬、（三）糞実譬、（四）糞金譬、（五）地宝譬、（六）果芽譬、（七）衣像譬、（八）女王譬、（九）模像譬と、勝鬘經の五住地惑（一）見一処住地、（二）欲愛住地、（三）色愛住地、（四）有愛住地、（五）無明住地を基礎として、九種の客塵煩惱即ち、（一）貪使煩惱、（二）瞋使煩惱、（三）癡使煩惱、（四）増上貪瞋癡結使煩惱、（五）無明住地所摂煩惱、（六）見道所断煩惱、（七）修道所断煩惱、（八）不淨地所摂煩惱、（九）淨地所摂煩惱を説いている。漢訳の論本偈には五十四偈によつて、如来蔵が九種の客塵煩惱によつて隠蔽されていることを説いているが、漢訳釈論にはこれを省略し（梵漢対照 p. 119 下註一）、梵本・蔵訳の両本には掲げている。これら五十四偈に就いて漢訳釈論にも「自此以下依此略説三十四偈句義。余殘譬喻五十四偈広説應知」（対照本 p. 118）とあるに拘らず五十四偈を省略している。これは五十四偈が本来梵蔵本の如くあつたものを煩惱論を展開するために、素材として如来蔵經を引用したに過ぎないことと、冠頭にある論本偈に掲げている点から、漢訳釈論の原本に本来あつたものを省略したものであろう。又如来功德品第九は無垢真如法身と、それから顕現する色身の功德に就いて如来の十力・四無畏・十八不共法・三十二大人相の六十四種を説くものであるが、論本偈には十力は金剛譬、四無畏は師子譬、十八不共法は虚空譬三十二大人相は水月譬によつて、それぞれ法説と譬説を双具して説いているのであるが、釈論には法説一群、譬説一群とし、梵本と蔵訳の二本は漢訳論本偈の如く法譬双具しているから、漢訳釈論も本来は漢訳論本偈や梵蔵のような順序であつたものであろう（対照本 p. 175 下註四）。次に自然不休息仏業品第十は仏の慈悲行が自然に行われることを、（一）鏡像譬、（二）妙鼓譬、（三）雲雨譬、（四）梵天譬、（五）日譬、（六）摩尼譬、（七）響譬、（八）虚空譬、（九）地譬によつて説述し、六十六偈をあげているが、これら九譬は如来莊嚴智慧光明入一切仏境界經の要略であつて、釈論に何等の註釈もなく、漢訳の釈論にはこれを省略している（対照本 p. 190 下註二）。梵本と蔵訳の両本は漢訳論本偈と一致するものを掲げている。六十六偈に就いては釈論に「依此一行修多羅撰取義一偈九種譬喻。自此以下広説三余殘六十六偈應知。」とあつて、しかも六十六偈を略している。漢訳釈論の仏業品も前の煩惱品と同様、經からの要略

であつて、既に論本偈に挙げていることから省略したことは明かである。

これらによつて漢訳論本偈と釈論について梵蔵両本を介在させて考察するとき、教化品のように後に増補したと考えられるものと、煩惱品・功德品・仏業品のように、釈論に於いて意識的に配置換え、又は省略したと見られるものとが存する。煩惱品・功德品・仏業品の多くの偈が論本偈にあつて釈論に省略されていることは、論本偈が釈論とは別に既に成立していたことを物語っている。

又、漢訳には理解を便ならしめるために同じ偈を再度引用している個処がある。即ち三宝を説き終つて後、論に、何によつて三宝が生起するのであるかと提言して、「有垢と復次に無垢の真如と、無垢の仏功德と、勝業、それより極淨の三宝が出生する。第一義を見る人々の境界である」(対照本 p. 39; I-23) 三宝は雑垢の真如と、無垢真如・仏功德・不休息の勝業から出生するのであると。漢訳ではこの偈頌を僧宝品(宋版等では三宝品之余)に説き、梵・蔵も漢訳と相応する個所にこの偈頌を説いている。漢訳では更に、この偈頌を如来蔵品第五の初めに再引して後に如来蔵の説明に入っている。これに対して梵蔵には「その中、有垢の真如に因して」(対照本 p. 49)の一句のみがあつて直ちに如来蔵の説明に入り、漢訳の論本偈もこの偈頌を再説してはいない。これは梵蔵に於て、仏・法・僧・如来蔵を一連のものとして各品となさないから、この偈を再引する必要がなかつたからであり、漢訳は仏・法・僧・如来蔵の各品を独立せしめて品名を置いているところから理解に資するために再引したことは疑いない。

これら、漢訳釈論に於ける論本偈の省略・配置転換・再引並びに長行釈の増補は漢訳者所蔵の原本がしかくあつたのではなく、概ね漢訳者の煩簡を考慮した結果にもとづくものと思われる。

3. 漢訳異本の調巻と分品

この論の漢訳を見るとき、高麗版と宋・元・宮内省本及び明本との間に調巻分品に異同がある。この論の巻数に就いて経録を見ると、法經録・仁寿録・静泰録・訳経図記は四巻とし、三宝記は四巻或は三巻、内典録には四巻八十六紙、

大周録には勒那摩提訳は五巻或は四巻或は三巻九十八紙、菩提流支訳は四巻或は五巻としている。開元録・貞元録は巻数に於て大周録と同じく、紙数を八十六紙と数えている。由来、この論の漢訳者に就いては法經録・仁寿録・静泰録の如く菩提流支の單訳とするものと、三宝記の如く訳者と同時代の人、宝唱の経録によつて勒那摩提訳とするものと、訳経図記・内典録・大周録の如く両三蔵に訳出のあつたことを伝えるものと、開元録・貞元録の如く両三蔵にこの論の訳出のあつたことを認めながら、菩提流支訳は初出欠本、勒那摩提訳は第二出、現存とするものがある。これら諸経録の中、単に宝性論とあるのは菩提流支訳、究竟一乘宝性論とあるのは勒那摩提訳である。そして具体的に紙数を数えあげ、同帙の論は何と何であるという点まで記しているものによるときは、結局現行の勒那摩提を訳者とするものに落着くのである。然し、大周録卷十三に、「究竟一乘宝性論一部五卷或四卷或三卷亦云宝性分・宝性論一部四卷(或五卷)・思塵論(三紙)・觀所緣緣論(三紙)・三具足論(二十紙)右三論同卷、右五論十卷同帙」と。この記事の中、宝性論一部四巻のみ紙数を欠いているが「右五論十巻同帙」として、究竟一乘宝性論と宝性論の二部が思塵論等の三論と同帙としているのを如何に解すべきであろうか。由来、大周録には再検討を要すべき多くの点を含んでいるように思われる。例えば、三宝記卷九や内典録卷四に、宝唱録によつて、菩提流支と勒那摩提が「並訳。二德乖各不_二相詢訪_一其間隱没……後人始合」一本としたと言われ、開元録卷六・貞元録卷九に勒那摩提の訳は欠本と記している宝積經論四巻を大周録卷十三に、菩提資糧論一部六巻と右二論同帙であるとし、又阿毘達磨雜集論十六巻とも同帙としている。後人合して一本又は流支訳である宝積經論が同帙にあつたということは、後人が合する以前の両訳が同帙にあつたとは解し難く、宝積經論の漢訳異本が同帙にあつたことを指すものとしか考えられないであろう。従つて、宝性論が二部同帙に存したという記事も、両三蔵の訳本が同帙したのではなく、元本と異本を指すのではないかと考える。

古い諸経録には四巻となつているから、早い時代には四巻本であつたと思われる。但し三宝記に、この論が三巻であつたとも伝えているが、如何なる調巻であつたかは不明である。又大周刊定録に「或五巻」とあるから、大周録

編輯（六九五）の時には既に五巻本が流行していたことを知るのである。大正大藏經の下註によれば宋・元・明・宮本が五巻となつてゐる。五巻とは恐らく三本・宮本の調巻を指すものであろう。經録には六巻本のあつたことを記するものはないが、民国八年冬十月金陵刻經處で上梓したこの論は六巻になつてゐる。

四巻本と五巻本の調巻分品に就いて比較してみると、(1)四巻本には冠頭に掲げる三百偈と、漢訳に、「初釈一品一具撰此論法義体相」といつて論の大綱を説く部分を第一巻とし、五巻本は冠頭の三百偈を掲げ終つて「已説論本偈經一竟」とあつて第一巻としている。(2)四巻本では三宝を説く部分を第二巻とするのであるが、僧宝品の中に、三宝建立の理由、仏宝のみ可帰依處であること、仏法僧が共に宝といわれる所以等をも含めてゐる。五巻本は論の大綱を説く部分を第二巻に収め、仏法僧をそれぞれ三品とし、広く三宝に關説する部分を三宝品之余とし第二巻としている。(3)如来藏品はこの論の精要を説くものであつて、如来藏を、体・因・果・業・相応・行・時差別・遍所・不変・無差別の十義をもつて詳釈している。四巻本では如来藏品全体を第三巻とし、五巻本は十義の中、体・因・果の前半を如来藏品第五、果の後半と業・相応・行・時差別・遍所、そして第九義の不変に不淨時、淨不淨時、淨時の三時を区分する中、不淨時の不変までを如来藏品之二とし、如来藏品第五之二を第三巻としている。而して、三分位中の淨不淨時と淨時不変と最後の無差別を如来藏品之余とし、次の煩惱所纏品と合して第四巻。四巻本は無量煩惱所纏品から最後校量信功德品に至る六品を第四巻、五巻本は為何義品第七から校量品までの五品を第五巻としている。図示すれば、

四 卷 本		五 卷 本	
第一巻	冠頭三百偈	論本偈經	第一巻
	初釈一品一具撰此論法義体相	初釈一品一具撰此論法義体相	
第二巻	仏宝品第二	仏宝品第二	第二巻
	法宝品第三	法宝品第三	
	僧法品第四	僧宝品第四 三宝品之二 ⁽⁴⁾	

第三巻	一切衆生有如來藏品第五	如來藏品第五 ⁽⁴⁾	第三巻
		如來藏品之二 ⁽⁴⁾	
		如來藏品之余 ⁽⁴⁾	
第四巻	無量煩惱所纏品第六	無量煩惱所纏品第六	第四巻
	為何義品第七	為何義品第七	
	身軀清淨成菩提品第八	身軀清淨成菩提品第八	第五巻
	如來功德品第九	如來功德品第九	
	自然不休息仏業品第十	自然不休息仏業品第十	
	校量信功德品第十一	校量信功德品第十一	

註、図表中の五巻本は宋・元・明・宮本であるが、但し明本は、(4)三宝品の二を三宝品之余、(4)如来藏品第五を如来藏品第五之一、(4)如来藏品之二を如来藏品第五之二、(4)如来藏品之余を如来藏品第五之三としている。

漢訳では梵蔵にない十八偈を加えた三百の論本偈を十一品に分けたのであるから、釈論も十一品に分けなければならないこととなつた。然し、釈論には教化品に相当する部分がないから、梵蔵にない「論曰。第一教化品如向偈中已説一應、知。」と、省略の説明句を入れなければならなかつた。又金陵刻經所上梓本には第一巻が終つて第二巻の初めに、割註で「此處應有教化品第一一行。宋・元・明・麗本皆欠。」とある。これは一論の大綱を説く個處を教化品として取扱かおうとするものであるが、教化品十八偈の註釈ではなく内容も異なるものであり、又次下にある「教化品如向偈中已説」の句と矛盾するもので、教化品とはなし難くこの割註は妥当ではない。然し「應有教化品」というのは論本偈と同様釈疏にも教化品があるべきであるとする素直な見方であつて、十八偈が後の増補であることを意識しながら両者の会通を試みたものであろう。

又五巻本は僧宝品の後に付加された三宝建立の理由や、仏法僧が共に宝といわれる所以を僧宝品として取扱うことが妥当でないものとして三宝品之余とし、如来藏品を不変義の途中から改品しているのは衆生論を中心とする分品であつて、四巻本よりも教理的立場を考慮しての分品である。經録に五巻本が四巻本より後に表れたとする記事より見ても、五巻本としたのは四巻本より後の調巻によるものであろう。

4. 藏訳 Śāstra と Vyākhyā

弥勒の Śāstra と無著の Vyākhyā は西蔵大蔵經丹珠爾唯識部一・第百八巻に収蔵されている。Śāstra は漢訳の論本偈と註釈偈とを一緒にした四百一十一偈であり、Vyākhyā は漢訳の釈論と吻合する。既に述べた様に、漢訳の釈論には煩惱品や仏業品に多くの論本偈を省略しているが、Vyākhyā はこれらを省略していない。Vyākhyā は Śāstra の忠実な釈疏としての役割を果たし両者は数個処に於いて異りを示しているに過ぎない。

藏訳の Śāstra と Vyākhyā を比較して見ると、如来蔵に関する第一章の第二十五偈を Śāstra には、

dag dañ ñon moñs dañ ldan phyir, kun nas ñon moñs med dag
phyir, lhun grub rnam par mi rtog phyir.

浄と煩惱を具するから、雑染がなく清浄であるから、自然無分別であるから。

七綴一句が三句である。これを梵漢には、

śuddhy-upakliṣṭatā-yogāt niḥsaṃkleśa-viśuddhitāḥ |
avinirbhāga-dharmatvād anābhogāvikalpataḥ ||25||

染浄相应处 不染而清浄 不相捨離法 自然無分別 (対照本 39—42)

Śāstra には北京版・デルゲ版・ナルタン版とも、梵本の “avinirbhāga-dharmatvād” 漢訳の「不相捨離法」を欠いているが、Vyākhyā には第三句目に梵漢と一致する “rnam par dbye ba med chos phyir” を持っている。第一句は在纏、第二句は出纏、第三句は仏徳の無差別、そして第四句は仏業が自然無分別であることを説くものであるが、藏訳の Śāstra の原梵本は三句しかなかったものであろうか、それとも、藏訳者が一句を見失ったものであろうか。三宝は在纏と出纏と仏徳と仏業から生起することを説こうとするこの偈が、前偈との関係から第三句の仏徳を欠くことは、註釈偈という内容から言っても偈頌の形態から言っても適当ではない。この様に Śāstra に三句で、Vyākhyā に四句となつているものに菩提に関する第二章の第十一偈と第三十偈がある。第十一偈は第十偈が根本無分別智の果を説くのに対

し後得智の果を説くものであるが、Śāstra には、

rnam pa kun gyi mchog ldan pa, sañs rgyas sku ni des thob pa,
ye śes ḥbras bu yin par bsad.

一切種の最勝を具備した仏身は、これによつて得られた智果であると説く。

三版とも七綴一句が三句である。これを梵漢と対照すれば(対照本 p. 159; II-11) 梵本の “tat-prīṣṭha-labdhasya” 漢訳の「依彼証(智果)」を欠き、Vyākhyā には梵漢と一致する “de ni rjes la thob pa yi” を加えている。又第三十偈は解脱身と法身によつて自利利他の益を説き、自利利他の二益によつて不可思議の功德が相應することを説くものであるが、Śāstra は三版とも梵本の “sva-parārthāśraye tasmin” 漢訳の「依自利利他」(対照本 p. 165; II-30) を欠き、Vyākhyā では梵漢と一致する “rañ gshan don rten de lta ni” をもっている。これら Śāstra に三句で Vyākhyā に四句であるのは如何に考えるべきであるか。(一) Śāstra の原梵本が一句相当部分を欠いていたか。(二) Śāstra の訳者が訳出の際脱落せしめたか。(三) Śāstra は Vyākhyā から引抜いたものでその時不用意に脱落せしめたか。(四) Vyākhyā は Śāstra の欠を補填したものであるか。後時 Vyākhyā と対照訂正したと思われる東北大学所蔵の Śāstra の異本(西蔵撰述仏典目録 No. 6799) には四句になつている点から(一)(四)よりも(二)(三)に考える方が妥当であると思われる。

又 Śāstra 如来蔵第一章の三十二偈に、

chos la khoñ khro bdag lta dañ, ḥkhor baḥi sdug bsñal gyis
ḥjigs dañ, sems can don la ltos med nid.

法に於ける悪意と、我見と輪廻の苦の怖畏と、衆生利益を顧慮せざると。

(対照本 p. 51; I-32)

これは如来蔵の十義の因義を説く中、一闡提と外道と声聞と辟支仏の四人に四種の障碍のあることを説く偈であるが、梵本の caturdhāvaraṇam, 漢訳の「有四种障碍」の句を欠いている。Vyākhyā も Śāstra の東北大学異本もこの一句を欠き三句である。梵漢が一致しているのに Śāstra と Vyākhyā の梵本が共に三句であつたとは考え難い。これは藏訳両本の中どち

らかが誤つて三句としたものを、他方がその儘依用したものではないかと考える。

又 Śāstra には如来蔵説の起点をなす一切衆生に如来蔵のあることを説く論本偈が脱落している。Vyākhyā にはこれを、

saṅs rgyas ye śes sems can tshogs shugs phyir, raṅ bshin dri med de ni gñis med de, saṅsr rgyas rigs la de ḥbras ṇer brtags phyir, ḥgro kun saṅs rgyas snān po can du gsuṅs.

仏智は衆生聚に住するから、彼の無垢なる自性は無二にして、仏種の中に彼果が観察されるから、一切趣に仏蔵があると説く。

梵文二十七偈（対照本 p. 49）と全く一致する。この偈は如来蔵が一切衆生に三理由によつて有であることを説くもので、この基本的存在論証によつて以下に如来蔵の十義を導出しようとする重要偈であつて Śāstra の依拠した梵本には本来無かつたものであらうと軽々に言い得ない点を含んでいる。

又 Śāstra には梵漢に引用偈として取扱つている偈を掲載している。

rnam pa thams cad graṅs med pa, bsam med dri med yon tan daṅ, dbyer med mtshan nid thar pa ste, thar pa gaṅ de de bshin gśigs.

無量一切種の不可思議なる無垢の功德と、無差別である相は解脱であつて、解脱これが如来である。

この偈を梵本は引用偈の取扱いをし、漢訳は大般涅槃經の偈としている。この偈は宝性論研究 (p.177) が指摘するように現行の涅槃經にないけれども、如来性品にこの趣意の長行があり漢訳では明かに引用偈としているのである。（対照本 p. 111）

このように、蔵訳 Śāstra は Vyākhyā 及び梵漢と対照するとき、(一) Śāstra の原梵本が一句相当部分を欠いていたか、(二) Śāstra の西藏訳者が訳出の際脱落せしめたか、(三) Vyākhyā が Śāstra の欠を補填したものであるか、(四) Śāstra が Vyākhyā から摘出したもので、その際脱落せしめたものであるかという疑問を投げかけている。然しながら、(一)内容上落してはならない一句を欠いて本来三句しか無かつたと考えられない点、(二)註釈偈があるに拘ら

ず論本偈を脱落していること、(三)引用偈を論本偈として拾い上げていること、(四)後時 Vyākhyā と対照訂正したと思われる東北大学所蔵の Śāstra の異本には如来蔵章の第三十二偈を除いて四句に訂正している点等から、蔵訳 Śāstra は可成り不用意に Vyākhyā から摘出したものであると言う逆の考え方を成立させる。

然らば Śāstra は印度・西藏のいずれに於て Vyākhyā から摘出されたものであるかと言うに、梵文如来蔵章九十二偈（対照本 p. 113）が Śāstra には、

de rnams ḥdri byed gaṅ dag yin, sbyin daṅ tshul khriṃs bzod la sogṣ, rnam pa kun gi mchog ldan pa, stoṅ pa nid ni gzugs su brjod.

彼等の画師と言うのは布施持戒忍辱等である、一切種の最勝を具する空性と言うのは画である。

と。七綴一句が四句あつて梵漢と合するが Vyākhyā には第三句と第四句の間に “de la mñon par sbyor rnams kyis”（ここに諸の精進によつて）がある。この一句は梵漢に欠く所であり、この一句によつてこの偈の意味が把握し難いものになっているが、三版ともこの句を持つている。Śāstra が Vyākhyā から抜出したものとするならば Śāstra が何故にこの一句を入れなかつたかと言う問題は解決されない。又仏業品の第八偈（対照本 p. 187）が Śāstra には、

gnas drug bo ni ḥdi dag rnams, go rim ji bshin rgya mtsho daṅ, ni ma daṅ ni nam mkhaḥ gter, sprin daṅ rluṅ bshin śes bar bya.

これら六処は、次第の如く、大海と、日光と虚空と伏蔵と、雲と風の如くであると知るべきである。

と七綴四句で梵漢に合する。Vyākhyā にはこの偈の前二句が、“gnas drug ḥdi nams go rim bshin,”（これら六処は次第の如く）と一句に縮少しているが、その意味は全く同じである。

Śāstra と Vyākhyā が同じ訳者によつて I-92 偈のように Vyākhyā の

五句を Śāstra に意識的に四句に改めたとすれば、先に述べたように三句しか無かつたものを何故四句に改めなかつたか、又同じ偈頌を同じ訳者が四句或は三句に訳している点から見て、Śāstra は西藏に於いて Vyākhyā から引出したものではなくインドに於てなされていたものと思われる。

5. 梵本に就いて

二種の梵本の中 Johnston 本の底本となつた写本 A は Śāradā 字体である事から、十世紀頃、校合の上に重要な役割を果たした写本 B は Nepali 字体であるから約十一世紀頃のもの、漢訳は訳者の渡支と歿年から、五一—五五一年頃、藏訳 Śāstra も Vyākhyā も訳者から十一世紀頃の訳出と推定し得る。単に時間の上から見れば漢訳と梵本藏訳とは四・五百年の距離がある。漢訳には訳者の老婆心からの増補、煩を厭つて簡略にした点を考慮に入れても、猶後述のように梵藏との間に出入があり、漢訳は梵藏本より古本であると思われる点が多い。梵本と藏訳とは年代的に接近しているせいか対照すると殆んど一致する。梵本写本 A は筆写の字体から言つて B 本より古いのであるが、Johnston 本 p. 54 (対照本 p. 107) の下註には写本 B に、

nityārtho' nanyathātmavam akṣayya-guṇa-yogataḥ | dhruvārthaḥ śaraṇātmavam antakoṭi-samānataḥ | śivārtho 'dvaya dharma-matvam avikalpa svabhāvataḥ | śāśvatārtho 'vināśitvam akṛitri-ma-guṇatvataḥ |

無尽の功德を具足するから無変異であるのは常住の義である。辺際と等しいから帰依の自性であるのは堅固の義である。無分別であるから無二の法性であるのは寂靜の義である。無作の功德性であるから不壊であるのは吉祥の義である。

この二偈のあることを記している。この二偈は如来藏が仏地に於いては、常恒性であるから意生身による生がなく、堅固性だから不思議変易生死がなく、寂靜性だから習氣による病がなく、不変性だから無漏業による老のないことを、不増不減經の「舍利弗。如来法身常。以不二異法—故。以不二尽法—故。舍利弗。如来法身恒。以三常可—帰依—故。以三未来際平等—故。舍利弗。如

来法身清涼。以不二法—故。以三無分別法—故。舍利弗。如来法身不變。以三非滅法—故。以三非作法—故。」によつて訛成している經文の単なる改作に過ぎない。漢訳にも写本 A にもない所から見て、後の付加であることに間違いなく、字体と共にこの二偈を持つ写本 B は写本 A より新しい成立と言い得よう。写本 A・B と藏訳の關係を見ると、藏訳の Śāstra と Vyākhyā にはこの二偈があつて全く一致する。即ち、西藏訳の依拠した梵本は、写本 B と近似していたことを知ることが出来る。然し、Johnston 本の下註に数多く引用されている B 本は藏訳と一致しない点も多い。個々の異なる単語に就いても充分検討すべきであるが、その最たるものを一・二あげて見よう。

声聞法の道諦と滅諦は帰依処とはならないことを明す中、道諦に就いて、写本 B、(J 本 p. 19 下註一) に“(tatra) mārgaḥ saṃskṛta-lakṣaṇa-paryāpannam | tan mṛsāmoṣa-dharmi tad asatyaṃ | yad asatyaṃ nityaṃ tad aśaranam.” この文の文法的誤りを訂正して、(この中、道は有為の相に属す。それは虚妄の法、不真実である。不真実・常住であるものは帰依処ではない) としても、「不真実・常住であるものは帰依処ではない」の理解は出来ない。藏訳には、de la lam ni ḥdus byas kyi mtshan nid du rtogs pa la, ḥdus byas kyi mtshan nid du rtogs pagañ yin pa ḥdi ni brdsun pa slu baḥi chos can gañ brdsun pa slu baḥi chos can de ni mi bden pa, gañ mi bden pa de ni mi rtag pa, gan mi rtag pa de ni skyabs may in no. (この中、道とは有為の相に属し、有為の相に属するものは虚妄の法である。虚妄の法は不真実である。不真実なものは無常である。無常なものは帰依処ではない。) とあつて A 本・漢訳に合致する。

又 J 本 (p. 38 下註七) に、“tatra pañcānām abhijñānām jvālā sādharmaṃ tāsām arthānubhāva-jñāna-vipakṣa-andhakāra-vidhāmana-pratyupasthāna-lakṣaṇatvāt.” の jñāna と vipakṣa の間に B 本は “viśuddha-prabhāsvara-lakṣaṇatvāt, tatra vimāla-kleśāvaraṇa-prahāṇāt, viśuddho jñānāvaraṇa-prahāṇāt.” (清淨光明の相の故である。ここに、無垢は煩惱障を断じたからである。清淨は智障を断じたからである) があると記している。この文は直下の転依の漏尽を明す処に

出て来るのであつて、本来ここに挿入されるべきではない。蔵訳はこの文も欠いている。これらの外、J 本の下註に記載している写本 B の文や語を蔵訳と対照しても異なるものが多い。この点 B 本と蔵訳の依つた梵本とは異本であつたことを知り得るが、写本 B は書写に際してかなり乱雑であつたと思われる点があるから、案外、蔵訳が写本 B と近似していたのではないだろうか。蔵訳はテキストとしては新增添本のものと思われる。

6. 梵蔵英漢四訳偈頌対照表

宝性論の偈頌本には、漢訳の論本偈だけのものと、西藏訳の論本偈と註釈偈を合したものとがあつて、漢訳論本偈は冠頭に区別されているから、註釈偈との区別は一応なし得るが、註釈偈と引用偈の区別はつけ難い。又西藏訳 Śāstra には明かに他の経論からの引用と思われる偈が論自身の偈として掲げられているから、四百十一偈の中には吟味しなければならない多くの点を含んでいる。

然し、論本偈と註釈偈と引用偈の区別を明かにすることは、論の思想内容を理解し、論の作者を明かにする上に重要な意義を持つものであるから、この間の区別は出来得る限り厳密を期さなければならない。論の梵漢蔵三訳を対照して見ると、論本偈と註釈偈の区別をする大体の目安がある。

第一にこの論の古本である漢訳の冠頭に掲げる三百偈の中の教化品の十八偈を除く二百八十二偈は、論本偈と見てよいと思われ、金陵刻版の宝性論には論本偈に比べて註釈偈を一段低くして両者の区別を明かにしている。二百八十二偈に一致する梵蔵の偈を論本偈と見る。第二に漢訳釈論の論本偈と梵本・西藏訳 Vyākhyā を見ると、漢訳には論本偈の前に「説一偈」「説二偈」「説四偈」「如偈本言」「如偈説言」等があり、梵蔵には *adhikṛitya ślokaḥ* (*dbañ du byas te tshigs su bcad pa*), *ārabhya ślokaḥ* (*las brtsams nas tshigs su bcad pa*), *apy adhikṛitya.....uddāna* (*dbañ du byas te bśad par byaḥo.....sdom ni*), *adhikṛitya.....granthaḥ* (*dbañ du byas paḥo sdom*), *adhikṛitya.....veditavya* (*dbañ du byas te rig par byaḥo*) 等がある。この二つを目安にして相補つて論本偈を見定め得るのである。

次にこの論には他の経論から多くの引用偈を持つているが、論自体に於いて引用偈であることを指示しているのは数偈に過ぎない。その他の引用偈に就いては英訳者・梵本出版者及び宝性論研究に指示する処である。Śāstra には引用偈を論自身の偈としている点信用し得ないものもあるが、出所未詳で一見引用偈と見難いものでも引用偈は掲載していない潤到さのあることも見逃してはならないから、蔵訳 Śāstra も尊重しなければならない。

漢訳は勿論 Śāstra も Vyākhyā も各偈頌に番号を付けていない。しかし、Vyākhyā から英訳した E. Obermiller は各品毎に番号を付け、全体で四百四偈としている。これは便利であると同時に、論本偈と註釈偈を同位に置き、両者の思想的展開を不明瞭にし、又引用偈を見失わしめる弊害を与えている。梵本も本来通番号がなかつたと考えられるが、各品に番号を付け全体では四百七偈としている。通番号には弊害はあつても異本又は他訳と対照する場合、その点を考慮に入れると便宜であるから、今梵本の番号を採用し、漢訳・蔵訳の Śāstra, Vyākhyā 並に英訳の偈頌対照表を作つて見よう。

- (1) 梵本・英訳の項の番号はそれぞれ梵本・英訳の通番号である。
- (2) () 内の数字は論本偈を意味する。
- (3) () のない数字は註釈偈で、明かに引用偈であると見られるものは註を付する。
- (4) 漢訳に於て論本偈が釈論(煩惱品・仏業品)で省略されている場合がある。冠頭偈にあつて釈論に省略されている偈は漢訳の項に於て冠有とする。
- (5) 漢訳が偈頌で梵蔵に釈疏となつている場合、反対に梵蔵が偈頌で漢訳に釈疏となつている場合、それぞれのところに偈・長行とする。
- (6) 四訳の中一方にあつて他方ない場合、無い方を欠とする。
- (7) 梵・漢の品数は縦に、偈頌の異同は横書とする。

梵藏英漢四訳偈頌対照表

梵藏品数	梵本番号	Sāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
1	1 ¹⁾	"	"	" 1	"	一
"	2 ²⁾	"	"	" 2	"	"
"	3 ³⁾	"	"	" 3	"	"
"	(4)	"	"	" 4	"	二
"	5	"	"	" 5	"	"
"	6	"	"	" 6	"	"
"	7	"	"	" 7	"	"
"	8	"	"	" 8	"	"
"	9	"	"	" 9	"	三
"	10	"	"	" 10	"	"
"	11	"	"	" 11	"	"
"	12	"	"	" 12	"	"
"	13	"	"	" 13	"	四
"	14	"	"	" 14	"	"
"	15	"	"	" 15	"	"
"	16 ⁴⁾	"	"	" 16	"	"
"	17 ⁵⁾	"	"	" 17	"	"
"	18	"	"	" 18	"	"
"	欠	欠	欠	欠	6) 菩薩十勝義 二偈	"
"	19	"	"	" 19	"	"
"	20	"	"	" 20	"	"
"	21	"	"	" 21	"	"
"	22	"	"	" 22	"	"
"	(23)	"	"	" 23	"	"
"	24	"	"	" 24	"	"
"	25	"	"	" 25	"	"
"	26	"	"	" 26	"	"
"	(27)	7) 		 28		五
"	28	7) 		 27		"
"	(29)	"	"	" 29	"	"
"	(30)	"	"	" 30	"	"
"	31	"	"	" 31	"	"
"	32	8) "	9) "	" 32	"	"
"	33	"	"	" 33	"	"
"	10) 34	"	"	" 33	"	"

梵藏品数	梵本番号	Sāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
I	(35)	"	"	" 34	"	五
"	36	"	"	" 35	"	"
"	欠	欠	欠	欠	11) 如清浄真空	"
"	37	"	"	" 36	12) 長行	"
"	38	"	"	" 37	13) 長行	"
"	欠	欠	欠	欠	14) 無分別之人	"
"	15) 39	"	"	" 38	"	"
"	40	"	"	" 39	"	"
"	16) 41	"	"	" 40	"	"
"	(42)	"	"	" 41	"	"
"	43	"	"	" 42	"	"
"	44	"	"	" 43	"	"
"	(45)	"	"	" 44	"	"
"	46	"	"	" 45	"	"
"	(47)	"	"	" 46	"	"
"	48	"	"	" 47	"	"
"	(49)	"	"	" 48	"	"
"	50	"	"	" 49	"	"
"	17) 51	"	"	" 50	"	"
"	長行	欠	長行	長行	18) 十一偈及二	"
"	(52)	"	"	" 51	"	"
"	(53)	"	"	" 52	"	"
"	(54)	"	"	" 53	"	"
"	(55)	"	"	" 54	"	"
"	(56)	"	"	" 55	"	"
"	(57)	"	"	" 56	"	"
"	(58)	"	"	" 57	"	"
"	(59)	"	"	" 58	"	"
"	(60)	"	"	" 59	"	"
"	(61)	"	"	" 60	"	"
"	(62)	"	"	" 61	"	"
"	(63)	"	"	" 62	"	"
"	欠	欠	欠	欠	19) 不正思惟風	"
"	64	"	"	" 63	"	"
"	65	"	"	" 64	"	"
"	(66)	"	"	" 65	"	"

梵減 品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
1	67	"	"	" 66	"	五
"	20) 68	"	"	" 67	長 行	"
"	69	"	"	21) " 66	欠	"
"	70	"	"	" 67	欠	"
"	71	"	"	" 68	欠	"
"	72	"	"	" 69	欠	"
"	73	"	"	" 70	欠	"
"	74	"	"	" 71	欠	"
"	75	"	"	" 72	欠	"
"	76	"	"	" 73	欠	"
"	77	"	"	" 74	欠	"
"	78	"	"	" 75	欠	"
"	(79)	"	"	" 76	"	"
"	80	"	"	" 77	"	"
"	81	"	"	" 78	"	"
"	82	"	"	" 79	"	"
"	83	"	"	" 80	"	"
"	欠	22) 常住堅固	23) "	" 81	欠	"
"	欠	24) 寂靜吉祥	25) "	" 82	欠	"
"	(84)	"	"	" 83	"	"
"	85	"	"	" 84	"	"
"	86	"	"	" 85	"	"
"	87	"	"	" 86	"	"
"	26) 引用偈と す	27) 普通の偈	"	" 87	28) 涅槃經偈	"
"	88	"	"	" 88	"	"
"	89	"	"	" 89	"	"
"	90	"	"	" 90	"	"
"	91	"	"	" 91	"	"
"	92	"	"	" 92	"	"
"	93	"	"	" 93	"	"
"	94	"	"	" 94	"	六
"	(96)	"	"	27) " 94	"	"
"	(97)	"	"	" 95	"	"
"	(98)	"	"	" 96	"	"
"	(99)	"	"	" 97	" 冠 有	"
"	(100)	"	"	" 98	" 冠 有	"

梵減 品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
1	(101)	"	"	" 99	" 冠 有	六
"	(102)	"	"	" 100	" 冠 有	"
"	(103)	"	"	" 101	" 冠 有	"
"	(104)	"	"	" 102	" 冠 有	"
"	(105)	"	"	" 103	" 冠 有	"
"	(106)	"	"	" 104	" 冠 有	"
"	(107)	"	"	" 105	" 冠 有	"
"	(108)	"	"	" 106	" 冠 有	"
"	(109)	"	"	" 107	" 冠 有	"
"	(110)	"	"	" 108	" 冠 有	"
"	(111)	"	"	" 109	" 冠 有	"
"	(112)	"	"	" 110	" 冠 有	"
"	(113)	"	"	" 111	" 冠 有	"
"	(114)	"	"	" 112	" 冠 有	"
"	(115)	"	"	" 113	" 冠 有	"
"	(116)	"	"	" 114	" 冠 有	"
"	(117)	"	"	" 115	" 冠 有	"
"	(118)	"	"	" 116	" 冠 有	"
"	(119)	"	"	" 117	" 冠 有	"
"	(120)	"	"	" 118	" 冠 有	"
"	(121)	"	"	" 119	" 冠 有	"
"	(122)	"	"	" 120	" 冠 有	"
"	(123)	"	"	" 121	" 冠 有	"
"	(124)	"	"	" 122	" 冠 有	"
"	(125)	"	"	" 123	" 冠 有	"
"	(126)	"	"	" 124	" 冠 有	"
"	127	"	"	" 125	"	"
"	128	"	"	" 126	"	"
"	129	"	"	" 127	"	"
"	130	"	"	" 128	"	"
"	131	"	"	" 129	"	"
"	28) 132	"	"	" 130	長 行	"
"	133	"	"	" 131	"	"
"	134	"	"	" 132	"	"
"	135	"	"	" 133	"	"
"	136	"	"	" 134	"	"
"	137	"	"	" 135	"	"

梵藏 品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英 訳 番 号	漢 訳	漢訳品数
I	138	"	"	" 136	"	六
"	139	"	"	" 137	"	"
"	140	"	"	" 138	"	"
"	141	"	"	" 139	"	"
"	142	"	"	" 140	"	"
"	143	"	"	" 141	"	"
"	144	"	"	" 142	"	"
"	145	"	"	" 143	"	"
"	146	"	"	" 144	"	"
"	147	"	"	" 145	"	"
"	148	"	"	" 146	"	"
"	149	"	"	" 147	"	"
"	150	"	"	" 148	"	"
"	151	"	"	" 149	"	"
"	152	"	"	" 150	"	"
"	29) 153	"	"	" 151	"	"
"	30) 154	"	"	" 152	"	"
"	31) 155	"	"	" 153	"	"
"	(156)	"	"	" 154	"	七
"	(157)	"	"	" 155	"	"
"	158	"	"	" 156	"	"
"	159	"	"	" 157	"	"
"	160	"	"	" 158	"	"
"	161	"	"	" 159	"	"
"	162	"	"	" 160	"	"
"	163	"	"	" 161	"	"
"	164	"	"	" 162	"	"
"	165	"	"	" 163	"	"
"	166	"	"	" 164	"	"
"	167	"	"	" 165	"	"
II	(1)	"	"	" 1	"	八
"	2	"	"	" 2	"	"
"	(3)	"	"	" 3	"	"
"	4	"	"	" 4	"	"
"	5	"	"	" 5	"	"
"	6	"	"	" 6	"	"
"	7	"	"	" 7	"	"

梵藏 品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英 訳 番 号	漢 訳	漢訳品数
II	(8)	"	"	" 8	"	八
"	(9)	"	"	" 9	"	"
"	10	"	"	" 10	"	"
"	11	32) " 3 句	" 4 句	" 11	"	"
"	12	"	"	" 12	"	"
"	13	"	"	" 13	"	"
"	14	"	"	" 14	"	"
"	15	"	"	" 15	"	"
"	16	"	"	" 16	"	"
"	17	"	"	" 17	"	"
"	(18)	"	"	" 18	"	"
"	(19)	"	"	" 19	"	"
"	(20)	"	"	" 20	"	"
"	21	"	"	" 21	"	"
"	22	"	"	" 22	"	"
"	23	"	"	" 23	"	"
"	24	"	"	" 24	"	"
"	25	"	"	" 25	"	"
"	26	"	"	" 26	"	"
"	27	"	"	" 27	"	"
"	28	"	"	" 28	"	"
"	(29)	"	"	" 29	"	"
"	30	33) " 3 句	" 4 句	" 30	"	"
"	31	"	"	" 31	"	"
"	32	"	"	" 32	"	"
"	33	"	"	" 33	"	"
"	34	"	"	" 34	"	"
"	35	"	"	" 35	"	"
"	36	"	"	" 36	"	"
"	37	"	"	" 37	"	"
"	(38)	"	"	" 38	"	"
"	(39)	"	"	" 39	"	"
"	(40)	"	"	" 40	"	"
"	(41)	"	"	" 41	"	"
"	42	"	"	" 42	"	"
"	43	"	"	" 43	"	"
"	44	"	"	" 44	"	"

梵藏品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
II	45	"	"	" 45	"	八
"	46	"	"	" 46	"	"
"	47	"	"	" 47	"	"
"	48	"	"	" 48	"	"
"	49	"	"	" 49	"	"
"	50	"	"	" 50	"	"
"	51	"	"	" 51	"	"
"	52	"	"	" 52	"	"
"	53	"	"	" 53	"	"
"	54	"	"	" 54	"	"
"	55	"	"	" 55	"	"
"	56	"	"	" 56	"	"
"	57	"	"	" 57	"	"
"	58	"	"	" 58	"	"
"	59	"	"	" 59	"	"
"	60	"	"	" 60	"	"
"	61	"	"	" 61	"	"
"	(62)	"	"	" 62	"	"
"	63	"	"	" 63	"	"
"	64	"	"	" 64	"	"
"	65	"	"	" 65	"	"
"	66	"	"	" 66	"	"
"	67	"	"	" 67	"	"
"	68	"	"	" 68	"	"
"	(69)	"	"	" 69	"	"
"	70	"	"	" 70	"	"
"	71	"	"	" 71	"	"
"	72	"	"	" 72	欠	"
III	(1)	"	"	" 1	"	九
"	2	"	"	" 2	"	"
"	3	"	"	" 3	"	"
"	(4)	"	"	" 4	"	"
"	(5)	"	"	" 5	"	"
"	(6)	"	"	" 6	"	"
"	(7)	"	"	" 6	34)	"
"	(8)	"	"	" 7	"	"

梵藏品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
III	(9)	"	"	" 8	"	九
"	(10)	"	"	" 9	35)	"
"	(11)	"	"	" 10	"	"
"	(12)	"	"	" 11	"	"
"	(13)	"	"	" 12	"	"
"	(14)	"	"	" 13	"	"
"	(15)	"	"	" 14	"	"
"	(16)	"	"	" 15	36)	"
"	(17)	"	"	" 16	"	"
"	(18)	"	"	" 17	"	"
"	(19)	"	"	" 18	"	"
"	(20)	"	"	" 19	"	"
"	(21)	"	"	" 20	"	"
"	(22)	"	"	" 21	"	"
"	(23)	"	"	" 22	"	"
"	(24)	"	"	" 23	"	"
"	(25)	"	"	" 24	"	"
"	(26)	"	"	" 25	"	"
"	27	"	"	" 26	"	"
"	28	"	"	" 27	"	"
"	29	"	"	" 28	"	"
"	30	"	"	" 29	"	"
"	31	"	"	" 30	37) 知病苦知因	"
"	32	"	"	" 31	"	"
"	33	"	"	" 32	"	"
"	34	"	"	" 33	"	"
"	35	"	"	" 34	"	"
"	36	"	"	" 35	"	"
"	37	"	"	" 36	"	"
"	38	"	"	" 37	"	"
"	39	"	"	" 38	"	"
"	欠	欠	欠	欠	38) 是三十二相	"
IV	(1)	"	"	" 1	"	十
"	(2)	"	"	" 2	"	"
"	3	"	"	" 3	"	"
"	4	"	"	" 4	"	"
"	5	"	"	" 5	"	"

梵藏 品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
IV	6	"	"	" 6	"	十
"	7	"	"	" 7	"	"
"	8	4 句	"	" 8	"	"
"	9	"	"	" 9	"	"
"	10	"	"	" 10	"	"
"	11	"	"	" 11	"	"
"	12	"	"	" 12	"	"
"	(13)	"	"	" 13	"	"
" 40)	14	"	"	" 14	欠	"
"	15	"	"	" 15	欠	"
"	16	"	"	" 16	欠	"
"	17	"	"	" 17	欠	"
"	18	"	"	" 18	欠	"
"	19	"	"	" 19	欠	"
"	20	"	"	" 20	欠	"
"	21	"	"	" 21	欠	"
"	22	"	"	" 22	欠	"
"	23	"	"	" 23	欠	"
"	24	"	"	" 24	欠	"
"	25	"	"	" 25	欠	"
"	26	"	"	" 26	欠	"
"	(27)	"	"	" 27	} 冠有	"
"	(28)	"	"	" 28		"
"	(29)	"	"	" 29		"
"	(30)	"	"	" 30	} 冠有	"
" 41)	31	"	"	" 31		"
"	32	"	"	" 32		"
"	33	"	"	" 33	欠	"
"	(34)	" 二偈とす	" 二偈とす	" 34, 35	" 冠 有	"
"	(35)	"	"	" 36	" 冠 有	"
"	36	"	"	" 37	欠	"
"	37	"	"	" 38	欠	"
"	38	"	"	" 39	欠	"
"	39	"	"	" 40	欠	"
"	40	"	"	" 41	欠	"
"	(41)	" 二偈とす	" 二偈とす	" 42, 43	冠 有	"
" 42)	42	"	"	" 44	欠	"

梵藏 品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
IV	43	"	"	" 45	欠	十
"	(44)	"	"	" 46	X "冠 有	"
"	(45)	"	"	" 47		"
"	(46)	" 二偈とす	" 二偈とす	" 48, 49	" 冠 有	"
"	(47)	"	"	" 50	" 冠 有	"
"	欠	欠	欠	欠	43) 正定聚衆生	"
"	(48)	"	"	" 51	" 冠 有	"
"	(49)	"	"	" 52	" 冠 有	"
"	(50)	"	"	" 53	↑ 冠 有 ↓ 冠 有	"
"	(51)	"	"	" 54		"
"	(52)	"	"	" 55		"
" 44)	53	"	"	" 56	欠	"
"	54	"	"	" 57	欠	"
"	(55)	"	"	" 58	X "冠 有	"
"	(56)	"	"	" 59		"
"	(57)	"	"	" 60	" 冠 有	"
"	(58)	"	"	" 61	" 冠 有	"
" 45)	59	"	"	" 62	欠	"
"	60	"	"	" 63	欠	"
"	61	"	"	" 64	欠	"
"	62	"	"	" 65	欠	"
"	63	"	"	" 66	欠	"
"	(64)	"	"	" 67	" 冠 有	"
"	欠	欠	欠	欠	46) 冠有 色智身二法	"
"	(65)	"	"	" 68	" 冠 有	"
"	(66)	"	"	" 69	" 冠 有	"
"	(67)	"	"	" 70	" 冠 有	"
"	(68)	"	"	" 71	" 冠 有	"
" 47)	69	"	"	" 72	欠	"
"	70	"	"	" 73	欠	"
"	(71)	"	"	" 74	" 冠 有	"
"	(72)	"	"	" 75	" 冠 有	"
"	(73)	"	"	" 76	" 冠 有	"
"	(74)	"	"	" 77	" 冠 有	"
"	(75)	"	"	" 78	" 冠 有	"
"	(76)	三 句	三 句	" 78	" 冠 有	"
"	77	"	"	" 79	"	"

梵藏 品数	梵本番号	Śāstra	Vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
IV	78	"	"	" 80	"	十
"	79	"	"	" 81	"	"
"	80	"	"	" 82	"	"
"	81	"	"	" 83	"	"
"	82	"	"	" 84	"	"
"	83	"	"	" 85	"	"
"	84	"	"	" 86	"	"
"	48) (85)	"	"	" 87	欠	"
"	49) (86)	"	"	" 88	欠	"
"	50) (87)	"	"	" 89	欠	"
"	51) (88)	"	"	" 90	" 冠有	"
"	欠	欠	欠	欠	52) " 冠有	"
"	(89)	"	"	"	53) " 冠有	"
"	(90)	"	"	"	54) " 冠有	"
"	(91)	"	"	"	55) " 冠有	"
"	92	"	"	"	"	"
"	93	"	"	"	"	"
"	94	"	"	"	"	"
"	95	"	"	"	"	"
"	96	"	"	"	"	"
"	97	"	"	"	"	"
"	98	"	"	"	"	"
"	欠	欠	欠	欠	56) 諸如来自然	"
V	(1)	"	"	" 1	"	十一
"	(2)	"	"	" 2	"	"
"	(3)	"	"	" 3	"	"
"	(4)	"	"	" 4	"	"
"	(5)	"	"	" 5	"	"
"	(6)	"	"	" 6	"	"
"	7	"	"	" 7	"	"
"	8	"	"	" 8	"	"
"	9	"	"	" 9	"	"
"	10	"	"	" 10	"	"
"	11	"	"	" 11	"	"
"	12	"	"	" 12	"	"
"	13	"	"	" 13	"	"
"	14	"	"	" 14	"	"

梵藏 品数	梵本番号	śāstra	vyākhyā	英訳番号	漢訳	漢訳品数
V	15	"	"	" 15	"	十一
"	(16)	"	"	" 16	"	"
"	(17)	"	"	" 17	"	"
"	(18)	"	"	" 18	"	"
"	57) (19)	"	"	" 19	異	"
"	(20)	"	"	" 20	"	"
"	(21)	"	"	" 21	"	"
"	(22)	"	"	" 22	"	"
"	(23)	"	"	" 23	"	"
"	(24)	"	"	" 24	"	"
"	欠	欠	欠	欠	58) 若人令衆生	"
"	(25)	"	"	" 25	"	"
"	26	"	"	" 26	"	"
"	27	"	"	" 27	"	"
"	28	"	"	" 28	"	"

註

- 1) 2) 3) 宝性論研究 (P. 34) には論本偈とすべしと。
- 4) 5) 梵漢対照本 P. 27。
- 6) 梵漢対照本 P. 30。
- 7) (27) を Śāstra (P 版、D 版、N 版共に) 欠く。但し東北大学の蔵外目録 No. 6799 の Śāstra にはこの偈がある。それによれば Vyākhyā 同様二偈を入替えている。
- 8) 9) Śāstra, Vyākhyā 共に三句 梵漢対照本 P. 51 の下註 3)。
- 10) この偈は法界無差別論・大乘莊嚴經論にもあつて、宝性論研究 (P. 349) には引用偈とする。
- 11) 漢訳に如清淨真空 得第一無我 諸仏得淨体 是名得大身がある。この偈は大乗莊嚴經論・仏性論にもあつて、宝性論研究 (P. 350) には引用偈とする。
- 12) 13) 対照本 P. 65 の下註 5)、p. 65 の下註 7)。
- 14) 漢訳には註釈偈として無分別之人がある。対照本 p. 68 の下註 5)。
- 15) 16) 17) 此三偈を宝性論研究 (P. 534, 535, 543) には引用偈とする。17) は仏性論第四弁相分には解節經の偈とする。
- 18) 対照本 p. 82 の 2)。
- 19) 対照本 p. 86 の 2)。
- 20) 宝性論研究 (P. 549) には引用偈とする。
- 21) tshigs su bcad paḥi don gshan ni (aparaḥ ślokārthaḥ) を英訳は

“Another meaning of verse (65 is shown in the following verse)”

と訳し、次の偈を 66 偈から数えている。

22)23)24)25) 対照本 p. 107 の下註 3)。

26) 対照本 p. 111。

27) 英訳は梵文 95 を 94 とし、96 を 94 と重複している。

28) 対照本 p. 133 の 2)。

29)30)31) 宝性論研究 (P. 586, 588) には引用偈とする。

32) Śāstra は de ni rjes la thob pa yi の一句を欠く。東北大学の異本及び Vyākhyā にはこの一句があつて四句である。

33) Śāstra は rañ gshan don rten de lta ni の一句を欠く。東北大学の異本及び Vyākhyā にはこの一句がある。

34)35)36) 34) は金剛譬で十力を、35) は獅子譬で四無畏を、36) は虚空譬で十八不共法を譬えている。対照本 p. 175 の下註 4)。

37) 漢訳に知病苦知因 遠離彼苦因 說聖道妙藥 為離病証滅がある。

38) 漢訳に是三十二相の偈がある。対照本 p. 186 の 1)。

39) Śāstra に gnas drug bo ni ḥdi dag rnam, go rims ji bshin rgya mtsho dañ, ñi ma dañ ni rnam mkhaḥ gter, sprin dañ rluñ bshin śes bar bya. の四句を Vyākhyā には初めの三句を gnas drug ḥdi rnam go rim bshin, rgya mtsho ñi ma nam mkhaḥ gter の二句とし、最後の一句と共に三句としている。

40) 14~26 偈を宝性論研究 (P. 623-4) には論本偈としている。

41)42) 宝性論研究 (P. 625-9) には 31~33 偈 42, 43 偈を論本偈としている。

43) 漢訳には論本偈として正定聚衆生の一偈がある。対照本 p. 198 の 5)。

44)45) 宝性論研究 (P. 632-4) には 53, 54, 59~63 偈を論本偈。

46) 漢訳には論本偈として色智身二法の一偈がある。対照本 p. 204。

47) 宝性論研究 (P. 636) には 69, 70 偈を論本偈とする。

48)49)50)51) 漢訳は 88 偈だけを出しているが、この偈だけでは諸偈を総合したことになるから 85, 86, 87 は漢訳の欠を補添したものであり、四偈は諸偈を総合した論本偈と見るべきであろう。

52) 漢訳のみ論本偈として如毘瑠璃滅の一偈がある。対照本 p. 210 の 2)。

53)54)55) 漢訳では帝釈縁の終りに移っている。対照本 P. 191 の 2)、P. 192 の 4) p. 210 の 2)。

56) 漢訳には註釈偈諸如来自然の一偈がある。対照本 p. 210 の 7)。

57) 漢訳には雖說法句義……彼三尚可受。対照本 p. 216。

58) 漢訳には論本偈として若人令衆生の一偈がある。対照本 p. 218 の 1)。

7. 論本偈に就いて

梵藏英漢の偈頌対照表によつて知り得たように、梵藏は殆んど一致し、漢訳との間には有無異なる偈頌、移動している偈頌が相当見られる。梵文 I-(27) 偈は、仏智が衆生聚の内にいるから、無垢の自性は不二であるから、仏種姓中にその果を施設するからの三義によつて、一切衆生に如来蔵があることを説く重要偈である。I-28 偈は、正覺身が徧滿するから、真如が無差別であるから、種姓があるから一切の有身者は常に仏蔵を具す。と説いて (27) 偈を註釈している。漢訳と Vyākhyā は (27) と 28 偈を倒置し、Śāstra には (27) を欠いている。(27) 偈によつて一切衆生が如来蔵を具する理由を明らかにし、これを起点として如来蔵の十義を説く重要偈であること、梵漢蔵の中で一番古本であると思われる漢訳にあることからして、この偈は当初無かつた偈であるとは考え難く、又初めに論本偈を掲げ、次に“anena kim darśitam.”「此偈示現何義。偈曰。」と言つて註釈偈を説き、次いで、“anena samāsato.”「此偈明何義。」と註釈文を述べている論述方法からする時は梵本の如く (27)・28 の順序に従うべきであろう。

梵蔵の仏功德品 III の (7)・(10)・(16)・(26) 偈に説く (対照本 p. 175, 177, 179, 181. 対照表 1)・2)・3)) 金剛譬・師子吼譬・虚空譬・水月譬は Śāstra, vyākhyā と漢訳の冠頭に掲げる論本偈には共にその法説である十力・四無畏・十八不共法・三十二相とそれぞれ説かれ、漢訳釈論には法説一群・譬説一群として移動が見られる。

仏業品は仏業が任運無功用に行われることを、帝釈・天鼓・雲雨・梵天・日・如意珠・響・虚空・大地の九喩をもつて説くものであるが、梵蔵と漢訳との間に多くの移動が見られる。IV の (27)・(28)・(29)・(30) が漢訳では (29)・(30)・(27)・(28) 偈 (梵漢対照 p. 191) となつている。(27)・(28) は無垢毘瑠璃地には天の色像が映ずるが、地が清浄さを失えば、天の色像は影現しない。善男・善女が天の色像を見ようとの願心を起し、花を捧げ布施するように、諸仏子は法王を映現させる為に清浄心になるようにつとめる。(29)・(30) 毘瑠璃地が清浄であれば天主の色像が現するように、衆生の心地が清浄

であれば牟尼の色身像が映ずる。牟尼の色像が現滅するのは心地の清濁によるものであつて、仏身は生滅するものではないと。この四偈は漢訳の論本偈にあるから論本偈であることは間違いない。梵蔵にあつて漢訳にないⅣの14~26 偈は四偈の詳述であつて、この論の形式から言えば四偈と同様論本偈と見るべきであるが、漢訳の冠頭偈がなく、論本偈の前にあつて論本偈であることを表示する“*adhikṛitya ślokaḥ*”「説〇偈」がないことから(27)~(30)の補足偈として後の増補と思われる。譬説を先にする補足偈14~16の内容に相応させて、本来漢訳の様に(29)・(30)・(27)・(28)とあつたものを梵蔵は(27)・(28)・(29)・(30)としたものとする。この様に、漢訳になく梵蔵は論本偈の前にあつて論本偈を補足する偈頌を持ち、漢訳と一致する論本偈が倒置の関係にあるものに、雲喩を説くⅣの42・43・(44)・(45)(対照本 p. 198)と、梵王喩を説くⅣの53・54・(55)・(56)(対照本 p. 199)がある。42・43は(44)・(45)の、53・54は(55)・(56)の補足偈であつて漢訳になく、譬説を先に法説を後にする梵蔵に対して、法説を先にする漢訳では(45)・(44)、(56)・(55)と倒置している。又天鼓喩を説く中、Ⅳの31・32・33(対照本 p. 191)は漢訳になく、論本偈(34)・(35)の重複偈である。(34)・(35)は梵蔵漢一致し、譬説を先にし、ここでは倒置していない、如意宝珠譬を説くⅣの(67)・(68)・69・70(対照本 p. 203~5)の中、69・70の二偈は漢訳になく、(67)・(68)の補足偈であつて論本偈の後に位置している。日喩を説くⅣの59~63(対照本 p. 201~3)は(58)・(64)等の不完全な補足偈である。天鼓喩を説く36~40(対照本 p. 193~5)は漢訳になく、天鼓が自然に鳴るのを仏業の無功用に行われる譬とするのに、天鼓と法音の比較論や四種の功德を論ずることから見て、宝性論研究が、“後人の添加である”と言うように、後人の付加であろう。更に漢訳では大地喩の後のⅣの(85)・(86)・(87)(対照本 p. 207)を欠き、論本偈(88)即ち「勝者の音声は響の如く、御身は虚空の如く、仏地は大地が樹の依地である如く」と九喩の中の響・虚空・大地の後三喩のみを掲げている。(85)は仏業と九喩を総括的に説き、(86)は、「示現は寶石の上に帝釈の影が映ずるが如く、教誡は天鼓の如く、大慈悲の雲聚は無辺に至る」と九喩中、帝釈・天鼓・雲の三喩

(87)は「仏は大梵天の如く変化身を示現し、日の如く智慧の光明を放ち、清浄なること摩尼宝珠に似ている」と。梵天・日・如意宝珠の三喩を説いている。(85)・(86)・(87)の三偈と(88)の四偈は上巻の九喩の総合偈であつて(88)が漢訳に論本偈としているところより見て、(85)~(87)の三偈も共に論本偈であつたことが知られる。恐らく漢訳はこの三偈を逸失したものであろう。猶この外、漢訳論本偈には梵蔵にない数偈がある。

三訳の論本偈を比較して見ると、漢訳論本偈には梵蔵にない数偈があり、脱落したと思われる三偈がある。これに対し、梵蔵には論本偈であると思われる新增補の二七偈がある。それは仏業を例証する九喩に関するものであつて、論本偈の前に置くもの、後に置くものがあり、前に置く場合漢訳の論本偈に比べると増補偈に相応させて論本偈の法説譬説の順序のものは譬説法説に改めた点が見られ、又二七偈の中には法相上明かに後の増補であることを告げるものがある。これによつて漢訳の原典と梵蔵本と異なるものであり、梵蔵に増補された多くの偈より見て、漢訳は梵蔵本に比べて古本であると考えられる。

三訳を対照することによつて知り得た様に、論本偈・註釈偈・引用偈は安易に区別し難く、釈論から論本偈を抽出することは不可能であること、又漢訳の煩惱品や仏業品に見た様に、漢訳冠頭に掲げそれが経の要略であり何等の註釈をも伴っていない時、漢訳釈論には論本偈が数十偈省略されていることから、先に釈論があつて、後時その中から論本偈を抽出したものではなく、論本偈は漢訳冠頭の論本偈の部分が示しているように *kārikā* として最初に独立して存在したものである。又梵蔵も如来蔵品・仏業品・校量信功德品に「如来蔵を主題とする第一品の偈(*śloka*)の義の総合的解釈を終る。」「如来の所作業を主題とする第四品の偈の義の総合的解釈を終る。」「功德を主題とする第五品の偈の義の総合的解釈を終る」(対照本 p. 155, p. 211, p. 219)とあつて、論本偈が釈論より前に出来ていたことを物語っている。このことは漢訳を五巻本に編成した先覚が冠頭の三百偈を「論本偈経」と称したことから知られ、論本偈を初めて註釈するに当つて、「これらの偈(*śloka*, *tshigs su bcad pa*)の意義は説かれるべきである」「解釈偈義」(対照本 p. 11)又三宝を説き終つて次に、七金剛句中、残りの如来蔵・菩提・仏徳・仏

業の四金剛句を説くに当つて、「これより以後これら四句は、残余の本書 (grantha, gshuñ) によつて次第に分別せられる」「自、此已後余殘論偈次第依二四句—広差別」(対照本 p. 49) とあることによつて証し得よう。

8. 註 釈 偈 に 就 い て

この論に説く偈頌の中、論本偈を見たのであるから、更に引用偈を除く時、他の偈頌は註釈偈と見なしてよい筈である。殊に Śāstra が論本偈と註釈偈を合せ掲げたものであるから、論本偈の吟味が完了すれば、その余は註釈偈として取扱つてよいであろう。然し先にも述べたように Śāstra は初めから弥勒造として存在したものでなく、Vyākhyā から抜出したと思われる節があるから、論本偈を除く全ての偈頌が註釈偈であるとはなし難い。偈頌対照表下註に記したように、梵本にはこの論自身の偈として番号を付け、又 Śāstra に掲げている偈頌の中に、明らかに法界無差別論・大乘莊嚴經論と一致するものが見られ、註釈偈と引用偈の区分は慎重にしなければならない。梵文の偈頌番号のついているものの中、論本偈を取扱つた余を一往註釈偈と認めて梵蔵漢の相違を見よう。

先にも触れたように梵蔵に於ける註釈偈の相違を見ると、蔵訳は I-83, 84 偈の間に法身の常住・堅固・寂靜・吉祥を説く二偈と、I-87, 88 偈の間に漢訳では涅槃經の引用偈とするものを註釈偈扱いをしている外一致する。然し梵蔵と漢訳の間には多くの出入が見られる。梵蔵が偈頌で漢訳が長行のもの、I-16, 17 (対照本 p. 27) I-37, 38 (p. 65, 67) I-68 (p. 91) I-132 (p. 133) がある。I-13 は僧宝品の僧宝を説く論本偈であつて、如理如量二智の僧即ち菩薩に帰依することを説いている。14 偈は如理如量を総じて讃嘆したものの、15 偈は二智の中如理智の讃嘆であるから漢訳の長行も当然次に如量智の讃嘆である 16 偈として梵蔵の如くあるべきである。又梵蔵の 17 偈は 13 偈の第三句による如理如量の説明であり、18 偈は 13 偈の第四句によつて僧宝の結讃をなす偈であるから、漢訳の 17 偈相当部分も本来梵蔵のように偈頌であつたと思われる。I-35 偈は淨我樂常の四徳が如来蔵の果であることを説くもので、I-37, 38 二偈はこれを註釈して法身の四徳が各々通別二種の法によ

ることを説いている。以下の同趣意の長行釈があるところより見て、漢訳も本来梵蔵の如く偈頌であつたと考えられる。

漢訳にあつて梵蔵に欠く偈に I-18, 19 の間に菩薩十勝義の二偈 (p. 29) I-36 と 37 の間に如清淨真空の一偈 (p. 62), I-39 の前に無分別之人の一偈 (p. 68), I-63 と 64 の間に不正思惟風の一偈 (p. 86), III-39 の次に是三十二相の一偈 (p. 186), IV-98 諸如来自然の一偈 (p. 209) がある。漢訳の觀勝・功德勝・証智勝・涅槃勝・地勝・清淨勝・平等心勝・生勝・神力勝・果勝の十種勝は如理如量の知見を有する菩薩のみが歸依処であることを説く段にある二偈で、漢訳だけその長行釈をも伴っている。次下に諸声聞は阿羅漢道を修し、少智慧を得ても大慈心がなく、恰も自身を照す星宿の如くであると、菩薩の新月と対応させているから、漢訳に説く十勝義は声聞僧と菩薩僧の優劣を力説するものである。I-39 偈の前の「無分別之人 不分別世間 不分別涅槃 涅槃有平等」は引用偈であると思われる。この偈処は如来蔵の果である如来法身は生死と涅槃を分別しない不住涅槃を説くものであるが、仏性論はここに不可思量經の偈として「諸惡成—覺分— 生死成—涅槃— 修—習大方便— 諸仏巨—思議—」を引き、宝性論と同趣意を述べている。梵蔵にはここに菩薩の不住涅槃を詳述する釈があり、I-39 偈即ち「智慧によつて我愛を残りなく断じて、慈悲を具する者は衆生愛の故に寂靜に趣かない。かくの如く智慧と慈悲である菩提と方便によつて、聖者は世俗にも涅槃にも住しない」がある。梵蔵に菩薩の不住涅槃を説くのは妥当ではなく、後の変化によるものと思われる。I-63, 64 の間にある「不正思惟風 諸業煩惱水 自性心虚空 不為彼二生 自性清淨心 其相如虚空 邪念思惟風 所不能散壞」の二偈が梵蔵にない。如来蔵は不淨位に於ても不変不異であることを地は水に水は風に風は虚空によつて安住するも、虚空は何物にも依止することがなく、一切世間は虚空の中に於て生滅するものであるとして、風は不正思惟、水は煩惱業、地は陰入界、火は老病化、虚空を清淨心に譬えている。この二偈は梵蔵漢共に説く「諸業煩惱水 所不能潤爛 老病死熾火 所不能燒然」と共に十二 (I-52~63) の論本偈の総合偈であつて、本来梵蔵も漢訳の如くこの二偈があつたと思われる。

次に梵蔵にあつて漢訳に欠くものに、I-39 (p. 69) I-69~78 (p. 101~3), II-73 (p. 173), IV14~26 (p. 189~191), IV-36~40 (p. 193~5), IV-42, 43 (p. 197), IV-53, 54 (p. 199), IV-59~63 (p. 201~3), IV-69, 70 (p. 205)。梵蔵 I-69~78 の十偈の第1・2偈は初歡喜地に於て初めて法性を見ることを示し、第3・4偈は離垢地から遠行地までは不染汚行を行ずることを示し、第5偈は不動地の菩薩が不退転にあり、第6・7・9偈は法雲地の菩薩が二利円満して一生所繫であること、第9・10偈は自利利他に関して最後辺の菩薩と如来の功德の無差別であることを説くものであるが、梵本出版者や宝性論研究が指摘するように後の添加であろう。梵蔵のみにあるIVの多くの偈は先に触れた仏業品の偈頌であつて、九喻によつて仏業の無功用であることを説く仏境界経からの補足偈である。

これらによつて、漢訳には本来偈頌であつたものが長行になつているもの、菩薩十勝義のように後に添加したと思われるものもあり、梵蔵には可成り多くの補足偈があるに拘らず落ちている偈があり、法相上変化を与えているもの、重複していると思われるものが存する。

9. 論本偈の思想背景

漢訳は十一品、梵蔵は五品に分けるのであるが、一論の内容は三宝・如来蔵等の七種金剛句であることは度々触れた。有垢如である如来蔵が無垢如菩提に転依することによつて仏徳が顕現し、仏業が自然に現作する。仏菩提・仏徳・仏業は仏宝そのものであつて、仏宝のあるところ法僧二宝が存在する。従つて七種金剛句は如来蔵中心に前後に拡大したもので如来蔵は量的にも大きな比重を占めている。如来蔵品の思想的背景を探つて見よう。

論では如来蔵を説明するのに体 (svabhāva)・因 (hetu)・果 (phala)・業 (karman)・相応 (yoga)・行 (vṛtti)・時差別 (avasthā)・徧所 (sarvatra)・不変 (avikāritva)・無差別 (abheda)の十義によつて説明することは、独りこの論のみでなく、仏性論卷二には(正蔵 31. p. 795, 下) 自体相・因・果・事能・総摂・分位相・階位・遍満・無変異・無差別の十義によつて同趣意を述べ、大乘法界無差別論には(正蔵

31・892・上) 菩提心の果・因・自性・異名・無差別・分位・無染・常恒・相応・不作義利・作義利・一性の十二義。無上依経卷上(正蔵 16・p. 469・上)の如来界品、菩提品の自性・因縁・惑障・至果・作事・相摂・行処・常住・不共・不可思惟の十種義も、宝性論の如来蔵の十義と菩提品の八義と近似性をもっている。これら一經三論の中どれが早期の産物で、どれがその影響を受けたものであるか、これを明かにすることは如来蔵思想史上、ひいては印度仏教史、西藏伝弥勒五論書研究に重要な意義を持つている。

無上依経と宝性論、仏性論と宝性論の章節に於て述べるように、無上依経と仏性論は宝性論より先の成立であるとなし得ない点を持つている。そして又天台の摩訶止観三下(正蔵 46・31・中)法蔵の法界無差別論疏(正蔵 44・63・下)・円測の解深密経疏卷一によれば、宝性論は堅意或は堅慧作と言われ、開元録・貞元録に法界無差別論は堅慧造とあり、殊に無差別論疏には法界無差別論の訳者提雲般若の伝として、宝性論も無差別論も共に堅慧造と記している。然し後述のように宝性論には論本偈と註釈偈・釈疏の間に断層があつて、堅慧造と言われる部分は宝性論では論本偈を指すものと思われるので、無差別論の十二種義と宝性論の如来蔵の論本偈を対照して見よう。(宝性論の梵漢の異なる部分以外は漢訳をもつて対照する)

法界無差別論

(自性)

自性無染著 如=火宝空水-
白法所成就 猶如=大山王-

(因)

信為=其種子- 般若為=其母-
三昧為=胎藏- 大悲乳養人

(異名)

至=於成仏位- 不=名=菩提心-
名為=阿羅訶- 淨我樂常度

宝性論(対照本)

(体) p. 52, I-30

自性常不染 如=宝空淨水-

(因) p. 52, I-30

信法及般若 三昧大悲等

(果) p. 58, I-35

淨我樂常等 彼岸功德果

(業) p. 58, I-35

厭=苦求=涅槃- 欲願等諸業

(相応)

如光明熱色 与燈無異相
如是諸仏法 於法性亦然
煩惱性相離 空彼客煩惱
淨法常相応 不空無垢法

(無差別)

法身衆生中 本無差別相
無作無初尽 亦無有染濁

(分位)

不淨衆生界 染中淨菩薩
最極清淨者 是說為如來

(常恒)

譬如劫尽火 不能燒虚空
如是老病死 不能燒法界
如下一切世間 依虚空起尽
諸根亦如是 依無為生滅

(無染の積)

云何於不淨位中 現有無量
諸煩惱而不為染。譬如日
輪為雲所覆而性常清淨。此
心亦爾。彼雜煩惱但為客故

(相応) p. 72, I-42

大海器宝水 無量不可尽
如燈明觸色 性功德如是

(行) p. 76, I-45

見実者説言 凡夫聖人仏
衆生如來藏 真如無差別

(時差別) p. 78, I-47

有不淨雜淨 及以善淨時
如是次第説 衆生菩薩仏

(遍所) p. 80, I-49

如空徧一切 而空無差別
自性無垢心 亦徧無分別

(不變異、凡夫・菩薩・仏)

(凡夫位) p. 82, I-52-54

如虚空徧至 体細塵不染
仏性徧衆生 諸煩惱不染
如下一切世間 依虚空生滅
依於無漏界 有諸根生滅
火不燒虚空 若燒無是處
如是老病死 不能燒仏性

(菩薩位) p. 90, I-66

菩薩摩訶薩 如実知仏性

(果の積)

最寂靜涅槃界 此唯諸仏所証

(一性)

此即是法身 亦即是如來
如是亦即是 聖諦第一義
涅槃不異仏 猶如冷即水
功德不相離 故無異涅槃

(不作義利)

煩惱藏纏覆 不能益衆生
如蓮華未開 如金在糞中
亦如月成滿 阿修羅所蝕

如進金等未開顯 仏体客
塵翳亦然 是時功德不自益
反之則能為大利

(作義利)

如池無垢濁 如蓮大開敷
亦如上好金 洗除衆糞穢
如虚空清淨 朗月星間繞
離欲解脫時 功德亦如是
(積)

清淨法身遠離客塵衆患故
成就自性功德故。証斯法者

不生亦不滅 又無老病等
菩薩如是知 得離於生死
憐愍衆生故 示現有生滅

(仏位) p. 106, I-79

仏身不變異 以得無尽法
衆生所歸依 以無辺際故
常住不二法 以離妄分別
恒不熱不作 清淨心力故

(無差別) p. 108, I-84

法身及如來 聖諦与涅槃
功德不相離 如光不離日

(煩惱品) p. 118, I-96, 97

萎華中諸仏 衆蜂中美蜜
皮糲等中実 糞穢中真金
地中珍宝藏 諸果子中芽

衆生貪瞋癡 妄想煩惱等
塵勞諸垢中 皆有如來藏

(菩提品の果) p. 160, II-8, 9

如清淨池水 無有諸塵濁
種種雜華樹 周匝常圍繞
如月離羅睺 日無雲翳等
無垢功德具 顯現即彼体

(菩提品の自利) p. 162, II-18~20

無漏及徧至 不滅法与恒
清涼不變異 不退寂靜処

則名=如来応供正等覺-。 於=常住
寂靜清涼不思議涅槃界-恒受=安樂-。

了=知 諸 有 性- 而 起=於 大 悲- 諸 仏 如 来 身 如=虛 空 無 相-
若 尽 若 不 尽 斯 皆 無=所 著- 為=諸 勝 智 者- 作=六 根 境 界-
仏 心 如=大 雲- 住=於 実 際 空- 示=現 微 妙 色- 出=於 妙 音 声-
三 昧 総 持 法 甘 露 随 時 降 令=願=仏 戒 香- 与=仏 妙 法 味-
一 切 諸 善 苗 因 此 而 生 長 使=覺=三 昧 觸- 令=知=深 妙 法
細 思 惟 稠 林- 仏 離=虚 空 相-。

これによつて、宝性論如来蔵品の業用と徧所を除いて、一名如来蔵論といわれる無差別論との関係を知り得よう。如来蔵の業用に因しては宝性論は勝鬘經の「若無=如来蔵-不=得=厭=苦=求涅槃-」からの作頌である。仏性論諍に於て如来蔵の業用問題は重要な意義を持つものであつて、瑜伽系の論者は種姓を有為生滅に約して一分無性を主張し、如来蔵系の論者は種姓を真如無為に約して一切具如来蔵を主張し、不定聚の者は世間の種々の苦悩を見、涅槃を見て願心を生ずる二種の業用があり、邪定聚と言うのは業用がまだ起らないのを無仏性と言うのであつて究竟無と言うのではないと。法蔵の無差別論疏には相應の義に就いて、弁相・定義・相應・業用・摂果の五義をあげ、この中業用とは恒沙の功德法は如来蔵が染位の中にあつても内薫して生死を厭い涅槃を樂求することであると説いている。恒沙の仏功德法を具する如来蔵のあるところ、染位の衆生にあつても業用を起すのであるから、無差別論が相應に業用を撰しているものを宝性論には業用を別開したものとすることが出来よう。

又徧所の「如空徧一切 而空無分別 自性無垢心 亦徧無分別」(対照本 p.80, I-49)を英訳者 Obermiller は大乘莊嚴經論 (IX, 15, 正蔵31・603・上)の

yathāmbaram sarvagatam sadā matam tathaiva tat sarvaga-
tam sadā matam |

yathāmbaram rūpaṅgaṇeṣu sarvagatam tathaiva tat sattvaga-
ṇeṣu sarvagam ||

如=空 徧=一 切- 仏 亦 徧=一 切- 虚 空 徧=諸 色- 諸 仏 徧=

衆 生-。

に類同するとしている。宝性論の論本偈で弥勒無著の論書の偈に接近しているのは唯この一偈である。莊嚴經論の偈は西尾京雄教授が仏地經論研究(P.21)に指摘するように、八十華嚴卷五十「譬如虚空遍至一切色非色处。非至非不至。何以故虚空無身故。如来身亦如是。遍一切处。遍一切衆生。」(正蔵 10・266・上)から来たものであつて、宝性論には莊嚴經論のこの偈を引用偈として全同の偈を煩惱品 (p. 139) に掲げている。宝性論の徧所の論本偈は自性無垢心の徧満を虚空喩によつて説くもので、莊嚴經論の偈の改作ではなくて、勝鬘經や不増不减經にしばしば説く衆生が清浄心を具すること、即ち無差別論の分位の「此菩提心無差別相」と華嚴經の虚空喩によつて作頌したものであろう。

無差別論と宝性論の中どちらが先に作られ、どちらがそれを踏襲したものであるか。無差別論には菩提心の十二義は如何なる理由のもとに配列したものであるかに就いて、「最初に菩提心の果を顕示して勝利を見せしむ」と言うように、論理的組織をもつてというよりは、勝利を見せしめる為に善巧利他を主として説くものであつて、論理性を強く要望する時、十二義の中、果と無差別と無染と常恒が内容的に重複冗長で整理を要する個処なしとしない。仏性論は宝性論と同順序で説くのであるが、仏性論節義 (日本大蔵經諸大乘論疏一, P.109) には、「六種(自体・因・果・業・相應・行)の中、初の三は自体及び因果なり。……是れは即ち又是れ真如の用なり、是に由つて厭求の事用成ずることを得、厭求等の三者は初め三種の後得の義門なり。」と釈しているように、自体によつて因果が論ぜられ、自体・因・果を根本、業・相應・行をその後得とし、無漏界をこれら六義に結歸し、更にこれを三位階として三名を施設、最後に法身・如来等の無差別の十義としたものであつて、論理的に計画調整したものである。無差別論の不作義利によつて宝性論の煩惱品を、作義利によつて菩提品を別立し、陀羅尼自在王經によつて仏業を、仏境界經によつて仏徳を増設し、更に帰依三宝を説いて、法界無差別論が片々たる如来蔵論書であるものを宝性論は如来蔵と如来を中心に前後に拡大して、堂々たる如来蔵の根本論書たらしめたものである。

この論の論本偈の中には Obermiller や Johnston が指摘するように他

論書と関係を持つ偈がある。

(1)この論の法宝品に、「凡そ、無ではなく、亦有でもない。亦復有無でもない。有と無でもなく外でもない。……貪と瞋と癡障とを対治する彼の法の太陽に帰依し奉る。」(p. 17, I-9)が大乗莊嚴經論真実品七の第一義を説く「有に非ず、無に非ず、如に非ず、異に非ず……これが第一義の相である。」(Sūtrālamkāra VI-1, 正蔵 31・598・中)を参照すべきこと。(2)この論の如来蔵品中の因義の「信法と増上慧と禪定と慈悲と次第する」(p. 51, I-30)が莊嚴經論歸依品第三に(IV-11, 593・中)一致すること。(3)先述の徧所義が大乗莊嚴經論に類同していること等である。(1)の莊嚴經論の偈は第一義相を説くものであるに反し、宝性論の偈は註釈偈によれば不思議・不二・無分別の滅諦の三徳と、清淨・顯現・対治の道諦の三徳を説くもので、両論の間に積極的類似は見られない。(2)は莊嚴論にある偈であると同時に法界無差別論にも見出し得るもので、莊嚴經論のみに一致するものではない。(3)は既に見たところである。

如上のように宝性論の論本偈の中に、他論特に莊嚴經論と類似するものを見出すが、必ずしも同論からの引用であるとなす決定的なものはない。宝性論の中には後述の様に、明らかに弥勒・無著の著書といわれるものの中から引用しているものはあるが、それらは悉く註釈偈に於てであつて、論本偈は全く法界無差別論からその思想を仰いだことを知ることが出来る。

10. 註 釈 偈 の 展 開

先にも触れたように、何を基準として註釈偈と見るかに就いては決定し難いものがある。然し我々は幸い西蔵訳 Sāstra を持つている。

今はそれを手がかりとして一往註釈偈のわくを決めてかかることにしよう。註釈偈は論本偈を註釈する偈であることは勿論であるが、この論の註釈偈の性格を考えると、(1)論本偈を註釈するもの、(2)論本偈に表面上見られないもの、即ち新な展開を示しているもの、(3)註釈偈を註釈するもの、(4)科段の役割をなすもの、(5)他論に共通するものに分類することが出来る。法界無差別論とこの論の論本偈を中心として、(2)と(5)に就いてその二・三を考察して見よう。

註釈偈が論本偈より飛躍的である場合、如来蔵を開顯する因として、論本偈は無差別論と同様、信法・般若・三昧・大悲の四法をあげている。四因によつて対治される障礙は如何なるものであるか、誰人がそれを持つものであるか、それらに就いては無差別論にも論本偈にも論ぜられなかつた。註釈偈(p. 51, I-32, 33)にはこれを一闡提の謗法、外道の我見、声聞の輪廻による恐怖、縁覺の衆生を利益することに無関心であることの四種人と四障に配当し、四障によつて自性清淨法身を見ることの出来ない四種人に対して、信法等は対治の四因であるとしている。これらの関係を五教章卷三には、約二正使一寄二顯地前四位四行四因四報。といつて纏め説いているが、この論では四位・四報は論ぜられていない。宝性論と同様、無上依經卷上・真諦訳撰論釈八、仏性論卷二に説くところである。

如来蔵の果義に就いて無差別論とこの論の論本偈には淨我樂常の四徳波羅蜜の果相を説いている。両論の果義は勝鬘經の縮図であつて、凡夫外道の執する色等の無常法を常と思う等の四顛倒見に対して、二乗の無常等は正見であるが、二乗の四無倒見も法身の常等の四徳に対すれば却つて顛倒となり、法身こそ真に四徳波羅蜜であると。ここに無漏界に住する二乗及び大力の菩薩の四無倒見も法身に対すれば顛倒見となるならば、先に四顛倒に四障があると論じたのであるから当然四無倒にも四障が論じられなければならないであろう。無差別論や宝性論の論本偈には凡夫等の四障が論ぜられなかつたと同様、大力の菩薩等の四障が論ぜられず、釈疏に於て四種障即ち縁相因相生相壞相として論ぜられている。五教章卷三に、以二四障一寄二顯地上四位・四定・四徳・四報。と言つて纏め説いているが、この論には四位は論じられていない。大力菩薩等の四障は無上依經卷上には四種障として、仏性論卷二・真諦訳撰論釈第十には四種生死として説かれている。

相応義に就いて、無差別論の「如光明熟色 与燈無異相 如是諸仏法 於法性亦然」が論本偈では「大海の如く無量の功德宝が無尽蔵である。差別のない功德と相応する自性であるから燈火の如くである」。宝性論の下二句が無差別論の上二句に相当し、上二句に相当する偈が無差別論にない。註釈偈では上二句を因相応、下二句を果相応としているから、註釈偈の解釈によれば無

差別論は果相應を説くものと言うべきである。然し無差別論の偈の釈文には、「云何が未だ正覺を成ぜずして而もこの仏法に於て相應すると言うや。(答えて曰く)譬えば光明と熱と色等の燈と異相あることなし。」と。これを法藏の疏に、「仏果の功德はこの真性と相應して離れざるを以ての故に」と釈しているより見て、如来藏が功德の淨法と相應すること即ち因相應を説いたもので果相應を説いたものではないと言うべきである。

又煩惱所纏品の論本偈には如来藏と煩惱の關係を説いているが、それは如来藏經の九喩の作頌である。註釈偈では煩惱に譬えられる蓮華・蜜蜂・皮穀・不淨・大地・果皮・襤褸・母胎・土型の九種から貪(rāga)瞋(dviṣ)癡(moha)・烈しい纏(tivra-paryavasthāna)・習氣(vāsanā)・見道(driṣ-mārga)・修道(bhāvanā)・不淨(aśuddha)・淨(śuddha)の九種煩惱をあげ、九譬と九煩惱の關係を述べ、更に九種の煩惱によつて、凡夫・羅漢・有學・菩薩の四人に分れ、凡夫は四、羅漢は一、有學は二、菩薩は二の不淨があると説いている。因果相應・九種煩惱は共に仏性論に説くところである。註釈偈は論本偈と比較するとき、法相の展開は飛躍的であること、世親の著作中に見出し得るところである。

次に註釈偈に至つて新に付加された個処を見ると、論本偈に仏法僧の三宝を説き、次いで註釈偈には三宝建立の理由(p. 33)に就いて、調御師と調御師の法と調御師の弟子の三種の義によつて、大乘・中乘・小乘・信仏・信法・信僧の六種の信者のために三歸依を建立したのであるとしている。註釈偈(p. 35)は更に三宝の中、仏宝のみが可歸依処であつて、法僧二宝は歸依処とならないことを述べ、最後に(p. 37)仏法僧の三は何故に宝と言われるかに就いて、(1)真宝は世に稀有であること、(2)明淨、(3)勢力、(4)世間を莊嚴する、(5)最勝、(6)不變の六種によつて宝と相似していることを説いている。この三宝建立の理由以下は元・宮本に「三宝品之二」明本には「三宝品之余」と品名を与えているように、三宝建立の理由等は三宝に対する新たなそして付帶的註釈である。

又註釈偈に至つて新たに付加されたものに、煩惱品に説く仏三身説がある。如来藏品(p. 49; I-28)に、一切衆生は法身の遍滿と真如無差別と如来種姓

の三義によつて如来藏を具することを説いているが、煩惱品には先に上げた萎華・蜂等の九喩を三自性に配当して、法身には仏身・蜜・核、真如には金、如来種姓には伏藏・芽・宝像・輪王・金像としている。この中、如来種姓と後五喩との關係に就いて(p. 139; I-149, 150)種姓(gotra)には自性清淨心(prakṛitiṣṭha-gotra 性種姓)と修行無上道(samudānita-gotra 習種姓)の二種があり、性種姓を地中にありながら変化しない伏藏に、習種姓を種子の皮を破つて出る芽に譬え、性種姓から自性身(svabhāva-kāya)習種姓から受用身(Sambhoga-Kāya)と變化身(nirmāṇa-kāya)を得、自性身は宝像身、受用身は轉輪聖王、變化身は金像の如くであると。性習二種姓の義を有する有垢如から仏三身を説く仏三身論は開真合應説と言われ、世親の法華論下の応仏・報仏・法仏、十地經論九の法身仏・報身仏・応身仏、仏性論卷四の法身・応身・化身説と同班である。この仏身論は仏宝品や菩提品の論本偈に説くところの自性身は如々と如々智を包摂し、受用・變化の二身を自性身の等流身(niṣyanda-kāya)とする開合真説と異るところであつて、この論の註釈偈に至つて開真合應説が展開していることを知ることが出来ると同時に、その仏身論は世親の他の論書に論述されているのである。

他論と共通する註釈偈を見るのに、偈頌対照表の註に記したように、他論と一致するものがある。それら他論書と一致する偈頌は他の論書がこの論から引用したことが論証出来れば他の論書と共通な偈があつても問題がないわけであるが、煩惱品第六(p. 139)に、「すべて一切に差別が無く、真如清淨を得た如来性である。この故に一切の有身者はその(如来)藏を具するのである」の偈があつて梵藏共に引用偈としている。この偈は大乘莊嚴經論(IX-37正藏 31・604・下)からの引用である。この結果、この論の論本偈を除くある部分には莊嚴經論の要素が混入し、それより早期のものとはなし難い。

引用偈に就いて見ると、梵本(番号を付けていない偈、吟味すべきものが多い)と藏訳(Vyākhyāにあつて Śāstra にない偈)に於て共通に引用偈としている偈は七偈(p. 9, 33, 71, 139, 141, 151)あつて、偈頌の前に梵本には、ucya(n)ti iti, evaṃ hi āha, uktam(藏訳は shes gsun pa)の語があり、漢訳は「經中偈言」「是故偈言」(引用偈でない場合もある。)が

ある。これら七引用偈の中で典拠のわかっているものは阿毘達磨經一 (p. 141)、莊嚴經論二 (p. 139) で他の四は出所不明である。次に梵本に番号を付け、Śāstra に掲げている偈で他の論書と一致する偈頌を見ると、如来藏品の「其等の人々の最勝乗に於ける信は種子である……。」(p. 57; I-34) があり、法界無差別論 (892・中)・莊嚴經論卷一 (IV-11; 593・中)・仏性論卷二 (798・上) と合し、同品に (漢訳は煩惱品) 「それより何物も除去すべきものもなく……」(p. 147; I-154) は現觀莊嚴論 (Abhisamayālaṅkāra V-21) と全く一致している。漢訳だけに掲げている「如清淨真空 得第一無我 諸仏得淨体 是名得大身」(p.62) は莊嚴經論 (IX-23; 603・下)・仏性論卷二 (798・下) に。「客塵の過失を具するから…」(p. 81; I-51) は仏性論卷四 (806・下) に。「それは常住性であるから、意生身によつて生じない。……」(p. 105; I-81, 82) は法界無差別論の果の長行釈に一致する。

このようにこの論に於ける他論と共通する偈には、他論との関係が明かなものと未詳のものがある。未詳は措いて、明かなものは法界無差別論・莊嚴經論・現觀莊嚴論・仏性論等に見られるものである。宝性論研究には、「以前に本頌を作つて、其後に之について釈偈釈文を書くに至つたものであると考えられる」と。先に書かれたと思われる論本偈には無差別論以外に共通する偈がないのに対して、Śāstra から見れば註釈偈即ち論本偈より後に書かれたもののの中に他論と共通する多くの偈が見られる。従つて註釈偈・釈疏は莊嚴經論以後の著作であることは明らかである。又註釈偈には、相應義等のように論本偈に比べて解釈上の発展が見られるもの、開真合応の三身説のように新加のものがあり、それらは世親の著書に於て見出し得るものである。

11. 釈疏の意義

この論の論述形式は論本偈、註釈偈、釈疏の順序であるが、註釈偈が論本偈の註釈に止らないで、新たな教理的展開をなしたように、釈疏にも論本偈註釈偈より展開を示していると見られるものがある。この点を(1)論本偈に関連する註釈偈で、註釈偈に展開があり、これを釈している場合、(2)論本偈と独自の

註釈偈を釈している場合、(3)論本偈註釈偈に見られない新たな展開を示している場合に分けることが出来る。その二・三を見よう。(1)に就いて、十義の中の相應の論本偈に、(a)「無差別の功德を具する自性であるから灯火の如くである」(如燈明觸色 性功德如是。 p. 71; I-42) を註釈偈に「神通と智慧と無垢とは真如と差別がないから、無垢の所依に於ては、燈の光と熱と色と相似する」と註し、釈疏にこれを、五神通は光明、漏尽智は熱、無垢即ち漏尽是色と相似することを述べている。法界無差別論及び論本偈の燈火譬によつて性が功德の淨法と相應することを説くのを、註釈偈には燈火の光熱色によせて、五神通・漏尽智・漏尽の三事をあげて次第の如く相似することを説き、釈疏は単にこれを釈している。(b)上と同様の例は如来藏の自性を明す段に無差別論と論本偈 (p. 51, I-30) は自性の通相を述べているのに、註釈偈はその別相を説き、釈疏は通別二相を釈しているが如きである。(c)如来藏の第十無差別義に就いて、無差別論と論本偈には法身・如来・聖諦・涅槃 (p. 107; I-84) の四名は義一名異であることを説いているのに、註釈偈には「仏と法と不離なると、彼の種姓が真如を得たと、虚なく妄のない性質であると、如来自性が寂滅のものであるとである。」の四義によつて四名ありとし、釈疏はこれを釈している。これらによつて見るとき論本偈と註釈偈の間には展開が見られるが、釈疏は単にその註疏に過ぎないのである。

(2)論本偈に関連なく、独自の註釈偈を釈している場合、(a)三宝建立の所以を説く「師と教と弟子の義によつて……」(p. 33; I-19) を釈疏に、仏宝は大乗人と信仏人、法宝は中乗人と信法人、僧宝は小乗人と信僧人のために施設したものであると釈している。(b)法と僧が可歸依処とならないことを説き (p. 35; I-20)、(c)仏法僧の三が共に宝と言われる理由を明す (p. 37; I-22) 註釈偈に対する釈疏も(a)と同様大きな展開を示していない。(d)煩惱品の註釈偈に於て開真合応の三身説を述べているが、釈疏に於て新たな要素が付加されていない。

(3)釈疏のみの展開を見ると、(a)如来藏の因義に於て論本偈に信法等の四因をあげているのに対し、註釈偈 (p. 53; I-32, 33) には四因に相對させて謗法・著我・怖畏世間苦・捨離諸衆生の四障と、闍提・外道・声聞・緣覺の

四人をあげているのであるが、釈疏には四種の人を求有 (bhavābhiḥ)・遠離求有 (vibhavābhiḥ)・不求彼二 (tad-ubhayānabhiḥ) の三種の衆生と三聚に配して、求有に解脱道を謗じて涅槃性のない闍提と謗大乘の仏法中の闍提同位の者をあげて邪定聚、遠離求有を無求道方便 (anupāya-patita) と、有求道方便 (upāya-patita) に分け、前者に外道と仏法中の外道種子をあげて不定、後者に声聞と縁覚をあげ、不求彼二の菩薩を合せて正定聚としている。求(著)有無の三種衆生と三聚の関係はこの論の特色を示すもので、解深密經疏第二には、十門を以て三聚を細釈する中に、無上依經の名をもつてこれをあげている。これは又仏性論卷二にそのまま見られるところである。(b)如来蔵の果の義に就いて、論本偈に常樂我淨の四徳は彼岸の功德であるとしているのに対して、註釈偈 (p. 57; I-36) には法身に於ける顛倒の対治であると言い、釈疏には凡夫の常樂我淨の四顛倒と二乗の四無倒と法身の四徳の正見を述べている。無漏界に住する阿羅漢・辟支仏・大力自在菩薩にある四障は勝鬘經の無明住地・無漏業・三種意生身・變易生死から考案されたもので、釈疏に新たに説かれ、無上依經卷上・仏性論卷二・真諦訳撰大乘論第十に説くところである。(c)僧宝品の釈疏に声聞僧は帰依処とならないことを明している。

以上、(1)(2)によつては註釈偈と釈疏の間に大きな展開が見られなく、(3)にいたつて註釈偈に表面見られないものが、註釈偈の意を充分註釈する際に釈疏の数ヶ処に於て展開が見られるに過ぎない。前項に於て註釈偈の性格を論本偈との関係から五種に分けたのであるが、釈疏との関係から見ると、(1)多くの場合註釈偈は論本偈を註し、釈疏はこれを釈している。(2)論本偈・註釈偈・釈疏の次に註釈偈があつて、前の註釈偈・釈疏を註釈している場合、(3)註釈偈と釈疏の次に置かれ、それを註釈している場合がある。(1)は措いて、(2)(p. 39-41)論本偈を表示する “tad adhikṛitya ślokaḥ” 「説二兩行偈」があつて、論本偈の「有垢真如と無垢と……それから善淨な三宝が出生する。」(I-23) を掲げ、次に註釈偈を導く言葉の “anena kiṃ paridīpitam” 「此偈示現何義。偈言。」といつて註釈偈「この三宝種姓は一切見者の境界である。これは又四種あつて……」(I-24) によつて註し、釈論には論本偈

の四法を釈し、再び “katamais̄ caturbhiḥ” 「何等四処。偈言。」として註釈偈「淨と染が相應しているから……」(I-25) があるが、この第 25 偈は第 24 偈とその釈を更に註釈したものであつて、論本偈の註釈偈であることを表わす “anena kiṃ paridīpitam” を伴うことがなく示されている。(3)(p. 181-3) 「これら六十四(種)の功德は一つ一つ因を具するもので…」(III-27) を釈疏には六十四種の功德(十力・四無畏・十八不共法・三十二相)を金剛杵・師子王・虚空・水中月の四喩に当てることが出来るとし、これを更に註釈偈「摧破と不怯弱と不共他……」(III-28) によつて説いている。(2)と(3)を論述の順序から見ると、(2)の I-25 偈は I-24 偈とその釈疏を更に註釈するものであり、(3)の III-28 偈は III-27 偈とその釈疏の註釈偈である。後の註釈偈が前の註釈偈とその釈疏の註釈的作用をなすことは註釈偈と釈疏が同一人作であることを意味している。又註釈偈が論本偈のように先に出来ていて、最後に釈疏を註釈偈間に挿入註釈したと見ることは、(2)の I-24 と I-25 偈の間の釈疏、(3)の III-27 と III-28 偈の間の釈疏の前後相應する適切さは到底異人の作と見なし得ないものがある。

以上のように、内容上より見るときは釈疏に二・三の註釈偈に見られないものを展開しているけれども、釈疏の教理内容は註釈偈の忠実な註釈であり、形式の上より見ても註釈偈には釈疏を註釈しているものも見られ、両者の同一作者であることは疑いないであろう。

12. 無上依經と宝性論

この經は現在漢訳が存するだけで、梵本も蔵訳も存在しない。漢訳は真諦三蔵によつて翻訳されたものであることに諸經錄一致している。然し翻訳の年時に因して多少の異が見られる。開元・貞元録を除く諸經錄には陳世の訳出、特に三宝記には永定二年 (A.D. 558) とする。永定二年は陳世であるが、開元録は經の後記に梁紹泰三年丁丑九月八日訳出とあるから、梁代の訳とすべきであると述べている。丁丑は十月から陳世の永定元年になるが、九月八日はまだ梁世であり梁真諦訳とすべきである。

この經は校量功德品第一・如来界品第二・菩提品第三・如来事品第四・如

来功德品第五・讚歎品第六・囑累品第七の七品に組織されているが、經の本論である第二から第五に至る四品の名が宝性論の梵蔵の品名と一致している。このことは両者の間に密接な関係のあることを物語っている。

第一の校量功德品は先学に指摘されたように甚希有經等と同内容のものであつて、阿難が世尊に、憍闇を建て衆僧に布施することと、仏滅後に於て仏舍利を供養することと、その各々から生ずる功德の大小を問ひ、これに対して世尊は仏舍利供養の功德が大であると答え、その理由として、如来は希有不思議であるからである。如来が不思議であるのは界・菩提・功德・作事の爲であると。舍利供養が如何にして如来蔵に結び付くのであるか。無上依經の「仏舍利」は後漢失訳の未曾有經・閼那崛多訳の希有校量功德經には「舍利」、玄奘訳の甚希有經には「仏駄都」(buddha-dhātu)、最無比經には「遺骨」と訳されている。駄都(dhātu)が舍利を意味することは梵蔵巴の辞書に引かれる所であつて、梵語では特に śarīra-dhātu 又は単に dhātu が「仏舍利」を言うこともあつて、仏舍利崇拜が三宝歸依の表徴となり、遂に śākyavarmaṇsa, gotra 「吾れ釈迦族なり」「四姓仏門に入りて又別の名なし。同じく釈子となす」と言う信仰表現になり、更に如来に蔵された者、如来大悲胎蔵生の人、即ち如来蔵(tathāgata-garbha) 如来界・如来性(tathāgata dhātu) に至つた思索経路を知ることが出来る。

この經は梵蔵宝性論と品名が一致していると同様に、その内容に於て前後倒置取捨補添の次第があつても、經の本論の中、如来事品を除いて一致している。殊に如来界品と菩提品は宝性論の如来蔵の十義と菩提の八義との混成である。如来界品は宝性論の法宝品・僧宝品・如来蔵品の十義の自体・行・時差別・遍一切処・不変・無差別・為何義品と順序や表現に相違があつても親近性を持ち、如来界品全体が如来蔵の自性を説述する仕組になつている。次の菩提品は自性と不共を除いて下図のように宝性論の如来蔵・菩提両品の混成である。自性は宝性論菩提品の実体と内容的に一致しているが、真諦訳撰論釈卷十三(正蔵31・248・下) 仏性論卷三(801. 中)にも見られる転依の四相を付加し、不共の趣意も宝性論の如来蔵・菩提両品に見出すことが出来る。

これら相似点をもつ無上依經と宝性論との何れが先に成立したものである

宝 性 論			無 上 依 經	
如 来 蔵 十 義	(1) 体	(svabhāva)	(1) 自	性
	(2) 因	(hetu)	(2) 因	縁
	(3) 果	(phala)	(3) 惑	障
	(4) 業	(karman)	(4) 至	果
	(5) 相 応	(yoga)	(5) 作	事
	(6) 行	(vṛitti)	(6) 相	摂
	(7) 時 差 別	(avasthā-prabheda)	(7) 行	処
	(8) 遍一切所	(sarvatraga)	(8) 常	住
	(9) 下 変	(avikāra)	(9) 不	共
	(10) 無 差 別	(abheda)	(10) 不可思惟	
菩 提 八 義	(1) 実 体	(svabhāva)		
	(2) 因	(hetu)		
	(3) 果	(phala)		
	(4) 業	(karman)		
	(5) 相 応	(yoga)		
	(6) 行	(vṛitti)		
	(7) 常	(nitya)		
	(8) 不 思 議	(acintya)		

か。月輪博士(日本仏教学会年報昭和七年)は、この經の如来界の説明の「此処若心意識不能縁起……若無相者是法非所作無生無滅」は宝性論の法宝品の仏境界經と勝鬘經法身章の二經を一聯の文に書き改めて如来界の不思議相としたもの、この經は宝性論を書き改めたものとされている。又東京大学の高崎直道氏(印度学仏教学研究第八卷二号英文「無上依經の構造」)は、「無上依經が宝性論の模倣であることを示しているのは、宝性論が他の經から引用して来た章句を無上依經自身の經文の如く使用していることである」として十七經文をあげている。又「宝性論は多くの經を引用しているに拘らず無上依經を典拠としていない」等の理由によつて、無上依經は宝性論を基礎として經典の形式のわくの中で改造したものであろうと論じている。

この經は宝性論より先の成立であるとなすことの出来ない点を持つている。この經が宝性論を書き改めたことが歴然としている個処がしばしば見出される。それらは、(1)宝性論に於て異なる引用二經文を無上依經に於て連続させて一

經文とするもの、(2)宝性論の本文と引用經文を一聯の經文としている場合とに大別することが出来る。(1)は先述の仏境界經と勝鬘經を一文としているのが良い例であり、(2)無上依經の「著有者復有二種。一者背涅槃道無涅槃性。不求涅槃願樂生死。二者於我法中不生渴仰。誹謗大乘。阿難。是等衆生非一弟子。一非大師。非一歸依處。」は宝性論(p. 53)に、「有を欲する者は二種であると知られる。(一者)解脱道に違逆することを欲し、無般涅槃の種姓の衆生で、これらは輪廻のみを欲して涅槃を否定する者と、(二者)そこに決定して墮する仏法内の大乘を誹謗する一類の者とである。これに関して彼世尊はこのように仰せられている。(不増不減經。正蔵 16・467・下)私は彼等の師でなく、彼等は私の弟子ではない。舍利弗よ。私は彼等を聞かぬ他の聞え、冥から大冥え行くもので、大闇の者と言うのである」とあるのを經典形式に改めたものであることを知り得よう。このような個処は、(a)三品の衆生の遠離求有衆生個処(対照本 p. 53; 無上依經 正蔵 16・471・上一中) (b)四徳と四顛倒(p. 57; 正蔵16・471・下)。(c)四徳と過三際(p. 61; 正蔵16・472・上)。(d)三種意生身には四徳がなく、法身のみ四徳を具する(p. 65; 正蔵 16・472・中)。(e)二種によつて常波羅蜜を説く(p. 67; 正蔵 16・472・下)。(f)空が土銅金器に遍満するように、如来蔵が衆生界・菩薩・仏の三位に遍満する(p. 79; 正蔵16・469・下)。(g)摩尼宝喻五法煩惱無力(p. 95・p. 153; 16・469・中)。(h)六根殊勝(p. 109; 正蔵 16・469・中)等がある。

又宝性論には声聞・縁覚・大力菩薩に縁相(無明習氣)因相(無漏業)生相(三種意生身)壞相(變易生死)の四障があつて法身の四徳を得ない。これを煩惱・業・生の三染に配して無明習氣は煩惱染、無漏業は業染、意生身と變易生死は生染の如しと説いている。これを無上依經の菩提品には、三界には四種の難があるとして、無明住地所起の方便生死は煩惱難、無明所起の因縁生死は業難、無明所起の有々生死は生難、無明住地所起の無有生死は過失の難としている。煩惱・業・生(苦)の三雜染は定つた仏典の述語であつたものをこの經には四種障即ち四種生死との配当關係から過失難を加えて四種難と法数的に改めている。

宝性論に於て如来蔵(tathāgata-garbha)は有垢如(samālātathatā)

菩提(bodhi)は無垢如(nirmalātathatā)と説かれている。如来蔵と言うも菩提と言うも、如(tathatā)に対する客塵垢(āgantuka-mala)の有無に過ぎないのであつて、如それ自体(svabhāva)には変りはない。又如来蔵を開顯する因(hetu)に就いても、如来蔵十義の因では信法・般若・禪定・大悲の四因、菩提の八義の因(hetu)では無分別智と無分別後智をあげている。この二種の因の前者は闡提・外道・声聞・縁覚の四因、後者は無漏界の二乗及び大力菩薩の因を指すものと見られるが、一切衆生具如来蔵の立場を強調するならば、有漏無漏の二因が説かれなければならないかどうか。前者の四因こそが因(hetu)として説かれなければならないであろう。又果(phala)も如来蔵とは隠顯に過ぎないのである。

如来蔵という立場から客塵を除いて如来法身を光顯せよと教えるならば、このような有垢如・無垢如に於ける自性(svabhāva)、因(hetu)、果(phala)、業(karman)、相應(yoga)、行(vṛitti)は二門別立して論ずるよりは、有垢如から無垢如えという連続する一門として論ずることも出来よう。

如上、無上依經の經典作者が宝性論の論文を断章取意して經文を組立てたものであつて、阿難を対告衆とし、宝性論の論書記述を此經では簡略にし、教權的に描写したものであつて、無上依經の經名そのものも、uttaratantra(最上依)或は an-uttaratantra(無上依)のいずれであつたか確定し得ないが、宝性論の梵名との關係に於て思考されるのであつて、無上依經は宝性論を随喜する所から、宝性に舍利供養の歴史的根拠を付与して出来上つたものであろう。

13. 仏性論と宝性論

宝性論と近似性をもつものに仏性論がある。仏性論が宝性論を依用したものであることは月輪博士によつて論述された。宝性論と仏性論の縁起分第一と論の主題を説く弁相分第四を対照して見るとき、仏性論が宝性論の異訳關係にあり乍ら、論理的に法数的に調整され、註釈的であることを知ることが出来る。

如来蔵十義の因を明す段に法界無差別論と宝性論には信法等の四因をあげ

ているが、因の意味は法蔵の無差別論疏に「如_下輪王子具_二四縁_一生長_上。一父二母、三在胎十月、四出胎乳養方成_二王子_一。未_二名為_一王。今此四縁令_二菩提心起_一故名_レ因」とあるように、因は根本的原因ではなく、如来蔵自体を開顯する因行である。即ち四因は如来蔵の正因に対して四縁を意味する。仏性論はここに仏子に因・縁・依止・成就の四義のあることを増補し、その中に因とは仏性と因行である信樂とに区別すべきことを注意して、「初言_レ因者有_二一。一仏性。二信樂。此兩法仏性は無為。信樂是有為。信樂約_二性得_一仏性_一為_二了因_一。能顯_二了正因性_一故。信樂約_二加行_一為_二生因_一。能生_二起衆行_一故。……二縁者謂般若波羅蜜……。三依止者破虚空定……。四成就者菩薩大悲……。」燈が物を照すように、芽が茎を生ずるように、信樂は正因を顯了ならしめ、諸度等の行を生起せしめるものとして、仏性の正因に対して、信樂を了因・生因としている。これは自性と因は因と縁の關係に於て把握し、縁は般若で菩薩身を生じ、依止は破虚空三昧で斷無の処に樂淨ありと執するを除き、成就は大悲で他利無尽である。因は父、縁は母、依止は胞胎、成就は乳母である。諸菩薩は此四義によつて仏子となると。この仏子義は又真諦訳撰論釈卷八に説く處である。又宝性論の如来蔵の果義の前段には四顛倒と四無倒と法身の四徳を述べ、闡提等の四人と四障と四因と四徳の關係を明らかにし、後段には無漏界に住する二乗と大力菩薩にも四障があつて四徳を得ないことを明している。仏性論卷二の果相に於ては前段を前の凡聖二位に、後段を地上としている。前段に地前凡聖二位とあるのは、凡位は一闡提と外道、聖位は二乗を指すものと見られる。然し後段を宝性論では無漏界中の二乗を地上として取扱つていてではなく、唯十地の中に寄説しているに過ぎない。仏性論は闡提等の四人を地前と見なしたことから、無漏界の二乗と大力菩薩を地上としたものであろうが、十地と二乗と大力菩薩の相摂關係は明かでない。真諦訳撰論釈卷十に、方便生死は初・二・三地に、因縁生死は四・五・六地に、有有生死は七・八・九地に、無有生死は第十地に配している。これは唐訳に欠くところであつて、宝性論で十地に寄説された無漏界の二乗及び大力菩薩が仏性論には地上と解釈され、撰論釈では十地の諸位で説かれている。この外、坂本博士が仏性論脚注で指示しているように、仏性論の自体相品には如意功徳

性を如来蔵の五義をもつて説明し、それが真諦訳撰論釈卷十五（正蔵 31・264・中）にある法界の五義と、同じく潤滑性を説くのに大悲をあげているが、俱舍論第二十七（正蔵29・141・上）の大悲と、相摂義に於て仏性論は転依の四相を述べているが、真諦訳撰論釈卷十三（正蔵 31・248・下）と一致する。これら仏性論に於ける述語の説明は真諦訳の他論書に見られ、それがその個處に於て必ずしも重要性をもつものでなく本文中に挿入されている。

先述のように宝性論は四障と三染を説き、無上依経には三染に過失難を加えて四難に法相を改めたのであるが、仏性論は無上依経を承けている。又宝性論の果義を述べるところに如来法身を讃じて(p. 63) 梵文には「これらによつて言われる。」漢訳には「又復有_レ義」といつて何経であるか明かでないが、「如来は法界の至高、虚空界の辺際を極めたもの、未來際を究めたものといわれる。」を引用し、この三句と四因と四徳の關係を、法界の至高は大乗の勝法を深信して清淨法界を究竟する、虚空の辺際を極めるは般若を修して、衆生と器世界は虚空の如く無我と悟り、虚空蔵三昧を修して一切法の中に於て自在を得、未來際を究めるは大悲を修行して常に慈悲心平等を得ると述べているが、仏性論は「是故仏説。由_二此四徳_一一切如来唯法界為_レ勝。由如_二虚空_一。取_二虚空_一為_二辺際_一。極_二後際_一之後。如_レ是四句現_二何等義_一」といつて四句とし、四因と四徳を当てている。これは無上依経卷上（正蔵 16・472・上）に四因・四徳に当てる為に意識的に法相を四句に改めたものを承けたことを知り得るのである。

仏性論が宝性論の異訳的關係にあることは、既に京都大学の服部正明氏によつて論述されたところである(仏教史学通卷第十五号)。宝性論と仏性論の縁起分と弁相分を対照して見るとき、仏性論の本文中に挿入された註釈を取り去るとき宝性論に合致することに気付くのである。仏性論は無上依経を知りながら無上依経を完全に活用していない点が見られる。それは何故かというに、宝性論との關係が断ち切れていないことに起因するからである。無上依経は前項に述べたように、宝性論の論意と引用経を一連の経文としている場合と、二ヶの引用経文を自家業範中の一連文としているのを見たのであるが、仏性論は無上依経に連文した経文を往々宝性論と同様、論意と引用経、

引用經と引用經として取扱っている。宝性論卷三 (p. 57-59) 四無倒も如来法身の四徳対にすれば顛倒である。この顛倒を対治する為に法身の四徳があるのであるとして勝鬘經を引用している。無上依經菩提品には宝性論の論意と引用經を一連の經としているに拘らず、仏性論卷二のこの個処は宝性論に合する。又仏性論卷三 (正蔵 801・下) に、

如=無上依經中說-。阿難。於=無生無滅法中-。心意及意識決定不_レ生故。釈曰。……心者即六識心。意者阿陀那識。識者阿梨耶識。……若不_レ起=無明-。十二有分不_レ為=生緣-故不生。又勝鬘經說。是苦滅者非_レ滅=壞法-名為_レ苦滅_上。壞者破=三界-見_レ諦得=有余涅槃-。滅者除=四種生死思惟煩惱-得=無余涅槃-。

これを無上依經 (469・中) に見れば、

此処若心意識不_レ能_レ緣起-。覺觀分別不_レ能_レ緣起-。不正思惟不_レ能_レ緣起-。若与=不正思惟-相離是法不_レ起=無明-。若不_レ起=無明-是法非=十二分起緣-。若非=十二有分起緣-是法無相。若無相者是法非=所作-。無生無滅無減無尽。是常是恒是寂是住。

無上依經の文は宝性論に引用する入仏境界經と勝鬘經を一連文としたものであるが、仏性論は説無上依經としながら、無上依經の連文を再び宝性論のように二經に分けて、前經の入仏境界經を無上依經、後經を宝性論の如く勝鬘經としている。又仏性論の前文即ち無上依經の文は、対告衆が無上依經の阿難に合するだけで無上依經の文よりも、宝性論 (p. 21) に一致する。

文殊師利よ。無生滅のところには心意識は生起しない。心意識の生起しないところには分別によつて不如理作意せしめる何等の分別もない。彼が如理作意の加行をなせば無明も起らない。無明が起らなければ十二有支が起らない。これが不生であるといわれる。

仏性論には兩經の間に釈曰があつて、従来の唯識説と異つて心を前六識等とし、省略した部分を補充している。後文即ち勝鬘經の文は宝性論引用は現存の旧訳に一致するが、仏性論引用は現存の新旧の漢訳・蔵訳又無上依經の孰れにも合しない。經中に「壞とは三界を破し諦を見て有余涅槃を得るをいい、滅とは四種生死の思惟煩惱を除いて無余涅槃を得るをいう」とあるのは、真

諦訳の顯識論 (正蔵 31・880・中) に「一者分段是三界。變易是界外。四種生死者是一切也」又真諦訳撰論釈 (257・下) の七種生死と通ずるものである。四種生死の名は初め無上依經に説くところであるが、宝性論の緣相等の四相によるものであつて、それが果して四種生死と名づけ得るか疑問であるが、後には四相ではなく四種生死の名が使用されるに至つた。止観輔行第七之一

(正蔵 46・385・上)「撰大乘師立=七種生死-」というように、撰論家に四種生死乃至七種生死を立てるのは良いとして、その起源が勝鬘經にある如き仏性論の記事は信をおき難い。仏性論に引用する經文に対して、仏性論節義の著者が「故知取意」「所出文稍有_レ異」と隨所に記しているのはどうしたことか。未伝の多くの經論のあつたことは諸目錄によつて知られる。然し仏性論と宝性論と対照して所々に付加され飛躍している説明を除き去る時は兩論の一致は蔽うべくもない。その付加され飛躍している部分は世親の他の論書に見出し得るものもあるけれども、真諦の訳文のみに見出し得るものがある。真諦の訳出したものをその異訳と対照する時、真諦は白らの註釈を訳文中に挿入していること、偈頌を長行によつて訳出していることから見て、訳者真諦に帰すべき部分もあると考えられる。

仏性論四卷を経録に見ると、法經録・三寶記等を初め諸經録が陳世真諦三蔵の所翻であることを記しているが、その訳出年時場所に触れる所がない。そして又開元録以前の諸經録には著者に関説するものがなく、開元録卷七 (正蔵 55・545・下) に天親菩薩造、貞元録卷二十二 (55・942・上) に天親菩薩造。單訳。と記しているが、天親菩薩造の理由を記さない。既にいわれているように、天親菩薩造は三本・宮本等では天親菩薩説である。諸經録が作者名を記さなかつた理由、造が説とされた所以も、この論は内容的に直ちに世親造とするに躊躇せざるを得ないことが既に指摘されていたに違いない。この疑義に対し、最も明瞭に断を下した記事を載せているのは玄奘門下の靈雋である。凝然の五教章通略記卷二十 (大日本仏教全書 p. 328) に「三無性論者真諦三蔵於=広洲制旨寺-翻譯。即出=無相論-。靈雋対法論疏第十末云。仏性論・無相論西方別無=梵本-」と。靈雋は東域伝燈目錄 (正蔵 55・1157・上) によれば雜集論疏の下に靈雋亦作_レ俊。甲本謄註曰唐興寺玄奘門人とあ

り、瑜伽論の許敬宗の序に、玄奘が瑜伽師地論百卷を訳出する際に靈会・智開等と承義したことが記されているから、玄奘門下の高足であつたと思われる。奈良朝現在一切経疏目録（写経より見た奈良仏教の研究付録）には、彼のものとして対法論疏十三卷・集論疏十三卷・雜集論疏十三卷等をあげている。靈雋が玄奘門下として、彼の奉ずる五性各別説の立場から、仏性論は一性皆成説に論拠を与えるものとして故意にこの記事をなしたとは考えられない。入楞伽心玄義（正蔵 39・432・上）に、「仏性宝性二論自釈。為二一闡提謗法罪重。依二無量時。故作二是説。非二謂二究竟無二清浄性。」二論共に同致であつて、彼は為に仏性論を梵本なしと抹殺的態度をとつたのではなく、寧ろ仏性論を世親造とすることに玄奘門下は躊躇していたに違いないのである。その論証を欠いている点が惜まれる。

如上、仏性論は宝性論と比較して見ると、論の縁起分・弁相分の主要部分は宝性論の異訳註釈である。宝性論にない破執分二・顯体分三は、既に指摘されたように、瑜伽論六十一・七十三・七十四・七十五卷によるものであつて真諦の決定蔵論はその部分訳、三無性論の三性説は顯体分所説と同一であることから、仏性論は世親造というよりも、真諦との関係に於て見るべきものと思われる。

14. 著者に就いて

宝性論は梵本漢訳共に著者の名がなく、西藏訳は偈頌は弥勒、釈論は無著の作となつている。中国日本では、天台大師の摩訶止観卷三に「堅意の宝性論云」賢首大師の法界無差別論疏の造論の縁起及び円測の解深密經疏卷一によつて、この論は堅慧（意）作であると信じられて来た。然し西藏伝の異説から著者の問題が重要なものとなつた。英訳者 Obermiller は西藏伝によりながら、弥勒と無著の関係を文殊と竜樹の関係に見る西藏説に立つて、論本偈・註釈偈・釈疏共に無著を現実的著者としている。月輪博士は論本偈は無差別論と合する点から、漢訳の如く堅慧作、註釈偈・釈疏は世親の仏性論に取入れられているから世親以前のものであるとして、西藏伝をも尊重されて註釈偈は弥勒、釈疏は無著とされた。E. H. Johnston は中国説も西藏伝も取ら

ず、唯識三十頌釈家以外の安慧であるとする。宇井博士はこの論一部を徳慧と同時代の堅慧（三五〇～四五〇頃）とされた。

六九一年提雲般若が法界無差別論を訳出するに際して、筆受をした賢首が同三蔵の伝として、法界無差別論と究竟一乘宝性論とは、梵に娑囉末底（sāramati）、娑囉は堅、末底は慧、即ち堅慧の作であると記している。上の「論本偈の思想背景」の章節に於て見た様に、法界無差別論と宝性論の論本偈の相似性からいつて、この伝は疑いを入れる余地がないと思われる。然し、漢訳に於て論本偈が冠頭に別掲され、異本には論本偈経と言われ、又論に於ける論本偈に対する註釈偈の態度などから、論本偈は註釈偈・釈疏と少くとも同時成立を疑わしめるものをもつている。従つて宝性論全体が堅慧作であるとするには躊躇せざるを得ないものがある。西藏伝は論本偈と註釈偈を一緒にした Śāstra を弥勒造とするのであるが、他の経論からの引用偈を混入し、後に Vyākhyā から偈頌を抽出したことは明かで、論本偈と註釈偈が同一人作であることを証するものではなかつた。又註釈偈の展開の章節に見たように、註釈偈には法界無差別論や宝性論論本偈に見られないような展開を示し、弥勒の Śāstra はかなりの用意をもつて引用偈を選別しているけれども、大乘莊嚴經論・現觀莊嚴論の偈を掲げている。然し弥勒・無著の偈頌を引用したからといつても、この論は唯識学派との間に一線を劃するものを持つてゐる。その一一を論述することは出来ないが、法蔵の法界無差別論疏に、

八世界未成喻。喻二法身種姓德。在二六処空聚。未生芽故。宝性論云。真如性如二六根聚經中説。如是六根從二無始世。來畢竟究竟諸法体故。無上依經亦有此文。並以二真如。為二体。若瑜伽六根殊勝等約二有為性説。不同二此經。

宝性論・無上依經は六処が殊勝であるように無始久遠の古から法性を得ている。即ち真如を体とすると見、瑜伽論（正蔵 30・478・下）では六処の中の殊勝で、それは阿頼耶識中の本有無漏種子を指し有為性と見る。両者は立場を異にしている。又煩惱品には性種姓から自性身、習種姓から受用身と變化身の三身を説いている。この開真合應説は世親の法華論卷下（正蔵26・9・中）・十地經論卷九（正蔵26・185・下）に説く仏身説と一致し、弥勒の大乘莊嚴經論卷三

(正蔵31・606・中)・無著の撰大乘論卷下(正蔵31・149・上)に説く開応合真説に異なるのである。従つて弥勒無著の偈を引用し闡説しているけれども、西藏伝の様にも弥勒無著に帰せしめることは出来ない。註釈偈と釈疏の関係は「釈論の意義」に於て見たように、論本偈にない新たな問題を註釈偈が提起する場合も釈疏がこれを釈し、両者は函蓋相應し、作者の相違は見られなく、その教理内容に於ても、両者の間に著しい展開は見られない。そしてそれら論本偈になく、註釈偈・釈疏に至つて付加された部分は概ね世親の他の論書に於て見出し得るものである。この論の釈疏(p. 141)に於て大乘阿毘達磨經の「無始以来の界は一切諸法の依止である。それがあるによつて、一切の趣と涅槃の得果がある」の界(dhātu)を如来藏とし、勝鬘經を引用している。この偈は撰大乘論に阿黎耶識の識体と名称とが仏によつて説かれたものであることを明す為に引用されている。そして界即ち性は唐訳撰論世親釈及び無性釈(正蔵31・324・上、31・383・上)には因義即ち一切諸法の種子である阿頼耶識に解している。宝性論の論本偈・註釈偈に於て、既に界が何等の論証なしに如来藏として使用されながら、釈疏のこの個処に至つて勝鬘經を引用証成したのは何故であるか。世親は一方には見無著の撰大乘論を唯識学の伝統によつて釈し、他方にはそれを意識しながら彼独自の哲学を創唱したのであつて、特にこの個処で dhātu を如来藏と解釈したのは、撰大乘論の dhātu 即ち阿頼耶識を意識しながら、如来藏系の伝統に立つて dhātu 即ち如来藏と解釈したものと思われる。無上依經は宝性論を依用して編纂したもの、仏性論は元來梵本がなく宝性論の異訳であるとすれば、宝性論の註釈偈・釈疏は誰人によつて作られたものであろうか。真諦の婆薮槃豆伝(正蔵 50・191・上)に、

阿僧伽法師相殁後。天親方造=大乘論=。解=釈諸大乘經=。華嚴涅槃法華般若維摩勝鬘等。……釈=撰大乘=三宝性甘露門等諸大乘論。

仏性論の訳者真諦が、世親の著に三宝性甘露門等の諸大乘論があつたと伝えるが、世親の三宝性甘露門とは何を指示するのであろうか。經錄には世親に三宝性等の大乘論のあつたことを記さない。又真諦所翻の中にも見出されない。

宝性論の梵名 Ratnagotra-vibhagomahāyānottaratantra-sāstram

のratnagotra は本文に(p. 39; I-24)「この三宝の種姓は一切見者の境界である」「如是三宝性 唯諸仏境界」から見て(三)宝性論である。又宝性論が三宝性論と呼称されていたことは、法界無差別論領要抄(正蔵74-1-2)に、「三宝性論彼論第三卷曰。向説一聞提常不入涅槃。無涅槃性者此義云何」と。この文は論の卷三(p. 72)にあるのであつて、宝性論が別に三宝性論とも呼ばれたことを知り得る。真諦自身世親が宝性論を作つたことを記述しているのは、宝性論が世親造であることを物語っている。そして真諦は甘露門等の等の中に世親の諸大乘論を包含しているが、諸經錄にない三宝性論を掲げていることは、仏性論は本来梵本がなかつたと言う記事から、真諦自ら仏性論は宝性論の註釈であることを告白しているものと言うことが出来る。然らば何故に著者名を出さなかつたか。それは論本偈は堅慧によつて、註釈偈・釈疏は世親によるものであつて、一人の作者によつて著作されたものでないからであらう。天台・賢首・円測が堅慧を宝性論主とするのは、論本偈の作者をもつて一論を呼び、真諦が世親は三宝性論を造るというのは註釈偈・釈論をもつて論本偈を含めて称したものであろう。堅慧が論本偈を作り、世親が註釈偈・釈疏を作つたとすれば、堅慧は西域記卷九にいう徳慧と同時代の堅慧ではない。唐の僧祥の法華伝記卷第一(正蔵51・52・下)によれば、真諦の相伝として、仏滅五百年に竜樹、六百年に堅意、九百年に世親が法華經に関する論書を世に送つたことを述べているから、この記事によれば真諦は世親より早期の堅意論師のあつたことを認めていたのである。この記事では仏滅の起点を何処に置くか明かでなく、今又、堅慧の時代を確定することは出来ないけれども、世親の先輩である堅慧(意)である。

この立場に立つ時西藏伝の弥勒の五論書説には再検討すべき余地があり、殊に無著の Vyākhyā の前に弥勒の Śāstra があつたとはなし難いと考え

本 論

1) Ratna-gorta-vibhāgo mahā-yānōttara-tantra-ṣāstram.

— —:) ○ (:— —

2)

I

3) (lb) om namaḥ ṣrī-vajra-sattvāya |

4) buddhaḥ ca dharmaḥ ca gaṇaḥ ca dhātur
bodhir guṇāḥ karma ca bauddham antyam |
kṛtsnasya ṣāstrasya ṣarīram etat samāsato
vajra-padāni sapta || 1 ||

vajrōpamasyādhigamārthasya padam sthānam iti vajra-padam | 10
tatra ṣruti-cintāmaya-jñāna-duṣpravedhād anabhilāpya-svabhāvaḥ
pratyātma-vedānīyo 'rtho vajravād veditavyaḥ | yāny akṣarāṇi tam
artham abhivadanti tat-prāpty-anukūla-mārgābhidyotanatas tāni
tat pratiṣṭhā-bhūtatvāt padam ity ucyante | iti duṣpravedhārthena
pratiṣṭhārthena ca vajra-padatvam artha - vyañjanayor anuga- 15
ntavyam | tatra katamo 'rthaḥ katamad vyañjanam | artha
ucyate sapta-prakāro 'dhigamārtho yad uta buddhārtho dharmā-
rthaḥ saṅghārtho dhātv-artho bodhy-artho guṇārthaḥ karm-
ārthaḥ ca | ayam ucyate 'rthaḥ | yair akṣarair eṣa sapta-
prakāro 'dhigamārthaḥ sūcyate prakācyata idam ucyate vyañ- 20
janam | sa cāṣa vajra-pada-nirdeṣo vistareṇa yathā sūtram
anugantavyaḥ |

anidarṣano hy ānanda tathāgataḥ | sa na ṣakyaḥ cakṣuṣā
draṣṭum | anabhilāpyo hy ānanda dharmāḥ | sa na ṣakyaḥ 25
karṇena ṣrotum | asaṁskṛito hy ānanda saṅghaḥ | sa na ṣakyaḥ
kāyena vā cittena vā paryupā (2a) situm | 5) itimāni trīṇi vajra-
padāni dṛiḍhādhyāṣaya-parivartānusāreṇānugantavyāni |

1) T は ratna-gotra-vibhāgo がなく、P 版には phags pa thogs med kyi
mdsad pa bshugs so がある。

2) T は梵蔵の論題がある。

3) T は “om……sattvāya” がなく、“一切の仏菩薩に帰依し上る” がある。

4) C の 下註 2)。

5) “iti……anugantavyāni” C は欠く。T は S に一致する。

論曰。第一教化品如。向偈中已說。應知。此論。廣門有十一品。中則七品。略一品。初釈
一品。具撰此論。法義。依相。一應知。偈言。
此偈。明三何義。一。言三金剛。二。者猶如三金剛。難。可。三。沮壞。一。所証之義。亦復如是。故言三金剛。一。所
言句者。以下此論。句能。与三証義。為。根本。上。故。此明三何義。內身証法。無言之。以。三。聞思智。三。難。可。三
証得。猶如三金剛。名字章句。以下。能。證。彼。理。中。証。智。隨。三。順。正。道。能。作。本。上。故。名。為。句。此。復。何
義。有。三。義。故。何。謂。三。義。一。難。証。義。二。者。因。義。是。名。為。義。金剛。字。句。應。如。是。知。一。又。何
謂。為。義。何。謂。為。字。義。者。則。有。三。七。種。証。義。一。何。謂。三。七。義。一。者。佛。義。二。者。法。義。三。者。僧。義。四。者
衆。生。義。五。者。菩。提。義。六。者。功。德。義。七。者。業。義。是。名。為。義。是。故。經。言。三。又。第。一。義。諦。者。所。謂。心。緣
向。不。能。知。何。況。名。字。章。句。一。故。所。言。字。者。隨。以。三。何。等。名。字。章。句。言。語。風。聲。一。能。三。表。能。說。能。明。
能。五。示。此。七。種。義。是。名。為。字。是。故。經。言。三。又。世。諦。者。謂。世。間。中。所。用。之。事。名。字。章。句。言。語。所。說。一。故。
又。此。七。種。金。剛。句。義。如。諸。經。中。廣。說。一。應。知。
應。云。何。知。依。三。佛。義。一。故。如。來。經。中。告。阿。難。一。言。阿。難。所。言。如。來。者。非。三。可。見。法。一。是。故。眼。識
不。能。得。見。故。依。三。法。義。一。故。如。來。經。中。告。阿。難。一。言。阿。難。所。言。法。者。非。三。可。說。事。一。以。是。故。
非。耳。識。所。聞。故。依。三。僧。義。一。故。如。來。經。中。告。阿。難。一。言。阿。難。所。言。僧。者。名。為。三。無。為。是。故。不。可。
身。心。供。養。禮。拜。讚。歎。一。故。

1) 卷第二首 宋・元・明・宮本。

2) 「論曰……偈言」梵蔵なし。

3) 及衆僧=僧室性 宋・元・明・宮本。

4) 道=菩提 宋・元・明・宮本。

5). 6). 7). の「經中」を梵蔵には「聖壇上深心依止品」とす。

8) 心=口 宮本。

9) (是故非) 十 禮拜 宋・元・明・宮本。

tathāgata-viṣayo hi cāriputrāyam arthas tathāgata-gocarah |
sarva-çrāvaka-pratyekabuddhair api tāvac chāriputrāyam artho na
çakyah samyak-sva-prajñayā ¹⁾ × × × draṣṭum vā pratyavekṣitum
vā | prāg eva bāla-prīthag-janair anyatra tathāgata-çraddhāgam-
anatah | çraddhāgamanīyo hi cāriputra paramārthah | paramā- 5
rthah iti cāriputra sattva-dhātor etad adhivacanam | sattva-dhātur
iti cāriputra tathāgata-garbhasyāitad adhivacanam | tathāgata-garbha
iti cāriputra dharma-kāyasyāitad adhivacanam | itidam caturtham
vajra-padam anūnatvāpūrṇatva-nirdeça ²⁾ parivartānusāreṇānugant-
avyam | 10

anuttarā samyak-sambodhir iti bhagavan nirvāṇa-dhātor etad
adhivacanam | nirvāṇa-dhātur iti bhagavaṃs tathāgata-dharma-
kāyasyāitad adhivacanam | itidam pañcamam vajra-padam ārya-
çrī-mālā-sūtrānusāreṇānugantavyam |

yo 'yam cāriputra tathāgata-nirdiṣṭo dharma-kāyah so'yam 15
avinirbhāga-dharmā |avinirmukta-jñāna-guṇo yad uta gaṅgā-nadi-
vālikā-vyatikrāntais tathāgata-dharamaiḥ ³⁾ | i (2b) tīdam ṣaṣṭham
vajra-padam anūnatvāpūrṇatva-nirdeçānusāreṇānugantavyam |

na mañjuçrīḥ tathāgataḥ kalpayati na vikalpayati | ⁴⁾ atha 20
vāsyānābhogenākalpayato'vikalpayata iyaṃ evaṃ-rūpā kriyā prav-
artate | itidam sapṭamam vajra-padam tathāgata-guṇa-jñānācintya-
viçayāvatāra-nirdeçānusāreṇānugantavyam | itimāni samāsataḥ
sapta-vajra-padāni sakalasyāsyā çāstrasyôddeça-mukha-saṃgrahā-
rthena çarīram iti veditavyam |

svalakṣaṇenānugatāni cāṣāṃ yathā- 25
kramam dhāraṇi-rāja-sūtre |
nidānatas trīṇi padāni vidyāc catvāri
dhīmaja-jina-dharma-bhedāt || 2 ||

- 1) Tは çes pa (jñātum) がある。
- 2) Tは parivarta を欠く。
- 3) Cには“舍利弗…功德故”ある。T欠く。
- 4) Tには rañ bshin gyis mkhas pa “自性の善巧”が入っている。

依ニ衆生義ニ故如来經中告舍利弗。言三衆生者乃是諸仏如来境界一切声聞
辟支仏等以正智慧不能觀衆生之義。何況能証毛道凡夫。於此義中唯信如来。
是故舍利弗。隨如来信此衆生義。舍利弗。言三衆生者即是第一義諦。舍利弗。言第一義
諦者即是衆生界。舍利弗。言三衆生界者即是如来藏。舍利弗。言如来藏者即是法身。故
依三菩提義。故經中說言世尊。言阿耨多羅三藐三菩提者名涅槃界。世尊。言涅槃界
者即是法身。故。
依功德義。故如来經中告舍利弗。言三衆生者。如来所說法身義者過於恒沙。不離不脫
不思議。仏法如来智慧功德。舍利弗。如世間燈明色及觸不離不脫。又如摩尼宝珠明色形
相不離不脫。舍利弗。法身之義亦復如是。過於恒沙。不離不脫不思議。仏法如来智慧功
德。故。
依業義。故如来經中告文殊師利。言三衆生者。如来不分別不分別無分別而自然
無分別。如所作業自然行。故如是等名略說七種金剛字句。總攝此論体相。上應知。是故
偈言。
七種相次第
總持自在王
菩薩修多羅
序分有三句
余殘四句者
在菩薩如来
智慧差別分
應如是知。

- 1) 經中を梵藏には不増不減經。
- 2) 經中を梵藏は勝鬘經。
- 3) 經中を梵藏は不増不減經。
- 4) 脱十(不異)宋・元・明・宮本。
- 5) 經中を梵藏は入如来不思議功德智慧境界經。
- 6) 差別分=分差別 宋・元・明本, 差別分 宮本。

eṣāṃ ca saptānāṃ vajra-padānāṃ svalakṣaṇa-nirdeṣena yathā-kramam ārya-dhāraṇīvara-rāja-sūtra-nidāna-parivartānugatāni trīṇi padāni veditavyāni | tata ūrdhvam avaṣiṣṭāni catvāri bodhisattva-tathāgata-dharma-¹⁾ nirdeṣa-bhedād iti | tasmād yad uktam |

bhagavān sarva-dharma-samatābhisambuddhaḥ supravartita-dharma-cakro 'nanta-ṣiṣya-gaṇa-suvinīta iti | ebhis tribhir mūla-padair yathā-kramam trayāṇāṃ ratnānāṃ anupūrva-samutpāda-samudāgama-vyavasthānaṃ veditavyam | avaṣiṣṭāni catvāri padāni tri-ratnōtpatty-anurūpa-hetu-samudā (3a) gama-nirdeṣo vedita-¹⁰ vyah | tatra yato 'ṣṭamyām bodhisattva-bhūmau vartamānaḥ sarva-dharma-vaṣitā-prāpto bhavati tasmāt sa bodhi-maṇḍa-vara-gataḥ sarva-dharma-samatābhisambuddha ity ucyate | yato navam-¹⁵ yām bodhisattva-bhūmau vartamāno 'nuttara-dharma-bhāṇaka-tva-saṃpannaḥ sarva-sattvāṣaya-suvidhi-jñā-indriya-parama-pāramitā-prāptaḥ sarva-sattva-kleṣa-vāsanānusandhi-samudghātana-²⁰ kuṣalo bhavati tasmāt so 'bhisambuddha-bodhiḥ supravartita-dharma-cakra ity ucyate | yato daṣamyām bhūmav anuttara-tathāgata-dharma-yāuva-rajyābhiṣeka-prāpty-anantaram anābhoga-buddha-kāryāpratipraṣrabdho bhavati tasmāt sa supravartita-dharma-cakro 'nanta-ṣiṣya-gaṇa-suvinīta ity ucyate | tān punar ananta-ṣiṣya-gaṇa-suvinītatām tad anantaram anena granthena darṣayati | mahatā bhikṣu-saṃghena sārddham yāvad aprameyeṇa ca bodhisattva-gaṇena sārddham iti ²⁾ | yathā-kramam ṣṛāvaka-bodhau buddha-bodhau ca suvinītatvād evaṃ-guṇa-samanvāgata-²⁵ ir iti |

tataḥ ṣṛāvaka-bodhisattva-guṇa-varṇa-nirdeṣānantaram acintya-buddha-samādhi-vṛiṣabhatām pratītya vipula-ratna-vyūha ³⁾ maṇḍala-

1) T は nirdeṣa を欠く。

2) T は de lta buḥi yon tan dan ldan pa dag dan shes bya ba ni. “是の如き功德を具して清淨なり” がある。

3) T は ḥkhor gyi khyams (maṇḍala māḍa) 周廊とあり。

此偈明何義。以是七種金剛字句。總撰此論。一切佛法。廣說其相。如陀羅尼自在王經。序分中三句。余四句在彼修多羅菩薩如來法差別分。應知。云何。序分有初三句。彼修多羅。序分中。

言。婆伽婆平等証一切法。善能教化。調伏無量諸弟子衆。如是三種根本。字句次第。示現。佛法僧寶。說彼三寶。次第生起成就。應知。余四句者。說隨順三寶。因成三就。三寶。因。應知。此明何義。以諸菩薩於八地中。十自在。為首具足得一切自在。是故菩薩坐於道場勝妙之處。於一切法中。皆得自在。是故經言。婆伽婆平等証一切法。故以下諸菩薩住九地。時於一切法中。得為無上最大法師。善知一切諸衆生心。到一切衆生根機。第一彼岸。能斷一切衆生煩惱習氣。是故菩薩成大菩提。是故經言。善能教化。以下諸菩薩於第十地中。得住無上法王位。後能於一切法所作業。自然而行。常不休息。是故經言。善能教化。調伏無量諸弟子衆。故彼善能教化。調伏無量諸弟子衆。即彼經中。次後示現。是故經言。大比丘衆。俱如是。乃至復有無量菩薩衆。俱如是。次第善能教化。聲聞位地及八菩提。善能調伏一切煩惱。如是。畢竟有無量功德。

又說。諸佛如來。不可思議三昧境界。又說。諸佛如來。三昧境界。已。次說。無垢。大宝莊嚴寶殿。成就。又說。大宝莊嚴寶殿。成就。已。

vyūha - nirvṛitti - tathāgata - pariṣat - samāvartana - vividha - divya -
dravya - pūjā - vidhāna - stuti - meghābhisaṃprava (3 b) rṣaṇato buddha -
ratna - guṇa - vibhāga - vyavasthānam veditavyam | tad anantaram
udāra - dharmāsana - vyūha - prabhā - dharma - paryāya - nāma - guṇa - parik =
īrtanato dharma - ratna - guṇa - vibhāga - vyavasthānam veditavyam | tad 5
anantaram anyonyam bodhisattva - samādhi - gocara - viśaya - prabhāva -
saṃdarśana - tad - vicitra - guṇa - varṇa - nirdeśataḥ saṃgha - ratna - guṇa -
vibhāga - vyavasthānam veditavyam | tad anantaram punar api 10
buddha - raṣmy - abhiṣekair anuttara - dharma - rāja - jyeṣṭha - putra -
parama - vaiṣāradya - pratibhānōpakaraṇatām 1) pratītya tathāgata -
bhūta - guṇa - paramārtha - stuti - nirdeśataḥ ca mahā - yāna - parama -
dharma kathā - vastūpanyasanaḥ ca tat - pratipatteḥ parama - dhar =
māiṣvarya - phala - prāpti - saṃdarśanaḥ ca yathā - saṃkhyam eṣām
eva trayāṇām ratnānām anuttara - guṇa - vibhāga - vyavasthānam
nidāna - parivartāvasāna - gatam eva draṣṭavyam | 15

tataḥ - sūtra - nidāna - parivartānantaram buddha - dhātuḥ śaṣṭy -
ākāra - tad - viṣuddhi - guṇa - parikarma - nirdeśena paridīpitah |
viṣodhaye 2) rthe guṇavati tad - viṣuddhi - parikarma - yogāt | imam
cārtha - vaṣam upādāya daṣasu bodhisattva - bhūmiṣu 2) punar
jāta - rūpa - parikarma 3) - viṣeṣōdāharaṇam udāhṛitam | asminn eva 20
ca sūtre tathāga (4 a) ta - karma - nirdeśānantaram aviṣuddha -
vaiḍūrya - maṇi - dṛiṣṭāntah kṛitah |

tad - yathā kula - putra kuṣalo maṇikāro maṇi - ṣuddhi - suvidhi - j -
ñah | sa maṇi - gotrād aparyavadāpitāni maṇi - ratnāni gṛihitvā
tikṣṇena 4) khārōdakenōtkṣālya 5) kṛiṣṇena keṣa - kambala - paryava =
dāpanena paryavadāpayati | na ca tāvan - mātrena vīryam praṣ = 25

次説下大衆雲集種種供養讚歎如來。雨三種雨衣。雨三種華。雨三種香。如是等示現
仙宝不思議事。應知。又復次説三妙法莊嚴法座。又説三妙法莊嚴法坐。已。次説法門名字及
示現功德。此明三僧宝功德差別。應知。又復次説諸菩薩摩訶薩。迭共三昧行境界。示現種
種功德。此明三僧宝功德差別。應知。又復次説如來放三光明。授諸菩薩摩訶薩太子法王位
職。又復次説與三無畏不怯弱弁才。又復讚歎諸仙如來第一功德。又復次説最上第一
大乘之法。示現如實修行彼大乘。故於法中証果。即彼三寶無上功德次第差別。序
分中義大都已竟。應如是知。已説自在王菩薩修多羅序分中三寶。
次説三仙性義。有六十種法清淨彼功德。何以故。以有彼清淨無量功德性。為清淨
彼性。修六十種法。為此義故。十地經中數說金以為譬喻。為清淨彼仙性義故。
又復即於此陀羅尼自在王經中説如來業已。次説不清淨大毗瑠璃摩尼宝。是故經言。
善男子。譬如善巧摩尼宝師善知清淨大摩尼宝。向大摩尼宝性山中取下未清淨諸摩
尼宝。既取彼宝。以蔽灰洗。蔽灰洗已。然後復持黑頭髮衣。以用揩磨。不以為足。勤
未休息。

1) T は upakaraṇatām が ñe bar bsgrub pa (upasaṃhāra).

2) T は punar を欠く。

3) T は viṣeṣa を欠く。

4) khāra は T に lan tshā (kṣāra) 鹹, 辛。

5) T は kṛiṣṇena を欠く。

rambhayati | tataḥ paṣcāt tikṣṇenāmiṣa-rasenôtkṣālya ¹⁾ khaṇḍikā-
 paryavadāpanena paryavadāpayati | na ca tāvan-mātreṇa vīryam
 praṣrambhayati | tataḥ sa paṣcān mahā-bhaiṣajya-rasenôtkṣālya
 sūkṣma-vastra-paryavadāpanena paryavadāpayati | paryavadāpitam
²⁾ cāpagata-kācam abhijāta-vaiddūryam ity ucyate | evam eva kula- 5
 putra tathāgato 'py aparīṣuddham sattva-dhātum viditvānitya-
 duḥkhānāmācubhōdvega-kathayā saṁsārābhiratān sattvān udve-
 jayati | ārye ca dharma-vinaye 'vatārayati | na ca tāvan-mātr-
 eṇa tathāgato vīryam praṣrambhayati | tataḥ paṣcāc chūnyāni-
 mittāpraṇihita-kathayā tathāgata-nētrīm avabodhayati | na ca 10
 tāvan-mātreṇa tathāgato vīryam praṣrambhayati | tataḥ paṣcād
 avivartya-dharma-cakra-kathayā tri-maṇḍala-parīṣuddhi-kathayā
 ca tathāgata-viṣaye tān sattvān avatārayati nānā-prakṛiti-³⁾ hetuk-
 ān | avati (4b) rñāṣ ca ⁴⁾ samānās tathāgata-dharmatām adhiga-
 myānuttarā dakṣiṇīyā ity ucyanta iti | 15

etad eva viṣuddha-gotraṁ tathāgata-dhātum abhisamdhāyōktam |
 yathā patthara-cuṇṇam hi jāta-rūpaṁ
 na dissati |
 parikammaṇa tad diṭṭham evaṁ loke tathāgatā
 iti || 20

tatra katame te buddha-dhātoḥ ṣaṣṭy-ākāra-viṣuddhi-parikarma-
 guṇāḥ | tad-yathā catur-ākāro bodhisattvālamkāraḥ | aṣṭākāro
 bodhisattvābhāṣaḥ | ṣoḍaṣākārā bodhisattva-mahā-karuṇā |
 dvā-triṁṣad-ākāraṁ bodhisattva-karma |
 tan-nirdeṣānantaram buddha-bodhiḥ ṣoḍaṣākāra-mahā-bodhi- 25
 karuṇā-nirdeṣena paridīpitā | tan-nirdeṣānantaram buddha-guṇā
 daṣa-bala-catur-vaiṣāradyaṣṭādaṣāvenika-buddha-dharma-nirdeṣena
 paridīpitāḥ | tan-nirdeṣānantaram buddha-karma dvā-triṁṣad-

1) Sの註者は此語は不明であると言っている。Tは bal gyi la ba (koca-
 vah) 褐子。khaṇḍika は木片、部分の意。

2) Tは dri ma (mala) がある。

3) Tは hetukān を欠く。

4) Tは samānās を欠く。

又復依此自性清淨如來性故經中偈言。
 譬如石鉢中 真金不可見 能清淨者見
 向說三性有六十種淨業功德。何謂六十。所謂四種菩薩莊嚴八種菩薩光明十六種菩
 薩摩訶薩大悲三十二種諸菩薩業。
 已說三性義。次說三性菩提。有二十六種。無上菩提大慈悲心。已說三性菩提。次說諸公如來
 功德。所謂十力四無所畏十八不共法。

次以辛味飲食汁洗。食汁洗已。然後復持三衣纏裹。木以用揩磨。不以為足。勤末休息。
 次後復以三藥汁洗。藥汁洗已。次後復更持三細軟衣。以用揩磨。以三細軟衣。用揩磨已。然
 後遠離銅鐵等。鈇毗瑠璃垢。方得再說言。大瑠璃宝。善男子。諸公如來亦復如是。善。知不
 淨諸衆生性。知已。乃為說。無常苦無我不淨。為。驚怖彼衆生。令厭世間。入。聲聞
 法中。而公如來不以為足。勤末休息。次為說。空無相無願。令彼衆生少解。如來所說。法
 輪。而公如來不以為足。勤末休息。次復為說。不退法輪。次說清淨波羅蜜行。謂不
 見三事。令衆生入如來境界。如是依種種因。依種種性。入三法中。入三法中。已故
 名。無上最大福田。
 又復依此自性清淨如來性故經中偈言。

1) 者見=見者 宋・元・明・宮本。

gānta-dharma-ṣarīratvād anābhogam iti

smṛitam || 6 ||

pratyātman adhigamyatvād a-parapratyayōd-
ayam |

jñānam evaṁ tridhā bodhāt karuṇā mārga-
deṣanāt || 7 ||

çaktir jñāna-kṛipābhyām tu duḥkha-kleṣa-
nibarhaṇāt |

tribhir ādyair 1) guṇaiḥ svārthaḥ parārthaḥ
paçcimaḥ tribhiḥ || 8 ||

samskṛta-viparyayaṇāsamskṛitam veditavyam | tatra samsk-
ṛitam ucyate yasyōtpādo 'pi prajñāyate sthitir api bhaṅgo 'pi
prajñāyate | tad abhāvād buddhatvam an-ādi-madhya-nidhanam
asamskṛita-dharma-kāya-prabhāvitam draṣṭavyam | sarva-prapa-
ñca-vikalpōpaçāntatvād anābhogam | svayambhū-jñānādhigamy-
atvād a-parapratyayōdayam | u (5b) dayo 'trābhisambodho
2) 'bhipretōtpādaḥ ity asamskṛitād apravṛitti-lakṣanād api tathāga-
tatvād anābhogataḥ sarva-sambuddha-kṛityam ā-samsāra-koṭer
anuparatam anupacchinnaṁ pravartate |

ity evam atyadbhūtācintya-viṣayaṁ buddhatvam aṣrutvā
parataḥ svayam anācāryakeṇa svayambhū-jñānena nirabhilāpya-
svabhāvatām abhisambudhya tad anubodham praty abudhānām api
jātyandhānām pareṣām anubodhāya tad-anugāmi-mārga-vyupadeṣa-
karaṇād anuttara-jñāna-karuṇānvitatvaṁ veditavyam | mārgasyāb-
hayatvaṁ lokōttaratvāt | lokōttaratvam apunar-āvṛittitaḥ ca | yathā-
kramaṁ para-duḥkha-kleṣa-mūla-samudghātāṁ praty anayor eva
tathāgata-jñāna-karuṇayor çaktir asi-vajra-dṛiṣṭāntena paridipitā |
tatra duḥkha-mūlaṁ samāsato yā kā-cid bhaveṣu nāma-rūpābhini-
rvṛittih | kleṣa-mūlaṁ yā kā-cit satkāyābhiniveṣa-pūrvikā dṛiṣṭir
vicikitsā ca | tatra nāma-rūpa-saṁgrīhītāṁ duḥkham abhinirvṛitti-
lakṣaṇatvād ankura-sthānīyaṁ veditavyam | tac-chettrīte tath-

1) T は guṇaiḥ を欠く。

2) T は ma yin no (na) の否定が入っている。nābhipretotpādaḥ。

及法体寂靜、故自然心知、
如是三覺知、慈心為說道、
初三句自利、後三句利他。
此偈明何義、遠離有為、名為無為、心知、又有為者生住滅法、無彼有為、是故心知、
初中後三句、得名為寂靜、心知、偈言、心知、前際及無中間、際亦復無、後際上故、又
復遠離一切戲論虛妄分別、寂靜、心知、故名為自然、心知、偈言、寂靜、心知、不依他、知者不
依他、因緣、証知、心知、不依他、因緣、証知者、不依他、因緣、生上故、不依他、因緣、生上者、自覺
不依他、覺、心知、如是、依於如來、無為、法身、相、故、一切心、事、無始、世來、自然、而行、常不休息。
如是、希有、不可思議、諸、境界、不從他聞、不從他聞、者、不從師聞、自在、智、無言之、體、
而自覺知、偈言、自覺知、心知、然後、為他、生、育、衆生、令得覺知、為彼証得、無為
法身、說、無上道、是、故名、為無上智悲、心知、偈言、自覺知、心知、是、故、為彼
說、無畏、常恒、道、故、無畏、常恒、道者、明、道、無畏、是、常、恒、以、出世間、不退、轉、法、如是、次第、又
拔、他、苦、煩惱、根本、如來、智慧、慈悲、及、神力、如是、三句、刀金、剛杵、譬、喻、示、現、又、以、何者、為、苦、根
本、略、說、之、謂、三有、中、生、名、色、是、又、何者、為、煩惱、根本、謂、身、見、等、虛妄、邪見、疑、戒、取、等、又
名、色、者、是、彼、所、撰、所、生、苦、芽、心、知、

1) 〔自〕一宋・元・明本。

2) 〔偈言自覺知故〕一宋・元・明・宮本。

3) 戒=惑 宋・元・明・宮本。

āgata-jñāna - karuṇayoh çaktir asi-dṛiṣṭantenôpamitā veditavyā |
dṛiṣṭi - vicikitsā - saṁgrihito darçana - ¹⁾mārga - praheyah kleṣo laukika -
jñāna - duravagāho durbhedatvād vana - gahanôpagūḍha - prākāra -
sadṛiṣṭi | tad - bhetṭritvāt tathāgata - jñāna - karuṇayoh çaktir vajra -
dṛiṣṭantenôpamitā veditavyā |

(6 a) ity ete yathôddiṣṭāḥ saṭ - tathāgata - guṇā vistara - vibhāga -
nirdeçato 'nayaivānupūrvyā sarva - buddha - viṣayāvatāra - jñānālokā =
lamkāra - sūtrānusāreṇānugantavyāḥ | tatra yad uktam anutpādo
'nirodha iti mañjuçrīḥ tathāgato 'rhan samyak - sambuddha eṣa ²⁾ ity
anena tāvad asaṁskṛita - lakṣaṇas tathāgata iti paridīpitam | yat
punar anantaram vimala - vaiḍūrya - prithivī - çakra - pratibimbô -
dāharaṇam ādim kṛitvā yāvan navabhir udāharaṇair etam ³⁾ evānu -
tpādānirodha - tathāgtārtham adhikṛityāha | evam eva mañjuçrīḥ
tathāgato 'rhan samyak - sambuddho nēñjate na viṭhapeti na prapa -
ñcayati na kalpayati na vikalpayati | akalpo 'vikalpo 'citto 'manasi
kārah çīti - bhūto 'nutpādo 'nirodho 'dṛiṣṭo 'çruto 'nāghrāto 'nāsvādito
'spriṣṭo 'nimitto 'vijñaptiko 'vijñapaniya ity evam - ādir upaçama -
prabheda - ⁴⁾pradeça - nirdeçah | anena sva - kriyāsu sarva - prapañca -
vikalpôpaçāntatvād anābhogas tathāgata iti paridīpitam | tata
ūrdhvam udāharaṇa - nirdeçād avaçiṣṭena granthena sarva - dharma -
tathatābhisambodha - mukheṣv a - parapratyayābhisambodhas
⁵⁾ tathāgatasya paridīpitaḥ | yat punar ante soḍaçākārām
tathāgata - bodhim nirdiçyāivam āha | tatra mañjuçrīḥ
⁶⁾ tathāgatasyāivam - rūpān sarva - dharmān abhisambudhya
sattvānām ca dharma - dhātum vya (6 b) valokyāçuddham avimalam
sāṅganam vikṛitā nāma sattveṣu mahā - karuṇā pravartata
iti | anena tathāgatasya ⁷⁾ ānuttara - jñāna - karuṇānvitatvam

1) T は mārga が無い。

2) iti を T は tshig bla dags (adhivacana) とす。

3) T は anutpadānirodha tathāgata が無い。

4) T は pradeça が無い。

5) T は tathāgatasya が無い。

6) T は de lta buḥi rañ bshin “如是性”と読んでいる。

7) T には anuttara が無い。

如来智慧慈悲心等能割彼芽。以是義故說刀譬喻。偈言。佛能執持彼智慧慈悲刀。故割諸苦芽。故。又邪見疑所撰煩惱見道遠離。以世間智所不能知。稠林煩惱不能破壞。如世間中樹林牆等。彼相似法。以如来力能破壞。彼以是故說金剛杵喻。偈言。及妙金剛杵故摧碎諸見山覆藏顛倒意及一切稠林。故。

此六種句。如来在嚴智慧光明入一切他境界經中次第顯說。應知。應云。何知。彼經中言。文殊師利。如来應正徧知不生不滅者。此明如来無為之相。又復次說。無垢清淨。瑠璃地中帝釋王身。鏡像現等。如是乃至九種譬喻。皆明如来不生不滅。又言。文殊師利。如来應正徧知。清淨法身亦復如是。是不動不生。心不戲論。不分別。不分別。無分別。不思無思。不思議。無念寂滅寂靜。不生不滅。不可見。不可聞。不可嗅。不可嘗。不可觸。無諸相。不可覺。不可知。如是等句。皆說寂靜差別之相。此明何義。明一切所作事中。遠離一切戲論分別。寂靜自然。次說。余殘修多羅。彼中說。言。如來覺。知一切法門者。此明如来不依他。故証大菩提。又復次說。如来菩提有二十六種。是故經言。文殊師利。如来如是如是。實覺知一切諸法。觀一切眾生法性。不淨有垢。有点。奮迅於諸眾生。大悲現前。此明如来無上智慧。應知。

1) 〔不分別〕 - 宋・元・明・宮本。

udbhāvitam | tatratīvaṃ-rūpān sarva-dharmān iti ¹⁾ yathā-pūrvam
nirdiṣṭān abhāva-svabhāvāt | abhisambudhyēti yathā-bhūtam
avikalpa-buddha-jñānena jñātvā | sattvānām iti niyatāniyata-
mithyā-niyata-rāṣi-vyavasthitānām | dharma-dhātum iti sva-dha- 5
rmatā - prakṛiti - nirviṣiṣṭa - tathāgata-garbham | vyavalokyēti
sarvākāram anāvaranena buddha-kaśuṣā dṛiṣṭvā | aśuddham
kleṣāvaranena bāla-prithag-janānām | avimalam jñeyāvaranena
cṛāvaka-pratyekabuddhānām | sāṅganam tad-ubhayānyatama
viṣiṣṭatayā bodhi-sattvānām | vikṛiḍitā vividhā - saṃpanna- 10
vinayōpāya-mukheṣu supraviṣṭatvāt | sattveṣu ²⁾ mahā-karuṇā
pravartata iti samatayā ³⁾ sarva-sattva-nimittam ⁴⁾ abhisambuddha-
bodheḥ sva-dharmatādhigama-saṃprāpaṇācāyatvāt | yad ita
ūrdhvam anuttara-jñāna-karuṇā-pravṛtiter asama-dharma-cakra-
pravartanābhinirhāra-prayogācchramsanam iyam anayoḥ parārtha- 15
karaṇe śaktir-veditavyā | tatratīṣām eva yathā-kramam ṣaṇṇām
tathāgata-guṇānām ādyais tribhir-asamskritādibhir-yogaḥ svārtha-
saṃpat | tribhir-avaṣiṣṭair-jñānādibhiḥ ⁵⁾ parārtha-saṃpat | api
khalu jñānena parama-nityōpaśānti-pada-svābhisambodhi-sthāna-
(7a) guṇāt svārtha-saṃpat paridipitā | karuṇā-śaktibhyām
anuttara-mahā-dharma-cakra-pravṛitti ⁶⁾ -sthāna-guṇāt parārtha- 20
saṃpad iti |

7) ato buddha-ratnād dharma-ratna-prabhāvanēti tad anantaram
tad adhikṛitya ṣlokaḥ |

yo nâsan na ca san na câpi sad-asan nânyah
sato nâsato 'çakyas tarkayitum nirukty-
apagatah pratyâtma-vedyah çivah |

文殊師利。如來如^レ是^ハ如^ニ實覺^ニ知^ハ一切法^ヲ者^ハ如^ニ向前說^ニ無^ニ體^ヲ為^ニ體^ヲ。如^ニ實覺^ニ知^ハ者^ハ如^ニ實無分別^ニ。
 2) ^ニ智^ヲ如^ニ故^ニ。觀^ハ二^ニ切^ニ衆生^ヲ法性^ヲ者^ハ乃^レ至^ニ邪聚衆生^ニ。如^ニ我身^ニ中^ニ法性法體法界^ヲ。如^ニ來藏等^ニ。彼諸衆生^モ亦復如^レ是^ハ。無^ニ有^ニ差別^ニ。如^ニ來智眼^ヲ了^ニ了^ニ知^ハ故^ニ。不淨者^ハ以^ニ諸凡夫煩惱障^ヲ故^ニ。有垢者^ハ以^ニ諸聲聞辟支仏等^ヲ有^ニ智障^ヲ故^ニ。有^ニ点者^ハ以^ニ諸薩菩訶薩等^ヲ依^ニ彼二種習氣障^ヲ故^ニ。奮迅者^ハ能^ニ如^ニ實知^ニ二種衆生^ヲ可^レ化^ニ方便^ヲ入^ニ彼衆生^ヲ可^レ化^ニ方便種種門^ヲ故^ニ。大悲者^ハ成^ニ大菩提^ヲ得^ニ於^ニ三切衆生^ニ平等^ニ大慈悲心^ヲ上^ニ為^ニ欲^ヲ令^ニ下^ニ彼一切衆生^ヲ如^ニ仏証智^ヲ如^ニ是^ハ覺知証^ニ中^ニ大菩提^ヲ上^ニ故^ニ。次^ニ於^ニ三切衆生^ニ平等^ニ。大法輪^ヲ常^ニ不^ニ休息^ニ如^ニ是^ハ三句能作^ニ他利益^ヲ故^ニ名^ニ為^ニ力^ヲ應^ニ知^ニ。又此六句次第^ニ初三句^ヲ謂^ニ無^ニ為^ニ等^ニ功德^ヲ如^ニ來法身^ヲ相^ニ應^ニ示^ニ現^ニ自利益^ヲ。余三句^ヲ所^レ謂^ニ智等^ニ示^ニ現^ニ他利益^ヲ。又復有^ニ義^ヲ以^ニ有^ニ智慧^ヲ故^ニ証^ニ得^ニ第一寂靜法身^ヲ。是^ハ故^ニ名^ニ為^ニ自利益^ヲ。又依^ニ慈悲力^ヲ等^ニ二句^ヲ一^ニ轉^ニ二大法輪^ヲ示^ニ現^ニ他利益^ヲ。已說^ニ三寶^ヲ一次明^ニ三法寶^ヲ。

究竟一乘宝性论法宝品第三

論曰。依ニ彼仏宝ニ有ニ眞法宝ニ。以ニ是義ニ故次ニ仏宝ニ後示ニ現法宝。依ニ彼法宝ニ故說ニ四偈。

非^ス有^ニ非^ス無^ニ 亦復非^ス有^ニ無^ニ 亦非^ス即^ニ於^ニ彼^ニ 亦復不^レ離^レ彼^ニ 不^レ可^レ得^ニ思量^ニ 非^ニ聞慧境界^ニ 出^ニ離^シ言語道^ニ 内心知清涼^ニ

内心ニテ知チ清涼ナリ

1) T は go rim ji lta ba (yathā kramam).

2) T はmahā karunā がない。

3) T は sarva がたい。

4) T は buddha がない。

5) T は bañ ldan (yogaḥ) を入れている。

6) T は sthāna は欠く。

㉞ C は 以下を法宝品とす。

1) 体 + (如実覺知) 宋・元・明・宮本。

2) 〔仏〕—宋・元・明・宮本。

3) 有無=是有 宮本。

4) 「亦非即於彼」は梵藏にない。

5) 「非聞慧境界」は梵蔵にない。

6) 清涼=清淨 宋・元・明・宮本。

veditavyā¹⁾ | yathôktam bhagavatā | ²⁾çivo 'yam çāriputra
 dharma-kāyo 'dvaya-dharmāvikalpa-dharmā | tatra dvayam
 ucyate karma-kleṣāḥ ca | vikalpa ucyate karma-kleṣa-samudaya
 hetur ayoniḥ-manasi-kāraḥ | tat-prakṛiti-nirodha-prativedhād
 dvaya-vikalpāsamudācāra-yogena yo duḥkhasyātyantam anutpāda 5
 idam ucyate duḥkha-nirodha-satyam | na khalu kasya-cid
 dharmasya vināṣād duḥkha-nirodha-satyam paridipitam |
 yathôktam | anutpādānirodhe mañjuṣṛiḥ citta-mano-vijñānāni
 na ³⁾pravartante | yatra citta-mano-vijñānāni na pravartante tatra
 na kaṣ-cit parikalpo yena parikalpenāyoniḥ-manasi-kuryāt | sa 10
 yoniḥ-manasi-kāra-pṛa (8a) yukto 'vidyām na samutthāpayati |
 yac cāvidyāsamutthānam tad dvādaṣānām bhavāṅgānām
 asamutthānam | sājātir iti vistaraḥ | yathôktam | na khalu
 bhagavan dharma-vināṣo duḥkha-nirodhaḥ | duḥkha-nirodha-
 nāmna bhagavann anādi-kāliko 'kṛito 'jāto 'nutpanno 'kṣayaḥ kṣay- 15
 āpagaṭaḥ nityo dhruvaḥ | çivaḥ ⁴⁾çāṣvataḥ prakṛiti-pariçuddhaḥ
 sarva-kleṣa-koṣa-vinirmukto ⁵⁾gaṅgā ⁶⁾vālikā-vyativrittair avini-
 rbhāgair acintyair buddha-dharmair samanvāgatas tathāgata-dharma-
 kāyo deçitaḥ | ayam eva ca bhagavaṁs tathāgata-dharma-kāyo 20
 'vinirmukta-kleṣa-koṣas tathāgata-garbhaḥ sūcyate | iti sarva-
 vistareṇa yathā-sūtram eva duḥkha-nirodha-satya-vyavasthānam
 anugantavyam |
 asya khalu duḥkha-nirodha-samjñitasya tathāgata-dharma-
 kāyasya prāpti-hetur avikalpa-jñāna-darṣana-bhāvanā-mārgas
 tri-vidhena sādharṁyeṇa dinakara-sadṛiṣaḥ veditavyaḥ | maṇḍala- 25
 viçuddhi-sādharṁyeṇa sarvōpakleṣa-mala-vigatatvāt | rūpābhi-
 vyakti-karaṇa-sādharṁyeṇa sarvākāra-jñeyāvabhāsakatvāt |

1) veditavyā を veditavye に 宝性論研究 p. 499 下註 2)。

2) T は çiva が ḥgog pa (nirodha)。

3) テキストには pravartantte とあるも今の如く改む。

4) T は mi ḥjig pa “不壞”。

5) T は ここに rnam par dbyer med “分離なき”が入っている。

6) T は gaṅ gāhi klun “恒河”。

又滅諦云何不二法者及云何無分別者如不增不減經中如來說言舍利弗。如來法身清
 涼。以不二法故。以無分別法故。偈言清涼。故何者是二而說不二。所言二者謂業
 煩惱。言分別者所謂集起業煩惱。因及邪念等。以知彼自性本來寂滅不二無二行。知苦
 本來不生。是名苦滅諦。非滅法故名苦滅諦。是故經言。文殊師利。何等法中無心
 意識行。彼法中無分別。以無分別故不起邪念。以有正念故不起無明。以不
 起無明故即不起十二有支。以不起十二有支故即名無生。是故聖者勝鬘經言。世
 尊。非滅法故名苦滅諦。世尊。所言苦滅者名無始無作無起無盡離盡常恒清涼不變自
 性清淨。離一切煩惱所纏。世尊。過於恒沙不離不脫不異不思議。法畢成就說。如來
 法身。世尊。如是如來法身不離煩惱所纏。名如來藏。如是等勝鬘經中。說滅諦
 應知。
 又以何因得此滅諦。如來法身。謂於見道及修道中。無分別智。三種日相似相對法。應
 知。偈言。彼真妙法。日故。何等為三。一者日輪清淨相似相對法。以遠離一切煩惱垢故。
 偈言。清淨無塵垢。故二者顯現一切色像。相似相對法。以一切種一切智。能照知。故。偈言。
 大智慧光明。故。

1) 及修道中 = 修道 宋元・明・宮本。

tamaḥ - pratipakṣa - sādharmaṇa ca sarvākāra - satya - darṣana - vibandha - pratipakṣa - bhūtatvāt |

vibandhaḥ punar - abhūta - vastu - nimittārambaṇa - manasi - kāra - pūrvikā rāga - dveṣa - mohōtpattir anuṣaya - paryutthāna - yogāt |
 anuṣayato hi bālānām (8b) abhūtam a - tat - svabhāvaṁ vastu 5
 ṣubhākāreṇa vā nimittam bhavati rāgōtpattitaḥ | pratighākāreṇa
 vā dveṣōtpattitaḥ | avidyākāreṇa vā mohōtpattitaḥ | tac ca rāga -
 dveṣa - moha - nimittam a - yathā - bhūtam ārambaṇam kurvatām ayoniṣo -
 manasi - kāraṣ cittaṁ paryādādati | teṣām ayoniṣo - manasi - kāra -
 paryavasthita - cetasām rāga - dveṣa - mohānām anyatama - kleṣa - 10
 samudācāro bhavati | te tato nidānam kāyena vācā manasā
 rāgaṁ api karmābhisamskurvanti | dveṣaṁ api mohāṁ api
 karmābhisamskurvanti | karmataḥ ca punar - janmānubandha
 eva bhavati | evaṁ eṣām bālānām anuṣayavatām nimitta - grāhi -
 ṇām ārambaṇa - caritānām ayoniṣo - manasi - kāra - samudācārāt kleṣa - 15
 samudayaḥ | kleṣa - samudayaḥ karma - samudayaḥ | karma -
 samudayaḥ janma - samudayo bhavati | sa punar eṣa sarvākāra -
 kleṣa - karma - janma - samkleṣo bālānām ekasya dhātor yathā - bhūtam
 ajñānād 1) adarṣanāc ca pravartate |

sa ca tathā draṣṭavyo yathā parigaveṣayan na tasya kiṁ - cin 20
 nimittam ārambaṇam vā paṣyati | sa yadā na nimittam nārambaṇam
 vā paṣyati tadā bhūtam paṣyati | evaṁ ete dharmās tathāgaten -
 ābhisambuddhāḥ samatayā samā iti | ya evaṁ asataḥ ca
 nimittārambaṇasyādarṣanāt sataḥ ca yathā - bhūta (9a) sya par -
 amārtha - satyasya darṣanāt tad - ubhayor anutkṣepāprakṣepa - samatā - 25
 jñānena sarva - dharma - samatābhisambodhaḥ so 'sya sarvākārasya
 tattva - darṣana - vibandhasya pratipakṣo veditavyo yasyōdayād itara -
 syātyantam asaṁgatir 2) asamavadhānam pravartate | sa khalv eṣa
 dharma - kāya - prāpti - hetur avikalpa - jñāna - darṣana - bhāvanā - mārgo
 vistareṇa yathā - sūtram prajñā - pāramitānusāreṇānugantavyaḥ | 30

1) T は adarṣanāc ca が無い。

2) T は med par rtog par (asad - avadhāna)。

三者對治暗、相似相對法。以起一切種智、對治法。故。偈言、普照諸世間。故。又以何者、是所治法。所謂依下取不實事相、虛妄分別、念、生、貪瞋癡、結使、煩惱。此明何義。愚癡、凡夫依結使、煩惱、取不實事相、念、故起於貪心。依瞋恚、故起於瞋心。依於無明虛妄、念、故起於癡心。又復依彼貪瞋癡等、虛妄分別、取不實事相、念起邪念心。依邪念心、起於結使、依於結使、起貪瞋癡。以是義、故身口意等造作、貪業瞋業癡業。依此業、故復有、生、生不斷不絕。如是一切愚癡、凡夫依結使、煩惱、集起邪念、依邪念、故起諸煩惱。依煩惱、故起一切業、依業起、生。如是、此一切種諸煩惱染業染生染、愚癡、凡夫不實知。不實知、見一實性界。

如彼如實性、觀如實性、而不取相、以不取相、故能見實性。如是、實性、諸佛如來平等證知。又不見如是、虛妄法相、如實知、見如實有法、真如法界、以見第一義諦。故如是、二法不增不減。是故名為平等證智。是名一切種智、所治障法、應如是知。以起真智、對治法、故彼所治法、畢竟不復生起現前。偈言、能破諸障、覺觀貪瞋癡、一切煩惱等。故。又此得滅諦如來法身、因於見道中及修道中、無分別智。廣說如摩訶般若波羅蜜等、修多羅、中言、須菩提、真如、如來、真如平等無差別。如是、是等、應知。已說、法寶。次說、僧寶。

1) 及修道中 = 修道及 宋・元・明・宮本。

2) 「須菩提…如是等應知」は梵藏にない。

1) ato mahāyāna - dharma - ratnād avaiartika - bodhisattva - gaṇa -
ratna-prabhāvanēti tad-anantaram tad adhikṛitya ślokaḥ |

ye samyak-pratīdhyā sarva-jagato nairātmya-
koṭīm cīvām tac-citta-prakṛiti-prabhāsvaratayā
kleśāsvabhāvēkṣaṇāt |
sarvatrānugatām anāvṛita - dhiyaḥ paçyanti
sambuddhatām tebhyaḥ sattva-viçuddhy-ananta-
viçaya - jñānēkṣaṇebhyo namaḥ || 13 ||

anena kim darçitam |

yathāvad yāvad-adhyātma-jñāna-darçana-
çuddhitaḥ |
dhīmatām avivartyānām anuttara-guṇair
gaṇaḥ || 14 ||

2) anena samāsato 'vaivartika-bodhisattva-gaṇa-ratnasya dvābhyām

3) ākārābhyām yathāvad-bhāvikatayā yāvad-bhāvikatayā ca lokō-
ttara-jñāna-darçana-viçuddhito 'nuttara-guṇānvitatvam udbhāvitam |

yathāvat taj-jagac-chānta-dharmatāvagamāt
sa ca |

prakṛiteḥ pariçuddhatvāt kleçasyādi-

4) kṣayēkṣaṇāt || 15 ||

tatra yathāvad-bhāvikatā kṛitsna (9b) sya pudgala-dharmāk-
hyasya jagato yathāvan nairātmya-koṭer avagamād veditavyā | sa
cāyam avagamo 'tyantādi-çānta-svabhāvatayā pudgala-dharmāvi-
nāça-yogena samāsato dvābhyām kāraṇābhyām utpadyate | prakṛiti-
prabhāsvaratā-darçanāc ca cittasyādi-kṣaya-nirodha-darçanāc ca
tad-upakleçasya | tatra yā cittasya prakṛiti-prabhāsvaratā yaç ca
tad-upakleça ity etad dvayam anāsrave dhātau kuçalākuçalayoç
cittayor eka-caratvād dvitīya-cittānabhisamdhāna-yogena parama-
duṣpravedhyam | ata āha | kṣaṇikam bhagavan kuçalam cittam |

1) C は以下を僧宝品とす。

2) “anena……udbhāvitam” C は 欠き, T は S に同じ。

3) T は rgyu (kāraṇābhyām)

4) T は ikṣaṇāt を欠く。

此、偈明何義。偈言。
如實見衆生。
寂靜真法身。
以見性本淨。
煩惱本來無。
此偈明何義。以如實見本際以來我空法空。應知。偈言。正覺正知者。見一切衆生。清淨無有。我
有。我寂靜真法身。故。又彼如實知。無始。世來本際。寂靜。無我。無非法。非煩惱。証時始有。
6) 此明何義。此見。自性清淨法身。略說有三種法。何等為二。一者。見性本來自性清淨。二
二者。見諸煩惱本來寂滅。偈言。以能知。於彼。自性清淨心。見煩惱無。實故離諸煩惱。故。
又自性清淨心本來清淨。又本來常為煩惱所染。此一種法。於彼。無漏真如法界中。善心不善
心俱。更無第三心。如是。義者難。可。覺知。是。故。聖者勝鬘經言。世尊。刹尼迦。善心。

5)

此、偈示現何義。偈言。
如實知內身。
以智見清淨。
故名無上僧。
諸仏如來說。
正覺正知者。
以能知。於彼。
無障淨智者。
無。閼淨智眼。
見諸衆生性。
如實見衆生。
見煩惱無。實。
自性清淨。性。
徧。無量境界。
故。我今敬禮。
寂靜真法身。
故離諸煩惱。
佛法僧境界。
故。我今敬禮。

1) 究竟一乘宝性論。僧宝品第四。
論曰。依大乘法宝。有三不退轉菩薩。僧宝。以是義故。次法宝後。示現僧宝。依彼僧宝。故。
說四偈。

- 1) 「究竟…第四」梵藏なし。
- 2) 性=法 宋・元・明本。
- 3) 僧=身 宋・元・明・宮本。
- 4) 閼=礙 宋・元・明・宮本。
- 5) S の下註 2) 参照。
- 6) 「此明…清淨法身」は梵藏なし。

na kleṣaiḥ saṁkṣiṣyate | kṣaṇikam akuṣalam cittam | na saṁkṣi-
 iṣṭam eva tac cittam kleṣaiḥ | na bhagavan kleṣās tac cittam
 spṛiṣanti | ¹⁾ katham atra bhagavann asparṣana- dharmi cittam
 tamaḥ-kṣiṣṭam bhavati | asti ca bhagavann upakleṣaḥ | ²⁾ asty upa-
 kṣiṣṭam cittam | atha ca punar bhagavan prakṛiti-pariṣuddhasya
 cittasyôpakleṣârtho duḥprativedhyaḥ | iti vistareṇa yathāvad-bhā-
 vikatām ārabhya ³⁾ duḥprativedhârtha-nirdeṣo yathā-sūtram anug-
 antavyaḥ |

4)

⁵⁾ yāvad-bhāvikatā jñeya-paryanta-gatayā
 dhiyā |

sarva-sattveṣu sarvajña-dharmatāstitva-
 darṣanāt || 16 ||

tatra yāvad-bhāvikatā sarva-jñeya-vastu-paryanta-gatayā lokô-
 ttarayā prajñayā sarva-sattveṣv antaḥśaś tiryag-yoni-gateṣv api
 tathāgata-garbhāstitva-darṣanād veditavyā | tac ca darṣanam
 bodhisattvasya prathamāyām eva bodhisattva-bhūmav utpadyate
 sarvatragârthena dharma-dhātu-prativedhāt |

⁶⁾ ity evaṁ yo 'vabodhas tat pratyātma-jñāna-
 darṣanam |
 tac chuddhir amale dhātav asaṅgâpratighā
 tataḥ || 17 ||

1) T は sams ñon moṁs pa yañ ma lags na を挿入している。

2) T は ñe bar ñon moṁs par ḥgyur baḥi sams ma mchis とあり。勝
 鬘經月輪本には sams ñe bar ñon moṁs pa yañ mchis pas とあり、
 宋訳は有煩惱染心、唐訳は有随染心。

3) T は rtogs par dkaḥ baḥi bar bstan pa (duḥprativedhāntaranird-
 eṣo)。

4) C の下註 1) 参照

5) 6) この両偈は C に於ては長行となっている。T は S に同じく、弥勒の
 gāstra にもあり。

非煩惱所染。利尼迦不善心亦非煩惱所染。煩惱不觸心。心不觸煩惱。云何不觸法而
 能得樂心。世尊。然有煩惱有煩惱染心。自性清淨心而有染者。難可了知。如是
 等聖者勝鬘經中。廣說自性清淨心及煩惱所染。應知。
 1) 又有二種修行。謂如實修行及徧修行。難証知義。如實修行者。謂見衆生自性清淨
 性境界。故。偈言。無障淨智。者如實見衆生。自性清淨性。佛法身境界。故。
 2) 徧修行者。謂徧十地一切境界。故。見一切衆生有一切智。故。
 又徧一切境界者。以徧一切境界。依出世間慧。見一切衆生乃至畜生有乙如來藏。甲應
 知。彼見一切衆生有真如。性初地菩薩摩訶薩。以徧証一切真如法界。故。偈言。無障淨
 智眼。見諸衆生性徧無量境界。故。
 3) 如是。是內身自覺。知彼無漏法界。無障無闕。依於二法。

- 1) 「又有二…法身境界故」を梵藏欠く。
 2) 「徧修行者…一切智故」は長行釈になっているが梵藏共に偈頌になっており、
 藏訳弥勒 gāstra にもあり。対照の便宜上改行にした。
 3) 「如是…依於二法」は梵藏共に偈頌になっており、弥勒 gāstra にあり。便
 宜上改行にした。

ity evam anena pra (10a) kareṇa yathāvad-bhāvikatayā ca
yāvad-bhāvikatayā ca yo lokōttara-mārgābodhas tad āryānām
pratyātmam an-anya-sādhāraṇam lokōttara-jñāna-darṣanam abhip-
retam | tac ca samāsato dvābhyām kāraṇābhyām itara-prādeṣika-
jñāna-darṣanam upanidhāya suviuddhir ity ucyate | katamābhy- 5
ām dvābhyām | asaṅgatvād apratihatatvāc ca | tatra yathāvad-
bhāvikatayā sattva-dhātu-prakṛiti-viuddha-viṣayatvād asaṅgam
yāvad-bhāvikatayānanta-jñeya-vastu-viṣayatvād apratihatam |
jñāna-darṣana-ṣuddhyā buddha-jñānād anuttarāt |
avaivartyād bhavanti āryāḥ ṣaraṇam sarva- 10
dehinām || 18 ||

itīyam jñāna-darṣana-¹⁾ṣuddhir avinivartaniya-bhūmi-samār-
ūdhānām bodhisattvānām anuttarāyās tathāgata-jñāna-darṣana-
viuddher upanīṣad-gatatvād anuttarā veditavyā tad anyebhyo
²⁾vā ³⁾dāna-ṣilādibhyo bodhisattva-guṇebhyo yad yogād aviniva- 15
rtaniyā bodhisattvāḥ ṣaraṇa-bhūtā bhavanti sarva-sattvānām iti |
cārāva-saṅgha-ratnāgrahaṇam bodhisattva-gaṇa-⁴⁾ratnānant-
aram tat pūjānarhatvāt |

5)

20

25

- 1) T は ṣuddhi なし。
2) T は vā が nīd (eva).
3) T は dāna がない。
4) T は ratna なし。
5) C の下註 1) 2), T は S に同じく十勝義を欠く。

一者如実修行。二者偏修行。此明三何義。謂出世間。如實內証。眞如法智。不共三乘凡夫人等。應知。此明三何義。菩薩摩訶薩。出世間。清淨証智。略說有二種。勝。三。聞辟支。証智。何等。爲。二。一者無障。二者無礙。無障者。謂如實修行。見三諸衆生。自性清淨境界。故名。無障。無礙者。謂偏修行。以如實知。無辺境界。故名。三。無闕。此明三何義。偈言。
如實知三見道。見三清淨。三智。故不退。聖人。能作三衆生。依。此偈。明三何義。又依三初地。菩薩摩訶薩。証智。清淨。見道不退。地。乘。能作。見。三。彼。無上。菩提。清淨。勝。因。上。應。知。偈言。如實知三見道。見三清淨。三智。上。故。此。初地。証智。勝。三。余。菩薩摩訶薩。布施持戒等。波羅蜜。功德。以。三。是。義。故。菩薩摩訶薩。依。下。如實。見。三。眞如。証智。是。故。能。与。三。一切。衆生。天。龍。八。部。聲。聞。辟支。伽。等。作。三。歸。依。處。偈言。不退。聖人。能。作。三。衆生。依。故。
問曰。以三何義。故。不。明。婦。三。依。聲。聞。僧。寶。答曰。菩薩僧。寶。功德。無量。是。故。應。供。以。三。應。供。故。合。三。應。礼。拜。讚。歎。供。養。聲。聞。之。人。無。三。如。是。義。以。三。是。義。故。不。明。婦。三。依。聲。聞。僧。寶。此。明。三。何。義。偈言。
1) 境界諸功德。証智及涅槃。諸地淨無垢。果勝最無上。滿三足大慈悲。生於如来家。具三足自在通。果勝最無上。是勝婦依義。
2) 此偈。明三何義。略說。菩薩。十。種。勝。義。過。三。諸。聲。聞。辟。支。伽。等。何。等。爲。三。十。一。者。觀。勝。二。者。功。德。勝。三。者。証。智。勝。四。者。涅槃。勝。五。者。地。勝。六。者。清淨。勝。七。者。平等。心。勝。八。者。生。勝。九。者。神。力。勝。十。者。果。勝。

1) 「境界…勝婦依義」は梵藏にない。

2) 「此偈…無上故」は菩薩十勝義を説く、梵藏にない。

5

10

15

na hi jātu paṇḍitā bodhisattva-çrāvaka-guṇāntara-jñā mahābodhi- 20
vipula-puṇya-jñāna-sambhārāpūyamāṇa-jñāna-karuṇā-maṇḍalam
āprameya-sattva-dhātu-¹⁾ gaṇa-saṁtānāvabhāsa-pratyupasthitam
anuttara-tathāgata-pūrṇa-candra-(10 b) gamanānukūla-mārga-
pratipannam bodhisattva-nava-candram utsrija prādeçika-jñāna- 25
çrāvakaṁ namasyanti | para-hita-kriyāçaya-²⁾ viçuddheḥ saṁni-
çraya-guṇenāiva hi prathama-cittōtpādiko 'pi bodhisattvo niran-
ukroçam an-anya-poṣi-gaṇyam anāsrava-çīla-saṁvara-viçuddhi-
niṣṭhā-gatam ārya-çrāvakaṁ abhibhavati | prāg eva tad-anyair
daça-vaçitādibhir bodhisattva-guṇaiḥ | vakṣyati hi | 30

1) T は gaṇa-saṁtāna なし。

2) T は rnam par ma dag paḥi phyir ro (aviçuddheḥ)。

觀勝者謂觀真如境界是名觀勝。偈言境界故。功德勝者菩薩修行無厭足不同二乘
少欲等是名功德勝。偈言功德故。証智勝者証三種無我是名証智勝。偈言証智故。涅
槃勝者教化衆生故是名涅槃勝。偈言涅槃故。地勝者所謂十地等是名地勝。偈言諸
地故。清淨勝者菩薩遠離離智障。是名清淨勝。偈言清淨無垢故。平等心勝者菩薩大悲
徧覆。是名平等心勝。偈言滿足大慈悲故。生勝者諸菩薩生三無生故是名生勝。偈言生
於如來家故。神力勝者謂三昧自在神通等力勝。是名神力勝。偈言具足三昧自在通故。
果勝者究竟無上菩提故是名果勝。偈言果勝最無上故。
此明何義。有難慧人知諸菩薩功德無量。修習菩提。無量無辺。廣大功德。有六智慧。慈
悲。田滿。為照。知彼無量衆生。性行稠林。猶如初月。唯除諸佻如來滿月。菩薩摩訶薩知諸
聞乃至証得阿羅漢道。少智慧人無大悲心。為照自身。猶如星宿。既如是知。欲取如來
大滿月身。修菩提道。而當棄捨初月。菩薩起心。禮拜供養。其餘星宿。聞辟支仏。者無
有是處。此復何義。明為利益一切衆生。初始發起菩提之心。諸菩薩等已能降伏不為
利益。他衆生身。為自利益。修持無漏清淨禁戒。乃至証得阿羅漢果。聞之人。何況其
余。得三自在等。無量無辺。功德。菩薩摩訶薩。而同聲聞辟支仏等。少功德人。無有是處。以
是義故。經中偈言。

1) 障十 (煩惱障) 宋・元・明・宮本。

yaḥ ṣīlam ātmārtha-karam bibharti duḥṣīla-
sattveṣu dayā-viyuktah |
ātman-bharih ṣīla-dhana praṣuddho viṣuddha-
ṣīlam na tam āhur āryam ||
yaḥ ṣīlam 1)ādāya parōpajivyaṁ karoti tejo-
'nila-vāri-bhūvat |
kāruṇyam utīādyā param pareṣu sa ṣīlavāms
tat-pratirūpako 'nya iti ||

tatra kenārthena kim adhikṛitya bhagavatā ṣaraṇa-trayaṁ
prajñaptam |
cāstṛi-ṣāsana-ṣiṣyārthair adhikṛitya tri-yānikān |
kāra-trayādhimuktāṁ ca prajñaptam ṣaraṇa-
trayaṁ || 19 ||

buddhaḥ ṣaraṇam agryatvād dvi-padānām iti cāstṛi-guṇōd-
bhāvanārthena buddha-bhāvāyōpagatān 3) bodhisattvān pudgalān
buddhe ca parama-kāra-kriyādhimuktān adhikṛitya deçitam pra-
jñaptam |

dharmah ṣaraṇam agryatvād virāgāṇām iti cāstuh ṣāsana-
guṇōdbhāvanārthena svayaṁ pratītya-gambhīra-dharmānubodh-
āyōpagatān pra (11a) tyekabuddha-yānikān pudgalān dharme ca
parama-kāra-kriyādhimuktān adhikṛitya deçitam prajñaptam |

- 1) T は yaṁ dag blaṁs pa byes te (samādāya).
2) C の下註 3). T も欠く。
3) T は bodhisattvān に teg pa (yānikān) がある。

故。已釈第二義第二第五人。
初釈第二義第二第五人。婦依。離煩惱中最勝第一法。示現調御師所証功德法。故偈言。依三所証。故。為自然知不依他。知深因緣法。辟支仙人。故偈言。為中乘。故。為信。供養第一。妙法福田。人。故偈言。信法供養。故。以是義。故說立法宝。偈言。是故說三法宝。故。已釈第二義第二第五人。
四人。
依。能調。故。為取。公菩提。諸菩薩人。故偈言。為大乘。故。為信。供養諸佛如來福田。人。故偈言。信。供養。故。以是義。故說立三法宝。偈言。是故說三法宝。故。已釈第二義第二第五人。
初釈第一義第一第四人。婦依。兩足中。最勝第一尊。佛。示現調御師。大丈夫。義。故偈言。依。能調。故。為取。公菩提。諸菩薩人。故偈言。為大乘。故。為信。供養諸佛如來福田。人。故偈言。信。供養。故。以是義。故說立三法宝。偈言。是故說三法宝。故。已釈第二義第二第五人。
乘。三者小乘。四者信。五者信法。六者信僧。偈言。為三。乘。信。三。供養。等。故。
師法。三者調御師。弟子。偈言。依。能調。所証。弟子。故。六種人者。何等。為。六。一者大乘。二者中。
乘。三者小乘。四者信。五者信法。六者信僧。偈言。為三。乘。信。三。供養。等。故。
初釈第一義第一第四人。婦依。兩足中。最勝第一尊。佛。示現調御師。大丈夫。義。故偈言。依。能調。故。為取。公菩提。諸菩薩人。故偈言。為大乘。故。為信。供養諸佛如來福田。人。故偈言。信。供養。故。以是義。故說立三法宝。偈言。是故說三法宝。故。已釈第二義第二第五人。
依。能調。所証。弟子。為三乘。信。三。供養。等。故。是。故。說。三。寶。一者調御師。二者調御師法。三者調御師弟子。偈言。依。能調。所証。弟子。故。六種人者。何等。為。六。一者大乘。二者中。乘。三者小乘。四者信。五者信法。六者信僧。偈言。為三。乘。信。三。供養。等。故。
問曰。依。何等。義。為。何等。人。諸。佛。如。來。說。此。三。寶。答。曰。偈言。
若。為。自。身。之。故。以。為。自。身。之。故。若。為。他。人。之。故。以。為。他。人。之。故。起。第一。悲。心。是。名。淨。持。戒。一。如。是。持。戒。者。能。利。益。衆。生。如。是。地。水。火。風。余。似。非。清。淨。一。
修。行。於。禁。戒。護。持。禁。戒。財。一。修。行。於。禁。戒。一。起。第一。悲。心。是。名。淨。持。戒。一。如。是。持。戒。者。能。利。益。衆。生。如。是。地。水。火。風。余。似。非。清。淨。一。
1) 遠離大慈心。
捨。破。戒。衆。生。一。佛。說。非。清。淨。一。如。是。地。水。火。風。余。似。非。清。淨。一。

- 1) 慈=悲 宋・元・明・宮本。
2) 問字前行元本宮本俱有究竟一乘寶性論三寶品之二十二字明本有三寶品之余五字。
3) 「此偈…供養等故」は梵藏共に欠く。
4) 乘+ (故) 宋・元・明・宮本。

saṃghaḥ cāraṇam agryatvād gaṇānām iti cāstuh cāsane
supratipanna-ṣiṣya-guṇōdbhāvanārthena parataḥ cāra-ghoṣasyānu-
gamāyōpagatān cāraṇa yānikān pudgalān saṃghe ca parama-
kāra-kriyādhimuktān adhikṛitya deçitam prajñaptam | ity anena
samāsatas tri-vidhenārthena saṭ pudgalān adhikṛitya prabhedaço
bhagavatā saṃvṛiti pada-sthānena sattvānām¹⁾ anupūrva-nayāvatārā-
rtham imāni trīṇi cāraṇāni deçitāni prajñaptāni |

tyājyavān moṣa-dharmatvād abhāvāt sabha-
yatvataḥ |

dharmo dvidhārya-saṃghaḥ ca nātyantam
cāraṇam param || 20 ||

dvi-vidho dharmah | deçanā-dharmo dhigama-dharmaç ca |
tatra deçanā-dharmah sūtrādi-deçanāyā nāma-pada-vyañjana-kāya-
saṃgrīhitaḥ | sa ca mārghābhisamaya-paryavasānatvāt kolōpama
ity uktaḥ | adhigama-dharmo hetu-phala-bhedena dvi-vidhaḥ |
yad uta mārgha-satyam nirodha-satyam ca | yena yad adhigamyata
iti kṛitvā | tatra mārghaḥ saṃskṛita-lakṣaṇa-paryāpannaḥ | yat
saṃskṛita-lakṣaṇa-paryāpannam tan mṛiṣā moṣa dharmi | yan
mṛiṣā-moṣa-dharmi tad asatyam | yad asatyam tad anityam |
yad anityam tad açaṇam | yaç ca tena mārgeṇa nirodho dhig-
ataḥ so 'pi cāraṇa-nayena pradiçcchedavat kleça-duḥkhābhāva-
mātra prabhāvitah | na cābhāvaḥ cāraṇam açaṇam vā (11b)
bhavitum arhati |

saṃgha iti traiyānikasya gaṇasyāntad adhivacanam | sa ca
nityam sabhayas tathāgata-cāraṇa-gato nihsaraṇa-paryeṣi çaikṣaḥ
sakarāṇiyah pratipannakaç²⁾ cānuttarāyām samyak-sambodhav iti |
katham sabhayaḥ | yasmād arhatām api kṣiṇa-punar-bhavanām
aprahīnatvād vāsanāyāḥ satata-samitā sarva-saṃskāreṣu tivrā
bhaya-saṃjñā pratyupasthitā bhavati syād yathāpi nāmōtkṣiptāsike
vadhaka-puruse tasmāt te 'pi nātyanta-sukha-nihsaraṇam adhiga-
tāḥ | na hi cāraṇam cāraṇam paryeṣate | yathāivācāraṇāḥ

1) T は theg pa la rim gyis (anupūrva yāna) とあり。

2) T は shugs pa ma yin no (apratipannaka) とあり, iti を欠く。勝覺經
月輪本には shugs pa lags so. とあってゝに合す。

次、第三義、第三第六人。歸依。諸衆中最勝第一諸菩薩僧。示現調御師弟子。於諸仙如
來。所說法中。如來修行。不相違義。故偈言。依弟子。故。為從他聞。人。故偈言。為小
乘。故。為信。供養第一聖衆。福田。人。故偈言。信。僧。供養。故。以是義。故說立僧寶。偈
言。是故說。僧寶。故。是名。略說。依三種義。為六種人。故諸仙如來說。此三寶。偈言。丙依
調。所証。弟子。為三乘信。三供養等。是故說。乙三寶。故。又為可化衆生。令次第入。以
是義。故依於世諦。示現明。說立三歸依。此明何義。偈言。
可捨及虛妄。無物及怖畏。二種法及僧。非究竟。歸依。
此偈明何義。法有三種。何等為二。一。所說法。二。所証法。所說法者。謂如來說修多羅等。名
字章句。所撰故。彼所說法。証道時滅。如捨船。故。偈言。可捨故。所証法者。復有二種。謂
依因果。二種差別。以依何法。証何法。故。此明何義。所謂有道。有為相撰。若為有為
相。所撰者。彼法虛妄。偈言。及虛妄。故。若虛妄者。彼法非實。若非實者。彼非真諦。非真諦
者。即是無常。若無常者。非可歸依。又復若依彼聲聞道所得滅諦。彼亦無物。猶如燈滅。唯
斷。少分。諸煩惱。若如是者。則是無物。若無物者。云何為他之所歸依。偈言。無物。故。
僧者。凡有三乘之人。三乘人中。依聲聞僧。常有怖畏。常求歸依。諸仙如來說。離世間。
此是學人所應作者。一。未究竟。故。猶進趣向。阿耨多羅三藐三菩提。故。所說怖畏者。云何
怖畏。以下阿羅漢。雖盡有漏。而不斷一切煩惱習氣。彼於一切。有為。行相。極怖畏。心常現在
前。是故。阿羅漢。雖有怖畏。何以故。阿羅漢。於一切。無行怖畏。想住。如三人。
執劍欲來害已。是故阿羅漢。無究竟樂。何以故。世尊。依不求。依。

1) 未=求 明本。

2) 想=相 宋・元・明・宮本。

sattvā yena tena bhayena bhītās tatas tato niḥsaraṇaṁ paryeṣante
tadvad arhatām apy asti tad bhayaṁ yatas te bhayād bhītās
tathāgatam eva cāraṇam upagacchanti | yaç cāivaṁ sabhayatvāc
charaṇam upagacchaty avaçyaṁ bhayān niḥsaraṇaṁ sa paryeṣate |
niḥsaraṇa-paryeṣitvāc ca bhaya-nidāna-prahāṇam adhikṛitya çaikṣo
bhavati sakaraṇīyaḥ | çaikṣatvāt pratipannako bhavaty abhayam
ārṣabha-sthānam anuprāptuṁ yad utānuttarām samyak-sambod-
him | tasmāt so 'pi tad-aṅga-çaraṇatvān nātyantaṁ cāraṇam |
evam ime dve cāraṇe paryanta-kāle cāraṇa ity ucyete |

jagac-charaṇam Dekatra buddhatvaṁ pāramā-
rthikam |
muner dharma-çarīratvāt tan niṣṭhatvād
gaṇasya ca || 21 ||

anena tu pūrvōktena vidhinānutpādānirodha-prabhāvitasya
muner vyavadāna-satya-²⁾ dvaya-virāga-dharma-kāyatvād dharma-
kāya-viçuddhi-ni (12 a) ṣṭhādhiḡama-paryavasānatvāc ca trai-yāni-
kasya gaṇasya pāramārthikam evātrāṇe 'cāraṇe loke 'parānta-koṭi-
samam akṣaya-çaraṇaṁ nitya-çaraṇaṁ ³⁾ dhruva-çaraṇaṁ ⁴⁾ yad
uta tathāgatā arhantaḥ samyak-sambuddhāḥ | eṣa ca nitya-
dhruva-çiva-çāçvatāika-çaraṇa-⁵⁾ nirdeço vistareṇārya-çṛī-mālā-
sūtrānusāreṇānugantavyaḥ |

ratnāni durlabhōtpādān nirmalatvāt prabhā-
vataḥ |

lokālamkāra-bhūtatvād agratvān nirvikārataḥ || 22 ||

samāsataḥ ṣaḍ-vidhena-ratna-sādharmyeṇātāni buddha-dha-
rma-saṁghākhyāni triṇi ratnāny ucyante | yad uta durlabhōtpāda-
⁶⁾ bhāva-sādharmyeṇa bahubhīr api kalpa-parivartair anavāpta-
kuçala-mūlānāṁ tat samavadhānāpratilambhāt | vaimalya-sādh-
armyeṇa ⁷⁾ sarvācāra-mala-vigatatvāt | prabhāva-sādharmyeṇa

- 1) T は nag gcig とあり。
- 2) T は dvaya の後に mtshan nid (lakṣaṇa)。
- 3) dhruva を T には gyuñ druñ (çāçvata)。
- 4) T は skyabs ni gcigs (çaraṇam ekam) を加えている。
- 5) T は nirdeço を欠く。 ⁶⁾ T は bhāva を欠く。
- 7) T は rnam pa thams cad (sarvākāra)。

如下衆生無依彼怖。以二恐怖一故則求歸依。如是阿羅漢有怖畏。以二恐怖一故歸乙依
如來甲故。彼若如是。有怖畏者。彼人畢竟為欲遠離彼怖畏。求無畏。以是義一故。1)
依遠離離怖畏之處。名為學者。當下有所作。欲得阿耨多羅三藐三菩提無畏之處。是故
再聞。法僧二宝是少分。歸依非究竟。歸依。偈言二種。法及僧非究竟。歸依。此明二何義。偈言。
衆生歸二一處一。 依。法身。彼岸。 依。法。究竟。僧。
此偈明二何義。如。向。所說。諸仏如來不生不滅寂靜不二離垢法身故。以二3)唯一法身。究竟
清淨。故。又三乘之人。無有救者。無歸依者。以三唯有二彼岸一。無始。本際。畢竟無盡。是可歸
依。恒可歸依。所謂。唯是諸仏如來。故。如是常恒。清涼不變。故。可歸依。聖者勝鬘經中。廣
說。應。知。問。曰。以二何義一。故。法衆僧。說名為二宝。答。曰。偈言。
真宝世希有。 明淨及勢力。 能莊嚴世間。 最上不變等。
此偈明二何義。所言宝者。有二六種。相似。依二彼六種。相似相對。法。故。法衆僧。說名為二宝。何
等。為。六。一者世間。難得。相似相對。法。以下無善根。諸衆生等。百千萬劫。不能得。故。偈言。真
宝世希有。二者無垢。相似相對。法。以離二一切有漏法。故。偈言。明淨。故。

- 1) 依 = 彼 明本。
- 2) 一處 = 處。 宋・元・明・宮本。
- 3) 唯 = 惟 宋・元・明・宮本。
- 4) 清涼 = 清淨 宋・元・明本。

ṣaḍ-abhijñādy-acintya-prabhāva-guṇa-yogāt | lokālamkāra-sādh-
armyeṇa sarva-jagad-āçaya-çobhā-nimittatvāt | ratna-prativarṇi-
kāgrya-sādharmyeṇa lokōttaratvāt | stuti-nindādy-avikāra-sādh-
myeṇāsamskṛita-svabhāvatvād iti |

ratna-traya-nirdeçānantaram yasmin saty 1) eva laukika-lokōtta-
ra-viçuddhi-yoni-ratna-trayam utpadyate tad adhikṛitya çlokaḥ |

samalā tathatātha nirmalā vimalā buddha-
guṇā jina-kriyā |

viṣayaḥ paramārtha-darçinām çubha-ratna-
traya-sargako yataḥ || 23 ||

anena kim paridīpitam |

gotraṁ ratna-trayaśyāsa viṣa (12 b) yaḥ sarva-
darçinām |

catur-vidhaḥ sa cācintyaç caturbhiḥ kārāṇaiḥ
kramāt || 24 ||

tatra samalā tathatā yo dhātur avinirmukta-kleça-koças ta-
thāgata-garbha ity ucyate | nirmalā tathatā 2) sa eva buddha-
bhūmav āçraya-parivṛitti-lakṣaṇo yas tathāgata-dharma-kāya ity
ucyate | vimala-buddha-guṇā ye tasminn evāçraya-parivṛitti-
lakṣaṇe tathāgata-dharma-kāye lokōttarā daça-balādayo buddha-20
dharmāḥ | jina-kriyā teṣām eva daça-balādīnām buddha-dh-
armāṇām pratisvam anuttaram karma yad 3) aniṣṭhitam aviratam
apratipraçrabdham bodhisattva-vyākaraṇa-kathām nōpacchinatti |
tāni punar imāni catvāri sthānāni yathā-samkhyam eva caturbhiḥ
kārāṇair acintyatvāt 4) sarva-jña-viṣayā ity ucyante | katamaḥ ca- 25
turbhiḥ |

çuddhy-upakliṣṭatā-yogāt niḥsamkleça-viçu-
ddhitāḥ |

1) T は eva を欠く。

2) T の D 版は S に合する。P 版は tathata を重複。

3) T は med par ma gyur shiñ.

4) T は sarvajña の次に ye çes (jñāna) がある。

三者威德相似相对法。以下具足六通。不可思議威德自在。故。偈言勢力。故。四者在。世間。相似相对法。以。能莊嚴。出世間。故。偈言。能莊嚴。世間。故。五者勝妙相似相对法。以。出世間法。故。偈言。最上。故。六者不可改異。相似相对法。以。得無漏法。世間八法。不能動。故。偈言。不變。故。

問曰。依。何等法。有。此。三宝。而依。此。法。得。有。世間及出世間清淨。生起。三宝。答曰。為。彼。義。故。說。兩行。偈。

真如有。三。難垢。一。及。遠。離。諸。垢。一。及。遠。離。諸。垢。一。

如是。妙境界。一。是。諸。仏。所。知。一。依。此。妙法身。一。出。生。於。三。宝。一。

此。偈。示。現。何。義。偈。言。一。唯。諸。仏。境。界。一。以。四。法。次第。一。不可思議。故。

如。是。三。宝。性。一。此。偈。明。何。義。真。如。有。三。難垢。者。謂。真。如。仏。性。未。離。諸。煩。惱。所。纏。如。來。藏。故。及。遠。離。諸。垢。者。即。彼。如。來。藏。身。到。三。仏。地。得。証。法。身。名。如。來。法。身。故。仏。無。量。功。德。者。即。彼。轉。身。如。來。法。身。相。中。所。有。出。世。間。十。力。無。畏。等。一。切。諸。功。德。無。量。無。邊。故。及。仏。所。作。業。者。即。彼。十。力。等。一。切。諸。仏。法。自。然。常。作。無。上。仏。業。常。不。休。息。常。不。捨。離。常。授。諸。菩。薩。記。彼。處。次。第。有。四。種。法。不可思議。是。故。名。為。如。來。境。界。何。等。四。處。偈。言。

染淨相應。不。染。而。清。淨。

1) 生起 = 法出生 宋・元・明・宮本。

2) 兩行 = 此二 宋・元・明・宮本。

avinirbhāga-dharmatvād anābhogāvikalpataḥ || 25 ||

tatra samalā tathatā yugapad-eka-kālaṁ ¹⁾ viṣuddhā ca saṁk-
liṣṭā cēty acintyam etat sthānam gambhīra-dharma-nayādhimukt-
ānām api pratyekabuddhānām agocara-viṣayatvāt | yata āha | dvav
imau devi dharmau duṣprativedhya | prakṛiti-pariṣuddha-cittam 5
duṣprativedhya | tasyāiva cittasyōpakliṣṭatā duṣprativedhyā |
anayor devi dharmayor crotā tvaṁ vā bhaver atha vā mahā-
dharma-samanvāgatā bodhisattvāḥ | ṣeṣānām devi ²⁾ sarva-ṣṛāvaka-
pratyekabuddhānām tathāgata-ṣṛaddhā-gamaniya (13 a) v evāitau
dharmav iti | 10

tatra nirmalā tathatā pūrva-malāsaṁkliṣṭā paṇḍā viṣuddhēty
acintyam etat sthānam | yata āha | prakṛiti-prabhāsvaram
cittam | tat tathāiva jñānam | tata ucyate | eka-kṣaṇa-³⁾ lakṣ-
aṇa-samāyuktayā prajñayā samyak-sambodhir abhisambuddhēti | 15

tatra vimalā buddha-guṇāḥ paurvāparyeṇāḥ saṁkliṣṭāyām
api prithagjana-bhūmav avinirbhāga-dharmatayā nirviṣiṣṭā vidyanta
ity acintyam etat-sthānam | yata āha |

na sa kaṣ-cit sattvaḥ sattva-nikāye samvidyate yatra tathāgata-
jñānam na sakalam anupraviṣṭam | api tu samjñā-grāhataḥ tathāgata
jñānam na prajñāyate | samjñā-grāha-vigamāt punaḥ sarva-jñā- 20
jñānam svayambhū-jñānam asaṅgataḥ prabhavati | tad-yathāpi
nāma bho jina-putra tri-sāhasra-mahā-sāhasra-loka-dhātu-⁴⁾ pra-
māṇam mahā-⁵⁾ pustam bhavet | tasmin khalu punar mahā-puste
tri-sāhasra-mahā-sāhasra-loka-dhātuḥ ⁶⁾ sakala-samāpta ālikhito
bhavet | ⁷⁾ mahā-prithivī-pramāṇena mahā-prithivī | dvi-sāha- 25

1) T は “viṣuddhā……cety” を rnam par dag pa gaṅ yin la, kun
nas ṇon moṅs pa gaṅ yin paḥi phyir.

2) T は sarva を欠く。

3) T は lakṣaṇa を欠く。

4) T は pramāṇa の次に daṁ mām がある。

5) T は pustam が dar yug (pattaḥ?)

6) T は sakala ない。

7) T はここに de rta ste, khor yug chen poḥi tshad du ni khor yug
chen po bris がある。

不_レ相捨離_二法_一 自然_ニ無_レ分別_一
此_レ偈明_二何義_一。真_ニ如有_二離垢_一者_ニ同一_レ時_ニ中有_レ淨有_レ染_ニ此_レ處_ニ不可思議_一。不可思議者_ニ信_ニ1) 深因
緣法_一。声聞辟支_ニ依_レ於_レ彼_ニ非_二境界_一。故_ニ是_ニ故聖者勝鬘經_一中_ニ依_レ告_ニ勝鬘_一言_二天女_一。自性清淨心_ニ而
有_二染汙_一難_レ可_レ了_レ知_一。有_二二法_一難_レ可_レ了_レ知_一。謂_二自性清淨心_一難_レ可_レ了_レ知_一。彼_ニ心_ニ為_二煩惱_一所
染_ニ亦難_レ了_レ知_一。天女_一。如_レ此_ニ二法_一汝_ニ及_レ成_ニ就_ニ大法_一。菩薩摩訶薩_ニ乃_ニ能_レ聽受_一。諸_ニ余_一聲聞辟支_ニ依_レ佛_一等
依_二佛語_一信_ニ中_一。此_ニ二法_一故_ニ偈言_ニ染淨相_レ應_レ處_ニ故_一。
及_レ遠_ニ離_二諸垢_一者_ニ真_ニ如_二非_二本_一2) 有_レ染_ニ後_ニ時_ニ言_ニ清淨_一。此_レ處_ニ不可思議_一。是_ニ故_ニ經言_一。心_ニ自性清淨_一。
自性清淨心_ニ本_ニ來_ニ清淨_一。如_レ彼_ニ心_ニ本_ニ體_一。如_レ未_ニ如_レ是_ニ知_一。是_ニ故_ニ經言_一。如_レ來_ニ一念_ニ心_ニ相_ニ應_レ得_ニ阿耨多
羅_一三藐_三菩提_一。故_ニ偈言_ニ不_レ染_ニ而_ニ清淨_一。故_一。
仏無量_ニ功德_一者_ニ謂_二前際_ニ後際_ニ於_二二_一4) 向_ニ染_ニ凡_ニ夫_ニ地_ニ中_一。常_ニ不_レ捨_ニ離_ニ真_ニ如_ニ法_一身_一。一切_ニ諸_ニ仏_一法_ニ無_レ異_一。
無_レ差別_一。此_レ處_ニ不可思議_一。是_ニ故_ニ經言_一。
復次_ニ仏子_一。如_レ來_ニ智慧_ニ無_レ處_ニ不_レ至_一。何_ニ以_ニ故_一。以下_ニ於_二一切_ニ衆生_一界_ニ中_一。終_ニ無_レ有_ニ一_ニ衆生_一身_ニ中_一而_ニ不_レ
具_ニ足_一如_レ來_ニ功德_ニ及_ニ智慧_一者_一。但_ニ衆生_一顛倒_ニ不_レ知_一。如_レ來_ニ智_一。遠_ニ離_ニ顛倒_一。起_ニ一切_ニ智_一無_レ師_一智_一無_レ礙_一。
智_一。仏子_一。譬_ニ如_レ下_ニ有_ニ一_ニ極大_一經卷_一。如_二一_ニ三千大千世界_一。大千世界_一。一切_ニ所有_一無_レ不_レ記_レ録_一。

1) 深=染 宋・元・明・宮本。

2) [有]-宋・元・明本。

3) 菩提+(心) 宋・元・明・宮本

4) 向=念 宮本。

sra-loka-dhātu-pramāṇena dvi-sāhasra-loka-dhātuḥ | sāhasra-loka-
dhātu pramāṇena sāhasra-loka-dhātuḥ | cātur-dvīpika-pramāṇena
cātur-dvīpikāḥ | mahā-samudra-pramāṇena mahā-samudrāḥ |
jambū-dvīpa-pramāṇena jambū-dvīpāḥ | pūrva-videha-dvīpa-
pramāṇena pūrva-videha-dvīpāḥ | ¹⁾ go (13 b) dāvarī-dvīpa- 5
pramāṇena godāvarī-dvīpāḥ | uttara-kuru-dvīpa-pramāṇenōttara-
kuru-dvīpāḥ | sumeru-pramāṇena sumeravaḥ | bhūmy-avacara-
deva-vimāna-pramāṇena bhūmy-avacara-deva-vimānāni | kāmā-
vacara-deva-vimāna-pramāṇena kāmāvacara-deva-vimānāni |
rūpāvacara-deva-vimāna-pramāṇena rūpāvacara-deva-vimānāni | 10
tac ca mahā-pustam tri-sāhasra-mahā-sāhasra-loka-dhātv-āyāma-
vistara-pramāṇam bhavet | tat khalu punar mahā-pustam ekas-
min paramāṇu-rajasi prakṣiptam bhavet | yathā cāika-paramāṇu-
rajasi tan mahā-pustam prakṣiptam bhavet tathānyeṣu sarva-para- 15
māṇu-rajahsu tat-pramāṇāny eva mahā-pustāny abhyantara-prav-
iṣṭāni bhaveyuh | atha kaṣ-cid eva puruṣa utpadyate paṇḍito
nīpuṇo vyakto medhāvi tatrōpagamikayā mīmāṃsayā samanvāgataḥ |
²⁾ divyaṃ cāśya cakṣuḥ samanta-pariṣuddham prabhāsvaraṃ bha-
vet | sa divyena cakṣuṣā vyavalokayati | idaṃ mahā-pustam 20
evaṃ-bhūtam ihāiva paritte paramāṇu-rajasy anutiṣṭhate | na
kasya-cid api sattvasyōpakāri-bhūtaṃ bhavati | tasyāivaṃ
syāt | yan nv ahaṃ mahā-vīrya-bala-sthāmnā etat paramāṇu-rajo ³⁾
bhittvā etan mahā-pustam sarva-jagad upajīvyam kuryām | sa mahā
vīrya-bala-sthāma-saṃjanayitvā sūksmeṇa vajreṇa tat paramāṇu-rajo
bhittvā yathābhiprāyam tan mahā-pustam sarva-jagad upajīvyam 25
kuryāt | yathā cāi (14 a) kasmāt tathāṣeṣebhyaḥ ⁴⁾ paramāṇu-
hyas tathāiva kuryāt | evam eva bho jna-putra tathāgata-jñānam
apramāṇa-jñānam sarva-sa (VIIa) ttvōpajīvyā-jñānam sarva-sattva-

- 1) T は nub kyī ba lañ spyod kyī glīñ (aparagodāni dvīpa).
2) T は divya の次に mig tu (cakṣu) がある。
3) T は bhittvā の前に rdo rjes (vajreṇa) がある。
4) T は ṣeṣa の次に mthaḥ dag (sarva or samasta) がある。

若与三千世界等者悉記三千世界中事。若与三千世界等者悉記三千世界中事。四天下
等者悉記一切四天下事。須彌山王等者悉記須彌山王等事。地天宮等者悉記地天宮殿中
事。欲天宮等者悉記欲天宮殿中事。色天宮等者悉記色天宮殿中事。若与無色天宮等者
悉記一切無色界天宮殿中事。彼等三千大千世界極大經卷在極細小微塵內。一切微
塵皆亦如是。時有一人出興於世。智慧聰達具足成就清淨天眼。見此經卷在微塵內。
作如是念云何如此大經卷在微塵內而不饒益諸衆生耶。我今應當勤作方便。
破彼微塵出此經卷饒益衆生。作是念已爾時彼人即作方便。破壞微塵出此經
卷饒益衆生。如來智慧無相。智慧無礙。智慧具足在於衆生身中。

1) [宮]-宋・元・明 宮本。

2) 一切無色界天宮殿=無色天宮 宋・元・明・宮本。

citta-saṁtāneṣu sakalam anupraviṣṭam | sarvāṇi ca tāni sattva-
 citta-saṁtānāny api tathāgata-¹⁾ jñāna-pramāṇāni | atha ca punaḥ
 saṁjñā-grāha-vinibaddhā bālā na jñānti na prajānanti nānubha-
 vanti na sākṣāt-kurvanti tathāgata-jñānam | tatas tathāgato
 'saṅgena tathāgata-jñānena sarva-dharma-dhātu-sattva-bhavanāni
 vyavalokyācārya-saṁjñā bhavati | aho bata ime sattvā yathāvat
 tathāgata-jñānam na prajānanti | tathāgata-jñānānupraviṣṭāḥ ca |
 yan nv aham eṣāṁ sattvānām āryeṇa mārḡopadeṣeṇa sarva-
 saṁjñā-kṛita-bandhanāpanayanam kuryām yathā svayam evārya-
 2) mārḡa-balādhānena mahatīm 3) saṁjñā-granthīm vinivartya
 tathāgata-jñānam pratyabhijñāniran | tathāgata-samatām cānuprā-
 pnuyuh | te tathāgata-mārḡopadeṣeṇa sarva-saṁjñā-kṛita-ban-
 dhanāni vyapanayanti | 4) apanīteṣu ca sarva-saṁjñā-kṛita-ban-
 dhaneṣu tat tathāgata-jñānam apramāṇam bhavati sarva-jagad upa-
 jīyam iti |

tatra jīna-kriyā yugapat sarvatra sarva-kālam anābhogenāvikalpato
 yathācāyeṣu yathā-vainayikeṣu attveṣv akṣūṇam anugūṇam pravar-
 tata ity acintyam etat sthānam | yata āha | saṁkṣepa 5) mātra-
 keṇāvatāraṇārtham sattvānām apramāṇam api tathāgata-6) karma
 pramāṇa (14 b) to nirdiṣṭam | api tu kula-putra yat tathāgatasya
 bhūtaṁ tathāgata-karma tad apramāṇam acintyam avijñeyam sarva-
 lokena | anudāharaṇam akṣaraiḥ | duḥsaṁpādam parebhyah |
 adhiṣṭhitam sarva-buddha-kṣetreṣu | samatānugataṁ sarva-
 buddhaiḥ | samatikrāntam sarvābhoga-kriyābhyah | nirvikalpam
 ākāṣa-samatayā | 7) nirnānā-karaṇam dharma-dhātu-kriyayā |

1) T は ye ṣes dan ḥdra bar tshad med do.

2) T は mārḡa が ye ṣes (jñāna).

3) T は saṁjñā が ye ṣes (jñāna).

4) T は log pa dag la.

5) T は mātrakeṇa が tsam gyi sgo nas (mātra mukhena).

6) T は karma が ye ṣes (jñāna).

7) テキストには nirnītākāraṇam とあるが、C は “以無異無差別法性体故”
 とあり、T は tha dad du dbyer med とあるにより今の如く改める。

但愚癡衆生顛倒想覆不知不見不信心。爾時如來以三無障礙清淨天眼一觀一切諸衆
 生身。既觀察已作如是言。奇哉奇哉。云何如來具足智慧在於身中而不知見。我當方便
 教彼衆生覺悟聖道。悉令永離一切妄想顛倒垢縛。令其具足見如來智慧在其身內。與
 仏無異。如來即時教彼衆生修入聖道捨離一切虛妄顛倒離顛倒已見如來智。與
 如來等。僞益衆生故。偈言。不相捨離。法上故。
 及仏所作業者同一時一切處。一切時自然無分別。隨順衆生心。隨順可化衆生根性。不
 不謬。隨順作仏業。此處不可思議。是故經言。善男子。如來為令一切衆生入仏法中。故
 無量如來業作。有量說。善男子。如來所有實作業者。於彼一切世間衆生。不可量。不可
 數。不可思議。不可知。不可下以名字說。何以故。以難可得。與前衆生故。以下
 於一切諸仏国土。不休息故。以一切諸仏悉平等故。以過一切諸世間心所作事。故。
 以下無分別。猶如虛空。悉平等故。以無異無差別法性体甲故。

1) 有+(無) 宋・元・明・宮本。

iti vistareṇa yāvad viçuddha-vaiçūrya-maṇi-dṛṣṭāntam kṛtvā
nirdiçati | tad anena kula-putra paryāyeṇāivam veditavyam
acintyam tathāgata-karma samatānugataṁ ca sarvato 'navadyam
1) ca tri-ratna-vaiçānupacchettṛi ca | yatrācintye tathāgata-
karmaṇi pratiṣṭhitas tathāgata ākāṣa-svabhāvatām ca kāyasya na vi-
jahāti sarva-buddha-kṣetreṣu ca 2) darṣanam dadāti | anabh-
ilāpya-dharmatām ca vāco na vijahāti yathā ruta-vijñaptiā ca sat-
tvebhyo dharmam deçayati | sarva-cittārambaṇa-vigataç ca sar-
va-sattva-citta-caritāçayamç ca prajānātīti |

bodhyam bodhis tad-aṅgāni bodhanēti 10
yathā-kramam |
hetur ekaṁ padam triṇi pratyayas tad-
viçuddhaye || 26 ||

eṣām khalv api caturṇām artha-padānām sarva-jñeya-saṁgra-
ham upādāya prathamam boddhavya-padam draṣṭavyam | tad-
anubodho bodhir iti dvitīyam bodhi-padam | bodher aṅga-bhūtā
buddha-guṇā iti tritīyam bodhy-aṅga-padam | bodhy-aṅgair eva
bodhanam pareṣām iti caturtham 3) bodhana-padam | itimāni
(15 a) catvāri padāny adhikṛitya hetu-pratyaya-bhāvena ratna-
traya-gotra-vyavasthānam veditavyam | 20

tatrāṣām caturṇām padānām prathamam lokōttara-dharma-
bijatvāt pratyātma-yoniço-manasi-kāra-saṁniçrayeṇa tad viçudd-
him upādāya tri-4) ratnōtpatti-hetur anugantavyaḥ | ity evam
ekaṁ padam hetuḥ | katham triṇi pratyayaḥ | tathāgato
'nuttarām samyak-sambodhim abhisambudhya daça-balādibhir 25
buddha-dharmair dvātrimçad-ākāraṁ tathāgata-karma kurvan
parato (VII b) ghoṣa-saṁniçrayeṇa tad viçuddhim upādāya tri-
ratnōtpatti-pratyayo 'nugantavyaḥ | ity evam triṇi pratyayaḥ |

1) T は dus gsum dan rjes su ḥbrel pa を持っている。

2) T は kun tu bstan to (saṁdarçana)。

3) テキストには bodhanā とあるも、今の如く改める。

4) T に utpatti がない。

2) 究竟一乘宝性論卷第二

如_レ是_レ等_レ廣_レ說_レ已_レ又_レ說_レ不_レ淨_レ大_レ毗_レ瑠_レ璃_レ摩_レ尼_レ宝_レ珠_レ譬_レ喻_レ言_レ善_レ男_レ子_レ汝_レ依_レ此_レ譬_レ喻_レ一_レ應_レ知_レ如_レ來_レ業_レ不可_レ思_レ議_レ故_レ平_レ等_レ徧_レ至_レ故_レ一_レ切_レ處_レ不_レ可_レ呵_レ故_レ三_レ世_レ平_レ等_レ故_レ不_レ斷_レ絕_レ三_レ宝_レ種_レ故_レ諸_レ仏_レ如_レ來_レ雖_レ如_レ是_レ住_レ不_レ可_レ思_レ議_レ業_レ中_レ而_レ不_レ捨_レ離_レ虛_レ空_レ法_レ身_レ雖_レ不_レ捨_レ離_レ虛_レ空_レ法_レ身_レ而_レ於_レ衆_レ生_レ隨_レ所_レ應_レ聞_レ名_レ字_レ章_レ句_レ為_レ之_レ說_レ法_レ雖_レ為_レ衆_レ生_レ如_レ是_レ說_レ法_レ上_レ而_レ常_レ遠_レ離_レ一_レ切_レ衆_レ生_レ心_レ所_レ念_レ觀_レ一_レ何_レ以_レ故_レ以_レ如_レ實_レ知_レ一_レ切_レ衆_レ生_レ諸_レ心_レ行_レ故_レ偈_レ言_レ三_レ自_レ然_レ無_レ分_レ別_レ故_レ依_レ此_レ妙_レ法_レ身_レ出_レ生_レ於_レ三_レ宝_レ者_レ偈_レ言_レ。

所_レ覺_レ菩_レ提_レ法_レ 依_レ菩_レ提_レ分_レ知_レ 菩_レ提_レ分_レ教_レ化_レ 衆_レ生_レ覺_レ菩_レ提_レ一_レ

初_レ句_レ為_レ正_レ因_レ 余_レ三_レ為_レ淨_レ緣_レ 前_レ二_レ自_レ利_レ益_レ 後_レ二_レ利_レ益_レ他_レ。

此_レ偈_レ明_レ三_レ何_レ義_レ。此_レ四_レ種_レ句_レ總_レ攝_レ一_レ切_レ所_レ知_レ境_レ界_レ。此_レ明_レ三_レ何_レ義_レ。初_レ一_レ句_レ者_レ謂_レ所_レ証_レ法_レ應_レ知_レ。以_レ三_レ彼_レ証_レ法_レ名_レ為_レ菩_レ提_レ。偈_レ言_レ三_レ所_レ覺_レ菩_レ提_レ法_レ故_レ。第二_レ句_レ菩_レ提_レ依_レ一_レ菩_レ提_レ分_レ知_レ者_レ以_レ諸_レ仏_レ菩_レ提_レ功_レ德_レ能_レ作_レ三_レ仏_レ菩_レ提_レ因_レ故_レ。偈_レ言_レ依_レ菩_レ提_レ分_レ知_レ上_レ故_レ。第三_レ句_レ菩_レ提_レ分_レ教_レ化_レ者_レ以_レ菩_レ提_レ分_レ令_レ他_レ覺_レ故_レ。第_レ四_レ句_レ衆_レ生_レ覺_レ菩_レ提_レ者_レ所_レ化_レ衆_レ生_レ覺_レ菩_レ提_レ故_レ。此_レ四_レ種_レ句_レ次_レ第_レ不_レ取_レ相_レ。依_レ此_レ行_レ一_レ故_レ清_レ淨_レ菩_レ提_レ出_レ生_レ三_レ宝_レ應_レ知_レ。偈_レ言_レ三_レ所_レ覺_レ菩_レ提_レ法_レ依_レ菩_レ提_レ分_レ知_レ菩_レ提_レ分_レ教_レ化_レ衆_レ生_レ覺_レ菩_レ提_レ上_レ故_レ。以_レ一_レ句_レ因_レ三_レ句_レ緣_レ故_レ如_レ來_レ得_レ阿_レ耨_レ多_レ羅_レ三_レ藐_レ三_レ菩_レ提_レ一_レ以_レ得_レ菩_レ提_レ者_レ十_レ力_レ等_レ諸_レ仏_レ如_レ來_レ法_レ三_レ十二_レ種_レ諸_レ仏_レ如_レ來_レ作_レ業_レ。依_レ三_レ如_レ來_レ業_レ衆_レ生_レ聞_レ聲_レ依_レ彼_レ法_レ一_レ故_レ得_レ清_レ淨_レ因_レ緣_レ出_レ生_レ三_レ宝_レ應_レ知_レ。是_レ故_レ偈_レ言_レ初_レ句_レ為_レ正_レ因_レ余_レ三_レ為_レ淨_レ緣_レ上_レ故_レ。

1) [菩提]—宋・元・明・宮本。

2) 「究竟…第二」梵藏にない。

ataḥ param 1) eṣāṃ eva caturṇāṃ padānāṃ anupūrvam avaṣiṣṭena
granthena vistara-vibhāga-nirdeṣo veditavyaḥ |

2)

tatra samalāṃ tathatāṃ adhikṛitya yad uktam sarva-sattvās
tathāgata-garbhā iti tat kenārthena |

3) buddha-jñānāntargamāt sattva-rāṣeṣe tan-
nairmalyasyādvayatvāt prakṛityā |
baudhe gotre tat-phalasyōpacārād uktāḥ
sarve dehino buddha-garbhāḥ || 27 ||
sambuddha-kāya-spharaṇāt tathatā vya-
tibhedataḥ |

gotrataḥ ca sadā sarve buddha-garbhāḥ
cāriraṇaḥ || 28 ||

samāsatas tri-vidhenārthena sadā sarva-sattvās tathāgata-
garbhā ity uktam bhagavatā | 4) yad uta sarva-sattveṣu tathāgata-
dharma-kāya-parispharaṇārthena tathāgata-tathatā vyatibhedārt-
hena tathāgata-gotra-sambhavārthena ca | eṣāṃ punas trayāṇāṃ
artha-padānāṃ uttaratra tathāgata-garbhā-sūtrānusāreṇa nirdeṣo
bhaviṣyati | (15 b) pūrvataram tu yenārthena sarvatrāviṣeṣeṇa
pravacane sarvākāraṇaṃ tad-artha-sūcanam bhavati tad apy adhikṛ-
itya nirdekṣyāmi | uddānam |

svabhāva-hetvoḥ phala-karma-yoga-vṛittiṣv
avasthāsv atha sarva-gatve |
sadāvikāritva guṇeṣv abhede jñeyo 'rtha-
saṃdhiḥ paramārtha-dhātōḥ || 29 ||

- 1) C は以下を如来蔵品第五とする。
2) S, T には“真如……出生於三宝”がない。
3) T は 28 偈とその釈疏の“samāsatas…bhagavatā”を 27 偈と入替え、27
偈は弥勒の śāstra にはない。
4) T は“yad…bhaviṣyati”と pūrvataram…nirdekṣyāmi”を倒置す。

2) 1) 究竟一乘宝性論卷第三

3) 一切衆生有如來藏品第五

論曰。自。此。已。後。余。殘。論。偈。次。第。依。二。彼。四。句。一。大。差。別。說。應。知。此。以。何。義。向。前。偈。言。

5) 真如有二雜垢 及遠二離諸垢 依二此妙法身 及二所作業
如。是。妙。境。界。是。諸。仏。所。知。出。生。於。三。宝。

此。偈。示。現。何。義。如。向。所。說。一。切。衆。生。有。如。來。藏。彼。依。二。何。義。故。如。是。說。偈。言。

6) 仏法身徧滿 7) 真如無二差別 皆實有二仏性 最。故。說。二。常。有。一
此。偈。明。二。何。義。有。三。種。義。是。故。如。來。說。一。切。時。一。切。衆。生。有。如。來。藏。何。等。為。三。一。者。如。來。

法。身。徧。在。一。切。の。諸。衆。生。身。二。偈。言。二。仏。法。身。徧。滿。二。故。一。者。如。來。真。如。無。差。別。偈。言。二。眞。如。無。二。差
別。故。三。者。一。切。衆。生。皆。悉。實。有。二。眞。如。仏。性。偈。言。二。皆。實。有。二。仏。性。故。此。三。句。義。自。此。下。論。依。二。如

來。藏。修。多。羅。二。我。後。時。說。應。知。如。偈。本。言。

一。切。衆。生。界。不。離。二。諸。仏。智。以。二。彼。淨。無。垢。知。二。一。切。衆。生。時。差。別。徧。處。我。如。是。略。說。

性。體。不。二。故。皆。有。二。如。來。藏。不。變。無。差。別。汝。今。應。二。善。知。

- 1) 2) 【究竟一乘】一明本。 3) 梵藏欠。
4) 第五+(之一) 明本。
5) 前第二十三偈が再び掲げられている。
6) 仏法身徧滿=法身徧無差 宋・元・明・宮本。
7) 【真如無差別】一宋・元・明・宮本
8) 常有=衆生 宋・元・明・宮本 此下有。
宋・元・明・宮本俱有常有如来蔵一句五字。
9) 諸衆生身=衆生心識 宋・元・明・宮本。
10) 如来真如=真如之体一切衆生平等 宋・元・明・宮本。
11) 真如無差別=無差 宋・元・明・宮本。

samāsato daṣa-vidham artham abhisamdhāya parama-tattva-
 jñāna-viśayasya tathāgata-dhātor vyavasthānam anugantavyam |
 daṣa-vidho 'rthaḥ katamaḥ | tad yathā svabhāvārtho hetv-ar-
 thaḥ phalārthaḥ karmārtho yogārtho ṛitty-artho 'vasthā-prabhed-
 ārthaḥ sarvatragārtho 'vikārārtho 'bhedārthaḥ ca | tatra svabh- 5
 āvārtham hetv-artham cārabhya clokah |

sadā prakṛity-asamkṛṣṭaḥ ṣuddha-ratnām=
barāmbuvat |

dharmâdhimukty - adhiprajñā - samādhi -

1) karuṇānvayah || 30 || 10

tatra pūrveṇa ṣlokārdhena kim darśayati |

prabhāvānanyathā-bhāva-snigdha-bhāva-
svabhāvataḥ |

cintā-maṇi-nabho-vāri-guṇa-sādharmyam
esu hi || 31 || 15

ya ete trayo 'tra pūrvam uddiṣṭā eṣu triṣu yathā-saṁkhyam
eva sva-lakṣaṇam sāmānya-lakṣaṇam cārabhya tathāgata-dhātoḥ
cintā-maṇi-nabho-vāri-viṣuddhi-guṇa-sādharmyam veditavyam |
tatra tathāgata-dharma-kāye tāvac cintitārtha-samṛddhy-ādi ²⁾
prabhāva-svabhāvatām svalakṣaṇam ārabhya-cintā-maṇi-ratna- 20
sādharmyam veditavyam | tathatāyām ananyathā-bhāva-sv-
abhāvatām svalakṣaṇam ārabhyākāṣa-sādharmyam veditavyam |
tathāgata-gotre sattva-karuṇā-snigdha-svabhāvatām sva-lakṣaṇam
ārabhya (16 a) vāri-sādharmyam veditavyam | sarveṣām cātra
sadātyanta-prakṛity-anupakṣiṣṭatām prakṛiti-pariṣuddhiṁ sāmānya- 25
lakṣaṇam ārabhya tad eva cintā-maṇi-nabho-vāri-viṣuddhi-guṇa-
sādharmyam veditavyam |

tatra pareṇa çlokârdhena kim darçitam |

3) caturdhāvaraṇam dharma - pratigho 'py

ātma-darçanām | 30

1) T は anvayah が byuñ ba.

2) C は “prabhāva…veditavyam” を欠く。

3) T は *caturdhāvaranam* がなく、7字1句が3句で1句を欠く、弥勒の *ṣāstra* も同様。

後，半偈者示現何義。偈言：有_二四種障礙_一。

誦法及著我

3) 此偈示三現何義略說此偈有二十種義依此十種說第一義實智境界仏性差別一応知何等為十。一者休二者因三者果四者業五者相應六者行七者時差別八者一遍一切九者不變十者無差別初依二休因二故說二偈。

自性常不染 如三宝空淨水 信法及般若 三昧大悲等

此初半偈示三現何義偈言。

自在力不變 思實体柔軟 宝空水功德 相似相對法

此偈明二何義。向說三種義。彼三種義次第依於自相同相。如來法身三種清淨功德。如如意宝珠虚空淨水。相似相對法。應知。此明二何義。思者依三如來法身。所思所修皆悉成就故。

1) 遍+(知) 宋·元·明·宮本。

2) 空 = 器 宮本。

3) Sの下註 2) 参照。

samsāra-duḥkha-bhirutvaṃ sattvārtham
nirapekṣatā || 32 ||
icchantikānām tirthyānām cṛāvakāṇām
svayambhuvām¹⁾ |
adhimukty - ādayo dharmāḥ catvāraḥ
cuddhi-hetavaḥ || 33 ||

5

samāsata ime tri-vidhāḥ satvāḥ sattva-rāṣau samvidyante |
bhavābhilāṣiṇo vibhavābhilāṣiṇas tad-ubhayānabhilāṣiṇaḥ ca |
tatra bhavābhilāṣiṇo dvi-vidhā veditavyāḥ | mokṣa-mārga-prati-
hatācā aparinirvāṇa-gotrakāḥ sattvā ye samsāram evēcchanti na
nirvāṇam tan-niyati-patitāc cēha-dhārmikā eva | tad-ekatyā
mahā-yāna-dharma-vidiṣo yān adhikṛityāttad uktam bhagavatā |
2)

10

nāham teṣāṃ cāstā na te mama cṛāvakāḥ | tān aham cāriputra
tamasas tamo³⁾ antaram andhakārān mahāndhakāra-gāṇas tamo-
bhūyīṣṭhā iti vadāmi |

15

tatra vibhavābhilāṣiṇo dvi-vidhāḥ | anupāya-patitā upāya-
patitāc ca | tatrānupāya-patitā api tri-vidhāḥ | ito bāhyā ba-
hu-nānā-prakārāc caraka-parivrājaka-nirgranthi-putra-prabhṛitayo
'nya-tirthyāḥ | iha-dhārmikāc ca tat-sabhāga-caritā eva cṛaddhā
api durgrīhita-grāhiṇaḥ | te ca punaḥ katame | yad uta pudgala-
dṛiṣṭaya (16b) c ca paramārthānadhīmuktā yān prati bhagavatā
cūnyatānadhīmukto nirviṣiṣṭo bhavati tīrthikair ity uktam |
cūnyatā-dṛiṣṭayaḥ cābhimānikā yeṣāṃ iha tad-vimokṣa-mukhe 'pi
cūnyatāyām mādyamānānām cūnyatāiva dṛiṣṭir bhavati yān adhik-
ṛityāha | varam khalu kācypa sumeru-mātrā pudgala-dṛiṣṭir na
tv evābhimānikasya cūnyatā-dṛiṣṭir iti | tatrōpāya-patitā api dvi-
vidhāḥ | cṛāvaka-yāniyāc ca samyaktva-niyāmam avakrāntāḥ
pratyekabuddha-yāniyāc ca |

30

1) T はここに sgrīb rnam bshi がある。
2) C の下註2)。
3) T は antaram を欠く。

怖畏世間苦
此偈明何義。偈言。
聞提及外道。聲聞及自覺。
信等四種法。
清淨因。應知。
此偈明何義。略說一切衆生界中有三種衆生。何等爲三。一者求有。二者遠離求有。三者不。求彼二。求有有二種。何等爲二。一者謬解脫道。無涅槃性。常求住世間。不。求證。涅槃。二者於佛法中。聞提同位。以謬大乘。故。是故不增不減經言。1) 舍利弗。若有比丘比丘尼優婆塞優婆夷。若起二見。若起二見。諸仏如来非彼世尊。如是等。人非我弟子。舍利弗。是人以下起二見。因緣。從暗入暗。從冥入冥。我說。是等。名。一。聞提。二。謬法。故。聞提。故。遠離求。有者亦有二種。何等爲二。一者無求道方便。二者有求道方便。無求道方便者亦有二種。何等爲二。一者多種外道種種邪計。謂。僧。依。衛。世。師。尼。提。陀。若。提。子。等。無。求。道。方便。二者於佛法中。同。外道。行。雖。信。佛法。而。顛。倒。取。彼。何。者。是。謂。僧。子。等。見。身。中。有。我。等。不。信。第一義諦。不信。真如法空。仏説。彼。人。無。異。外。道。復。有。計。空。爲。有。以。我。相。憍。慢。故。何。以。故。以下。如。來。爲。説。空。解。脫。門。令。得。覺。知。而。彼。人。計。唯。空。無。實。爲。彼。人。一。故。寶。積。經。中。仏。告。迦。葉。寧。見。計。我。如。須。彌。山。而。不。用。見。二。憍。慢。衆。生。計。空。爲。有。迦。葉。一。切。邪。見。解。空。得。離。若。見。空。爲。有。彼。不。可。化。令。離。世。間。故。偈。言。及。著。我。故。及。外。道。故。有。二。方。便。求。道。者。亦。有。二。種。何等爲二。一者。聲聞。偈。言。怖。畏。世。間。苦。2) 故。聲。聞。上。故。二者。辟。支。仏。偈。言。捨。離。諸。衆。生。一。故。及。自。覺。上。故。

1) 「舍利弗…起二見」は梵藏にない。便宜上改行とする。
2) [故]—宋・元・明・宮本。

tad - ubhayānabhiḥilāṣiṇaḥ punar mahā-yāna-saṃprasthitāḥ
parama-tikṣṇēndriyāḥ sattvā ye nāpi saṃsāram icchanti yathē-
cchantikā nānupāya-patitās tīrthikādivan nāpy upāya-patitāḥ
cṛāvaka-pratyekabuddhavat | api tu saṃsāra-nirvāṇa-¹⁾ samatā-
pti - mārṅga-pratipannās te bhavanty apratiṣṭhita-nirvāṇācāyā
nirupakliṣṭa-saṃsāra-gata-prayogā dṛiḍha-karuṇādhyācāya-prat-
iṣṭhita-mūla-pariṣuddhā iti |

tatra ye sattvā bhavābhiḥilāṣiṇa icchantikās tan-niyati-patitā
iha-dhārmikā ²⁾ evōcyante mithyātva-niyataḥ sattva-rācīr iti |
ye vibhavābhiḥilāṣiṇo 'py anupāya-patitā ucyante ³⁾ niyataḥ sattva-
rācīr iti | ye vibhavābhiḥilāṣiṇa upāya-patitās tad-ubhayānabhiḥilāṣ-
iṇaḥ ca samatāpti-mārṅga-pratipannās ta ucyante samyaktva-niya-
taḥ sattva-rācīr iti | (17a) tatra mahā-yāna-saṃprasthitān sattvān
anāvaraṇa-gāmināḥ sthāpayitvā ya ⁴⁾ ito ⁵⁾ 'nye ⁶⁾ sattvās tad-
yathā | icchantikās tīrthyāḥ cṛāvakaḥ pratyekabuddhāḥ ca | teṣān
imāni catvāry āvaraṇāni tathāgata-dhātor anadhigamāyāsākṣāt-
kriyāyai saṃvartante | katamāni ca catvāri | tad-yathā mahā-yāna-
dharma-pratigha-icchantikānām āvaraṇam yasya pratipakṣo mahā-
yāna-dharmādhimukti-bhāvanā bodhisattvānām | dharmeṣv ātma-
darṣanam anya-tīrthānām āvaraṇam yasya pratipakṣaḥ prajñā-
pāramitā - bhāvanā bodhisattvānām | saṃsāre duḥkha-saṃjñā-
duḥkha-bhīrutvaṃ cṛāvaka-yānikānām āvaraṇam yasya pratipakṣo
gagana-gaṇījādi-samādhi-bhāvanā bodhisattvānām | sattvārtha-
vimukhatā sattvārtha-nirapekṣatā pratyekabuddha-yānikānām
āvaraṇam yasya pratipakṣo mahā-karuṇā-bhāvanā bodhisattvānām
iti |

- 1) テキストには samatāpti とあるも、C は“見世間涅槃道平等”とあり、
T は mām-pa nīd thob-pa 故に今の如く改める。
- 2) T は de gñis-ni (tad ubhaya) がある。
- 3) T は de-dag-ni (te) がある。
- 4) T は ya が de-dag (te)
- 5) T には ito がない。
- 6) T は rmam-pa bshi-po (catur-vidhās) がある。

不^レ求^レ彼^二者^一所謂第一利根衆生^一諸菩薩摩訶薩^一何以故^一以^レ諸菩薩不^レ求^レ彼^二者^一如^レ一
聞提^一故^一又亦不^レ同^二無^二方便求道^一種種外道等^一故^一又亦不^レ同^二有^二方便求道^一聲聞辟支
等^一故^一何以故^一以^レ諸菩薩見^二世間涅槃道平等^一故^一以下^レ住^二涅槃心^一故^一以^レ世間法不^レ能^レ
染^一故^一而修行世間行^一堅固慈悲涅槃心故^一以^レ善住^二根本清淨法^一中^一故^一
又彼求^レ有^二衆生^一一聞提^一人及^二法中^一聞提^一位^一名^二為^二邪定聚^一衆生^一又遠^二離^二求^一有^二衆生^一中求^二離^二世間^一方便求道^一聲聞
辟支^一及^二不^レ求^二彼^二平等道智^一菩薩摩訶薩^一名^二為^二正定聚^一衆生^一又除^二下^二求^一於無障礙道^一大乘
衆生^一上^レ余有^二四種衆生^一何等^二為^二四^一一者聞提^一二者外道^一三者聲聞^一四者辟支^一彼四衆生有^二
四種障^一故^一不能^レ証^一故^一不能^レ會^一故^一不能^レ見^二如來之性^一何等^二為^二四^一一者謗^二大乘^一法^一
一聞提^一障^一此障^一對治謂^二諸菩薩摩訶薩^一信^二行般若波羅蜜^一故^一偈言^二信法^一故^一二者橫計^二身中有^一我^一諸外
道^一障^一此障^一對治謂^二諸菩薩摩訶薩^一修^二行般若波羅蜜^一故^一偈言^二及般若^一故^一三者怖^二畏世間^一諸
苦^一聲聞人障^一此障^一對治謂^二諸菩薩摩訶薩^一修^二行虛空藏首楞嚴等^一諸三昧^一故^一偈言^二三昧^一故^一四
者背^二捨利^一益^一一切衆生^一捨^二大悲心^一辟支^一障^一此障^一對治謂^二諸菩薩摩訶薩^一修^二行大慈^一為^二利^一
益衆生^一故^一偈言^二大悲^一故^一

- 1) 又 = 有 宋・元・官。
- 2) 大乘 + (法) 宋・元・明・官。

etac catur-vidham āvaraṇam eṣāṃ catur-vidhānām sattvānām
yasya pratipakṣān imāṃc caturo 'dhimuktyādīn¹⁾ bhāvayitvā
bodhisattvā niruttarārtha-dharma-kāya-viçuddhi-paramatām ad-
higacchanty ebhiç ca viçuddhi-samudāgama-kāraṇaiç caturbhir
anugatā dharma-rāja-putrā bhavanti tathāgata-kule | katham iti | 5

bījaṃ yeṣāṃ agra-yānādhimuktir mātā
prajñā buddha-dharma-prasūtyai |
garbha-sthānam dhyāna-saukhyam kṛipōktā
dhātṛi putrās te 'nujātā muninām || 34 ||

tatra phalārtham karmārtham cārabhya çlokaḥ | 10
çubhā (17 b) tma-sukha-nityatva-guṇa-
pāramitā phalam |
duḥkha-nirvic-chama-prāpti-cchanda-praṇidhi-
karmakaḥ || 35 ||

tatra pūrveṇa çlokārdhena kim darçitam | 15
phalam eṣāṃ samāsenā dharma-kāye viparyayāt |
catur-vidha-viparyāsa-pratipakṣa-prabhāvitam || 36 ||

ya ete 'dhimukty-ādayaḥ catvāro dharmās tathāgata-dhātor
viçuddhi-hetava eṣāṃ yathā-saṃkhyam eva samāsataḥ catur-vidha-
viparyāsa-viparyaya-pratipakṣeṇa catur-ākārā tathāgata-dharma-
kāya-guṇa-pāramitā phalam draṣṭavyam | tatra yā rūpādike vas-
tuny anitye nityam iti saṃjñā | duḥkhe sukham iti | anātmany
ātmēti | açubhe çubham iti saṃjñā | ayam ucyate catur-vidho
viparyāsaḥ | etad-viparyayeṇa catur-vidha evāviparyāso vedi-
tavyaḥ | katamaḥ catur-vidhaḥ | yā tasminn eva rūpādike vastu-
ny anitya-saṃjñā | duḥkha-saṃjñā | anātma-saṃjñā | açubha-
saṃjñā | ayam³⁾ ucyate catur-vidha-viparyāsa-viparyayaḥ | sa
khalv eṣa nityādi-lakṣaṇam tathāgata-dharma-kāyam adhikṛit-
yēha viparyāço 'bhipreto yasya pratipakṣeṇa catur-ākārā tathāg- 25

1) T は ādīn の後に chos (dharmān) を持っている。

2) T は viçuddhi が nam-par-dag-pa bshi (catur-viçuddhi)。

3) T に ucyate がない。

是名、四種障、四種衆生。爲對治、彼四障、故諸菩薩摩訶薩、信、修、行、大、乘、等、四、種、對、治、法、得、無、上、清、淨、法、身、到、第、一、彼、岸、何、以、故、依、此、四、種、清、淨、法、界、修、習、善、法、此、是、諸、仏、隨、順、法、子、於、私、家、生、是、故、偈、言、。

大乘信爲子
諸仏如妻子
般若以爲母
禪胎大悲乳

2) 偈言、信等四種法清淨、因、心、知、故、。

又依、果、業、故、說、一、偈、。

淨我樂常等
欲願等諸業
彼岸功德果
厭苦求涅槃

此、初、半、偈、示、現、何、義、偈、言、。

略說、四、句、義、。

修行、對治法、

四種顛倒法、

於、法、身、中、倒、

此、偈、明、何、義、彼、信、等、四、法、如、來、法、身、因、此、能、清、淨、彼、向、說、四、種、法、彼、次、第、略、說、對、治、四、顛、倒、如、來、法、身、四、種、功、德、波、羅、蜜、果、應、知、。偈、言、略、說、四、句、義、故、。此、明、何、義、謂、於、色、等、無、常、事、中、起、於、常、想、於、苦、法、中、起、於、樂、想、於、無、我、中、起、於、我、想、於、不、淨、中、起、於、淨、想、。是、等、名、爲、四、種、顛、倒、。應、知、。偈、言、四、種、顛、倒、法、故、。爲、對、治、此、四、種、顛、倒、。故、有、四、種、非、顛、倒、法、。應、知、。何、等、爲、四、。謂、於、色、等、無、常、事、中、生、無、常、想、。苦、想、。無、我、想、。不、淨、想、等、。是、名、四、種、不、顛、倒、。偈、言、對、治、。應、知、。偈、言、修、行、對、治、法、故、。如、是、四、種、顛、倒、對、治、依、如、來、法、身、復、是、顛、倒、。應、知、。偈、言、於、法、身、中、倒、。故、對、治、此、倒、。說、有、四、種、如、來、法、身、功、德、波、羅、蜜、果、。

1) 身=界 宋・元・明・宮。

2) 「偈言……應知故」梵藏に欠く。

ata-dharma-kāya-guṇa-pāramitā vyavasthāpitā | tad-yathā nitya-
pāramitā-sukha-pāramitā-ātma-pāramitā-śubha-pāramitēti | eṣa ca
grantho vistareṇa yathā sūtram anugantavyaḥ | viparyastā bhag-
avan sattvā upātteṣu pañcasūpādāna-skandheṣu | te bhavanty
anitye nitya-saṃjñīnaḥ | duḥkhe sukha-saṃjñīnaḥ | anātmāny
ātma-saṃjñīnaḥ | aśubhe śubha-saṃ (18 a) jñīnaḥ | sarva-ṣṛā-
vaka-pratyekabuddhā api bhagavan cūnyatā-jñānenādṛiṣṭa-pūrve
sarva-jñā-jñāna-viṣaye tathāgata-dharma-kāye viparyastāḥ | ¹⁾ ye
bhagavan sattvāḥ syur bhagavataḥ putrā aurasā nitya-saṃjñīna
ātma-saṃjñīnaḥ sukha-saṃjñīnaḥ śubha-saṃjñīnaḥ te bhagavan
sattvāḥ syur aviparyastāḥ | syus te bhagavan samyag-darśināḥ |
tat kasmād dhetoḥ | tathāgata-dharma-kāya eva bhagavan nitya-
pāramitā-sukha-pāramitā-ātma-pāramitā-śubha-pāramitā | ye
bhagavan sattvās tathāgata-dharma-kāyam evaṃ paçyanti et
samyak paçyanti | ye samyak paçyanti te ²⁾ bhagavataḥ putrā
aurasā iti vistarāḥ |

āsām punaḥ catasṛiṇām tathāgata-dharma-kāya-guṇa-pāra-
mitānām hetv-ānupūrvyā pratiloma-kramo veditavyaḥ | tatra
mahā-yāna-dharma-pratihatānām icchantikānām açuci-saṃsārā-
bhirati-viparyayeṇa bodhisattvānām mahā-yāna-dharmādhimu-
kti-bhāvanāyāḥ śubha-pāramitādhigamaḥ phalaṃ draṣṭavyam |
pañcasūpādāna-skandheṣv ātma-darśinām anya-tirthyānām asad-
ātma-grahābhirati-viparyayeṇa prajñā-pāramitā-bhāvanāyāḥ pa-
ramātma-pāramitādhigamaḥ phalaṃ draṣṭavyam | ³⁾ sarve hy
anya-tirthyā rūpādikam atat-svabhāvaṃ vastv ātmēty upagatāḥ |
tac cāisām vastu yathā graham ātma-lakṣaṇena viśaṃvāditvāt
sarva-kālam anātmā | tathāgataḥ (18 b) punar yathā-bhūta-

何等爲四。所謂常波羅蜜、樂波羅蜜、我波羅蜜、淨波羅蜜。應知。偈言。修行對治法。故。是故聖
者勝鬘經言。世尊。凡夫衆生。於五陰法。起顛倒想。謂無常常想。苦有樂想。無我想。不淨
淨想。世尊。一切阿羅漢辟支伽。空智者。於一切智境界。及如來法身。本所不見。若有衆生
信。故。唯如來法身。是常波羅蜜。樂波羅蜜。我波羅蜜。淨波羅蜜。世尊。若有衆生。於法身
作。是見。者是名。正見。世尊。正見者。是。眞子。從。正法。生。從。法。化。生。得。法。余財。
如是等。故。又此四種。如來法身。功德波羅蜜。從。因。向。果。次第而說。淨我樂常。應知。云何次
第。從。因。向。果。謂。誹。謗。大乘。一闍提。障。實。無。有。淨。而。心。樂。著。取。世。間。淨。此。障。對。治。謂。諸。菩
摩訶薩。信。大乘。修行。証。得。第一。淨波羅蜜。果。應知。於五陰中。見。有。神我。諸。外。道。障。實
無。神我。而。樂。著。取。我。此。障。對。治。謂。諸。菩薩。摩訶薩。修。行。般。若。波羅蜜。証。得。第一。我波羅蜜。果。
應知。此。明。何。義。一切。外。道。執。著。色。等。非。眞。實。事。以。爲。有。我。而。彼。外。道。取。著。我。相。無。如。是。
我。相。虛。妄。顛。倒。一切。時。無。我。

1) ye を T の P 版は de yañ, D 版は de dañ としているが S の下註に言
うが如く gañ (ye) と改むべきである。

2) T は te の次に thams-cad (sarve) がある。

3) テキストには sarveṃ とあるが次に anya-tirthyā とあるから sarve に
改める。

jñānena sarva-dharma-nairātmya-para-pā (IX a) rami-prāptaḥ |
tac cāśya nairātmyam anātma-lakṣaṇena yathā-darśanam aśa-
māditvāt sarva-kālam ātmābhipreto nairātmyam evātmani
kṛitvā | ¹⁾ yathōktam sthito 'sthāna-yogenēti | ²⁾

5

10

samsāra-duḥkha-bhirūṇām cṛāvaka-yānikānām samsāra-duḥkhō-
paçama-mātrābhirati-viparyayeṇa gagana-gaṇjādi-samādhi-bhā-
vanāyāḥ ³⁾ sarva-laukika-lokōttara-⁴⁾ sukha-pāramitādhigamaḥ ¹⁵
phalaṁ draṣṭavyam | sattvārtha-nirapekṣāṇām pratyekabuddha-
yāniyānām asamsarga-vihārābhirati-viparyayeṇa ⁵⁾ mahā-karuṇā-
bhāvanāyāḥ satata-samitam ā-samsārāt sattvārtha-⁶⁾ phaligodha-
pariçuddhatvān nitya-pāramitādhigamaḥ phalaṁ draṣṭavyam |
ity ⁷⁾ etāsām catasṣiṇām adhimukti-prajñā-samādhi-⁸⁾ karuṇā-bhā-
vanānām yathā-samkhyam eva catur-ākāram tathāgata-dharma-
kāye çubhātma-sukha-nityatva-guṇa-pāramitākyam phalaṁ nir- ²⁰

- 1) “yathā……yogeneti” が C にはない。
- 2) S. T には C の“即無我者……不記不答”がない。
- 3) T は sarva がない。
- 4) T は bde-ba dam-paḥi pha-rol-tu-phin-pa (parama-sukha-pāramitā) となっている。
- 5) T は byaṇ-chub-sems-dpaḥ rnam-s-kyi-sñiñ-rje chen-po (bodhisattvānām mahā-karuṇā) とあり。
- 6) T は yoñ-su-sbyoñ-ba (pariçuddhana)。
- 7) T は etāsām catasṣiṇām がない。
- 8) T は sñiñ-rje chin-po (mahā-karuṇā)。

此偈明何義。得大身者。謂如來得第一清淨真如法身。彼是諸仏如來。我。以得自在。體。以得第一清淨身。偈言。諸仏得淨體。故。以是義。故諸仏名得清淨自在。偈言。是名得大身故。以是義。故依於此義。諸仏如來。於無漏界中。得。為第一最自在我。又復即依如是義。故如來法身不名為有。以下無我相。無法相。故。以是義。故不得言有。以下如彼相。如是無上故。又復即依如是義。故如來法身不名為無。以是義。故不得言有。我。是故不得言無。法身以下如彼相。如是。有上故。依此義。故諸外道問。如來死後。為有身耶。為無身耶。有如是等。是故如來不記不答。諸聲聞人畏世間苦。為對治彼畏世間苦。諸菩薩摩訶薩修行一切世間出世間諸三昧。故証得第一樂波羅蜜。果。應知。辟支仏人棄捨利益。一切衆生。樂住寂靜。為對治彼棄捨衆生。諸菩薩摩訶薩修行大悲。住無限齊世間常利益衆生。証得第一常波羅蜜。果。應知。是名諸菩薩摩訶薩信及般若三昧大悲四種修行。如是次第得如來身淨我樂常四種功德波羅蜜。果。應知。

3) 如。清淨。真空。是名得大身。得第一無我。諸仏得淨體。

- 1) [智]—宋・元・明・宮本。
- 2) 「即無我……不記不答」を梵藏共に欠く。
- 3) 如=智 宋・元・明・宮本。
- 4) [於]—宋・元・明・宮本。
- 5) [為]—宋・元・明・宮本。

vartyate bodhisattvānām | ābhiṣ ca tathāgato dharma-dhātu-
parama ākāṣa-dhātu-paryavasāno 'parānta-koṭi-niṣṭha ity ucyate |
mahā-yāna-parama-dharmādhimukti-bhāvanayā hi tathāgato 'ty-
anta-ṣubha-dharma-dhātu-paramatādhigamād dharma-dhātu-par-
amaḥ samvṛtataḥ | prajñā-pāramitā-bhāvanayākāṣṭhapa-sattva-
bhājana-loka-nairā (19 a) tmya-niṣṭhā-gamanād gagana-gaṇjādi-
samādhi-bhāvanayā ca sarvatra parama-dharmāiṣvarya-vibhu-
tva-saṁdarśanād ākāṣa-dhātu-paryavasānaḥ | mahā-karuṇā-
bhāvanayā sarva-sattveṣv aparyanta-kāla-kāruṇikatām upādāyā-
parānta-koṭi-niṣṭha iti |

āsām punaḥ¹⁾ catasṛiṇām tathāgata-dharma-kāya-guṇa-pāram-
itānām adhigamāyānāsra-dhātu-sthitānām apy arhatām prat-
yekabuddhānām vaṣitā-prāptānām ca bodhisattvānām ime catv-
ārah paripanthā bhavanti | tad-yathā pratyaya-lakṣaṇam hetu-
lakṣaṇam sambhava-lakṣaṇam vibhava-lakṣaṇam iti | tatra praty-
aya-lakṣaṇam avidyā-vāsa-bhūmir avidyēva saṁskārānām | hetu-
lakṣaṇam avidyā-vāsa-bhūmi-pratyayam eva saṁskāravad anāsra-
vam karma | sambhava-lakṣaṇam avidyā-vāsa-bhūmi-pratyayānā-
sra-karma-hetuki ca tri-vidhā mano-mayātma-bhāva-nirvṛttiṣ-
catur^{*}-upādāna-pratyayā sāsrava-karma-hetukīva tri-bhavābhini-
vṛttiḥ | vibhava-lakṣaṇam tri-vidhā-mano-mayātma-bhāva-nirvṛ-
itti-pratyayā jāti-pratyayam iva jarā-maraṇam acintyā pāriṇā-
miki cyutir iti |

tatra sarvōpakleṣa-saṁniṣṭhaya-bhūtāyā avidyā-vāsa-bhūmer
aprahīṇatvād arhantaḥ pratyekabuddhā vaṣitā-prāptāḥ ca bodhi-
sattvāḥ sarva-kleṣa-mala-daurgandhya²⁾ vāsanāpakarṣa-paryanta-
ṣubha-pāramitām nādhigacchanti | tām eva cāvi (19b) dyā-vāsa-
-bhūmim pratitya sūkṣma-nimitta-prapañca-samudācāra-yogād
atyantam anabhisaṁskārām³⁾ ātma-pāramitām nādhigacchanti |
tām cāvidyā-vāsa-bhūmim avidyā-vāsa-bhūmi-pratyayam ca sū-

1) T rnam-par bshi (catur-vidhānām)

2) T 是 bag-chags thams-cad dan-ldan-paḥi phyir (sarva-vāsanā-yogāt)

3) T 是 anabhisaṁskāra 是 asaṁskṛita, ātma 是 de deg gi (tesām)

又復有義。依此四種。如來法身。名為廣大。如法界。究竟如虛空。盡未來際。此明何義。信修三行大乘。是故諸佛如來。常得清淨法界。到第一彼岸。是故說言。廣大如法界。修行般若波羅蜜。是故諸佛如來。成就虛空法身。以器世間。究竟無我。以修三行虛空藏等。無量三昧。以是義。故於一切法中。皆得自在。是故說言。究竟如虛空。以下修三行大悲。於一切眾生。無二無別。時得慈悲心平等。是故說言。盡未來際。

又此四種。波羅蜜等。住無漏界中。一聞辟支佛。得大力自在。菩薩為証。如來功德法身第一彼岸。有四種。障。何等為四。一者緣相。二者因相。三者生相。四者壞相。緣相者。謂無明住地。即此無明住地。身。作緣。如無明緣行。無明住地。緣亦如是。故因相者。謂無明住地。緣。行。即此無明住地。緣。行為因。如行緣。識。無漏業。緣亦如是。故生相者。謂無明住地。緣。依。無漏業。因。生三種意生身。如下四種。取緣。依有漏業。因。而生三界。三種意生身。生亦如是。故壞相者。謂三種意生身。緣。不可思議變易。死。亦如是。故。

2) 又一切煩惱。皆依無明住地。根本。以不離無明住地。一聞辟支佛。得大力自在。菩薩為証。如來功德法身第一彼岸。無明住地。垢。是故未得究竟。淨波羅蜜。又即依彼無明住地。緣。以細相戲論。未得永滅。是故未得究竟。無為。我波羅蜜。

1) 此 = 自 明本。

2) 故 = 應知 宋・元・明・宮本。

3) (清) + 淨 宋・元・明・宮本。

kṣma - nimitta - prapañca - samudācāra - samutthāpitam anāsravaṃ
karma-pratitya mano-maya-skandha-samudayāt tan nirodham
atyanta-sukha-pāramitām nādhigacchanti | yāvac ca niravaṣeṣa
-kleṣa-karma-jaṇma - saṃkleṣa-nirodha-samudbhūtaṃ tathāgata-
dhātum na sākṣāt-kurvanti tāvad acintya-pāriṇāmiyāc cyu 5
(IX b) ter avigamād ¹⁾atyantānanyathā-bhāvām nitya-pāramitām
nādhigacchanti | tatra kleṣa-saṃkleṣavad avidyā-vāsa-bhūmiḥ |
karma-saṃkleṣavad anāsrava-karmābhisamkāraḥ | jaṇma-sa-
mkleṣavat tri-vidhā mano-mayātma-bhāva-nirvṛttir acintya-pā-
riṇāmiki ca cyutir iti | 10

eṣa ca grantho vistareṇa yathā sūtram anugantavyaḥ | ²⁾
syād yathāpi nāma bhagavann upādāna-pratyayāḥ sāsrava-karma-
hetukās trayo bhavāḥ sambhavanti | evam eva bhagavann avid-
yā-vāsa-bhūmi-pratyayā anāsrava-karma-hetukā arhatām praty-
ekabuddhānām vaṣitā-prāptānām ca bodhisattvānām mano-mayās 15
trayaḥ kāyāḥ sambhavanti | āsu bhagavan tisṛṣu*bhūmiṣv eṣām
trayāṇām mano-mayānām kāyānām sambhavāyānāsravasya ca
karmaṇo 'bhinirvṛttaye pratyayo bhava (20 a) ty avidyā-vāsa-
bhūmir iti vistaraḥ | yata eteṣu triṣu mano-mayeṣv arhat-
pratyekabuddha-³⁾ bodhisattva-kāyeṣu ṣubhātma-sukha-nityatva- 20
⁴⁾ guṇa-pāramitā na samvidyante tasmāt tathāgata-dharma-
kāya eva nitya-pāramitā sukha-pāramitātma-pāramitā ṣubha-
pāramitēty uktam |

⁵⁾sa hi prakṛiti-ṣuddhatvād vāsanāpagamāc chuciḥ |
paramātmātma-nairātmya-prapañca-⁶⁾ kṣaya-
cāntitaḥ || 37 || 25

⁷⁾sukho mano-maya-skandha-tad-dhetu-

- 1) T は atyanta を欠く。
- 2) C は勝鬘經の名を出す。* T は bhūmiṣv を欠く。
- 3) T は dbañ-thob (vaṣitā) がある。
- 4) T は guṇa を欠く。
- 5) C は長行, T は偈頌。
- 6) T は kṣaya がない。
- 7) C は長行, T は S と同様。

又即緣・彼・無明住地・有・細相戲論・集。因・無漏業・生・於意陰。未・得・永滅。是・故・未・得・
究・竟・無・為・樂・波羅蜜。以・諸・煩惱・業・染・生・染・未・得・永・滅。是・故・未・証・究竟・甘露・如・來・法
身。以・未・遠・離・不・可・思議・變・易・生・死・常・未・究・竟・是・故・未・得・不・變・異・體。是・故・未・得・究・竟
無・為・常・波羅蜜。又・如・煩惱・染・無・明・住・地・亦・如・是。如・業・染・無・漏・業・行・亦・如・是。如・生・染・三・種
意・生・身・及・不・可・思議・變・易・死・亦・如・是。
如・聖・者・勝・鬘・經・言・世・尊。譬・如・取・緣・有・漏・業・因・而・生・三・有。如・是・世・尊。依・無・明・住・地・緣・無・漏
業・因・生・阿・羅・漢・辟・支・仏・大・力・菩・薩。三・種・意・生・身。世・尊。此・三・乘・地。三・種・意・生・身。及・無・漏・業
生・依・無・明・住・地・有・緣・非・無・緣。如・是・等・勝・鬘・經・中・廣・說・應・知。復・次・以・三・聲・聞・辟・支・仏・大・力・菩
薩・三・種・意・生・身・中・無・淨・我・樂・常・波羅蜜・彼・岸・功・德・身。是・故・聖・者・勝・鬘・經・言。唯・如・來・法・身・是・常・波羅
蜜・樂・波羅蜜・我・波羅蜜・淨・波羅蜜。如・是・等・故。此・明・何・義。
⁶⁾以・如・來・法・身・自・性・清・淨・離・一・切・煩・惱・障・智・障・習・氣・故・名・為・淨。是・故・說・言・唯・如・來・法・身・是・淨
波羅蜜。以・得・寂・靜・第・一・自・在・我・故・離・無・我・戲・論・究・竟・寂・靜・故・名・為・我。是・故・說・言・唯・如・來・法
身・是・我・波羅蜜。

- 1) (生) + 死 宋・元・明・宮本。
- 2) 乘 = 種 宮本。
- 3) (彼) + 三 宋・元・明・宮本。
- 4) 及 = 為 宋・元・明本。
- 5) 復字前行宋元宮本俱有品名 (究竟一乘寶性論一切衆生有如來藏品之二) 十八字。明本有 (一切衆生有如來藏品第五之二) 十三字。
- 6) 「以如來……我波羅蜜」は梵藏の第 37 偈に當る。

vinivṛittitaḥ |

nityaḥ saṃsāra-nirvāṇa-samatā-

prativedhataḥ || 38 ||

samāsato dvābhyām kāraṇābhyām tathāgata-dharma-kāye 5
ubha-pāramitā veditavyā | prakṛiti-pariuddhyā sāmānya-lakṣaṇa-
ena | vaimalya-pariuddhyā viṣeṣa-lakṣaṇena | dvābhyām kāraṇa-
ābhyām ātma-pāramitā veditavyā | tīrthikānta-vivarjanatayā
cātma-prapañca-vigamāc chrāvākānta-vivarjanatayā ca nairātmya
-prapañca-vigamāt | dvābhyām kāraṇābhyām sukha-pāramitā
veditavyā | sarvākāra-duḥkha-samudaya-prahāṇataḥ ca vāsanānu- 10
sāndhi-samudghātāt sarvākāra-duḥkha-nirodha-sākṣāt-karaṇataḥ
ca mano-maya-skandha-nirodha-sākṣāt-karaṇāt | dvābhyām kā-
raṇābhyām nitya-pāramitā veditavyā | anitya-saṃsārānapakarṣa-
ṇataḥ cōcchedāntāpatanān nitya-nirvāṇasamāropanataḥ 1) ca cāc-
vatāntāpatanāt | yathōktam | anityāḥ saṃ (20 b) skārā iti ced 15
bhagavan paçyeta sāsya syād uccheda-dṛiṣṭiḥ | sāsya syān na
samyag-dṛiṣṭiḥ | nityaṃ nirvāṇam iti ced bhagavan paçyeta sāsya
syāc chāçvata-dṛiṣṭiḥ | sāsya syān na samyag-dṛiṣṭir iti |

tad anena dharma-dhātu-naya-mukhena paramārthataḥ saṃsāra
eva nirvāṇam ity uktam | ubhayathāvikalpanāpratiṣṭhita-nirvāṇa- 20
sākṣāt-karaṇataḥ |

2)

3) api khalu dvābhyām kāraṇābhyām aviṣeṣeṇa sarva-sattvān-
ām āsanna-dūrībhāva-vigamād apratiṣṭhita-pada-prāpti-mātra-
paridīpanā bhavati | katamābhyām dvābhyām | iha bodhisattvo 25
'viṣeṣeṇa sarva-sattvānām nāsanni-bhavati prajñayāṇeṣa-triṣṇānu-
ṣaya-prahāṇāt | na dūri-bhavati mahā-karuṇayā tad-āparityāgād
iti | ayam upāyo 'pratiṣṭhita-svabhāvāyāḥ samyak-sambodher

1) テキストには nitya-nirvāṇa-samāropanataḥ とあるも、T は mya-
nān-las ḥdas-pa rtag-pa mi snon-pas, C は不取無為涅槃とある故、今
の如く改める。

2) C に“無分別……有平等”の偈があり、T は欠。

3) “api…… (39 偈) の nirvṛitīm vā” C 欠、T は S に一致。

6)

5) 無分別之人
涅槃有平等

不分別世間

不分別涅槃

以得遠離、意生陰身、因故名爲樂。是故說言、唯如來法身是常波羅蜜。以世間涅槃
平等、証故故名爲常。是故說言、唯如來法身是常波羅蜜。
又復略說有三種法。依此二法、如來法身有淨波羅蜜。一、知。何等爲二。一者本來自性
清淨。以因相、故。二者離垢清淨。以勝相、故。有兩種法。依此二法、如來法身有淨波
羅蜜。一、知。何等爲二。一者遠離諸外道、以離。虛妄我戲論、故。二者遠離諸、
聞、以離。無我戲論、故。有兩種法。依此二法、如來法身有淨波羅蜜。一、知。何等爲
二。一者遠離一切苦。二者遠離一切煩惱習氣。此以何義、云何遠離一切苦。以滅
一切種苦、故。以滅一切意生身、故。云何遠離煩惱習氣。以証一切法、故。有兩種
法。依此二法、如來法身有常波羅蜜。一、知。何等爲二。一者不滅一切諸有、以離
斷見、故。二者不取無爲涅槃、以離常見、故。以是義、故聖者勝鬘經中說言、世
尊。見諸行無常、是斷見。非正見。見涅槃、常是常見。非正見。妄想見、故作如是見、故。
以是義、故依如是向說法界、法門第一義諦、說、即世間法、名爲涅槃。以此二法、不
別、故以証、不住世間涅槃、故。是故偈言。

1) 「以得……常波羅蜜」は梵藏の第38偈に相当。

2) 因=同 宋・元・明・宮本。

3) 以=明 宋・元・明・宮本。

4) [証]— 宋・元・明・宮本。

5) 此偈は梵藏に欠く。

6) “api 以下39偈まで欠く”。

anuprāptaye | prajñayā hi bodhisattvo 'cēṣa-triṣṇānuçaya-prahā-
ṇād ātma-hitāya nirvāṇa-gatādhyāçayaḥ saṁsāre na pratiṣṭhate
'parinirvāṇa-gotravat | mahā-karuṇayā duḥkhita-sattvāparityāgāt
para-hitaya saṁsāra-gata-prayogo nirvāṇe na pratiṣṭhate
çamāika-yāna-gotravat | evaṁ idaṁ dharma-dvayam anuttarāyā 5
bodher mūlaṁ pratiṣṭhānam iti |

chittvā snehaṁ prajñayātmany açeṣaṁ sattva
-snehān nāti çāntiṁ kṛipāvān |

niḥçrityāvaṁ dhī-kṛipe bodhy-upāyau
nôpaity āryaḥ saṁvṛitiṁ nirvṛitiṁ vā || 39 ||

tatra pūrvādhikṛi (21 a) taṁ karmārtham ārabhya pareṇa
çlokārdhena kiṁ darçitam |

buddha-dhātuḥ sa cen na syān nirvid
duḥkhe 'pi no bhavet |

nêcchā na prārthanā nāpi praṇidhir nirvṛitau
bhavet || 40 ||

tathā cōktam | tathāgata-garbhaç ced bhagavan na syān na
syād duḥkhe 'pi nirvin na nirvāṇa-icchā vā prārthanā vā
praṇidhir vēti | tatra samāsato buddha-dhātu-viçuddhi-gotraṁ
mithyātva-niyatānām api sattvānām dvi-vidha-kārya-pratyupa- 20
sthāpanaṁ bhavati | saṁsāre ca duḥkha-doṣa-darçana-niḥçrayeṇa
nirvidam utpādayati | nirvāṇe sukhānuçamsa-darçana-niḥçrayeṇa
cchandaṁ janayati | icchāṁ prārthanāṁ praṇidhim iti |
icchābhilaṣitārtha-prāptav asaṁkocaḥ | prārthanābhilaṣitārtha-
prāpty-upāya-parimārgaṇā | praṇidhir yābhilaṣitārthe 1) cetanā- 25
cittābhisamkāraḥ |

bhava-nirvāṇa tad-duḥkha-sukha-doṣa-guṇê-
kṣaṇam |

gotre sati bhavaty etad agotrāṇām na
vidyate || 41 ||

yad api tat saṁsāre ca duḥkha-doṣa-darçanaṁ bhavati
nirvāṇe ca sukhānuçamsa-darçanam etad api çuklāṁçasya

1) T には cetanā-citta が sems とのみあり。

後、半偈者示現何義。偈言。
若無三性者 不得厭諸苦 不求涅槃樂
亦不願。 不願。 不願。 不願。
以是義。故聖者勝鬘經言。世尊。若無三性。清淨正。因。於三不定聚。衆生。能作三種業。何
樂。亦不願。求。如是等。此明何義。略說。三性清淨。正。因。於三不定聚。衆生。能作三種業。何
等。為二。一者。依見世間種種苦惱。厭諸苦。故生心欲離諸世間中一切苦惱。偈言。若
無三性者。不得厭諸苦。故。二者。依見涅槃樂。稀寂樂。故生心欲心願心。偈言。若
無三性者。不求涅槃樂。亦不願。故。又欲者。求涅槃樂。故。求者。希涅槃樂。故。希者。於
希求法中。不怯弱。故。欲得者。於所求法中。方便追求。故。及諸問。故。願者。所期法中。所期法者
心心相行。是故偈言。
見三苦果樂果。 2) 此依性而有。 若無三性者
不起。如是心。 3) 所有見世間苦果者。凡所有見涅槃樂果者。此二種法。善根衆生。有一
此偈明何義。凡所有見世間苦果者。凡所有見涅槃樂果者。此二種法。善根衆生。有一
切依。因真如三性。非離三性。無因緣。故起如是心。偈言。見苦果樂果。此依性而有。
故。

1) (不) + 求 宋・元・明・宮本。

2) 此依 = 依此 宋・元・明・宮本。

3) 所有 = 有所 宋・元・明・宮本。

pudgalasya gotre sati bhavati nâhetukam nâpratyayam iti | ¹⁾yadi
hi tad ²⁾gotram antareṇa syād ahetukam apratyayam ³⁾pāpa-
samuccheda-yogena tad icchantikānām apy aparinirvāṇa-
gotrāṇām syāt | na ca bhavati tāvad yāvad āgantuka-mala-
viçuddhi-gotraṁ trayāṇām anyatama-dharmādhimuktim na sa 5
(21 b) mudānayati satpuruṣa-saṁsargādi-catuḥ-çukla-sāṁvadh-
āna-yogena |

⁴⁾yatra ny āha ⁵⁾ | tatra paçcād antaço mithyātva-niyata-
saṁtānānām api sattvānām kāyeṣu tathāgata-sūrya-maṇḍala-
⁶⁾raçmayo nipatanti ⁷⁾ * * * anāgata-hetu - saṁjananatayā 10
saṁvardhayanti ca kuçalair dharmair iti | yat punar idam uktam
icchantiko 'tyantam aparinirvāṇa-dharmēti tan mahā-yāna-
dharma-pratigha icchantikatve hetur iti mahā-yāna-dharma-
pratigha-nivartanārtham uktam kālāntarābhiprāyeṇa | na khalu
kaç - cit prakṛiti-viçuddha-gotra-sambhavād atyantāviçuddhi- 15
⁸⁾dharmā bhavitum arhati | ⁹⁾yasmād aviçeṣeṇa punar bhagavatā
sarva-sattveṣu viçuddhi-bhavyatām saṁdhāyōktam |

anādi-bhūto 'pi hi cāvasānikah svabhāva-
çuddho dhruva-dharma-saṁhitah |
anādi-koçair bahir-vṛito na dṛiçyate suvarṇa-
bimbaṁ paricchāditam yathā 20

tatra yogārtham ārabhya çlokaḥ |
mahôdadhīr ivāmeya-guṇa-ratnākṣayākaraḥ |
pradīpavad anirbhāga-guṇa-yukta-svabhāva=

- 1) T はここに de ciḥi phir she na (tat kasmāddhetoh) がある。
2) T gotram antareṇa を欠く。
3) T は sdig-pa mi zad-pa dan-ldan-paḥi tshul-gyis. (pāpāsamu-
ccheda-yogena)
4) "yatra...tatra" T,P 版は hi āha のみであり D 版は gaṅ-gi phir (yasmād
hy āha)
5) 英訳者 O 氏は jñānālokālmkāra sūtra をあげている。此文は性起品と両
者に存する。
6) T は ye-çes-kyi ḥod-zer (jñāna-raçmayo).
7) T は de dag la phan ḥdogs ḥgyur shīn (teṣu hitopakārayitvā)
8) T dharmā 欠。
9) "yasmāt..... (引用偈の) yathā" C 欠, T は S に--致。

又依相応義故說一偈。
大海器宝水
性功德如是

無量不可尽

如燈明觸色

若無因緣生。如是心。一者一聞提等無涅槃性。心發菩提心。偈言。若無心。性。者。不
起。如是心。故。以性。未離一切客塵煩惱。諸垢。於三乘中。未曾修習。一乘信心。又未親
近善知識等。亦未修習。親近善知識。因緣。
是故。華嚴性起。中言。次有。乃至邪見聚等。衆生。身中。皆有。如來。日輪。光照。作。彼。衆生。利
益。作。未來。因。善根。增長。諸。白法。故。向。說。一聞提。常。不。入。涅槃。無。涅槃性。者。此。義。云。何。
為。欲。示。現。謗。大乘。因。故。此。明。何。義。為。欲。迴。轉。謗。大乘。心。不。求。大。乘。心。故。依。無。量。時。
故。如。是。說。以。彼。實。有。清淨性。故。不。得。說。言。彼。常。畢竟。無。清淨性。3)

- 1) 華嚴+ (經) 宋・元・明・宮本。
2) 中=品 宋・元・明・宮本。
3) yasmād 以下引用偈まで欠く。

taḥ || 42 ||

tatra pūrveṇa ṣlokārdhena kim darṣitam |
dharma-kāya-jīna-jñāna-karuṇā-dhātu-sam=
grahāt |
pātra-ratnāmbubhiḥ sāmīyam udadher asya
darṣitam || 43 ||

trayāṇām sthānānām yathā-saṁkhyam eva tri-vidhena
mahā-samudra-sādharmyeṇa tathāgata-dhātor hetu-samanvāgam=
am adhikṛitya yogārtho veditavyaḥ | katamāni trīṇi sthānāni | 10
tad-yathā dharma-kāya-ṣiuddhi-hetuḥ | buddha-jñāna-samu
(22 a) dāgama-hetuḥ | tathāgata-mahā-karuṇā-vṛitti-hetur iti |
tatra dharma-¹⁾kāya-ṣiuddhi-hetur mahā-yānādhimukti-bhāvanā
draṣṭavyā |, buddha-jñāna-samudāgama-hetuḥ prajñā-samādhī-
mukha-bhāvanā | tathāgata-mahā-karuṇā-²⁾pravṛitti-hetur bod= 15
hisattva-karuṇā-bhāvanēti | ³⁾ tatra ⁴⁾ mahā-yānādhimukti-bhāv=
anāyā bhājana-sādharmyam tasyām aparimeyākṣaya-prajñā-sam=
ādhi-ratna-karuṇā-vāri-samavasaraṇāt | prajñā-samādhī-mukha-
bhāvanāyā ratna-sādharmyam tasyā nirvikalpatvād acintya- 20
prabhāva-guṇa-yogāc ca | bodhisattva-karuṇā-bhāvanāyā vāri-
sādharmyam tasyāḥ sarva-jagati parama-snigdha-bhāvāika-rasa-
⁵⁾ lakṣaṇa-prayogād iti | eṣāṁ trayāṇām dharmāṇām anena tri-
⁶⁾ vidhena hetunā tat-sambaddhaḥ samanvāgamo yoga ity ucyate |
tatrāpareṇa ṣlokārdhena kim darṣayati |
abhi-jñā-jñāna-vaimalya-tathatāvyatirekataḥ |
dīpālokōṣṇa-varṇasya sādharmyam vimalācra= 25
ye || 44 ||

trayāṇām sthānānām yathā-saṁkhyam eva tri-vidhena
dīpa-sādharmyeṇa tathāgata-dhātoḥ phala-samanvāgamam adh=

- 1) T は kāya を欠く。
2) T は pravṛitti の pra がなく karuṇā は mahā-karuṇā。
3) C “tatra……samavasaraṇāt” 欠, T は S と一致。
4) T は mahā-yāna の次に chos (dharma) が入っている。
5) 6) T は lakṣaṇa-pra, vidhena を欠く。

又修三行智慧三昧門。宝相似相对法。以下彼無分別不可思議有大勢力功德相応故。又修三
行菩薩大悲水相似相对法。以下於一切衆生柔軟大悲得一味等味相行故。如是彼三
種法此三種因和合畢竟不相捨離。故名相応。
後半偈者示現何義。偈言。
通智及無垢
無垢界相似
不離於真如
如燈明煖色
此偈明何義。有三處。次第三種燈相似相对法。於如來法界中依三果相応義應知。

此偈明何義。以有三處。故次第有三種。大海相似相对法。於如來性中依畢竟成就
相応義應知。何等三處。一者法身清淨。因二者集衆智。因三者得如來大悲。因法身清淨。因
者信修三行。大乘器相似相对法。以彼無量不可尽。故。偈言。三法身。故海相似相对法。故。
集衆智。因者般若三昧。珍。宝相似相对法。偈言。慧定。故珍宝相似相对法。故。得如來大悲。因
者大悲悲心水相似相对法。偈言。悲。悲衆生。性。故水相似相对法。故。2)

此初半偈示現何義。偈言。
仏法身慧定
悲衆生性
海珍宝水等
相似相对法

1) 宝=実 宋・元・明・宮本。

2) 梵文の下註 3)

ikṛitya yogārtho veditavyaḥ | katamāni triṇi stānāni | tad-
yathā | abhijñā-āsrava-kṣaya-jñānam āsrava-kṣayaḥ cēti |
tatra pañcānām abhijñānām jvālā-sādharmyaṁ tāsām arthānu-
bhava - 1) jñāna - vipakṣāndhakāra - vidhamana - pratyupasthāna-
lakṣaṇatvāt | 2) āsrava-kṣaya-jñānasyōṣṇa-sādharmyaṁ tasya 5
nirava (22 b) ṣeṣa-karma-kleṣēndhana-dahana-pratyupasthāna-
lakṣaṇatvāt | ācārya-parivṛtṭer āsrava-kṣayasya varṇa-sādharm-
yaṁ tasyātyanta-vimala-viṣuddha-prabhāsvara-lakṣaṇatvāt |
tatra vimalaḥ kleṣāvaraṇa-prahāṇāt | viṣuddho jñeyāvaraṇa-
prahāṇāt | prabhāsvaras tad - ubhayāgantukatāprakṛititah | 10
ity eṣām 3) samāsataḥ saptānām 4) abhijñā-jñāna-prahāṇa-
samgrīhitānām aṣaikṣa-sāntānikānām dharmānām anāsrava-
dhātav anyonyam avinirbhāgatvam aprithagbhāvo dharma-dhātu
5) samanvāgamo yoga ity ucyate | 6) eṣa ca yogārtham ārabhya
7) pradīpa-dṛṣṭānto vistareṇa yathā sūtram anugantavyaḥ | tad- 15
yathā cāriputra pradīpaḥ | avinirbhāga-dharmā | avinirmukta-
guṇaḥ | yad-uta ālokōṣṇa-varṇatābhiḥ | maṇir vāloka-varṇa-
samsthānaiḥ | evam eva cāriputra tathāgata-nirdiṣṭo dharma-kāyo
'vinirbhāga-dharmāvinirmukta-jñāna-guṇo yad-uta gaṅgā-nadī-
vālikā-vyativṛttitais tathāgata-dharmair iti | 20

tatra vṛitty-artham ārabhya ṣlokaḥ |

prithag-janārya-sambuddha-tathatā vyatire-
kataḥ 8) |

- 1) T jñāna を欠く。
- 2) T には āsrava-kṣaya-jñāna が zag-pa med-paḥi ye-ṣeṣ (anāsrava-jñāna) とあり。
- 3) T samāsataḥ 欠。
- 4) T zag-pa med-paḥi mñon-par ṣeṣ-pa (anāsrava-abhijñāna)。
- 5) T の P 版は mñam-pa ñid-kyis ldan (samatayā yoga), D 版は mñam-pa ñid-kyis ldan-pa ni ldan (samatayā samanvāgamo yoga) とあり。
- 6) “eṣa……dharmair iti” C は欠, T は S と一致。
- 7) T は pradīpa を欠く。
- 8) T は vyatireka を dbyeḥi-ḥjug-pa las (bheda-vṛitteḥ)。

又依行義故說二偈
見実者説言

凡夫聖人仏

何等三處。一者通。二者知漏尽。三者漏尽。
此以三。何義。通者有三。五通。光明相似相对法。以受用事。能散滅彼与智相違所治闇法。
能治相似相对法。故。偈言。通故。明。故。知。漏尽。一智者無漏智。煖相似相对法。1) 以下能燒業
煩惱。無有余殘。上能燒相似相对法。故。偈言。智故。煖。故。漏尽者。轉身漏尽。色相似相对法。2) 以
常無垢清淨。光明。具足。相無垢相似相对法。3) 故。偈言。無垢。4) 故。色。故。又。無垢者。以離三煩惱
障。故。清淨者。以離三智障。故。光明者。5) 知。自性清淨。体。彼。二。是。客。塵。煩惱。如。是。略。説。六。種。無
漏。智。離。煩惱。無。學。身。所。攝。法。於。無。漏。法。界。中。彼。此。6) 迭。共。不。相。捨。離。不。差。別。法。界。平。等。畢。竟。
名。三。相。應。義。三。應。知。カ

- 1) 以能 = 能以 宋・元・明・宮本。
- 2) 以 = 偈言無垢故色故又無垢界者 宋・元・明・宮本。
- 3) [故偈言] — 宋・元・明・宮本。
- 4) [故色故又無垢] — 宋・元・明・宮本。
- 5) 如 = 知 宋・元・明・宮本。今知に改む。
- 6) 迭 = 通 宋・元・明・宮本。
- 7) 梵文の下註 6)

sattveṣu jina-garbho 'yaṁ deçitas tattva-
darçibhiḥ || 45 ||

anena kim darçitam |

prīthag-janā viparyastā dṛiṣṭa-satyā viparyayāt |
yathāvaḍ aviparyastā niṣprapañcās tathāga=
tāḥ || 46 ||

yad idam tathāgata-dhātoḥ sarva-dharma-tathatā-viçuddhi-
sāmānya-lakṣaṇam upadiṣṭam prajñā-pāramitādi (23 a) ṣu nirvi=
kalpa-jñāna-mukhāvavādam ārabhya bodhisattvānām asmin
1) samāsatas trayāṇām pudgalānām prīthag-janasyātattva- 10
darçina āryasya tattva-darçino viçuddhi-niṣṭhāgatasya tathāga=
tasya 2) tridhā bhinnā pravṛttir veditavyā | yad - uta
viparyastāviparyastā samyag-aviparyastā niṣprapañcā ca yathā-
kramam | tatra viparyastā samjñā-citta-dṛiṣṭi-viparyāsād 15
bālānām | aviparyastā viparyayeṇa tat - prahāṇād āryāṇām |
samyag-aviparyastā niṣprapañcā ca savāsana-kleṣa-jñeyāvaraṇa-
samudghātāt samyak-sambuddhānām |

ataḥ param 3) etam eva vṛitty-artham ārabhya tad-anye catvāro
'rthāḥ prabheda-nirdeçād eva veditavyāḥ | tatrāṣām trayāṇām
pudgalānām avasthā-prabhedārtham 4) ārabhya çlokaḥ | 20

açuddho 'çuddha-çuddho 'tha suviçuddho
yathā-kramam |
sattva-dhātur 5) iti prokto bodhisattvas
tathāgataḥ || 47 ||

anena kim darçitam |

svabhāvādibhir ity ebhiḥ ṣaḍbhir arthaiḥ
samāsataḥ |
dhātus tiṣṭiṣv avasthāsu vidito nāmabhis
tribhiḥ || 48 ||

- 1) T は samāsatas を欠く。
2) T は de-kho-na mthon-ba (tattva-darçina) がある。
3) T は etam eva を欠く。
4) T は artham を欠く。
5) T は dhātu を欠く。

衆生如来蔵
此偈示現何義。偈言。
凡夫心顛倒
見。實異。於彼。一
如。實不顛倒
諸仏離戲論
此偈明何義。向明。如来法界中。一切法真如清淨。明。同相。依。一般若波羅蜜無分別智法門
等。為。諸菩薩摩訶薩。說。此。以。何義。略明。依。三種。人。何等。為。三。一。者。不實見。凡夫。二。者。實
見。聖人。三。者。畢竟成就。如来法身。是。名。三種。行。應。知。心。云。何。知。一。謂。取。顛倒。離。顛倒。
離。戲論。如。是。次第。此。以。何義。取。顛倒。者。謂。諸。凡。夫。三種。虛妄。想。心。見。故。偈。言。凡。夫。心
顛倒。故。離。顛倒。者。以。聖。人。遠。離。虛。妄。想。心。見。故。偈。言。見。實。異。於。彼。故。離。戲論。者。正
離。顛倒。及。諸。戲論。以。煩。惱。障。智。障。及。煩。惱。習。氣。諸。仏。如。來。根。本。永。盡。故。偈。言。如。實。不。顛。倒。諸
仏。離。戲。論。故。
自。此。以下。即。依。此。行。余。四。種。義。廣。差。別。說。心。知。又。復。即。依。彼。三。種。人。依。三。時。差。別。故。說。一
偈。
有。不。淨。有。淨
衆生菩薩仏
此偈示現何義。偈言。
略明法性。体
次第三時。中
及以善淨等
如。是。次第。說。

- 1) 有 = 雜 宋・元・明・宮本。

iti ye ke-cid anāsrava-dhātu-nirdeṣā nānā-dharma-paryāya-
mukheṣu bhagavatā vistareṇa nirdiṣṭāḥ sarve ta ebhir eva
samāsataḥ ṣaḍbhiḥ svabhāva-hetu-phala-karma-yoga-vṛitty-ar-
thaiḥ saṃgrihitās tiṣṭiṣv avasthāsu yathā-kramān tri-nāma-
nirdeṣato nirdiṣṭā veditavyāḥ | yad-utācuddhāvasthāyām sattva-
dhātur iti | aṣuddha-ṣuddhāvasthāyām bodhisattva iti | (23 b)
suviṣuddhāvasthāyām tathāgata iti | yathōktam bhagavatā | ayam
eva cāriputra dharma-kāyo 'paryanta-kleṣa-koṣa-koṭi-gūḍhaḥ |
saṃsāra-srotasā uhyamāno 'navarāgra-saṃsāra-gati-cyuty-upapa-
ttiṣu saṃcaran sattva-dhātur ity ucyate | sa eva cāriputra
dharma-kāyaḥ saṃsāra-sroto-duḥkha-nirviṇṇo viraktaḥ sarva-
kāma-viṣayebhyo daṣa-pāramitāntargataiḥ catur-aṣṭyā dharma-
skandha-sahasrair bodhāya caryām caran bodhisattva ity ucyate
| sa eva punaḥ cāriputra dharma-kāyaḥ sarva-kleṣa-koṣa-
parimuktaḥ sarva-duḥkhātīkrāntaḥ sarvōpakleṣa-malāpagataḥ ṣu-
ddho viṣuddhaḥ parama-pariṣuddha-dharmatāyām sthitaḥ sarva-
sattvālokanīyām bhūmim ārūḍhaḥ sarvasyām jñeya-bhūmav
advitīyām pauraṣaṁ sthāma prāpto 'navaraṇa-dharmāpratihatā-
sarva-dharmāiṣvarya-balatām adhigatas tathāgato 'rhan samyak-
sambuddha ity ucyate |

tāsv eva tiṣṭiṣv avasthāsu tathāgata-dhātoḥ sarvatragārtham
ārabhya ṣlokaḥ |

sarvatrānugatam yadvan nirvikalpātmakam
nabhaḥ |
citta-prakṛiti-vaimalya-dhātuḥ sarvatragas
tathā || 49 ||

anena kim darṣitam |

tad-doṣa-guṇa-niṣṭhāṣu vyāpi-sāmānya-lakṣa-
ṇam |
hīna-madhyā-viṣiṣṭeṣu vyoma rūpa-gateṣv
iva || 50 ||

yāsau prithag-janārya-sambuddhānām avikalpa-citta-prakṛi-
tiḥ (24 a) sā tiṣṭiṣv avasthāsu yathā-kramān doṣeṣv api guṇeṣv

此偈明何義。謂向所明無漏法性。如來廣說種種法門。彼諸法門略說。依於六種句義。所謂一、聚。二、果。三、業。四、相。五、行。六、偈。言。三。等。六。句。義。略。明。法。性。體。故。於。三。時。中。次。第。依。彼。三。種。名。字。畢。竟。應。知。偈。言。次。第。三。時。中。說。三。種。名。字。故。此。以。何。義。謂。不。淨。時。名。為。衆。生。之。偈。言。有。三。不。淨。故。一。不。淨。淨。時。名。為。善。薩。偈。言。有。淨。故。於。善。淨。時。名。為。如。來。偈。言。三。及。以。善。淨。故。以。是。義。故。不。增。不。減。終。言。舍。利。弗。即。此。法。身。過。於。恒。沙。無。量。煩。惱。所。纏。從。無。始。以。來。隨。順。世。間。生。死。漂。波。去。來。生。退。名。為。衆。生。舍。利。弗。即。此。法。身。厭。離。世。間。生。死。苦。惱。捨。一。切。欲。行。十。波。羅。蜜。攝。八。萬。四。千。法。門。修。菩。提。行。名。為。善。薩。舍。利。弗。即。此。法。身。得。離。一。切。煩。惱。使。纏。過。一。切。苦。離。一。切。煩。惱。得。淨。得。清。淨。得。住。於。彼。岸。清。淨。法。中。到。一。切。衆。生。所。觀。之。地。於。一。切。境。界。中。更。無。一。勝。者。離。一。切。障。離。一。切。礙。於。一。切。法。中。得。自。在。力。名。為。如。來。心。正。徧。知。故。偈。言。如。是。次。第。說。衆。生。善。薩。二。故。自。此。以。下。即。依。三。時。明。如。來。法。性。徧。一。切。處。故。說。一。偈。如。空。徧。一。切。而。空。無。分。別。自。性。無。垢。心。亦。徧。無。分。別。此。偈。示。現。何。義。偈。言。過。功。德。畢。竟。徧。至。及。同。相。下。中。勝。衆。生。此。偈。明。何。義。所。有。凡。夫。聖。人。諸。仙。如。來。自。性。清。淨。心。平。等。無。分。別。彼。清。淨。心。於。三。時。中。次。第。於。過。失。時。於。功。德。時。於。功。德。清。淨。畢。竟。時。同。相。無。差。別。猶。如。虛。空。

- 1) 聚 = 取 宋 · 元 · 明 · 宮本。
- 2) 不淨 = 雜 宋 · 元 · 明 · 宮本。
- 3) 使 + (所) 宋 · 元 · 明 · 宮本。
- 4) 中 = 至 宋 · 元 · 明 · 宮本。

api guṇa-viçuddhi-niṣṭhāyām api sāmānya-lakṣaṇatvād ākācam
iva mṛid-rajata-suvarṇa-bhājaneṣv anugatānupraviṣṭā samā nir-
viçīṣṭā prāptā sarva-kālam | ata evāvasthā-nirdeçānantaram āha |
tasmāc chāriputra nānyaḥ sattva-dhātur nānyo dharma-kāyaḥ |
sattva-dhātur eva dharma-kāyaḥ | dharma-kāya eva sattva- 5
dhātuḥ | advayam etad arthena | vyañjana-mātra-bheda iti |

etāsv eva tiṣṭiṣv avasthāsu tathāgata-dhātoḥ sarvatragasyāpi
tat-samkleṣa-vyavadānābhyām avikārārtham ārabhya catur-daça-
çlokāḥ | ayam ca teṣāṃ piṇḍārtho veditavyaḥ |

doṣāgantukatā-yogād guṇa-prakṛiti-yogataḥ | 10
yathā pūrvam tathā paçcād avikāritva-
dharmatā || 51 ||

1) dvā-daçabhir ekena ca çlokena yathā-kramam açuḍdhāva=
sthāyām açuḍdhā-çuḍdhāvasthāyām ca kleṣōpakleṣa- 2) doṣayor
āgantuka-yogāc catur-daçamena çlokena suviçuddhāvasthāyām 15
gaṅgā-nadī-vālukā-vyativṛittair avinirbhāgair amukta-jñair aci-
ntyair 3) buddha-guṇaiḥ prakṛiti-yogād ākāça-4) dhātor iva pauc-
vāparyeṇa tathāgata-dhātor atyantāvikāra-5) dharmatā paridipitā |
tatrāçuḍdhāvasthāyām 6) avikārārtham ārabhya katame dvā-daça-
çlokāḥ | 20

yathā sarva-gataṃ saukṣmyād ākācam nōpa-
lipyate |

sarvatrāvasthi (24 b) taḥ sattve tathāyaṃ
nōpalipyate || 52 ||

yathā sarvatra lokānām ākāça udaya-vyayaḥ | 25
tathāivāsamskṛite dhātav indriyāṇām vyayō-
dayaḥ || 53 ||

1) C は “dvā……paridipitā” が偈頌になっている。

2) T は doṣayor 欠。

3) T は sañ-rgyas-kyi chos (buddha-dharmaiḥ)。

4) T dhātor 欠。

5) T dharmatā 欠。

6) T は artham が mtshan-ñid-la (lakṣaṇam)。

此等諸偈略說三義。一應知。偈言。
自。此。已。下。即。依。此。三。明。如。來。法。性。徧。至。一。切。處。依。染。淨。時。不。變。不。異。有。三。十五。偈。
法。身。即。衆。生。界。舍。利。弗。此。二。法。者。義。一。名。異。故。
不。增。不。減。經。言。乙。舍。利。弗。不。離。衆。生。界。有。法。身。不。離。法。身。有。衆。生。界。衆。生。界。即。法。身。
在。三。瓦。銀。金。三。種。器。中。平。等。無。異。無。差。別。一。切。時。有。以。是。義。故。經。中。說。有。三。時。次。第。如。丙。
諸。過。客。塵。來。性。功。德。相。應。真。法。體。不。變。
如。本。後。亦。爾。
此。偈。明。何。義。偈。言。
2) 十一。偈。及。二。
第。十。四。五。
不。離。下。脫。思。議。
及。以。後。際。等。
3) 初。依。不。淨。時。不。變。不。異。一。十。一。偈。者。
依。於。無。漏。界。
諸。煩。惱。不。染。
如。虛。空。徧。至。
依。性。徧。衆。生。
依。虛。空。一。生。滅。
有。諸。根。生。滅。
次。第。不。淨。時。
於。善。淨。時。中。
依。自。性。功。德。
如。來。真。如。性。
體。不。變。不。異。
本。際。中。間。際。
過。恒。沙。一。法。
煩。惱。客。塵。過。
依。性。徧。衆。生。
依。虛。空。一。生。滅。
有。諸。根。生。滅。

1) [法]— 宋・元・明・宮本。

2) 梵藏は「十一偈及……變不異」まで長行釈。

3) 初+(偈) 宋・元・明・宮本。

yathā nāgnibhir ākāṣaṁ dagdha-pūrvam
 kadā - cana |
 tathā na pradahaty enaṁ mṛityu-vyādhi-
 jarāgnayaḥ || 54 ||
 prithivy ambau jalam vāyau vāyur vyomni
 pratiṣṭhitāḥ |
 apratiṣṭhitam ākāṣaṁ vāyav-ambu-kṣiti-dhā-
 tuṣu || 55 ||
 skandha-dhātv-indriyaṁ tadvat karma-
 kleṣa-pratiṣṭhitam |
 karma-kleṣāḥ sadāyoni-manas-kāra-pratiṣ-
 ṭhitāḥ || 56 ||
 ayoniḥ-manas-kāraḥ citta-ṣuddhi-pratiṣṭhi-
 tāḥ |
 sarva-dharmeṣu cittasya prakṛitis tv aprati-
 ṣṭhitā || 57 ||
 prithivī-¹⁾ dhātuvaj jñeyāḥ skandhāyatana-
 dhātavaḥ |
 ab-dhātu-sadṛiṣṭā jñeyāḥ karma-kleṣāḥ ṣarir-
 iṇām || 58 ||
 ayoniḥ-manas-kāro vijñeyo vāyav-dhātuvat |
 tad amūlāpratiṣṭhānā prakṛitir vyoma-
 dhātuvat || 59 ||
 citta-prakṛitim ālināyoniḥ-manasaḥ-kṛitih |
 ayoniḥ-manas-kāra-prabhava kleṣa-karmaṇi
 || 60 ||
 karma-kleṣāmbu-sambhūtāḥ skandhāyatana-
 dhātavaḥ |
 utpadyante nirudhyante tat - samvarta-
 vivartavat || 61 ||
 na hetuḥ pratyayo nāpi na sāmāgrī na cōda=

5

10

15

20

25

火、不、燒、虛、空、
 不、能、燒、火、性、
 風、依、於、虛、空、
 住、煩、惱、業、中、
 不、善、思、惟、行、
 不、住、彼、諸、法、
 不、正、念、如、風、
 念、起、煩、惱、業、
 依、止、於、五、陰、
 如、世、界、成、壞、
 及、無、利、合、義、

若、燒、無、是、處、
 地、依、於、水、住、
 空、不、依、地、等、
 諸、煩、惱、業、等、
 住、清、淨、心、中、
 陰、入、界、如、地、
 淨、心、界、如、空、
 依、因、煩、惱、業、
 界、入、等、諸、法、
 淨、心、如、虛、空、
 亦、無、生、住、滅、

如、是、老、病、死、
 水、復、依、於、風、
 如、是、陰、界、根、
 住、不、善、思、惟、
 自、性、清、淨、心、
 煩、惱、業、如、水、
 依、性、起、邪、念、
 能、起、陰、入、界、
 有、諸、根、生、滅、
 無、因、復、無、緣、

1) T は dhātu 欠く。

yaḥ |

na vyayo na sthitiḥ citta-prakṛiter vyoma-
dhātuvat || 62 ||

cittasya yāsau prakṛitiḥ prabhāsvarā na
jātu ¹⁾ sā dyaur iva yāti vikriyām |
āgantukai rāga-malādibhis tv asav upaiti
saṁkleṣam abhūta-kalpa-jaiḥ || 63 ||

katham anenākāṣa-dṛṣṭānteṇa tathāgata-dhātor ²⁾ aṣuddhā=
vasthāyām avikāra-dharmatā paridipitā | tad ucyate |
³⁾

nābhinirvartayat enaṁ karma-kleṣāmbu-
saṁcayaḥ |
na nirdahaty udi (25a) rṇo'pi mṛityu-vyādhi-
jarānalaḥ || 64 ||

yadvad ayoniṣo-manas-kāra-vāta-maṇḍala-saṁbhūtaṁ karma-
kleṣōdaka-rāṣim ⁴⁾ pratītya skandha-dhātva-āyatana-loka-nirvṛti=
ttyā citta-prakṛiti-vyoma-dhātor ⁵⁾ vivarto na bhavati |
tadvad ayoniṣo-manas-kāra-karma-kleṣa-vāyva-ap-skandha-pratiṣ=
ṭhitasya skandha-dhātva-āyatana-lokasyāstaṁgamāya mṛityu-
vyādhi-jarāgni-skandha-samudayād api tad asaṁvarto vedita=
vyaḥ | ity evam aṣuddhāvasthāyām bhāṇa-lokavad aṣeṣa-kleṣa
(XII a)-karma-janma-saṁkleṣa-samudayāstaṁgame 'py ākāṣavad
asaṁskṛitasya tathāgata-dhātor ⁶⁾ anutpādānirodhād atyantam
avikāra-dharmatā paridipitā | eṣa ca prakṛiti-viṣuddhi-mukhaṁ
dharmāloka-mukham ārabhyākāṣa-dṛṣṭānto vistareṇa yathā ⁷⁾ sū=
tram anugantavyaḥ | ⁸⁾ kavir mārṣā kleṣāḥ | āloko viṣuddhiḥ |

1) Tは jātu 欠く。

2) Tは dhātor が sñān-po (garbhasya)

3) C はここに “不正思惟風……所不能散壞” がある。Tは 欠く。

4) T rāṣim を 欠く。

5) T dhātor を 欠く。

6) T dhātor が sñān-po (garbhasya)

7) O氏はこの経を gaganagañja sūtra と考証している。

8) kavir を T には mun-pa (tamas)

如、虚空、淨心。
客塵煩惱、染。
此、虚空、譬喻、偶示、現、何義、明、下、如来性、依、不、淨、時、法、体、不、變、。偶、言、。
2) 不正思惟風。
不、為、彼、二、生、。
邪念思惟風。
3) 所、不、能、散、壞、。
老病死、熾、火、。
5) 所、不、能、燒、然、。
此、偈、明、何、義、。如、下、依、邪、念、風、輪、起、業、煩惱、水、聚、。依、業、煩惱、水、聚、。生、陰、界、入、世、間、。而、自、性、
心、虚、空、。不、生、不、起、。偶、言、。不、正、思、惟、風、諸、業、煩惱、水、自、性、心、虚、空、。不、為、彼、二、生、故、。如、是、依、邪、念、
風、災、業、行、煩惱、水、災、老、病、死、等、火、災、。吹、浸、燒、壞、。陰、入、界、世、間、。而、自、性、清、淨、心、虚、空、。常、住、。不、
壞、。如、是、於、不、淨、時、中、器、世、間、相、似、相、對、法、諸、煩惱、染、業、染、生、集、有、滅、。諸、仏、如、來、無、為、之、
性、猶、如、虚、空、。不、生、不、滅、。常、不、變、易、。示、現、法、体、。此、自、性、清、淨、法、門、虚、空、。譬、喻、如、陀、羅、尼、自、在、王、
菩、薩、修、多、羅、中、廣、說、。應、知、。彼、經、中、言、。諸、善、男、子、。煩、惱、本、無、体、真、性、本、明、淨、。

1) 元=無 宋・元・明・宮本。今無に改む。

2) 梵藏は三偈の中前の二偈を欠く。

3) 所不能=不能吹 宋・元・明・宮本。

4) 火=光 宮本。

5) 所=亦 宋・元・明・宮本。

6) 入界=界入 宋・元・明・宮本。

7) 不+(可) 宋・元・明・宮本。

durbalāḥ kleṣāḥ | balavati vipaṣyanā | āgantukāḥ kleṣāḥ | mūla-
 viçuddhā prakṛtiḥ | parikalpāḥ kleṣāḥ | aparikalpā prakṛtiḥ | tad-
 yathā mārṣa iyaṁ mahā-prithivī apsu pratiṣṭhitā | āpo vāyau
 pratiṣṭhitāḥ | vāyur ākāṣe pratiṣṭhitāḥ | apratiṣṭhitāṁ cākāṣam
 | evam eṣāṁ caturṇām dhātūnām prithivī-dhātor ab-dhātor 5
 vāyur-dhātor ākāṣa-dhātor eva balīyo dṛiḍho 'calo 'nupacayo 1)
 'napacayo 'nutpanno 'niruddhaḥ sthitaḥ sva-rasa-yogena | tatra
 ya ete trayo dhātavaḥ ta utpāda-bhaṅga-yuktā anavasthitā
 acira-sthāyinaḥ | dṛiṣyata eṣāṁ vikāro na punar ākāṣa-dhātoḥ 2)
 (25 b) kaṣ-cid vikāraḥ | evam eva skandha-dhātv-āyatanāni 10
 karma-kleṣa-pratiṣṭhitāni | karma-kleṣā ayoniḥ-manas-kāra-
 pratiṣṭhitāḥ | ayoniḥ-manas-kāraḥ prakṛiti-pariçuddhi-
 pratiṣṭhitāḥ | tata ucyate prakṛiti-prabhāsvaraṁ cittam
 āgantukair upakleṣair upakliṣyata iti | tatra paçcād yo 'yoniḥ-
 manas-kāro ye ca karma-kleṣā yāni ca skandha-dhātv-āyatanāni 15
 sarva ete dharmā hetu-pratyaya-saṁgrīhitā utpadyante hetu-
 pratyaya-visāmagryā nirudhyante | yā punaḥ sā prakṛitis tasyā
 na hetur na pratyayo na sāmāgrī nōtpādo na nirodhaḥ | tatra
 yathā kāṣa-dhātus tathā prakṛtiḥ | yathā vāyur-dhātus tathā yon-
 iḥ-manasi-kāraḥ | yathā dhātus tathā karma-kleṣāḥ | yathā 20
 prithivī-dhātus tathā skandha-dhātv-āyatanāni | tata ucyante
 sarva-dharmā 3) asāra-mūlā apratiṣṭhāna-mūlāḥ çuddha-mūlā
 amūla-mūlā iti |

uktam açuddhāvasthāyām avikāra-lakṣaṇam ārabhya prakṛiter
 ākāṣa-dhātu⁴⁾ - sādharmyaṁ tad āçritasyāyoniḥ-manasi-kārasya 25
 karma-kleṣānām ca hetu-lakṣaṇam ārabhya vāyur-dhātu-sādha-
 rmyam ab-dhātu-sādharmyaṁ ca tat-prabhavasya skandha-dhātv-
 āyatanasya vipāka-lakṣaṇam ārabhya prithivī-dhātu-sādharmyam
 | tad-vibhava-kāraṇasya tu mṛityu-vyādhi-jarāgner upasarga-

- 1) T は anupacaya を欠く。
 2) T に dhātoḥ を欠く。
 3) T は rtsa-ba yonīs-su-chad-pa ste (mūla-paricchinna) がある。
 4) T dhātu を欠く。

一切、煩惱、羸薄、毗婆舍那、有大勢力。一切、煩惱、客塵、自性清淨心根本。一切、諸、煩惱、虛妄分別、
 自性清淨心、如雲、不分別。諸、仙子。譬如、大地、依水而住。水、依風而住。風、依空而住。而、彼、虛空、
 無、依住、處。諸、善男子。如是、四大、地、水、火、風、大、空、大、此、四大、中、唯、虛空、大、以、為、最、勝、以、為、大、
 力、以、為、堅、固、以、為、不、動、以、為、不、作、以、為、不、散、不、生、不、滅、自、然、而、住。諸、善、男、子。彼、三、種、大、
 生、滅、相、應、無、實、體、性。剎、那、不、住。諸、仙、子。此、三、種、大、變、異、無、常。諸、仙、子。而、虛、空、界、常、不、變、異。
 諸、仙、子。如、是、陰、界、入、依、業、煩惱、住。諸、煩惱、業、依、不、正、思、惟、住。不、正、思、惟、依、於、自、性、自、性、清、
 淨、心、住。以、是、義、故、經、中、說、言、自、性、清、淨、心、客、塵、煩惱、染、諸、善、男、子。所、有、邪、念、所、有、煩、惱、業、
 所、有、陰、界、入、如、是、諸、法。1) 從、於、因、緣、和、合、而、生、以、諸、因、緣、壞、散、而、滅。諸、善、男、子。彼、自、性、清、
 淨、心、無、因、無、緣、故、無、和、合、不、生、不、滅。諸、善、男、子。如、虛、空、界、自、性、清、淨、心、亦、復、如、是。如、風、
 大、界、不、正、思、惟、亦、復、如、是。3) 如、水、火、大、界、諸、業、煩惱、亦、復、如、是。如、地、火、大、界、陰、界、入、等、亦、復、如、
 是。是、故、說、言。一、切、諸、法、皆、無、根、本、皆、無、堅、實。無、住、無、本。根、本、清、淨、無、根、本、故。
 已、說、不、淨、時、中、依、無、分、別、相、自、性、清、淨、心。虛、空、界、相、似、相、對、法。已、說、依、彼、起、不、正、念、風、界、
 相、似、相、對、法。已、說、依、不、正、念、諸、業、煩惱、因、相、水、界、相、似、相、對、法。已、說、依、彼、生、陰、界、入、果、相、
 轉、變、地、相、似、相、對、法。未、說、彼、焚、燒、死、病、老、等、諸、過、患、相、

- 1) 從 = 後 宮本。
 2) [無] - 宋・元・明・宮本。
 3) [如水……是] 12字 - 明本。

asya khalu mṛityu-vyādhi-jarā-⁶⁾ duḥkha-vahner aṣuddhā=
vasthāyām ayoniḥ-manasi-kāra-karma-kleṣa-pūrvikā jātir indha=
nam ivôpādānam bhavati | yasya mano-mayātma-bhāva-pratila=
bdheṣu bodhisattveṣu cūddhācūddhāvasthāyām atyantam anābhā=
sa-gamanād itarasyātyantam anujjvalanam prajñāyate |

5

¹⁾ janma - mṛityu - jarā - vyādhin darṣayanti
kṛipātmakāḥ |
jāty-ādi- ²⁾vinivṛittāḥ ca yathā-bhūtasya
darṣanāt || 68 ||

kuṣala-mūla-³⁾saṃyojanād dhi bodhisattvāḥ saṃcintyôpapatti- 10
vaçitā-saṃniḥçrayeṇa karuṇayā trai-dhātuke saṃçliṣyante |
jātim apy upadarṣayanti jarām api vyādhim api maraṇam apy
upadarṣayanti | na ca teṣām ime jāty-ādayo dharmāḥ saṃvidyante |
⁴⁾yathāpi tad asyāiva dhātor yathā-bhūtam ajāty-anutpatti-
darṣanāt | sā punar iyaṃ bodhisattvāvasthā vistareṇa yathā 15
sūtram anugantavyā | yad āha | katame ca te saṃsāra-pravartakāḥ
kuṣala-mūla-saṃprayuktāḥ kleṣāḥ | yad uta puṇya-saṃbhāra-
paryeṣṭy-atṛiptatā | saṃcintya-bhavôpapatti-parigrahaḥ | buddha-
samavadhāna-prārthanā | sattva-paripākāparikhedāḥ saddharma-
parigrahôdyogaḥ | sattva kim - karaṇiyôtsukatā | dharma- 20
⁵⁾rāgānuçayānutsargaḥ | pāramitā-saṃyojanānām aparityāgaḥ |
ity ete sāgaramate kuṣala-mūla-saṃprayuktāḥ kleṣā yair bodhi-
sattvāḥ saṃçliṣyante | na khalu kleṣa-doçair lipyante | āha
punar | yadā bhagavan kuṣala-mūlāni tat kena kāraṇena kleṣā
ity ucyante | āha | tathā hi sāgaramate ebhir evaṃ-rūpaiḥ 25
⁶⁾kleṣair bodhisattvās trai-dhātuke çliṣyante | ⁷⁾kleṣa-saṃbhūtam

此偈明三何義。明此老病死等苦火。於三不淨時。依三業煩惱。本一生。如世間火。依薪本生。以三諸菩薩得生三意。生身。於三淨不淨時。畢竟永滅。以三義。故諸業煩惱等。當不能燒然。一。而依三慈悲。力。故示現生老病死。而遠離生等。以見如實。一故。
以三。是義。故。諸菩薩摩訶薩。依三善根。結使。生。非。依三業煩惱。結使。生。以下。依三心。自在力。生。依三大悲力。現。於三界。示現生。示現老。示現病。示現死。而彼無。有。生老病死。諸苦等法。以三如實見。真如。性。不生不滅。是名。不。淨。淨。淨。淨。如。修多羅。中。依。受。三無漏業。根本煩惱。廣說。心。知。如。來。於。大。海。慧。菩薩。經。中。說。言。大。海。慧。何。者。能。住。世。間。善。根。相。應。煩惱。所謂。集。諸。善。根。無。有。厭。足。故。以。心。願。生。攝。取。諸。有。故。求。見。一。切。諸。佛。如。來。故。教。化一切。衆生。心。不。疲。倦。故。攝。取。一。切。諸。佛。妙。法。故。於。三。諸。衆生。常。作。三。利。益。故。常。不。捨。離。樂。食。諸。法。結。使。故。常。不。捨。離。諸。波。羅。蜜。結。使。故。大。海。慧。是。名。三。諸。善。根。相。應。煩惱。依。此。煩惱。諸。善。根。三。於。三。界。受。三。種。苦。不。為。三。界。煩惱。過。患。之。所。染。汚。大。海。慧。菩薩。白。佛。言。世。尊。此。諸。善。根。以。三。何。義。故。說。名。三。煩惱。佛。告。三。大。海。慧。菩薩。言。大。海。慧。如。是。煩惱。諸。善。根。三。能。生。三。界。受。三。種。苦。依。此。煩惱。故。有。三。界。非。下。染。三。煩惱。三。界。中。生。上。

1) この偈頌はCに於ては長行となっている。TはSに同じ。

2) Tは ḥdas-gyur(vyativṛittāḥ)

3) Tは srid-pa kun-tu sbyor-ba(bhava-saṃyojana)

4) Tは yathāpi を欠く。

5) T chags-paḥi bsam-pa(rāgāçaya)

6) Tは rañ-bshin-gyi-ñon-moñs-pa(prakṛiti-kleṣa)

7) Tは kun-nas-ñon-moñs-pa(saṃkleṣa)

1) [滅]—宮本。

2) “而依……如實故”は梵藏共偈頌。

3) [力]—宮本。

4) [以是義故]—宋・元・明・宮本。

5) 淨=雜 宮本。

6) [如]—宋・元・明・宮本。

ca trai-dhātukam | tatra bodhisattvā upāya-kauṣālena ca kuṣāla-
mūla-balānvādhānena ca saṁcintya trai-dhātuke cīṣyante |
tenōcyante kuṣāla-mūla-saṁprayuktāḥ kleṣā iti | yāvad eva
trai-dhātuke cīṣatayā na punaḥ cittōpakleṣatayā |

syād yathāpi nāma sāgaramate cīṣṭhino grīha-pater eka- 5
(27a) putraka iṣṭaḥ kāntaḥ priyo manāpo 'pratikūlo darṣanena
sa ca dārako bāla-bhāvena nṛityann eva mīḍha-kūpe prapateta |
atha te tasya dārakasya mātṛi-jñātayaḥ paṇḍeyus tam dārakam
mīḍha-kūpe prapatitam | dṛiṣṭvā ca gambhīram niṣvaseyuh choceyuh
parideveran | na punas tam mīḍha-kūpam avaruhya tam 10
dārakam adhyālambran | atha tasya dārakasya pitā tam
pradeṣam āgacchet | sa paṇḍetāika-putrakam mīḍha-kūpe
prapatitam dṛiṣṭvā ca cīghra-cīghram tvaramāṇa-rūpa eka-putra=
kādhyaṣaya-premanunito 'jugu (XIIIa) psamānas tam mīḍha-
kūpam¹⁾ avaruhyaika-putrakam abhyutkṣipet | iti hi sāgaramate 15
upamāṣā kṛitā yāvad evārthasya vijñaptaye | kaḥ²⁾ prabandho
draṣṭavyaḥ | mīḍha-kūpa iti sāgaramate trai-dhātukasyāṭad
adhivacanam | eka-putraka iti sattvānām etad adhvacanam |
sarva-sattveṣu hi bodhisattvasyāika-putra-samjñā pratyupasthitā 20
bhavati | mātṛi-jñātaya iti cīrāvaka-pratyekabuddha-yāniyānām
pudgalānām etad adhvacanam ye saṁsāra-prapatitān sattvān
dṛiṣṭvā cōcanti paridevante na punaḥ samarthā bhavanty
abhyutkṣeptum | cīṣṭhi grīha-patir³⁾ iti bodhisattvasyāṭad
adhivacanam yaḥ cūcir vimalo nirmala-citto 'saṁskṛita-dharma- 25
pratyakṣa-gataḥ saṁcintya trai-dhātuke pratisaṁdadhāti sattva-
paripākārtham | sēyam sāgaramate bodhisattvasya mahā-karuṇā
yad atyanta-parimuktaḥ sarva-bandhanebhyaḥ punar eva bhavō=
papattim upādadāti | upāya-kauṣālya-prajñā-parigṛihitaḥ ca
saṁkleṣair na lipyate | sarva-(27b)kleṣa-bandhana-prahāṇāya ca
sattvebhyo dharmam deṣayatīti | tad anena sūtra-pada- nirde= 30

1) T は kūpam が gnas (sthāna)

2) T は prabandha が don (artha)

3) T は khyim-bdag chen-po(mahā-grīha-patir)

大海慧。菩薩以方便智力。依善根力。故心生三界。是故名爲善根相心煩惱。而生三界。非染心生。

大海慧。譬如長者居士等。唯有二子。甚愛甚念。見者歡喜。而彼一子依愚癡心。因戲樂。故墮在極深糞廁井中。時彼父母及諸親屬。見彼一子墮在大廁深坑糞中。見已歎歎悲泣啼哭。而不得入。彼極深廁糞屎器中。而出其子。爾時彼處衆中更有二長者子。或一居士子。見彼小兒墮在深廁糞屎井中。見已疾疾生一子想。生愛念心。不起惡心。即入深廁糞屎井中。出彼一子。大海慧。爲顯彼義。說此譬喻。大海慧。何者彼義。大海慧。言極深井糞屎坑。者名爲三界。大海慧。言一子者。一切衆生。諸菩薩等於一切衆生。生一子想。大海慧。爾時父母及諸親者。名爲聞辟支仙人。以二乘人見諸衆生。墮在世間極大深坑糞屎井中。既見彼已悲泣啼哭。而不得拔。彼諸衆生。大海慧。彼時更有二長者子。一居士子。者名爲菩薩摩訶薩。離諸煩惱。清淨無垢。以離垢心。現見無爲真如法界。以自在心。現生三界。爲教化彼諸衆生。故。大海慧。是名菩薩摩訶薩大悲。畢竟遠離諸有。畢竟遠離諸縛。而迴生於三界有中。

以依方便般若力。故諸煩惱火不能焚燒。欲令一切諸衆生等。遠離諸縛。而爲說法。

çena para-hita-kriyārtham vaçino bodhisattvasya samcintya
 1) bhavôpapattau kuçala-mūla-karuṇā-balābhyām upaṇṇāṣād upāya-
 prajñā-balābhyām ca tad asamkleṣād aṣuddha-ṣuddhāvasthā
 paridipitā |

tatra 2) yadā bodhisattvo yathā-bhūtā jāty-anutpatti-darṣanam 5
 āgamya tathāgata-dhātor imāṃ bodhisattva-dharmatām anuprā-
 pnoti tathā 3) vistareṇa yathā-sūtram anugantavyam | 4) yad āha |
 paçya sāgaramate dharmāṇām asāratām akāraṇatām nirātmatām
 niḥsattvatām nirjivatām niḥpudgalatām asvāmikatām | yatra
 hi nāma yathēṣyante 5) tathā viṭhapyante viṭhapitāḥ ca samānā 10
 na cetayanti na prakalpanti | imāṃ sāgaramate dharmā-
 viṭhapanām 6) adhimucya bodhisattvo na kasminç-cid dharme
 parikhedam utpādayati | tasyāiva jñāna-darṣanam çuci-ṣuddham
 bhavati | nātra kaç-cid upakāro vāpakāro vā kriyata iti | evaṃ
 ca dharmāṇām dharmatām yathā-bhūtaṃ prajānāti | evaṃ ca 15
 mahā-karuṇā-samānāṃ na tyajati | syād yathāpi nāma sāgaramata
 'nargham vaiḍūrya-maṇi-ratnaṃ svavadāpitaṃ supariṣuddham
 suvimalaṃ kardama-parikṣiptaṃ varṣa-sahasram avatiṣṭheta | tad
 varṣa-sahasrātyayena tataḥ kardamād abhyutkṣipyā loḍyeta par-
 yavadāpyeta | tat sudhautam pariṣodhitam paryavadāpitaṃ 7) samā= 20
 nam tam eva ṣuddha-vimala-maṇi-ratna-svabhāvaṃ na jahyāt |
 evaṃ eva sāgaramate bodhisattvaḥ sattvānām prakṛiti-prabhāsva-
 ratām cittasya prajānāti | tām punar āgantukô(28a) pakleṣôpakli-
 ṣṭām paçyati | tatra bodhisattvasyāivaṃ bhavati | nāte kleṣāḥ

仙言。大海慧。譬如無偏大毗瑠璃摩尼宝珠。善治善淨。善光明。望在泥中。住一千年。彼摩
 尼宝珠。三千年。後乃出。彼泥。出已水洗。洗已極淨。極淨洗已。然後極明。即不失本。清淨無垢。
 摩尼宝珠。大海慧。菩薩摩訶薩。亦復如是。如實知見一切衆生。自性清淨。光明淨心。而為客
 塵煩惱。所染。大海慧。諸菩薩等。生如是心。

大海慧。我今說此修多羅句。依諸菩薩心。為利益一切衆生。得自在力。而生三有。依
 諸善根慈悲心力。依於方便般若力。故是名。示現淨不淨時。
 又菩薩摩訶薩。以如實智。知如來法身。不生不滅。故得如是。是菩薩摩訶薩功德法體。此
 修多羅句。向前已說。自此說。大毗瑠璃摩尼宝喻。

1) T は bhava 欠く。

2) T は P 版 ji-lta-ba (yathā), D 版欠。

3) T vistareṇa 欠く。

4) C は “yad āha……na tyajati” を欠き, “此修多羅…摩尼宝喻”がある。

5) T は tathā viṭhapyante viṭhapitāḥ ca samānā を欠く。

6) T は viṭhapanām が gshan-du mi-hgyur-ba (ananyathātva)

7) T samānam を欠く。

1) [摩訶薩]— 宋・元・明・宮本。

2) 梵文下註4)参照。

sattvānām citta-prakṛiti-prabhāsvaratāyām praviṣṭāḥ | āgantukā
ete kleṣā abhūta-parikalpa-samutthitāḥ | caknuyām ahaṁ punar
eṣāṁ sattvānām ¹⁾āgantukleṣāpanayanāya dharmaṁ deçayitum
iti | evaṁ asya nāvaliyanā-cittam utpadyate | tasya bhūyasyā
mātrayā sarva-sattvānām antike pramokṣa-cittōtpāda utpadyate 5
| evaṁ cāsya bhavati | nāteṣāṁ kleṣānām kim-cid balaṁ sthāma
vā | abalā durbalā ete kleṣāḥ | nāteṣāṁ kim-cid bhūta-prati-
ṣṭhānam | abhūta-parikalpitā ete kleṣāḥ | te yathā-bhū (XIII b)
ta-yoniṣo-manasi-kāra-nirikṣitā na kupyanti | te 'smābhis tathā
pratyavekṣitavyā yathā na bhūyaḥ ṣṭiṣyeyuh | aḥleṣo hi kleṣā- 10
nām sādthur na punaḥ ṣṭeṣaḥ | yady ahaṁ kleṣānām ṣṭiṣyeya
tat katham kleṣa-bandhana-baddhānām sattvānām kleṣa-bandha-
na-prahāṇāya dharmaṁ deçayeyam | hanta vayan kleṣānām ca
na ṣṭiṣyāmahe kleṣa-bandhana-prahāṇāya ca sattvebhyo dha- 15
rmaṁ deçayiṣyāmaḥ | ye punas te saṁsāra-prabandhakāḥ kuçala-
mūla-saṁprayuktāḥ kleṣās teṣv asmābhiḥ sattva-paripākāya
ṣṭeṣavyam iti |

saṁsāraḥ punar iha trai-dhātuka-pratibimbakam anāsrava-
dhātau manomayaṁ kāya-trayaṁ abhipretam | tad dhy anāsrava-
kuçala-mūlābhisamskṛitatvāt saṁsāraḥ | sāsrava-karma-kleṣāna- 20
bhisamskṛitatvān nirvāṇam api tat | yad adhikṛityāha | tasmād
bhagavann asti saṁskṛito 'py asaṁskṛito 'pi saṁsāraḥ | asti
saṁskṛitam apy asaṁskṛitam api nirvāṇam iti | (28b) tatra
saṁskṛitāsaṁskṛita-saṁsṛiṣṭa-citta-caitasika-samudācāra-yogād
iyam aḥuddha-ḥuddhāvasthēty ucyate | sā punar āsrava-kṣayā= 25
bhijñābhīmukhy-asaṅga-prajñā-pāramitā-bhāvanayā mahā-karu-
ṇā-bhāvanayā ca sarva-sattva-dhātu-paritrāṇāya tad-asākṣāt-
karaṇād abhimukhyāṁ bodhisattva-bhūmau prādhānyena vya-
vasthāpyate |

yathōktam āsrava-kṣaya-jñānam ārabhya nagarôdāharaṇam |

2)

1) T は ñe baḥi ñon moṁs pa shi bar bya baḥi phyir (upakleṣa-çamanāya)

2) C に “善男子……不思議如是” がある。

彼、諸煩惱不染。衆生自性淨心。是諸煩惱客塵。妄分別心起。而彼諸菩薩復生是心。我
今畢竟令諸衆生遠離客塵諸煩惱。垢。為之說法。如是菩薩不生怯弱心。轉於一切衆生
生。增上力。我要畢竟令得解脫。菩薩爾時復生是心。此諸煩惱無有少休。菩薩爾時復生
是心。諸煩惱無體。諸煩惱羸薄。是諸煩惱無有住處。如是菩薩如實知諸煩惱虛妄分別而
有。依邪見念而有。以正見者。諸煩惱垢不能得起。菩薩爾時復生是心。我若自起諸煩惱
諸煩惱。更不復生。以不生煩惱。故生諸善法。菩薩爾時復生是心。我若自起諸煩惱
者云何。而得為諸煩惱所縛。衆生說法令離諸煩惱縛。菩薩爾時復生是心。以我不
著諸煩惱。故是故得為諸煩惱縛。衆生說法。我應修行諸波羅蜜。結使煩惱相應善
根。為欲教化諸衆生。故。
又復云何名為世間。以三界相似鏡像。法。故。此明何義。依無漏法界中。有三種意生
身。應知。彼因無漏善根。所作名為世間。以離有漏諸業煩惱。所作世間法。故亦名涅槃。
依此義。故聖者勝鬘經言。世尊。有有為世間。有無為世間。世尊。有有為涅槃。有無為
涅槃。故。又有為無為心心數法相應法。故。故說名為淨不淨時。此義於第六菩薩現前地說。
彼諸漏盡。障礙般若波羅蜜。解脫現前修行大悲。以為救護一切衆生。故不取証。
如。寶鬘經。中依漏盡。故說入城喻。彼經中言。善男子。譬如內有城。縱正等。各一
由旬。多有諸門。路險黑闇。甚可怖畏。有三人入者。多受安樂。

1) (清) + 淨 宋・元・明・宮本。

2) [諸] - 宋・元・明・宮本。

3) 以下梵藏欠。

4) ((各一……語))七字=((唯一))三字 宮本。

evam eva kula-putra bodhisattvo mahatā yatnena mahatā viryeṇa 10
 dṛḍhayādhyācaya-pratipattyā pañcābhijñā utpādayati | tasya
 dhyānābhijñā - parikarma - kṛita-cittasyāsrava - kṣayo 'bhimukhī-
 bhavati | sa mahā-karuṇā-cittōtpādena sarva-sattva-paritrāṇā=
 yāsrava-kṣaya-jñāne parijayam kṛitvā punar api suparikarma-
 kṛita-cetasah¹⁾ 15

ṣaṣṭhyām ²⁾ asaṅga-prajñōtpādād āsrava-kṣaye 'bhimukhī-
 bhavati | evam asyām abhimukhyām bodhisattva-bhūmav
 āsrava-kṣaya-sāṅgāt-karaṇa-vaçitva-lābhino bodhisattvasya viçu=
 ddhāvasthā paridīpitā | tasyāivam ātmanā samyak-pratipannasya 20
 parān api cāsyām eva samyak-pratipattau sthāpayiṣyāmīti mahā-
 karuṇayā vipratipanna-sattva-paritrāṇābhiprāyasya çama-sukhā=
 nāsvādanatayā tad - upāya-kṛita-parijayasya saṁsārābhimukha-
 sattvāpekṣayā nirvāṇa-³⁾ vimukhasya bodhy-aṅga-paripūraṇāya
 dhyānair vihritya punaḥ kāma-dhātau saṁcintyōpapatti-parigra=
 haṇato yāvad açu sattvānām artham kartu-kāmasya vicitra-
 tiryag - yoni - gata-jātaka - prabhedena prithag - janātmabhāva-sa=
 mdaṛçana-vibhūtvā-lābhino 'viçuddhā (29a) vasthā paridīpitā | 25

⁴⁾ aparah çlokārthaḥ |

- 1) C に “而廻転……滅尽定現前” がある。テキストに cetāḥ とあるも B に従う。
 2) T は sa-drug-pa-la (ṣaṣṭhā-bhūmau)
 3) T は mñon-du phyogs-par (abhimukhasya)
 4) C は “aparah……(79偈の前の) paridīpitah” を欠く。

復有二人。唯有一子。愛念甚重。遙聞彼城。如是快樂。即便捨子。欲往入城。是人方
 便得過險道。到彼城門。一足已入。一足未舉。即念其子。尋作是念。我唯一子。來時云
 何。竟不與俱。誰能發護。令離衆苦。即捨棄城。還至乙子所。善男子。菩薩摩訶薩亦復如是。
 為憐愍。故修集五通。既修集已。垂得盡漏。而不取證。何以故。愍衆生。故捨漏。盡通
 乃至行。於凡夫地中。善男子。城者喻於大般涅槃。多諸門者喻於八萬諸三昧門。路險難
 者喻諸魔業。到城門者喻於五通。二足入者喻於智慧。一足未入者喻諸菩薩未証解
 脫。言三子者喻於五道。一切衆生。顧念三子者喻大悲心。還三子所者喻調衆生。能得解
 脫。而不証者。即是方便。善男子。菩薩摩訶薩。大慈大悲。不可思議。如是。善男子。菩薩摩訶薩。
 大方便力。發大精進。起堅固心。修行禪定。得証五通。如是。善男子。菩薩依禪通業。善修心
 淨。無漏。滅盡定現前。如是。善薩即得生於大悲之心。為救一切諸衆生。故現前無漏智通。
 4) 而廻転。不取寂滅涅槃。以為教化諸衆生。故廻取世間。乃至示現凡夫人地。於第
 四菩薩地中。為自利益。善起精進。為利他。善起堅固心。漏盡現前。於第五菩薩難
 勝地中。依止五通。自利利他。善熟心行。無漏滅盡定現前。是故於第六菩薩地中。無障礙
 般若波羅蜜起。漏盡現前。是故於第六菩薩現前地中。得漏盡自在。說名清淨。是菩薩如是
 自身正修行。教化衆生。令置彼處。得大慈悲心。於顛倒衆生。生救護心。不著寂滅
 涅槃。善作彼方便。現前世間門。為衆生。故現前涅槃門。為善提分滿足。故修行四禪。
 迴生欲界。以為利益。益地獄畜生餓鬼凡夫種種衆生。示現諸身。5) 以得自在。故已說。依
 不淨淨時。不變不異。

- 1) 集 = 習 宋・元・明・宮本。
 2) 多諸 = 唯有一 宮本。
 3) 入 = 舉 宋・元・明・宮本。
 4) 梵藏に欠く。
 5) 以 = 已 宋・元・明・宮本。
 6) 梵文の下註 4) 参照。

dharmatām prativicyēmām avikārām jinā=	
tma-jah	
dṛiṣyate yad avidyāndhair jāty-ādiṣu tad	
adbhutam 69	
ata eva jagad-bandhor upāya-karuṇe pare	5
yad ārya-gocara-prāpto dṛiṣyate bāla-gocare	
70	
sarva-loka-vyatito 'sau na ca lokād viniḥs=	
ṛitaḥ	
loke carati lokārtham alipto laukikair	10
malaib 71	
yatlāiva nāmbhasā padmaṁ lipyate jātam	
ambhasi	
tathā loke 'pi jāto 'sau loka-dharmair na	
lipyate 72	15
nityōjjvalita-buddhiḥ ca kṛitya-sampādane	
'gnivat	
çānta-dhyāna-samāpatti-pratipannaḥ ca sa=	
rvadā 73	
pūrvāvedha-vaçāt sarva-vikalpāpagamāc ca	20
saḥ	
na punaḥ kurute yatnaṁ paripākāya dehi=	
nām 74	
yo yathā yena vaineyo manyate 'sau tathāiva	
tat	25
deçanyā rūpa-kāyābhyām caryayēryā-pathena	
vā 75	
anābhogena tasyāivam avyāhata-dhiyaḥ	
sadā	
jagaty ākāṣa-paryante sattvārthaḥ sampra=	30
vartate 76	
etām gatim anuprāpto bodhisattvas tathā=	

gataiḥ |
samatām eti lokeṣu sattva-saṁtāraṇam
prati || 77 ||

atha cānoḥ pṛithivyāḥ ca gos padasyôdadheḥ
ca yat |
antaram bodhisattvānām buddhasya ca tad
antaram || 78 ||

5

eṣām daṣānām ṣlokānām yathā-kramam navabhiḥ ṣlokaiḥ
pramuditāyā bodhisattva-bhūmer adhaḥ ca saṁkleṣa-paramatām
daṣamena ṣlokena dharma-meghāyā bodhisattva-bhūmer ūrdhvaṁ 10
viṣuddhi-¹⁾ paramatām upanidhāya samāsataḥ caturṇām bodhisattvānām daṣaḥ ²⁾ bodhisattva-bhūmiṣu viṣuddhir aviṣuddhiḥ
ca paridīpitā | catvāro bodhisattvāḥ prathama-cittôtpādikaḥ |
caryā-prati (29b) pannaḥ | avaivartikaḥ | eka-jāti-pratibaddha
iti | tatra prathama-dvitiyābhyām ṣlokābhyām anādi-kālikam 15
adṛṣṭa-pūrva-prathama-lokôttara-dharmatā-prativedhāt pramuditāyām bhūmau³⁾ prathama-cittôtpādika-bodhisattva-⁴⁾ gaṇa-⁵⁾ viṣuddhi-lakṣaṇam paridīpitam | tritiya-caturthābhyām ṣlokābhyām
anupalīpta-caryā-caraṇād vimalām bhūminī upādāya yāvad⁶⁾
dūramgamāyām bhūmau caryā-pratipanna-bodhisattva-guṇa- 20
viṣuddhi-lakṣaṇam paridīpitam | pañcamena ṣlokena nirantara-
mahā - bodhi - samudāgama - prayoga-samādhiṣu vyavasthitatvād
acalāyām bhūmāv avaivartika-bodhisattva-guṇa-viṣuddhi-lakṣa-
ṇam paridīpitam | ṣaṣṭhena saptamenāṣṭamena ca ṣlokena sakala-
sva-parārtha-saṁpādanôpāya-niṣṭhā-gatasya buddha-bhūmy-eka- 25
carama-janma-pratibaddhatvād anuttara-paramābhisambodhi-
prāpter dharma-meghāyām bodhisattva-bhūmāv eka-jāti-pratiba-

1) T は paramatām を欠く。

2) T は bodhisattva を欠く。

3) T は sa dañ-po rab-tu dgaḥ-ba-la (pramuditāyām prathama-bhūmau)

4) T は yon-tan (guṇa) 次の文より見て guṇa であろう。

5) T は yon-su dag-paḥi (pariṣuddhi) 以下も T は (pariṣuddhi)

6) dūramgamāyām を T は mi-gyo-ba (acalā)

ddha-bodhisattva-guṇa-ṣiuddhi-lakṣaṇam paridīpitam | nava=
mena daṣamena ca ṣlokena parārtham ātmārtham cārabhya
niṣṭhā-gata-bodhisattva-tathāgatayor guṇa-ṣiuddher 1) aṣiṣeṣo
viṣeṣaḥ ca paridīpitah |

tatra ṣiuddhāvasthāyām avikārārtham ārabhya **ṣlokaḥ** | 5
ananyathātmākṣaya-dharma-yogato jagac-
charaṇyo 'naparānta-koṭitah |
sadādvayo 'sav avikalpakatvato 'vināṣa-
dharmāpy akṛita-svabhāvataḥ || 79 ||

anena kim darṣayati | 10
na jāyate na mriyate bādhyate no na jīryate |
sa nityatvād dhruvatvāc ca cīvatvāc chācṣvata-
(30a) tvataḥ || 80 ||

na jāyate sa nityatvād ātmabhāvair mano-
mayaiḥ | 15

acintya-pariṇāmena dhruvatvān mriyate na
saḥ || 81 ||

vāsanā-vyādhībhiḥ sūkṣumair bādhyate na
cīvatvataḥ |

anāsravābhisamskāraiḥ cācṣvatatvān na
jīryate || 82 || 20

sa khalv eṣa tathāgata-dhātur buddha-bhūmav atyanta-vima=
la-ṣiuddha-prabhāsvaratāyām sva-prakṛitau sthitaḥ pūrvāntam
upādāya nityatvān na punar jāyate manomayair ātmabhāvaiḥ |
aparāntam upādāya dhruvatvān na punar mriyate 'cintya- 25
pāriṇāmikyā cyutyā | pūrvāparāntam upādāya cīvatvān na
punar bādhyate 'vidyā-vāsa-bhumi-parigraheṇa | yaḥ cāivam
anarthāpatitah sa cācṣvatatvān na punar jīryaty anāsrava-karma-
phala-pariṇāmena |

tatra dvābhyām atha dvābhyām dvābhyām 30
dvābhyām yathā-kramam |
padābhyām nityatādy-artho vijñeyo 'samsṛkṛite

1) T は ṣiuddher を欠く。

次説、依善淨時、不變不異、故説、二偈。
以、身、不變異、
以、無、邊、際、故、
恒、不、熱、不、作、
此、偈、示、現、何、義、偈、言、
不、生、及、不、死、
及、不、變、等、一、故、
此、偈、明、何、義、偈、言、
以、常、故、不、生、
離、不、思、議、退、
不、變、故、不、老、
此、偈、明、何、義、明、如、來、性、於、三、地、時、無、垢、清、淨、光、明、常、住、自、性、清、淨、
以、離、意、生、身、故、以、未、來、際、恒、不、死、以、離、不、可、思、議、變、易、死、故、以、本、後、際、來、清、涼、
不、病、以、離、無、明、住、地、所、撰、故、若、如、是、者、不、墮、三、世、彼、則、不、變、是、故、不、老、以、離、無、漏、
業、の、廻、轉、故、又、復、偈、言、
有、二、復、有、二、
復、有、二、二、句、
次、第、如、三、常、等、
無、漏、境、界、中、
離、意、生、身、故、
清、涼、故、不、病、
無、漏、行、一、故、
以、恒、故、不、死、
無、煩、惱、習、故、
以、常、恒、清、涼、
衆、生、所、歸、依、
以、離、妄、分、別、
不、病、亦、不、老、
以、常、恒、清、涼、
無、煩、惱、習、故、
以、恒、故、不、死、
無、煩、惱、習、故、
以、常、恒、清、涼、
衆、生、所、歸、依、
以、離、妄、分、別、

- 1) 以上漢訳欠く。
- 2) 身=説 宮本。
- 3) 尽=漏 宮本。
- 4) 熱=執 明・宮本。
- 5) 不=無 宋・元・明・宮本。
- 6) 則=明 宋・元・明・宮本。
- 7) 廻=過 宋・元・宮本。

ekārthatvād advaya-dharma-naya-mukhena yac ca sarvākāra-
sarva-dharmābhisambodhād buddhatvam ity uktam yac ca
1) mahābhisambodhāt savāsana-mala-prahāṇān nirvāṇam ity
uktam etad ubhayam anāsrave dhātav advayam iti draṣṭavyam
abhinnaṃ acchinnaṃ |

sarvākārair aśamkhyeyair acintyair amalair
guṇaiḥ |
abhinna-lakṣaṇo mokṣo yo mokṣaḥ sa
tathāgata iti ||

yad uktam arhat-pratyekabuddha-parinirvāṇam adhikṛitya | 10
nirvāṇam iti bhagavann upāya eṣa tathāgatānām iti | anena
dirghādhva-pariçrāntānām aṭavi-madhye nagara-nirmāṇavad
avivartanōpāya eṣa dharma-paramēçvarāṇām samyak-sambuddhā-
nām iti paridipitam | nirvāṇādhigamād bhagavaṃs tathāgatā
bhavanty arhantaḥ samyak-sambuddhāḥ sarvāprameyācintya- 15
viçuddhi-niṣṭhā-gata-guṇa-samanvāgatā iti | anena catur-ākāra-
guṇa-niṣṭatsv aśambhinna-lakṣaṇam nirvāṇam adhigamya tad-
ātmakāḥ samyak-sambuddhā bhavanti (31b) ti | buddhatva-
nirvāṇayor avinirbhāga-guṇa-yogād buddhatvam antareṇa kasya-
cin nirvāṇādhigamo nāstīti paridipitam | 20

tatra tathāgatānām anāsrave dhātav sarvākāra-varōpeta-
çūnyatābhinirhārataç citra-kara-dṛiṣṭāntena guṇa-sarvatā vedi-
tavyā |

anyonya-kuçalā yadvad bhavyeuç citra-lekhakāḥ |
yo yad aṅgaṃ prajāniyāt tad anyo nāva=
dhārayet || 88 ||

atha tebhyaḥ prabhū-rājā prayacched dūṣyam
ājñayā |

sarvair evātra yuṣmābhiḥ kāryā pratikṛitir
mama || 89 ||

tatas tasya pratiçrutya yuñjeraṃç citra-
karmaṇi |

1) T は mahā が lhan-cig (saha)

是故雖復有四種名而彼四義不離一法門。不離一法體。此以何義所証一切法。覺
一切智及離一切智障煩惱習氣。此二種法於無漏法界中不異不差別不不斷不相
離。以是義故大般涅槃經中偈言。
無量種功德 一切不思議 不差別解脫
解脫即如來
以是義故聖者勝鬘經言。世尊。言聞辟支伽得涅槃者是。方便故。此明何義。言
聞辟支伽有涅槃者。此是諸伽如來方便。見諸衆生於長道曠野遠行疲倦恐有退
轉爲止息故造作化城。如來如是於一切法中得自在大方便。故明如是義。世
尊。如來正徧知証平等涅槃一切功德無量無邊不可思議清淨畢竟究竟。此明何義。依
四種義畢竟功德諸伽如來無差別。涅槃相無上果中伽及涅槃一切功德不相捨離。若離伽
地果中証智更無余人有涅槃法。
示現如是義。依一切種智於諸伽如來無漏法界中譬喻示現。此明何義。寶鬘經中而
師譬喻示現具足一切功德心知。偈言。
如種種畫師 所知各差別 彼一人知分
第二人不不知 有自在國王 敕諸畫師言
於彼標面處 具足作我身 國中諸畫師
一切皆下手 若不闕一人 乃成國王像
畫師受敕已 畫作國王像

- 1) [般]—宋・元・明・宮本。
- 2) 長道=生死 宋・元・明・宮本。
- 3) 有=其 宋・明・宮本。具元本。
- 4) [故]—宋・元・明・宮本。
- 5) 標=彩 宋・元・明・宮本。

tatrāko vyabhiyuktānām anya-deça - gato
bhavet || 90 ||

deçāntara-gate tasmin pratimā tad viyogataḥ |
na sā sarvāṅga-sāmpūrṇā bhaved ity upamā
kṛitā || 91 ||

lekhaḥ ye tad-ākārā dāna-çīla-kṣamādayaḥ |
1) sarvākāra-varôpetā çūnyatā pratimôcyate
|| 92 ||

2)

tatrāṣām eva dānādinām e! ā'kasya buddha-viṣayāparyanta-
prakāra-bheda-bhinnatvād aparimitatvaṁ veditavyam | saṁkhyā-
prabhāvābhyām aṣintyatvam | mātṣaryādi-vipakṣa-3) mala-vāsa-
nāpakarṣitatvād viçuddhi-paramatvam iti | tatra sarvākāra-
varôpetā-çūnyatā - samādhi-mukha-bhāvanayānutpattika-dharma-
lābhād acalāyām bodhisattva-bhūmav avikalpa-niçchidra-nira-
ntara - sva-rasa - vāhi - mārğa - jñāna - saṁniçrayeṇa tathāgatānām
anāsrave dhātau guṇa-sarvatā samudāgacchati | sādhumatyām
bodhisattva-bhūmav asaṁkhyeya-samādhi-dhāraṇī-mukha-samu-
drāir aparimāṇa-buddha-dharma-pari (32 a) graha-jñāna-saṁni-
çrayeṇa guṇāprameyatā samudāgacchati | dharma-meghāyām
bodhisattva-bhūmau sarva-tathāgata-guḥya-sthānāvīparokṣa-jñā-
na-saṁniçrayeṇa guṇācintyatā 4) samudāgacchati | tad anantaram

1) T の vyākhyā には此偈が 7×5 で、S には de-la mñon-par-sbyin-
nams-gyis が 7×5 の第4に入っている。偈頌本は S に同。

2) C には“此偈……無上菩提故”がある。T も欠。

3) T は mala を欠く。

4) T は mñon-par ḥgrub-pa (abhinirvṛitti)

彼諸、画師、中
國之王、像不、成、
所、言、画師者、
示、二、切、種、智、
王像不、成者、
空智不、具足、
一人行不、在、
以其不、滿足、
喻、檀、戒等行、
一人不、在者、
言、國王、像、者、
示、現、少、三、行、
由、無、彼、一、人、
一切、身分、故、
言、國王、像、者、
示、現、少、三、行、
3) 此、偈、明、何、義、以、是、義、故、寶、鬘、經、言、善、男、子、諦、聽、諦、聽、我、今、為、汝、說、此、譬、喻、善、男、子、
譬、如、三、千、大、千、世、界、所、有、衆、生、悉、善、知、画、其、中、或、有、善、能、泥、塗、或、有、能、磨、磨、彩、或、有、画、身、
不、曉、手、足、或、曉、手、足、不、曉、面、目、時、有、國、王、以、三、張、覺、與、是、諸、人、而、告、之、言、凡、能、画、
者、皆、悉、衆、集、於、此、畫、上、一、画、吾、身、像、爾、時、諸、人、悉、衆、集、隨、其、所、能、而、共、作、之、有、二、画、師、以、
緣、事、故、竟、不、得、來、諸、人、画、已、持、其、上、王、善、男、子、可、言、諸、人、悉、衆、集、作、不、也、世、尊、善、男、
子、我、說、此、喻、其、義、未、顯、善、男、子、一、人、不、來、故、不、得、言、一、切、集、作、亦、不、得、言、像、已、成、
就、仏、法、行、者、亦、復、如、是、若、有、一、行、不、成、就、者、則、不、名、具、足、如、來、正、法、是、故、要、具、足、
諸、行、名、為、成、就、無、上、菩、提、故、
又、此、檀、等、諸、波、羅、蜜、一、一、差、別、唯、是、如、來、所、知、境、界、如、來、知、彼、種、種、差、別、無、量、無、邊、心、知、以、
彼、算、數、自、在、力、等、不、能、思、議、故、以、對、治、彼、慳、等、諸、垢、是、故、得、成、清、淨、檀、等、諸、波、羅、蜜、又、
以、修、行、一、切、種、一、切、空、智、及、種、種、三、昧、門、於、第、八、菩、薩、不、動、地、中、不、分、別、一、切、菩、薩、地、無、間、
無、隔、自、然、依、止、道、智、修、行、得、無、生、法、忍、成、就、具、足、如、來、無、漏、戒、成、就、一、切、功、德、於、第、九、菩、
薩、善、慧、地、中、依、阿、僧、祇、三、昧、陀、羅、尼、海、門、攝、取、無、量、無、邊、諸、仏、之、法、依、止、解、一、切、衆、生、根、
智、成、就、無、量、無、邊、功、德、空、智、得、無、生、法、忍、於、第、十、菩、薩、法、雲、地、中、依、止、一、切、如、來、現、前、蜜、
の、智、智、一、成、就、無、量、無、邊、功、德、衆、得、無、生、空、法、忍、

1) 王 = 主 宋・元・明本。

2) 戒等 = 等諸 宋・元・明本。

3) 梵文下註 2) 參見。

4) 能 = 作 明本。

5) 曉 = 巧 ……元・明・宮本。

6) 不曉 = 不善 宋・元・明・宮本。下同。

7) 密智智 = 空智 宋・元・明・宮本。

¹⁾ buddha-bhūmy-adhigamāya sarva-savāsana-kleṣa-jñeyāvaraṇa-
 vimokṣa-jñāna-saṃniṣṭhayeṇa guṇa-viśuddhi-paramatā samudāga-
 cchati | yata eṣu caturṣu bhūmi-jñāna-saṃniṣṭhayeṣv arhat-
 pratyekabuddhā na saṃdṛiṣyante tasmāt te dūri-bhavanti catur-
 ākāra-guṇa-pariniṣpatty-asambhinna-lakṣaṇān nirvāṇa-dhātor
 ity uktam |

2)prajñā-jñāna-vimuktinām dīpti-spharaṇa-
cuddhi (XVb) tah |

abhedataṣ ca sādharmyaṁ prabhā-raṣmy-
arka-mandalaiḥ ॥ 93 ॥

yayā prajñāyā yena jñānena yayā vimuktyā sa catur-ākāra-
guṇa-niṣpatty-aśambhinna-lakṣaṇo nirvāṇa-dhātuḥ sūcyate tāsām
yathā-kramam tribhir ekena ca kāraṇena catur-vidham āditya-
sādharmyam paridīpitam | tatra buddha-sāntānikyā lokōttara-
nirvikalpāyāḥ parama-jñeya-tattvāndhakāra-vidhamana-pratyū= 15
psthānatayā prajñāyā dipti-sādharmyam | tat-prīṣṭha-labdhasya
sarvajña-jñānasya sarvākāra-niravaṣeṣa-jñeya-vastu-pravṛttatayā
raçmi-jāla-spharaṇa-sādharmyam | tad - ubhayāçrayasya citta-
prakṛiti-vimukter atyanta- vimala-prabhāsvaratayārka-maṇḍala-
viçuddhi-sādharmyam | tisriṇām api dharma-dhātva-aśambheda- 20
svabhāvatayā tat-trayāvinirbhāga-sādharmyam iti |

ato 'nāgamyā-buddhatvaṃ nirvāṇaṃ nādhi-
gamyate ।

na hi çakyah prabhā-*raçmī* nirvñijya prekṣi-
tum raviḥ || 94 ||

yata evam anādi (32b)-sāmnidhya-svabhāva-çubha-dharmô-
pahite dhātau tathāgatānām avinirbhāga-guṇa-dharmatvam ato
na ¹⁾ tathāgatatvam asaṅgāpratihata-⁴⁾ prajñā-jñāna-darśanam

- 1) テキストは buddha-bhūby とあるが, Tに saṁs-rgyas-kyi sa (buddha-bhūmi) とあり, 前後の意から見ても buddha-bhūmy であらう。今改める。
- 2) この偈並に次の個処は C と相違するが, T は S に同じ。
- 3) T は tathāgatatvam の tvam を欠く。
- 4) T は prajñā を欠く。

次後得三諸三昧、斷一切煩惱障智障、依止諸解脫門、智成就清淨彼岸功德、具足得三切種
 一切空智、以三如是等四種地智中、非三言聞辟支仏地、以三彼言聞辟支仏等、去之甚遠、以三是
 義、故、說三彼四種成就、不差別涅槃界、是、故、偈言、
 慧智及解脫、
 日相似相對、
 不離三法界、
 無三差三涅槃界、
 此偈明三何義、以三何等慧、以三何等智、以三何等解脫、彼三不離三法界、実体、明三彼四種功德、
 成就無三差三別涅槃界、偈言、無三差三別涅槃界、故、為三彼四種義、次第、故有三四種相似相對、
 法、応、知、何等為三、四、一者、仏法、身中、依三出世間、無分別慧、能破三第一無明、黑暗、彼光明照、相
 似相對、法、応、知、偈言、慧、故、日相似相對、故、二者、依三智、故、得三一切智智、知、三一切種、照、三一切、
 事、放三光明、羅網相似相對、法、応、知、偈言、智、故、日相似相對、故、三者、依三止、彼二、自性清淨
 心解脫、無三垢離、垢光明輪、清淨相似相對、法、応、知、偈言、三解脫、故、日相似相對、法、故、四者、即、此
 三種、不離三法界、不離三実体、不三相捨離、相似相對、法、応、知、偈言、不離三法界、体、故、日相
 似相對、上、故、是、故、偈言、
 不証諸仏身、
 日、不、レ、可、レ、得、見、
 涅槃、不、レ、可、レ、得、
 如、棄、捨、光、明、
 此偈明三何義、以下、向、說三無漏法界中、無始、世界來、諸仏、法身中、無漏、諸法、一切、功德、不、中、相、捨、
 離、以三是義、故、遠三離、如來、無障無礙、法身、智慧、

anāgamyā sarvāvaraṇa-vimukti-lakṣaṇasya nirvāṇa-¹⁾ dhātor
adhigamaḥ sākṣāt-karaṇam upapadyate prabhā-raçmy-adarçina
iva sūrya-maṇḍala-darçanam | ata evaṃ āha | na hi bhagavan
hīna-praṇīta-dharmānām nirvāṇādhigamaḥ | sama-dharmānām
bhagavan nirvāṇādhigamaḥ | sama-jñānānām sama-vimuktinām
sama-vimukti-jñāna-darçanānām bhagavan nirvāṇādhigamaḥ |
tasmād bhagavan nirvāṇa-dhātur eka-rasaḥ sama-rasa ity
ucyate | yad uta vidyā-vimukti-rasenēti |

²⁾jina-garbha-vyavasthānam ity evaṃ daça=
dhôditam |

tat kleça-koça-garbhatvaṃ punar jñeyam
nidarçanaiḥ || 95 ||

ity etad aparānta-koṭi-sama-dhruva-dharmatā-saṃvidyamā=
natām adhikṛitya daça-vidhenārthena tathāgata-garbha-vyava=
sthānam uktam | punar anādi-sāmnidhyāsambaddha-svabhāva=
kleça-kṣatām anādi-sāmnidhya-sambaddha-svabhāva-çubha-dha=
rmatām cādhikṛitya navabhir udāharaṇair aparyanta-kleça-koça=
koṭi-gūḍhas tathāgata-garbha iti yathā sūtram anugantavyam |
navodāharaṇāni katamāni |

buddhaḥ ku-padme madhu makṣikāsu tuṣesu
sārāṇy açucau suvarṇam |

nidhiḥ kṣitav alpa-phale 'ñkurādi praklinna=
vastreṣu jinātmabhāvaḥ || 96 ||

jaghanya-nāri-jāthare nṛipatvaṃ yathā
bhaven mṛitsu ca ratna-bimbam |

āgantuka-kleça-malāvṛiteṣu sattveṣu tadvat
sthita eṣa dhātuḥ || 97 ||

3)

padma-prāṇi-tuṣāçu (33a) ci-kṣiti-phala-tvak-pūti-vastrāvara=
stri-duḥkha-jvalanābhitaṭṭa-prithivī-dhātu-prakācā malāḥ |

- 1) T は dhātor を欠く。
2) C は以下を無量煩惱所纏品第六とする。
3) C には “此偈……説二偈”がある。

離一切障，涅槃，體相不可得見。
不可得證。如離三日光明，無日輪可見。以是義故。聖者勝鬘經言。法無優劣故。
得涅槃。知諸法平等。智故得涅槃。平等智故得涅槃。平等智故得涅槃。平等智故得涅槃。
見故得涅槃。是故世尊。説涅槃界一味等味。謂明解脫一味故。²⁾
究竟一乘寶性論卷第三
3) 無量煩惱所纏品第六
論曰。偈言。
向説三如來藏。
此偈明何義。向依三如來藏。説無始世界來。彼法恒常住。法體不轉。變明三如來藏。有二十
種。義自此以下。依三如來藏。世界來。煩惱藏。所纏。纏。説無始世界來。自性清淨。心具足。法身。
以三九種譬喻。明三如來藏。過於恒沙。煩惱藏。所纏。如修多羅。説三應知。九種譬喻者。如三偈説
言。
華華中，諸仙，
地中，珍寶藏，
貧賤醜陋女，
衆生貪。瞋。癡。
衆生貪。瞋。癡。
妄想煩惱等，
懷三輪。轉。聖王。
摩勞諸垢中，
皆有。三如來藏。
總略。説彼廣。偈中。義。三應知。又依。彼義。略説。三偈。
華蜂輪糞穢，
地果，故懷衣，
貧賤，女泥模，
煩惱，垢相似，
衆蜂，中，美蜜，
諸果子，中，芽，
朽故，弊壞，衣，
焦黑，泥模，中，
糞穢，中，真金，
纏三裏，真金像，
有。三上妙，寶像，
皆有三如來藏。

- 1) 涅槃+樂 宮本。
2,3) 不分卷 宋・元・明・宮本。
4) 芽=牙 宋・宮本・下同。
5) 瞋=悲 宋・元・明・宮本。
6) 梵文下註 3)。

- 120 -

tadvad dharma-nidhir mano-griha-gataḥ sattvā daridrô=
pamās teṣāṃ tat pratilambha-kāraṇam ṛṣir loke samut=
padyate || 114 ||

tvak-koṣa-sadṛiṣāḥ kleṣāḥ | bijāṅkuravat tathāgata-dhātur

iti |

yathāmra-tālādi ¹⁾-phale drumāṇāṃ bijāṅk=
uraḥ san na vināṣa-dharmī |

²⁾uptaḥ pṛithivyāṃ salilādi-yogāt kramād
upaiti druma-rāja-bhāvam || 115 ||

sattveṣv avidyā (XVI b) di-phala-tvag-antaḥ-
koṣāvanaddhaḥ ³⁾ṣubha-dharma-dhātuḥ |
upaiti tat - tat - kuṣalaṃ pratitya krameṇa
tadvan muni-rāja-bhāvam || 116 ||

ambv-āditya-gabhasti-vāyu-pṛithivī-kālāmbara-pratyayair
yadvat tāla-phalāmra-koṣa-vivarād utpadyate pādapaḥ |
sattva-kleṣa-phala-tvag-antara-gataḥ sambuddha-bijāṅku=
ras tadvad vṛiddhim upaiti dharma-⁴⁾viṭapas tais taiḥ
ṣubha-pratyayaiḥ || 117 ||

pūti-vastra-sadṛiṣāḥ kleṣāḥ | ratna-vigrahavat tathāgata-
dhātur iti |

bimbaṃ yathā ratna-mayaṃ jinasya durga=
ndha-pūty-ambara-saṃniruddham |
dṛiṣṭvōjjhitaṃ vartmani devatāsyā muktyai
vaded adhva-gam etam artham || 118 ||

nānā-vidha-kleṣa- ⁵⁾malōpagūḍham asaṅga-
⁶⁾cakṣuḥ sugatātma-bhāvam |

vilokya tiryakṣv api tad-vimuktiṃ praty abh=

1) T は tāla を欠く。

2) T は uptaḥ が rmos (karṣaṇa)

3) T は avanaddhaḥ を欠く。

4) T は vilapas が ḥthon (jāta), 東北大学蔵外目録の異本には mthon (darṣana)

5) T は mala を欠く。

6) T は cakṣuḥ を欠く。

(問曰。衆生如貧人。得此珍寶。故。如芽。譬喻。爲明何義。答曰。果皮。譬喻。者諸煩惱相似。子芽。譬喻。者如來藏相似。偈言。)

(如。種。種。果。樹。上。生。長。成。大。樹。上。皆。有。如。來。性。生。彼。菩。提。芽。依。地。水。火。風。出。生。大。樹。王。煩。惱。果。皮。內。種。種。諸。緣。故。)

(問曰。衣。像。譬。喻。爲。明何義。答曰。弊。衣。譬。喻。者諸煩惱相似。金像。譬。喻。者如來藏相似。偈言。)

(弊。衣。纏。金。像。此。中。有。金。像。仏。無。障。眼。見。爲。令。彼。得。故。)

(種。種。諸。緣。故。次。第。漸。增。長。有。正。覺。子。芽。一切。諸。衆。生。空。時。日。月。緣。次。第。漸。增。長。無。明。皮。所。纏。一切。諸。衆。生。子。芽。不。朽。壞。種。地。中。水。灌。種。種。煩。惱。中。種。種。諸。善。根。地。成。如。來。樹。王。多。羅。等。種。內。皆。亦。復。如。是。依。白。淨。等。法。成。仏。大。法。王。諸。天。爲。人。說。纏。裏。如。來。藏。皆。有。如。來。身。上。說。種。種。妙。法。)

yupāyaṁ vidadhāti tadvat || 119 ||
yadvad ratna-mayaṁ tathāgata-vapur durgandha-vastrāv=
ṛitaṁ vartmany ¹⁾ujjhitam ekṣya divya-nayano muktyai
nṛiṇāṁ darṣayet |
tadvat kleṣa-vipūti-vastra-nivṛitaṁ saṁsāra-vartmōjjhi=
taṁ ti (34 b) ryakṣu vyavalokya dhātum avadad dharmāṁ
vimuktyai jinaḥ || 120 ||
āpanna-sattva-nāri-sadṛiṣāḥ kleṣāḥ | kalala-mahā-bhūta-
gata-cakra-vartivat tathāgata-dhātur iti |
nāri yathā kā-cid anātha-bhūtā vased anāth=
āvasathe virūpā |
garbheṇa rāja-ṣṛiyam udvahanti na sāvab=
udhyeta nṛipaṁ sva-kukṣau || 121 ||
anātha-ṣālēva bhavōpapattir antarvatī strīvad
aṣuddha-sattvāḥ |
tad-garbhavat teṣv amalāḥ sa dhātur bhavanti
yasmin sati te śanāthāḥ || 122 ||
yadvat strī malināmbarāvṛita-tanur bībhatsa-rūpānvitā
vinded duḥkham anātha-veṣmani param garbhāntara-sthe
nṛipe |
tadvat kleṣa-vaṣād aṣānta-manaso duḥkhālaya-sthā janāḥ
san-nātheṣu ca satsv anātha-matayaḥ svātmāntara-stheṣv
api || 123 ||
mṛit-paṅka-lepa-sadṛiṣāḥ kleṣāḥ | kanaka-bimbavat tathāg=
ata-dhātur iti |
hemno yathāntaḥ-kvathitasya pūrṇaṁ bimbam
bahir mṛin-mayaṁ ekṣya ṣāntam |
antar-viṣuddhyai kanakasya taj-jñāḥ saṁcod=

5

10

15

20

25

(問曰。女主譬喻。為明何義。答曰。賤女譬喻者。諸煩惱相似。歌羅邏四大中有。三輪王。身喻。者生死。歌羅邏藏中有。如來藏。輪王相似。偈言。)

(金像弊衣。纏。)
(為淨示。眾人。)
(在世間。險道。)
(皆有。如來藏。)
(譬如。孤獨女。)
(而不。自。覺。知。)
(懷胎。女人。者。)
(衆生。性。亦。爾。)
(貧女。垢。衣。纏。)
(懷妊。王。重。担。)
(受。無。量。苦。惱。)
(而。無。歸。依。心。)
(問曰。摸像。譬喻。為。明。何。義。答曰。泥摸。譬喻。者。諸。煩惱。相似。摸像。譬喻。者。如來藏。相似。偈言。)

(內有。真。寶。像。)
(如。人。融。真。金。)
(開。摸。令。顯。現。)
(彼。人。量。已。冷。)
(取。內。真。寶。像。)
(鑄。在。泥。摸。中。)
(除。去。外。泥。障。)
(有。天。眼。者。見。)
(煩惱。爛。衣。纏。)
(仏。眼。觀。衆。生。)
(令。彼。得。解。脫。)
(身。懷。三。輪。王。)
(三。有。亦。如。是。)
(如。彼。藏。中。胎。)
(名。為。不。孤。獨。)
(處。於。孤。獨。舍。)
(染。汗。衆。生。性。)
(實。有。歸。依。處。)
(有。如。來。藏。故。)
(外。有。焦。黑。泥。)
(除。去。外。泥。障。)

1) 宝 = 金 宋・元・明・宮本。

1) テキストには ujjhitam とあるも後句並に 118 偈より見て ujjhitam であらう。今改める。

anāḥ |

dr̥iṇ-mārga-¹⁾bhāvanācuddha-çuddha-bhūmi-gatā ²⁾malāḥ

|| 130 ||

padma-koçādi-dr̥iṣṭāntair navadhā samprakācitāḥ |

aparyantōpasamkleṣa-koṣa-kotyas tu bhedataḥ || 131 ||

samāsata ime nava-kleṣāḥ prakṛiti-pariçuddhe 'pi tathāgata-
dhātau padma-koçādaya iva buddha-bimbādiṣu ³⁾sadāgantukatayā
samvidyante | katame nava | tad-yathā rāgānuçaya-lakṣaṇaḥ
kleṣaḥ | dveṣānuçaya-lakṣaṇaḥ ⁴⁾ | mohānuçaya-lakṣaṇaḥ ⁵⁾ |
tibra-rāga-dveṣa-moha-paryavasthāna-lakṣaṇaḥ | avidyā-vāsa-
bhūmi-saṁgrihitāḥ | darçana-prahātavyaḥ | bhāvanā-prahā-
tavyaḥ | açuddha-bhūmi-gataḥ | çuddha-bhūmi-gataç ca |
tatra ye laukika-vita-rāga-sāntānikāḥ kleṣā āniñjya-saṁskārōp-
acaya-hetavo rūpārūpya-dhātu-nirvartakā lokōttara-jñāna-vadh-
yās ta ucyante rāga-dveṣa-mohānuçaya-lakṣaṇā iti | ye rāgādi-
carita-sattva-sāntānikāḥ puṇyāpuṇya-saṁskārōpacaya-hetavaḥ
kevala-kāma-dhātu-nirvartakā açubhādi-⁶⁾bhāvanā-jñāna-vadhyās
ta ucyante tibra-rāga-dve (35 b) ṣa-moha-paryavasthāna-lakṣaṇā
iti | ye 'rhat-sāntānikā anāsrava-karma-pravṛitti-hetavo vimala-
mano-mayātmabhāva-nirvartakās tathāgata-bodhi-jñāna-vadhyās
ta ucyante 'vidyā-vāsa-bhūmi-saṁgrihitā iti | dvi-vidhaḥ çai-
kṣaḥ pr̥ithag-jana āryaḥ ca | tatra ye pr̥ithag-jana-çaikṣa-
sāntānikāḥ ⁷⁾prathama-lokōttara-dharma-darçana-jñāna-vadhyās
ta ucyante darçana-prahātavyā iti | ya ārya-pudgala-çaikṣa-

1) T には spañ (prahāna) がある。

2) T は malāḥ が次偈に移っている。

3) T は sadā を欠く。

4) 5) T には ñon-moñs-pa dan (kleṣaḥ ca) がある。

6) テキストは bhāva であるが、T は sgom-pa (bhāvanā) であり前後の意より見て bhāvanā であろう。今改める。

7) テキストの下註には T は sa dan-po h̄jig-rten-las ḥdas-paḥi (prathama-bhūmi-lokottara) であると指摘しているが、問題の sa (bhūmi) は sāntānikāḥ が T には rgyud-la yod pas(a) と主格に読んでいるのを下註者は pas(a) の間に cheg を入れて pa と sa に分け、pa を前語に sa を後に付けて読んだものと思われる。T の P 版 D 版共に Pas(a) とあり梵文に一致する。

見、修道不淨、
說、九種相對、
及淨地、有垢、
無辺、煩惱、纏、
萎華等、諸喻、
故說、差別、相、
此偈明、何義、略說有、九種、煩惱、於、自性清淨、如來、法身界、中、如、萎華等、九種、譬喻、於、諸
仏等、常、外、客、相、諸、煩惱、垢、亦復、如是、於、真如、仏性、常、客、塵、相、何等、以為、九種、煩惱、一者、貪
使、煩惱、二者、瞋使、煩惱、三者、癡使、煩惱、四者、增上、貪瞋癡、結、使、煩惱、五者、無明、住地、所、攝、煩惱、
六者、見道、所、斷、煩惱、七者、修道、所、斷、煩惱、八者、不淨地、所、攝、煩惱、九者、淨地、所、攝、煩惱、此、如、
是、等、九種、煩惱、以、彼、九種、譬喻、示、現、應、知、此、明、何義、世間、貪等、衆生、身中、所、攝、煩惱、能、作、不
動地、業行、緣、成就、色界、無色界、果報、出世間、智、能、斷、名為、貪瞋癡、使、煩惱、偈言、貪瞋癡、相、統、
故、又、增上、貪瞋癡、衆生、身中、所、攝、煩惱、能、作、福業、罪業、行、緣、但、能、成、就、欲界、果報、唯有、不淨觀
智、能、斷、名為、增上、貪瞋癡、等、結、使、煩惱、偈言、及結、使、故、又、阿羅漢、身中、所、攝、煩惱、能、作、無
漏、諸、業行、緣、能、生、無垢、意生身、果報、唯、如來、菩提、智、能、斷、名為、無明、住地、所、攝、煩惱、偈言、
熏集、故、又有、二種、學人、何等、為、二、一者、凡夫、二者、聖人、凡夫、身中、所、攝、煩惱、初、出世間心、
見、出世間、法、智、能、斷、名為、見道、所、斷、煩惱、偈言、見道、故、

1) 不=雜 宮本。

*āntānikā yathā-dṛṣṭa-lokōttara-dharma-bhāvanā-jñāna-vadhy=
ās ta ucyante bhāvanā-prahātavyā iti | ye 'niṣṭhā-gata-bodhi-
sattva-sāntānikāḥ sapta-vidhā-jñāna-bhūmi-vipakṣā aṣṭamy-ādi-
bhūmi-traya-bhāvanā-jñāna-vadhyās ta ucyante 'cuddha-bhū-
mi-gatā iti | ye niṣṭhāgata-bodhisattva-sāntānikā aṣṭamy-ādi-
bhūmi-traya-bhāvanā-jñāna-vipakṣā vajrōpama-samādhī-jñāna-
vadhyās ta ucyante cūddha-bhūmi-gatā iti | 1) ete

2) nava-rāgādayaḥ kleṣāḥ saṁkṣepeṇa yathā-kramam |
navabhiḥ padma-koṣādi-dṛṣṭāntaiḥ saṁprakācītāḥ || 132 ||
vistareṇa punar eta eva catur-aṣṭī-sahasra-prakāra-bhedena

3) tathāgata-jñānavad aparyantā-bhavanti yair aparyanta-kleṣa-
koṣa-koṭi-gūḍhas tathāgata-garbha ucyate |

bālānām arhatām ebhiḥ cāikṣānām dhīmatām kramāt |
malaiḥ caturbhir ekena dvābhyām dvābhyām aṣuddhatā
|| 133 ||

4) yad uktam bhagavatā | sarva-sattvās tathāgata-garbhā iti |
tatra sarva-sattvāḥ saṁkṣepeṇōcyante catur-vidhās tad - yathā
prithag-janā arhantaḥ cāikṣā bodhisattvāḥ ceti | tatrāṣām
anāsrave dhātau yathā-kramam caturbhir ekena dvābhyām
dvābhyām ca kleṣa-5) malābhyām aṣuddhiḥ (36 a) paridipitā |

katham punar ime nava-rāgādayaḥ kleṣāḥ padma-koṣādi-
sadṛiṣṭā veditavyāḥ | katham ca tathāgata-dhātor buddha-
bimbādi-sādharmyam anugantavyam iti |

tat-padman mṛidi sambhūtam purā-bhūtvā mano-ramam |
aramyam abhavat paṣcād yathā rāga-ratis tathā || 134 ||
bhramarāḥ prāṇino yadvad 6) daṣanti kupitā bhṛiṣam |

- 1) T は ete が偈の中に入っている。
2) 132 偈は C では “是名…広説応知” と長行になっている。T は 偈頌。
3) T は bhedena が rab-tu dbye-bas (prabhedena)
4) C は “yad……bodhisattvāḥ ceti” を欠く。T は S に合する。
5) T は malābhyām を欠く。
6) T は daṣanti が mduṇ-brdeg.

此、偈明、何義、此、九種、譬喻、於、無漏界中、如是、次第、四種、譬喻、及、第五、譬喻、後時、二、煩惱、諸垢、依、煩惱、垢、染、故、言、不、清淨、又、復、云、何、知、此、九種、食等、煩惱、於、三、婆華等、九種、譬喻、相似、相對、又、云、何、知、如、來、藏、於、諸、佛、等、九種、譬喻、相似、相對、上、偈、言、
依、三、佛、神、力、故、後、婆、華、不、愛、貪、煩惱、亦、爾、初、樂、後、不、樂、有、二、彼、衆、妙、華、如、華、依、三、衆、妙、初、樂、後、不、樂、有、二、愛、有、中、不、愛、上、群、蜂、為、成、蜜、
聖人身中、所撰、煩惱、如、先、見、出世間法、修道智、能、斷、名、為、修道所斷、煩惱、偈、言、修道、故、又不究竟、菩薩、謂、從、初、地、乃至、三七、地、所撰、煩惱、七、住地、中、所撰、煩惱、八、地、已上、三、住地、中、修道智、能、斷、名、為、不淨地所撰、煩惱、偈、言、不淨、故、又、畢竟、究竟、菩薩、身中、所撰、煩惱、八、地、已上、三、地、修道智、所對治法、金剛、三昧、智、能、斷、名、為、淨地所撰、煩惱、偈、言、及、淨地有垢、故、是、名、三、略、說、九種、煩惱、次第、婆華等、九種、譬喻、我已、廣、說、應、知、
又、復、即、此、九種、煩惱、依、三、八、萬、四千、衆、生、行、故、有、三、八、萬、四千、煩惱、差別、如、如、來、智、無、量、無、邊、故、有、如、是、無、量、無、邊、煩惱、纏、如、來、藏、故、言、無、量、煩惱、藏、所、纏、如、來、藏、是、故、偈、言、
愚癡、及、羅漢、及、二、復、二、諸、學、及、大、智、如、是、次、第、說、名、為、不淨地、
二、學、二、大、智、次、第、四、種、垢、四、凡、一、聖、人、

- 1) 如先 = 初地 宮本。
2) 「是名……広説応知」は梵の 132 偈に相当。
3) 梵文下註 4) 参照。

tribhir buddha - bimba - madhu -¹⁾sāra - dṛiṣṭāntair dharma -
kāya-svabhāvaḥ sa dhātur avagantavyaḥ | ekena suvarṇa-
dṛiṣṭāntena tathatā-svabhāvaḥ²⁾ | pañcabhir nidhi-taru-ratna-
vighraha-cakra-varti-kanaka-bimba-dṛiṣṭāntais tri-³⁾vidha-buddha-
kāyōtpatti gotra-svabhāva iti | tatra dharma-kāyaḥ katamaḥ | 5
dharma-kāyo dvidhā jñeyo dharma-dhātuḥ sunirmalaḥ |
tan niṣyandaḥ ca gāmbhīrya-vaicitrya-naya-deṣanā
|| 145 ||

dvi-vidho buddhānām dharma-kāyo 'nugantavyaḥ | suviṣud-
dhaḥ ca dharma-dhātor avikalpa-⁴⁾jñāna-gocara-viśayaḥ | 10
sa ca tathāgatānām pratyātmam adhigama-dharmam adhikṛitya
veditavyaḥ | tat-prāpti-hetuḥ ca suviṣuddha-dharma-dhātu-
niṣyando yathā *vaineika-para-sattveṣu vijñapti-prabhavaḥ |
sa ca deṣanā-dharmam adhikṛitya veditavyaḥ | deṣanā punar 15
dvi-vidhā sūkṣmāudārika - dharma-vyavasthāna-naya-bhedāt |
yad uta gāmbhīra - bodhisattva - pīṭaka - dharma -⁵⁾vyavasthāna -
naya-deṣanā ca paramārtha-satyam adhikṛitya vicitra-sūtra-
geya-vyākaraṇa-gāthōdāna-nidānādi - vividha-dharma-vyavasth-
āna-naya-deṣanā ca saṃvṛiti- satyam adhikṛitya |
lokōttaratvāl loke 'sya dṛiṣṭāntānupalabdhitaḥ | 20
dhātos tathāgatenāiva sādṛiṣyam upapāditam || 146 ||
madhv-eka-rasavat sūkṣma-gāmbhīra-naya-deṣanā |
⁶⁾nānāṇḍa-sāravaḥ jñeyā vicitra-naya-deṣanā || 147 ||
ity evaṃ ebhis tribhir buddha-bimba-madhu-sāra-dṛiṣṭān-
tais tathāgata-dharma-kāyena niravaṣeṣa-sattva-dhātu-parispha- 25
raṇārtham adhikṛitya tathāgatasyēme garbhāḥ sarva-sattvā i-

1) T は sāra が hbruḥi snān-po (phala-sāra)

2) T は ita-tuḥo (upamaḥ) がある。

3) T は vidha を欠く。 4) T は jñāna を欠く。

* テキストは vainayika. T は gdul-bya, 宝性論研究 p. 581 下註 3) により
今の如く改めた。

5) T は vyavasthāna を欠く。 6) T は aṇḍa が sbubs (koṣa).

此偈明何義。初三種喻示現如來法身。三譬喻者所謂諸公美蜜堅固示現法
身。偈言三法身故。一種譬喻者所謂真金示現真如。偈言三真如故。又何等為三種譬喻。一
者地藏。二者樹。三者金像。四者輪聖王。五者宝像能生三種法身。示現如來性。偈言如
來性故。又法身者偈言。
法身有二種。一
以深淺義說。一
清淨真法界。一
及依彼習氣。一
此偈明何義。諸公如來有三種法身。何等為二。一者寂靜法界身。以無分別智境界故。
如是諸公如來法身唯自內身法界能証應知。偈言清淨真法界故。二者為得彼。因謂彼
寂靜法界說法依可化衆生說。彼說法應知。以下依三真如法身。有彼說法名為習氣。偈
言及依彼習氣故。彼說法者復有三種。一細。二麤。細者所謂為諸菩薩摩訶薩。演說甚
深秘密法藏。以下依第一義諦說上故。麤者所謂種種修多羅祇夜和伽羅那。陀。憂陀那。尼
陀那等名字章句種種差別。以下依世諦說上故。是故偈言。
以出世間法。一
還說三性譬喻。一
如美蜜一味。一
世中無譬喻。一
是故依彼性。一
修多羅等說。一
如三種異味。一
微細法亦爾。一
衆生。二者徧身中。有無。有。余。殘。示現一切衆生有如來藏。一
此偈明何義。諸公美蜜及堅固等三種譬喻。此明如來真如法身有三種義。一者徧徧一切

1) 因 + (因) 宋・元・明・宮本。

2) 憂 + (波) 宋・元・明・宮本。

(37a) ti paridipitam | na hi sa kaṣ-cit sattvaḥ sattva-dhātau
saṁvidyate yas tathāgata-dharma-kāyād bahir ākāṣa-dhātor
iva rūpam | evaṁ hy āha |

yathāmbaram sarva-gatam sadā matam tath=
āiva tat sarva-gatam sadā matam |
yathāmbaram rūpa-gateṣu sarva-gam tatāiva
tat sattva-gaṇeṣu sarva-gam iti ||

prakṛiter avikāritvāt kalyāṇatvād viṣuddhitāḥ |
hema¹⁾-maṇḍalakāupamyam tathatāyām udāhṛitam || 148 ||

yac cittam aparyanta-kleṣa-duḥkha-²⁾dharmānugatam api 10
prakṛiti-prabhāsavaratayā vikārānudāhṛiter ataḥ kalyāṇa-suvarṇa-
avad ananyathā-bhāvārthena tathatēty ucyate | sa ca sarveṣām
api mithyātva-niyata-saṁtānānām sattvānām prakṛiti-nirviṣṭa-
ānām sarvāgantuka-³⁾mala-viṣuddhim āgatas tathāgata iti saṁkh-
yām gacchati | ⁴⁾evam ekena suvarṇa-dṛiṣṭāntena tathatāvyati- 15
bhedārtham adhikṛitya tathāgatas tathatāṣām garbhāḥ ⁵⁾sarva-
sattvānām iti paridipitam | citta-prakṛiti-viṣuddhy advaya-
dharma-tām upādāya yathōktaṁ bhagavatā | tatra mañjuṣrī
tathāgata ātmōpādāna - mūla - pariṇātāvi | ātma-viṣuddhyā
sarva-sattva-viṣuddhim anugataḥ | yā cātma-viṣuddhir yā ca 20
⁶⁾sattva-viṣuddhir advayaśādvaidhī-kāra iti | evaṁ hy āha |
sarveṣām aviṣṭāpi tathatā ṣuddhim āgatā |
tathāgatatvam tasmāc ca tad-garbhāḥ sarva-
dehina iti ||
gotram tad dvi-vidham jñeyam nidhāna-phala-vṛikṣ- 25
avat |

- 1) T は maṇḍalaka が gzugs-pa (rūpa)
- 2) T は dharma を欠く。
- 3) mala が T では ñon-moṁs-pa (kleṣa)
- 4) T は evam が des-na (tataḥ)
- 5) T は sarva を欠く。
- 6) T は sems-can thams-cad (sarva-sattva)

此以何義。於衆生界中。無有一衆生離如來法身。在於法身外。離於如來智。外。如。種種色像。不離虛空中。是故偈言。
譬如諸色像。不離諸色像。以如是義。故。如。是。衆生身。說。一切衆生。皆有如來藏。以性不改。變。如。虛空中。色。上。體本來清淨。如。真金。不變。上。
此偈明何義。明彼真如。如來之性。乃至邪聚。衆生身中。自性清淨。心無異。無差別。光明明了。以離客塵。諸煩惱。故。後時說言。如來法身。如是。以真金。譬喻。依真如。無差別。不離。中。法身。故。說。諸衆生。皆有。如來藏。以下。自性清淨。心雖清淨。而本來無二法。上。故。是。故。經。中。告。文殊師利。言。文殊師利。如來。如。實。知。見。自身。根本。清淨。智。以。依。自身。根本。智。故。知。諸衆生。有。清淨。身。文殊師利。所謂。如來。自性。清淨。身。乃至。一切衆生。自性。清淨。身。此。二法。者。無二。無差別。是。故。偈言。
2) 又復偈言。
一者如。地。藏。二者如。樹。果。
一切諸衆生。名為。如來。體。皆有如來藏。平等。如來藏。依。如是。義。故。應。當。如。是。知。真如清淨法。說。一切衆生。

- 1) 如 + (是) 宋・元・明・宮本。
- 2) 又復偈言 梵藏欠く。

anādi-prakṛitisthaṁ ca samudānītam uttaram || 149 ||
 buddha-kāya-trayāvāptir asmād gotra-dvayān matā |
 prathamāt prathamah kāyo dviti (37b) yād dvau tu
 paścimau || 150 ||
 ratna-vigrahavaj jñeyah kāyah svābhāvikah cūbhaḥ |
 akṛitrimatvāt prakṛiter guṇa-ratnācṛayatvataḥ¹⁾ || 151 ||
 mahā-dharmādhirājatvāt sāmabhogaḥ cakṛa-vartivat |
 pratibimba - svabhāvatvān nirmāṇam hema-bimbavat
 || 152 ||
 ity evam ebhir avaṣiṣṭaiḥ pañcabhir nidhi-taru-ratna-
 vighraha-cakra-varti-kanaka-bimba-dṛiṣṭāntais tri-vidha-buddha-
 kāyōtpatti-gotra²⁾svabhāvārtham adhikṛitya tathāgata-dhātur
 eṣāṁ garbhaḥ sarva-sattvānām iti paridīpitam | tri-vidha-
 buddha-kāya-prabhāvitatvaṁ hi tathāgatatvam | atas tat-prāp-
 taye hetus tathāgata-dhātur iti | hetv-artho 'tra dhātv-arthah |
³⁾yata āha | tatra ca sattve sattve tathāgata-dhātur utpanno
 garbha-gataḥ samvidyate na ca te sattvā budhyanta iti | evaṁ
 hy āha |
 anādi-kāliko dhātuḥ sarva-dharma-samāc-
 rayah |
 tasmin sati gatiḥ sarvā nirvāṇādhigamo 'pi ca ||
 tatra katham anādi-kālikah | yat tathāgata-garbham evā-
 hikṛitya⁴⁾bhagavatā pūrva-koṭir na prajñāyata iti deṣitam
 prajñaptam | dhātur iti | yad āha | yo 'yam bhagavaṁs tathā-
 gata - garbho⁵⁾lokōttara⁵⁾-garbhaḥ prakṛiti - pariṣuddha⁶⁾-garbha
 iti | sarva-dharma- samācṛaya iti | yad āha | tasmād bhagavaṁs
 tathāgata-garbho niṣṛaya ādhāraḥ pratiṣṭhā sambaddhānām

- 1) T は ācṛayatva が gter (nidhi) とあり。
 2) T に svabhāvārtham を欠く。
 3) C は “yata……iti” を欠く, T は S と 合する。
 4) T は bhagavatā を欠く。
 5) 6) T は choṣ が入って lokottara-dharma, pariṣuddha-dharma。

無始、世界來、
 依三種、仏性、
 知有初、法身、
 真仏法身淨、
 撰功德、実体、
 依止鏡像、体、
 此偈明何義。余五種譬喻所、謂藏樹金像、輪聖王、宝像譬喻。示現生三、彼三仏法身、以
 依自体性、如來之性、諸衆生、藏、是故說言、一切衆生有、如來藏。此示何義。以下諸仏如來有、
 三種身、得名義、故。此五種喻、能作三種、仏法身、因。以是義、故說、如來性、因此、以何義。此
 中明、性義、以為、因義。
 2)
 以是義、故、經、中、偈、言、
 無始、世來、性、
 及証、涅槃、果、
 此偈明何義。無始世來性者、如經說言、諸仏如來、依、如來藏、說、諸衆生、無始、本際、不、可、
 得、知、故。所言性者、如聖者勝鬘經言、世尊。如來說、如來藏、者、是法界藏。出世間法身藏。
 出世間上上藏。自性清淨法身藏。自性清淨如來藏。故。作、諸法、依止者、如、聖者勝鬘經言、
 世尊。是故、如來藏、是依。是持。是住持。是建立。
 作、諸法、依止、
 依、性、有、諸道、
 自性清淨心、
 得出三種身、
 依第二譬喻、
 猶如真金像、
 証大法王位、
 有化仏、像現、
 修、行、無上道、
 依、初、譬喻、故、
 知、有、三、仏身、
 以、性、不、改、變、
 如、輪聖王、

1) 像 = 應 宋・元・明・宮本。

2) 梵文の下註³⁾参照。

avinirbhāgānām amukta-jñānānām asaṃskṛitānām dharmāṇām |
asaṃbaddhānām api bhagavan 1)vinirbhāga-dharmāṇām mukta-
jñānānām saṃskṛitānām dharmāṇām niṣṛaya ādhāraḥ pratiṣṭhā
tathāgata-garbha iti | (38a) tasmin sati gatiḥ sarvêti | yad
āha | sati bhagavaṃs tathāgata-garbhe saṃsāra iti 2)parikalpam 5
asya vacanāyêti | nirvāṇādhigamo 'pi cêti | yad āha | tathā=
gata-garbhaḥ ced bhagavan na syān na syād duḥkhe 'pi nirvin
na nirvāṇēcchā prārthanā prañidhir vêti vistarah |

sa khalv eṣa tathāgata-garbho 3)dharmā- kāyāvipralambhaḥ
tathatāsaṃbhinna-lakṣaṇo niyata-gotra-svabhāvaḥ sarvadā ca 10
sarvatra ca nirvaṇeṣa-yogena 4)sattva-dhātav iti draṣṭavyam
dharmatām pramāṇi-kṛitya | yathōktam | eṣā kula-putra
dharmāṇām dharmatā | utpādād vā tathāgatānām anutpādād
vā sadāivāite sattvās tathāgata-garbha iti | yāiva cāsau dhar-
matā sāvātra yuktir yoga 5)upāyaḥ paryāyaḥ | evam eva tat 15
syāt | anyathā nāiva tat syād iti | sarvatra dharmatāiva
6)pratiṣṭhānam | dharmatāiva yuktiḥ citta-nidhyāpanāya citta-
saṃjñāpanāya | sā na cintayitavyā na vikalpayitavyādhimokta=
vyêti 7) |

ṣṛaddhayāivānugantavyam paramārthe svayam-bhuvām | 20
na hy acakṣuḥ prabhā-diptam ikṣate sūrya-maṇḍalam
|| 153 ||

samāsata ime catvāraḥ pudgalās tathāgata-garbha-darṣanam
praty acakṣuṣmanto vyavasthitāḥ | katame catvāraḥ | yad uta

- 1) T は vinirbhāga-dharmāṇām が rnam-par dbye-ba dan bcas-paḥi
chos (savinirbhāga……)
2) T は btags-pa (upanita, prajñapti)
3) T は chos-kyi sku-lta rgya-che-ba de-bshin-ggigs-pa (dharmakā-
yavad-vipula-tathāgata)
4) T は sattva-dhātav を欠く。
5) T は upāyaḥ paryāyaḥ が thabs yin te.
6) T は pratiṣṭhānam が rtogs-pa (vyutpanna)
7) T は ḥbaḥ-shig-tu zad-pa (kevalam) を入れ補訳している。

此偈明何義。略說一切衆生界中有四種衆生。不識如來藏。如生盲人。何等為四。

不能見中日輪。

唯依如來信。

信於第一義。

如無眼目者。

此明何義。明如來藏究竟如來法身不差別。真如。體相畢竟定。性。於一切時。一切衆
生。身中皆無。余。心。知。此云何知。依法相知。是故經言。善男子。此法性法體。性。自性常住
如來出世若不。出世。自性清淨本來常住。一切衆生有。如來藏。此明何義。依法性。依法體。
依法。相。依。法。方便。此法為。如是。為。不。如是。不可思議一切如法。依法。量。依。
法。信。得。心。淨。得。心。定。彼。不。可。分別。為。實。為。不。實。唯依如來信。是故偈言。

得厭苦。樂求。涅槃。不。欲。涅槃。不。願。涅槃。故。
此明何義。明如來藏究竟如來法身不差別。真如。體相畢竟定。性。於一切時。一切衆
生。身中皆無。余。心。知。此云何知。依法相知。是故經言。善男子。此法性法體。性。自性常住
如來出世若不。出世。自性清淨本來常住。一切衆生有。如來藏。此明何義。依法性。依法體。
依法。相。依。法。方便。此法為。如是。為。不。如是。不可思議一切如法。依法。量。依。
法。信。得。心。淨。得。心。定。彼。不。可。分別。為。實。為。不。實。唯依如來信。是故偈言。

1) [離] = 宋・元・明・宮本。

prithag-janaḥ ṣrāvakaḥ pratyekabuddho nava-yāna-saṃprasthitaḥ
ca bodhisattvaḥ | yathōktam | agocarō 'yaṃ bhagavaṃs tathā=
gata-garbhaḥ satkāya-dṛiṣṭi-patitānāṃ viparyāsābhiratānāṃ
cūnyatā-vikṣipta-cittānāṃ iti | tatra satkāya-dṛiṣṭi-patitā ucyante
bāla-prithag-jauāḥ | tathā hi te 'tyanta-sāsrava-skandhādi 5
(38 b) n dharmān ātmata ātmīyataḥ cōpagamyāhamkāra-mama-
kārabhiniviṣṭāḥ satkāya-nirodham anāsrava-dhātum adhimoktum
api nālam | kutaḥ punaḥ sarva-jñā-viṣayaṃ tathāgata-garbham
avabhotsyanta iti | nēdaṃ sthānaṃ vidyate | tatra viparyāsā=
bhiratā ucyante ṣrāvaka-pratyekabuddhāḥ | tat kasmāt | te 'pi 10
hi nitye tathāgata-garbhe saty uttari bhāvayitavye tan-nitya-
saṃjñā-bhāvanā-viparyayeṇānitya-saṃjñā-bhāvanābhiratāḥ |
sukhe tathāgata-garbhe saty uttari bhāvayitavye tat sukha-
saṃjñā-bhāvanā-viparyayeṇa duḥkha-saṃjñā-bhāvanābhiratāḥ |
ātmani tathāgata-garbhe saty uttari bhāvayitavye tad-ātma- 15
saṃjñā-bhāvanā-viparyayeṇānātmā-saṃjñā-bhāvanābhiratāḥ |
cūbhe tathāgata-garbhe saty uttari bhāvayitavye tac-chubha-
saṃjñā-bhāvanā-viparyayeṇācūbha-saṃjñā-bhāvanābhiratāḥ |
evam anena paryāyeṇa sarva-ṣrāvaka-pratyekabuddhānāṃ api
dharmīkāya-prāpti-vidhura-mārgābhiratatvād agocaraḥ sa par=
ama-nitya-sukhātma-cūbha-lakṣaṇo dhātur ity uktam | yathā 20
ca sa viparyāsābhiratānāṃ anitya-duḥkhānātmācūbha-saṃjñānāṃ
agocaras tathā vistareṇa mahā-parinirvāṇa-sūtre bhagavatā vāpi-
toya-maṇi-dṛiṣṭāntena prasādhitaḥ |

tad-yathāpi nāma bhikṣavo grīṣma-kāle vartamāne salila-
bandhanam baddhvā svaiḥ svair maṇḍanakōpabhogair janāḥ salile
kriḍeyuḥ | atha tatrāko jātyaṃ vaidūrya-maṇim antar-udake
sthāpayet | tatas tasya vaidūryasyārthe sarve te maṇḍanakāni
tya (39 a) ktvā nimajjeyuḥ | atha yat tatrāsti carkaram kaṭha=
lyam vā tat te maṇir iti manyamānā grihītvā mayā labdho maṇir 25
ity utsriḍyōtsriḍya vāpi-tire sthitvā nāyaṃ maṇir iti saṃjñāṃ
30

1) T ṭa phyuñ-nō, phyuñ-nas rdziñ-buḥi ḥgram-du bltas-pa-na
(unmajjeyuḥ, unmajjya vāpitire dṛiṣṭvā)

一者凡夫。二者聲聞。三者辟支佛。四者初發菩提心。菩薩。如丁聖者勝鬘經中說言。世尊。
如來藏者。於身見。衆生。非其境界。世尊。如來藏者。於四顛倒。衆生。非其境界。世尊。如
來藏者。於散亂心失空。衆生。非其境界。世尊。此明何義。身見。衆生。者。謂諸凡夫。以彼凡夫
實無色等五陰諸法。而取以為我。我所。虛妄執著。我所。慢。於離身見等滅諦。無漏
性甘露之法。信亦不能。何況出世間一切智境界。如來藏。能證解。無有是處。又取四顛
倒。諸衆生者。所謂聲聞辟支佛人。以彼聲聞辟支佛等。應修三行。如來藏。常而不修。行。如來藏
以為常。以顛倒。取一切法。無常。修。行。如來藏。無常。樂。三無常。修。行。以不知不覺。故。
應修三行。如來藏。樂。而不修。行。如來藏。以為樂。以顛倒。取一切法。皆苦。修。行。如來藏。
苦。樂。苦。修。行。以不知不覺。故。應修三行。如來藏。我。而不修。行。如來藏。以為我。以顛倒。
取一切法。無我。修。行。如來藏。無我。樂。無我。修。行。以不知不覺。故。應修三行。如來藏。淨。
而不修。行。如來藏。以為淨。以顛倒。取一切法。不淨。修。行。如來藏。不淨。樂。不淨。修。行。以
不知不覺。故。如是。聲聞辟支佛等。一切不能。如實隨順法身。修。行。以是義。故。第一彼
岸。常樂我淨。法。非彼。聲聞辟支佛等。所知境界。如是。樂。顛倒。無常。苦。無我不淨。相等。彼。如來藏。
非其境界。如是。是之義。大般涅槃。修多羅。中。池水。譬喻。廣明。此義。應知。彼。經。中。言。
迦葉。譬如。春時。有諸人等。在大池。浴。乘。船。遊戲。失。琉璃。寶。沒。深。水。中。是時。諸人。悉。其
入。水。求。覓。是。寶。競。捉。瓦。石。艸。木。沙。礫。各。各。自。謂。得。琉璃。珠。欲。喜。持。出。乃。知。非。真。
入。水。求。覓。是。寶。競。捉。瓦。石。艸。木。沙。礫。各。各。自。謂。得。琉璃。珠。欲。喜。持。出。乃。知。非。真。

- 1) 信亦不能 = 尚不能信 宋・元・明・宮本。
- 2) 常 = 想 宋・元・明・宮本。
- 3) 皆苦 = 苦想 宋・元・明・宮本。
- 4) 我 + (想) 宋・元・明・宮本。
- 5) 淨 + (想) 宋・元・明・宮本。

pravarteyuḥ | tac ca vāpy-udakam maṇi-prabhāvena ¹⁾tat-prabh-
 ēva bhrājeta | evam teṣāṃ tad udakam bhrājamānam ²⁾dṛiṣṭvāho
 maṇir iti guṇa-samjñā pravarteta | atha tatrāika upāya-kuṣalo
 medhāvi maṇim tattvataḥ pratilabheta | evam eva bhikṣavo yuṣm-
 ābhiḥ sarvam anityam sarvam duḥkham sarvam anātmakam sar-
 vam aṣubha (XIXa) m iti sarva-grahaṇena bhāvita-bhāvitam
 bahulī - kṛita - bahulī - kṛitam ³⁾dharma - tattvam ajānadbhis tat
 sarvam ⁴⁾ghaṭitam nirarthakam | tasmād bhikṣavo vāpī-ṣarkara-
 kathalya-vyavasthitā iva mā bhūta upāya-kuṣalā yūyam bhavata |
 yad yad bhikṣavo yuṣmābhiḥ sarvam anityam sarvam duḥkham
 sarvam anātmakam sarvam aṣubham iti sarva-grahaṇena bhāvita-
 bhāvitam bahulī-kṛita-bahulī-kṛitam tatra tatrāiva nitya-sukha-
⁵⁾ṣubhātmakāni santīti vistareṇa parama-dharma-tattva-vyavast-
 hānam ārabhya viparyāsa-bhūta-nirdeṣo yathā-sūtram anugant-
 avyaḥ |

tatra cūnyatā-vikṣipta-cittā ucyante nava-yāna-samprasthitā
 bodhisattvās tathāgata - garbha-cūnyatārtha⁶⁾-naya-vipranaṣṭāḥ |
 ye bhāva-vināṣāya cūnyatā-vimokṣa-mukham icchanti sata eva
 dharmasyōttara-kālam ucchedo vināṣaḥ parinirvāṇam iti | ye
 vā punaḥ cūnyatōpalambhena cūnyatām pratisaranti cūnyatā
 nāma rūpādi - vyatirekeṇa kaṣ - cid bhā (39b) vo 'sti yam
 adhigamiṣyāmo bhāvayiṣyāma iti | tatra katamaḥ sa tathāgata-
 garbha-cūnyatārtha⁷⁾-naya ucyate |

nāpaneyam ataḥ kim-cid upaneyam na kim-cana |

- 1) T は tat が nor-bu (maṇi)
- 2) T は dṛiṣṭvā を欠く。
- 3) T は nor-bu ltar chos-kyi don de-kho-na (maṇivat dharmārtha tattvam?)
- 4) ghaṭitam が T は ñe-bar bshag (upasthāna)
- 5) テキストに ṣubha とあるけれども、四徳をあげている点から ṣubha の誤りであろう。今 ṣubha に改める。T は ṣubha を欠く。
- 6) T は artha を欠く。
- 7) T は artha を欠く。

是時宝珠猶在水中。以珠力故水皆澄清。於是大衆乃見宝珠。故在水下猶如仰觀。虛空月形。是時衆中有一智人。以方便力。安徐入水。即便得珠。汝等比丘。不応如。是修集無常苦無我想不淨想等。以爲真實。如再彼諸人各以瓦石艸木沙礫。而爲宝珠。汝等當善學方便。在在處處常修我想常樂淨想。復應當知。先所修集四法相。貌悉是顛倒。欲得真實修諸想者。如彼智人巧出宝珠。所謂我。想常樂淨想故。

又散乱心失。空衆生者。謂初發心菩薩。離空如來藏義。以失變壞物。修行名爲空解脫門。此以何義。初發心菩薩起如是心。實有法斷滅後時得涅槃。如是菩薩失空如來藏。修行又復有人。以空爲有物。我應得空。又生如是心。離色等法。別更有空。我應修行。令得彼空。彼人不知空。以何等法。是如來藏。傷言。

不空如來藏。謂無上弘法。

- 1) 水+(中) 宋・元・明・宮本。
- 2) [想]— 宋・元・明・宮本。
- 3) 以=明 宋・元・明・宮本。
- 4) [如]— 宋・元・明・宮本。

|| 154 ||

aṣūnyo 'nuttarair dharmair avinirbhāga-lakṣaṇaiḥ || 155 ||

atah prakṛiti-pariçuddhāt tathāgata-dhātoḥ saṁkleṣa-nimittam

āgantuka-mala-¹⁾ṣūnyatā-prakṛititvād asya | nāpy atra kim-

cid upaneyam asti vyavadāna-nimittam avinirbhāga-cuddha-

dharma-prakṛitvāt | tata ucyate | cūnyas tathāgata-garbhō

vinirbhāgair mukta-jñaih sarva-kleṣa-kocaih | acūnyo gaṅgā- 10

nadī-vālikā-vyativṛittair avinirbhāgair amukta-īñair acintvair

buddha-dharmair iti | evaṃ vad yatra nāsti tat tena cūṇyam

iti samanupācyati | yat punar atrāvacaistam bhavati tat-śad ihāstīti

yathā - bhūtaṁ prajānāti | samāronāpavādānta - parivarjanād

²⁾aparyantam cūnyatā-laksanam anena cloka-dvayena naridini- 15

tam | tatra yesām itah cūnyatārtha³⁾-navād bahic cittam vika-

ipyate visarati na samādhīyate nâikâgri-bhāvati tena te cūrvatā-

vikṣipta - cittā ucyante | na hi paramārtha - cūṇyatā - iñāna -

mukham⁴⁾ antarena cakyaṭe 'vikalpo dhātur adhigantum⁵⁾ sākṣā-

tkartum | idam ca samādhāvôktam | tathāgata-garbhā-iṣānam 30

eva tathāgatānām cūṇvatā-jñānam | tathāgata-garbhac-ca sarva-

çrāvaka-pratyekabuddhair adriṣṭa-pūryo 'nadhigata-pūrva iti

vistarāḥ | sa khalv esa tathāgata-garbho (40a) yathā dharma-

dhātu-garbbhas tathā satkāya - dristi - patitānām agocara ity

uktam dṛiṣṭi-pratipakṣatvād dharmā-dhātobḥ । yathā dharmā-

kāyo lokōttara - ⁶dharma - garbhas tathā viparyvācābhinnatānām

1250 lokottara - dharma - garbhas tatha viparyasabhiratanam

6) T は dharma を欠く。

- 149 -

不相捨離。不相増減。一法。如來無為身。不増減。一法。客塵虛妄染。本來自性空。此偈明三義。一。不減。二。法者。不減煩惱。不増増。一法。三。者真如性中。不増減。一法。以不捨離清淨體。故。偈言。不相捨離。相。不増増。減。一法。故。是故聖者勝鬘經言。世尊。有二種。如來藏空智。世尊。空如來藏若離若脫若異。一切煩惱藏。世尊。不空如來藏。過。於恒沙。不離。不脫。不異。不思議。佛法。故。如。是。以。何。等。煩惱。以。何。等。處。無。如。是。如。實。見。知。名。為。空。智。又。何。等。諸。法。何。處。具。足。有。如。是。如。實。見。知。名。不。空。智。如。是。明。離。有。無。二。邊。如。實。知。空。相。此。二。偈。中。明。如。是。義。又。衆。生。若。離。如。是。空。智。彼。人。則。是。仏。境。界。外。名。不。相。應。不。得。定。不。得。二。心。以。是。義。故。名。散。亂。心。失。空。衆。生。何。以。故。以下。離。第一。義。空。智。門。無。分。別。境。界。不。可。得。証。不。可。得。見。是。故。聖。者。勝。鬘。經。言。世。尊。如。來。藏。智。名。為。空。智。世。尊。如。來。藏。空。智。者。一。切。生。聞。辟。支。仏。等。本。所。不。見。本。所。不。得。本。所。不。証。本。所。不。會。世。尊。一。切。苦。滅。唯。仏。得。証。壞。二。切。煩。惱。藏。修。一。切。滅。苦。道。故。如。是。此。如。來。藏。以。三。法。界。藏。一。故。身。見。等。衆。生。不。能。得。見。已。說。以。三。身。見。相。對。治。真。実。法。界。未。現。前。一。故。又。如。是。出。世。間。法。身。如。來。藏。非。顛。倒。衆。生。境。界。

1) 定=空 宋·元·明·宮本。

agocara ity uktam anityādi-loka-dharma-pratipakṣeṇa lokōttara-
 1) dharma - paridipant | yathā 2) prakṛiti-pariṣuddha-dharma-
 garbhas tathā cūnyatā-3) vikṣiptānām agocara ity uktam āgantuka-
 mala-cūnyatā-prakṛititvād viṣuddhi-guṇa-dharmāṇām avinirbhā-
 āga - lokōttara-dharma-kāya-prabhāvi (XIXb) tānām iti | tatra 5
 yad eka-naya-dharma-dhātva-asambheda-jñāna-mukham āgamyā
 lokōttara-dharma-kāya-prakṛiti-pariṣuddhi - vyavalokanam idam
 atra yathā-bhūta-jñāna-darśanam abhipretam yena daṣa-bhūmi-
 sthitā bodhisattvās tathāgata-garbham iṣat paṇyanti uktam |
 evam hy āha |

chidrābhre nabhasīva bhāskara iha tvam
 cūddha-buddhikṣaṇair āryair apy avalokyase
 na sakalaḥ 4) prādeṣikī-buddhibhiḥ |
 jñeyānanta-nabhas-5) tala-praviṣṭam te dha-
 rma-kāyaṁ tu te sākalyena vilokayanti bha-
 gavan yeṣām anantā matir iti ||

6) yady evam asaṅga-niṣṭhā-bhūmi-pratiṣṭhitānām api param-
 āryāṇām a-sarva-viśaya eṣa durdṛiṣo dhātuḥ | tat kim anena
 bāla-prīthag-janam ārabhya deṣitenēti | deṣanā-prayojana-
 saṅgrāhe ṣlokaḥ | 7) ekena praṇo dvitīyena vyākaraṇam | 20
 cūnyam sarvaṁ sarvathā tatra tatra jñeyam
 megha-svapna-māyā-kṛitābham |
 ity uktvāivaṁ 8) buddha-dhātuḥ punaḥ kim

- 1) T は dharma を chos-kyi shu (dharmakāya)
- 2) T は prakṛiti が chos-kyi sku (dharmakāya)
- 3) T には sems (citta) がある。
- 4) prādeṣikī が T には phyogs-gcig (eka-prādeṣikī)
- 5) T は tala が dbyiṁs (dhātu)
- 6) C は以下を為我義品第七としている。T には冒頭に smras-pa (pṛiṣṭ-
 hamāna) を補訳してゐる。
- 7) C は “ekena……vyākaraṇam” を欠く。
- 8) T は saṁs-rgyas sñiṁ-po (buddha-garbhaḥ)

已說以無常等世間法對治出世間法界未現前故。又如。是自性清淨法界。如來空藏。非
 散亂心失空衆生境界。已說以下煩惱垢客塵染空自性清淨功德法。不相捨離。出世間法身
 得名故。此明何義。又依三昧等味法界無差別智門。觀三昧。出世間自性清淨法身。是名
 如來知見。真如是故。經說十住菩薩。唯能少分見。如來藏。何況凡夫二乘人等。是故偈言。
 譬如薄雲中。見。虛空有。日。淨慧諸聖人。如。無。眼目。者。
 見。亦如是。如。目。不見。日。所知。一切。法。
 不。能。觀。如。來。無。量。智。能。見。
 有。無。量。無。邊。諸。如。來。法。身。以。無。量。智。故。1)
 諸。如。來。法。身。以。無。量。智。故。1)
 以。無。量。智。故。1)
 2) 究竟一乘寶性論為何義說品第七
 3) 問曰。真如。如來。藏。義。住。無。障。礙。究竟。菩薩。地。菩薩。第一。聖。人。亦。非。一。境界。以。是。一切。智
 者。境界。故。若。如。是。者。何。故。乃。為。愚。癡。顛。倒。凡。夫。人。說。答。曰。以。是。義。故。略。說。四。偈。5)
 處。經。中。說。三。及。如。夢。幻。等。皆。有。如。來。性。而。不。說。空。寂。一。切。諸。衆。生。有。為。法。如。雲。一切。諸。衆。生。
 內外。一切。空。此。中。何。故。說。三。而。不。說。空。寂。一。切。諸。衆。生。有。為。法。如。雲。一切。諸。衆。生。

- 1) 卷第4終 宋・元・明・宮本。
- 2) 卷第五首 宋・元・明・宮本。梵藏共に「究竟……第七」なし。
- 3) “問曰……說四偈”は冠頭偈には“問曰。余修多羅中皆說一切空。此中何故說
 有真如。佛性。偈言”とあり。
- 4) 闕=癡 宋・元・明・宮本。
- 5) 梵文下註7) 参照。T は S に同じ。

sattve ¹⁾sattve 'stīti buddhair ihôktam || 156 ||
 linam cittam hina-sattveṣv avajñābhū (40 b)
 ta-grāho bhūta-dharmāpavādaḥ |
 ātma-snehaḥ cādhikaḥ pañca-doṣā²⁾ yeṣāṃ
 teṣāṃ tat prahāṇārtham uktam || 157 ||

5 asya khalu ṣloka-dvayasyārthaḥ samāsenā daṣabhiḥ ṣlokair
 veditavyaḥ |
 viviktaṃ saṃskṛitaṃ sarva-prakāraṃ bhūta-koṭiṣu |
 kleṣa-karma-vipākārtham meghādivad udāhṛitam || 158 ||
 kleṣā meghôpamāḥ kṛitya-kriyā svapnôpabhogavat |
 māyā - nirmītavat skandhā vipākāḥ kleṣa - karmaṇām
 || 159 ||

10 pūrvam evaṃ vyavasthāpya tantre punar ihôttare |
 pañca-doṣa-prahāṇāya dhātv-astitvaṃ prakāṣitam || 160 ||
 tathā hy aṣṭavaṇād asya bodhau cittam na jāyate |
 keṣāṃ cin nica-cittānām ātmavajñāna-doṣataḥ || 161 ||
 bodhi-cittôdaye 'py asya çreyān asmīti manyataḥ |
 bodhy-anutpanna-citteṣu hina-saṃjñā-pravartate || 162 ||
 tasyāivaṃ matinaḥ samyag-jñānaṃ nōtpadyate tataḥ |
 abhūtaṃ parigrihṇāti bhūtaṃ arthaṃ na vindate || 163 ||
 abhūtaṃ sattva-doṣāḥ te kṛitrimāgantukatvataḥ |
 bhūtaṃ tad-doṣa-nairātmyaṃ çuddhi-prakṛitayo guṇāḥ
 || 164 ||

15 grīhṇan doṣān asad-bhūtān bhūtān apavadan guṇān |
 maitrīm na labhate dhīmān sattvātma-sama-darçikām
 || 165 ||

20 tac-chravāj jāyate tv asya protsāhaḥ çāṣṭri-gauravam |
 prajñā jñānaṃ mahā-maitrī pañca-dharmôdayāt tataḥ
 || 166 ||

30 niravajñāḥ sama-prekṣi nirdoṣo guṇavān asau |

此四行偈以三十一偈略釈
 諸修多羅中
 如雲等一虛妄
 如幻陰亦爾
 此究竟論中
 以衆生不聞
 欺自身諸過
 見發菩提心
 不起正智心
 妄取衆生過
 自性淨功德
 是故不得生
 起大勇猛力
 生增長五法
 唯有諸功德

輕慢諸衆生
 計內身有乙神我
 故說有仏性
 知偈言
 說有爲諸法
 煩惱猶如雲
 煩惱業生故
 離五種過
 不發菩提心
 未發菩提心
 我勝彼菩薩
 是故虛妄取
 不知客染心
 以取虛妄過
 自他平等慈
 及恭敬世尊
 不退轉平等
 取一切衆生

謂煩惱業等
 所作業如夢
 先已如是說
 說有眞如性
 或有怯弱心
 生起欺慢意
 如是憍慢人
 不知如實法
 實無彼諸過
 不知眞功德
 聞彼眞如性
 智慧及大悲
 無一切諸過

執著虛妄法
 爲令如是等

1) 冠頭偈には“答曰偈言”がある。

1) T は sattve を欠く。

2) T は lhag-paḥi skyon lña (adhikāḥ pañca-doṣā)

ātma-sattva-sama-snehaḥ kṣipram āpnoti buddhatām

|| 167 ||

ḍiti ratna-gotra-vibhāge mahā-yānōttara-tantra-çāstre tathā-
gata-garbhādhikāraḥ prathamah paricchedaḥ çlokārtha-saṁgraha-
vyākhyānataḥ samāptaḥ || I ||

II

2)uktā samalā tathatā | nirmalā (41a) tathatēdānīm vaktā= 10
vyā | tatra katamā nirmalā tathatā yāsau buddhānām bhagava-
tām anāsrava-dhātau sarvākāra-mala-vigamād āçraya-parivṛittir
vyavasthāpyate | sā punar aṣṭau 3)padārthān adhikṛitya samāsato
veditavyā | aṣṭau 4)padārthāḥ katame |

çuddhiḥ prāptir viśaṁyogaḥ sva-parārthas tad-āçrayaḥ | 15
gāmbhīryāudārya-māhātmyam yāvat kalam yathā ca tat
|| 1 ||

ity ete 'ṣṭau 5)padārthā yahtā-saṁkhyam anena çlokena
paridipitāḥ | tad-yathā svabhāvārtho hetv-arthāḥ phalārthāḥ
karmārtho yogārtho vṛitty-artho nityārtho 'cintyārthāḥ | 20
tatra (XXa) yo 'sau dhātur avinirmukta-kleṣa-koṣas tathāgata-
garbha ity ukto bhagavatā | tad-viçuddhir āçraya-parivṛitteḥ
evabhāvo veditavyaḥ | yata āha | yo bhagavan sarva-kleṣa-
koṣa-koṭi-gūḍhe tathāgata-garbhe niṣkāṅkṣaḥ sarva-kleṣa-koṣa-
vinirmuktes tathāgata-dharma-kāye 'pi sa niṣkāṅkṣa iti | dvi- 25
vidham jñānam lokōttaram avikalpaṁ tat-pṛiṣṭha-labdham ca |
laukika-lokōttara-jñānam āçraya-parivṛitti-hetuḥ prāpti-çabdena
paridipitāḥ | prāpyate 'nenēti prāptiḥ | tat phalaṁ dvi-vidham |
dvi-vidho viśaṁyogaḥ kleṣāvaraṇa-viśaṁyogo jñeyāvaraṇa-viśaṁ-
yogaḥ ca | yathā-kramam sva-parārtha-saṁpādanam karma | tad 30

- 1) C は “iti……samāptaḥ” を欠く。T は S と一致。
2) C は以下を身軀清淨菩提品第八としている。
3) 4) 5) T は padārtha が don (artha)

1)

如、我身、無二異、速疾得成就、無上仏菩提、

2) 究竟一乘宝性論身軀清淨成菩提品第八
論曰。已說有垢如。自此以下說無垢如。一應知。無垢如者謂諸仏如来。於無漏法界中。
遠離一切種種諸垢。一應知。無垢如者謂諸仏如来。於無漏法界中。
知。何等為八。偈言。

淨得及遠離

自他利相応

依止深快大

3) 時數如二彼法
是名八種句義次第。一偈示現八種義。一者實體。二者因。三者果。四者業。
五者相応。六者行。七者常。八者不可思議。實體者向說如来藏。不離煩惱藏。所纏。以
遠離諸煩惱。一應知。淨得。是名爲實體。一應知。淨得。是名爲實體。一應知。淨得。是名爲實體。
於無量煩惱藏所纏如来藏。不疑惑者。於出無量煩惱藏。法身。亦無二疑惑。因者有。
二種無分別智。一者出世間無分別智。二者依出世間智。得世間出世間依止行智。是名爲。
因。偈言。淨得。果者即依此得。得証。智果。是名爲果。偈言。遠離。故。業者有三。種遠離。
一者遠離煩惱障。二者遠離智障。如是次第。故名。遠離。如是遠離。自利利他。成就。是名爲。
業。偈言。自他利。故。

1) 梵文下註1) 参照。

2) 梵藏共に「究竟……第八」を欠く。き、菩提品第二とする。

3) この一句は冠頭偈に“如彼所為義”とあり。

adhiṣṭhāna-samanvāgamo yogah | tribhir gāmbhīryāudārya-
māhātmya-prabhāvitair buddha-kāyair nityam ā-bhava-gater
acintyena prakāre (41b) na vartanam vrittir iti | uddānam |

svabhāva-hetu-phalataḥ karma-yoga-pravṛttitaḥ |
tan-nityācintyataḥ cāiva buddha-bhūmiṣv avasthitiḥ || 2 ||
tatra svabhāvārtham hetv-artham cārabhya buddhatve tat-
prāpty-upāye ca ślokaḥ |

buddhatvaṃ prakṛiti-prabhāsvaraṃ iti proktaṃ yad āga-
ntuka-kleṣa - jñeya - ghanābhra-¹⁾jāla - paṭala - cchannam
ravi-vyomavat |

sarvair buddha-guṇair upetam amalair nityam dhruvam
cācṣvataṁ dharmāṇāṁ tad akalpana-pravicaya-jñānācra-
yād āpyate ॥ 3 ॥

asya çlokasyârthaḥ samāsenā caturbhiḥ çlokair veditavyaḥ |

buddhatvam avinirbhāga-çukla-dharma-prabhāvitam |

ādityākāṣavaj jñāna-prahāṇa-dvaya-lakṣaṇam ॥ 4 ॥

gaṅgā-²⁾tīra-rajo-'tītair buddha-dharmaḥ prabhāsvaraiḥ |

sarvair akṛitakair yuktam avinirbhāga-vṛittibhiḥ ॥ 5 ॥

svabhāvāpariniṣpatti-vyāpitvāgantukatvataḥ |

kleṣa-jñeyāvṛitis tasmān meghavat samudāhṛitā ॥ 6 ॥

dvayāvaraṇa-viçleṣa-hetur jñāna-dvayaṁ punaḥ ।

nirvikalpam ca tat-prīṣṭha-labdham taj jñānam iṣyate
॥ 7 ॥

yad uktam ācārya-parivṛttech svabhāvo viçuddhir iti tatra
viçuddhiḥ samāsato dvi-vidhā | prakṛiti-viçuddhir vaimalya-
viçuddhiḥ ca | tatra prakṛiti-viçuddhir yā vimuktir na ca visa-
myogaḥ prabhāsvarāyāç citta-prakṛiter āgantuka-malāvisaṃyo-
gāt | vaimalya-viçuddhir vimuktir viṣaṃyogaç ca vāry-ādinām
iva rajo.³⁾jalādibhyaḥ prabhāsvarāyāç citta-prakṛiter anavac-

相応者自利利他得無量功德。常畢竟作持是名相応。偈言「相応故。行常不思議者謂三
 種佛法身。無始世間界來作衆生利益。常不休息不可思議。」偈言「依止深快大故。以是
 義。故略說偈言。」
 実体因果業
 2) 及以相応行
 常不可思議
 名「仏地」應レ知
 又依「実体」依レ因於「仏地」中。及得レ彼「方便」因故說「三偈」。
 向説「仏法身」
 客塵所「染汚」
 為「彼厚密雲」
 常恒及不變
 此三行偈以「四行偈」略釈應レ知。偈言。
 仏身不「捨」離
 智離染不二
 非作法相応
 彼「法実無」體
 遠離彼二因
 及依「彼」所得
 此偈明「何義」。向説「三轉身実体清淨」。又清淨者略有二種。何等為二。一者自性清淨。二
 者離垢清淨。自性清淨者謂性解脱無レ所「捨離」。以「彼」自性清淨心体不「捨」一切客塵煩惱。
 以「彼」本來不相応故。離垢清淨者謂得「解脱」。又彼解脱不「離」一切法。如下水不「離」諸塵
 垢等。一而「言」清淨。以下「自性清淨」心。

1) T は tshogs (gaṇa, saṃbhāra)

2) T は tīra が kluṃ (nadi)

3) T は jala を欠く。

ṣam āgantuka (42a)-malebhyo viśamyoḡāt | tatra vaimalya-
viṣuddhau phalārtham ārabhya ¹⁾dvau ṣlokau |

hrada iva vimalāmbuḥ phulla-padma-²⁾kramāḍhyaḥ sakala

iva ṣaṇāṅko rāhu-vaktrād vimuktaḥ |

ravir iva ³⁾jaladādi-kleṣa-nirmukta-ṣaṣmir vimala-guṇa-
yutatvād bhāti muktaṁ tad eva || 8 ||

muni-vṛṣa-madhu-sāra-hema-ratna-⁴⁾pravara-

nidhāna-⁵⁾mahā-phala-drumābham |

sugata-vimala-ratna-vigrahāgra-kṣiti-pati-

kāñcana-bimbavaj jīnatvam || 9 ||

asya khalu ṣloka-dvayasyārthaḥ samāsato 'ṣṭābhiḥ ṣlokair
veditavyaḥ |

rāgādy-āgantuka-kleṣa-ṣuddhir ambu-hradādivat |

jñānasya nirvikalpasya phalam uktaṁ samāsataḥ || 10 ||

sarvākāra-varōpeta-buddha-bhāva-nidarṣanam |

phalaṁ tat-pṛiṣṭha-labdhasya jñānasya paridīpitam || 11 ||

svacchāmbu-hradavad rāga-rajah-⁶⁾kāluṣya-hānitaḥ |

vineyāmbu-ruha-dhyāna-vāry-abhiṣyandanāc ca tat || 12 ||

dveṣa-rāhu-pramuktatvā (XXb) n mahā-maitrī-kṛipām-
ṣubhiḥ |

jagat-spharaṇataḥ pūrṇa-vimalēndūpamam ca tat || 13 ||

mohābhra-⁷⁾jāla-nirmokṣāj jagati jñāna-ṣaṣmibhiḥ |

tamo-vidhamanāt tac ca buddhatvam amalārkatvat || 14 ||

stulya-tulya-dharmatvāt saddharma-rasa-dānataḥ |

phalgu-vyapagamāt tac ca sugata-kṣaudra-sāravat || 15 ||

5

10

15

20

25

遠離客塵煩惱垢更無餘故。又依彼果離垢清淨故說四偈。
如清淨池水。周市常圍繞。無垢功德具。堅實淨真金。轉輪聖王身。即是如來身。此四行偈以九行偈略釈。知。偈言。
食等客煩惱。果法如池水。依彼証智果。淨法難垢染。禪定習氣潤。徧益諸衆生。光明照衆生。離癡雲羅網。得無等等法。遠離蜂輪障。
猶如濁水塵。示現仏法身。是故如是說。可化諸衆生。遠離瞋羅睺。如十五日月。能除諸幽暗。智光照衆生。能與妙法味。
無分別上智。一切諸功德。食如濁水塵。如繞池藕華。以大慈悲水。遠離雲羅網。仏無垢日月。除滅諸黑暗。諸仏如蜜堅。
蜂王美味蜜。無垢真金像。如是等諸法。

1) T は dvau を欠く。

2) T は aḍhyaḥ が khebs-pa (chadana)

3) T は jaladādi が sprin tshogs。

4) T は pravara を欠く。

5) T は mahāphala を欠く。

6) T は kāluṣya を欠く。

7) T は jāla を欠く。

pavitratvād guṇa-dravya-dāridrya-vinivartanāt |
vimukti-phala-¹⁾dānāc ca suvarṇa-nidhi-vṛikṣavat || 16 ||
dharma-ratnātma-bhāvatvād dvi-padāgrāhipatyataḥ |
rūpa-ratnākṛititvāc ca tad ratna-nṛipa-(42b)²⁾bimbavat
|| 17 ||

yat tu ³⁾dvi-vidham lokōttaram avikalpam tat-pṛiṣṭha-labdh-
am ca jñānam ācārya-parivṛitter hetur viśamya-phala-samjñā-
itāyāḥ | tat karma sva-parārtha-sampādanam ity uktam | tatra
katamā sva-parārtha-sampat | yā savāsana-kleṣa-jñeyāvaraṇa-
vimokṣād anāvaraṇa-dharma-kāya-prāptir iyaṁ ucyate svārtha-
sāmpattiḥ | yā tad ūrdhva ā-lokāḍ anābhogataḥ kāya-dvaya-
sāmdarṣana-deṣanā vibhūta-dvaya-pravṛittir iyaṁ ucyate parā-
rtha-sāmpattir iti | tasyām* sva-parārtha-sāmpattau karmā-
tham ārabhya trayāḥ ślokaḥ |

anāsravam vyāpy avināṣa-dharmi ca dhru-
vam cīvam cācavatam acyutam padam |
tathāgatatvam gaganōpamam satām ṣaḍ-ind-
riyārthānubhaveṣu kāraṇam || 18 ||
vibhūti-rūpārtha-vidarṣane sadā ⁴⁾nimitta-
bhūtam sukathā-ṣuci-ṣrave |
tathāgatānām ṣuci-ṣila-jighraṇe mahārya-
saddharma-rasāgra-vindane || 19 ||
samādhi-saṁsparṣa-sukhānubhūtiṣu svabhāva-
gāmbhīrya-nayāboddhane |
susūkṣma-cintā-paramārtha-⁵⁾gahvaram tathā-
gata-vyoma-nimitta-varjitaḥ || 20 ||

- 1) dānāc が T 訳には smin-byed pyir (pākāt)
2) T は bimbavat が gser bshin (hemavat)
3) T は dvi-vidham を欠く。* sva-parārtham sāmpattau を藏訳により改める。
4) T には nimitta-bhūtam が 2) 偈に入り、梵文 20 偈の samādhi
saṁsparṣa sukhānubhūtiṣu が 19 偈に入っている。
5) T は gahvaram が bde-ṁdsad (ṣamkaram)。

又向說以二種智依自利他業。何者為二。一者出世間無分別智。二者依出世間
無分別智轉身得身行因。遠離煩惱得證智果。故又何者是成就自利。謂得解脫。遠
離煩惱。遠離智障。得無障礙清淨法身。是名成就自身利益。又何者是成就他利益。
既得成就自身利益。無始世來自然依彼二種身。示現世間自在力行。是名成就他
身利益。又依自利利他成就業義。故說四偈。
無漏及徧至 不滅法與恒 清涼不變異
不退寂靜處 諸仏如来身 如虛空無相
4) 為諸勝智者 作六根境界 示現微妙色
出於妙音聲 6) 令嗅仏戒香 與仏妙法味
5) 使覺三昧觸 令知深妙法 細思惟稠林
仏離虛空相

- 1) 故說金樹=說藏金剛 宋・元・明・宮本。
2) 宝=体 宋・元・明・宮本。
3) 智果=果智 宋・元・明・宮本。
4) ((為諸…法味))の30字=((妙色常湛然六根甚明淨仏眼見衆色耳聞一切声鼻能
嗅諸香舌能練衆味)) 宋・元・明・宮本。
5) 使=身 宋・元・明・宮本
6) ((令知…稠林)) 10字=((意知一切法除諸稠林行)) 宋・元・明・宮本。

karma jñāna-dvayasyāśīdat veditavyam samāsataḥ |
pūraṇam mukti-kāyasya dharma-kāyasya ṣoḍhanam || 21 ||
vimukti-dharma-kāyau ca veditavyau dvir ekadhā |
anāsravatvād vyāpitvād asaṃskṛta-padatvataḥ || 22 ||
anāsravatvaṃ kleśānāṃ savāsana-ni (43a) rodhataḥ |
asaṅgāpratighātavā jñānasya vyāpitā matā || 23 ||
asaṃskṛitatvam atyantam avināṣa-svabhāvataḥ |
avināṣitvam uddeśas tan-nirdeśo dhruvādibhiḥ || 24 ||
nāṣaḥ catur-vidho jñeyo dhruvatvādi-viparyayāt |
pūtir vikṛitir ucchittir acintya-namana-cyutiḥ || 25 ||
tad abhāvād ¹⁾dhruvaṃ jñeyaṃ civaṃ cāṣvatam acyutam |
padaṃ tad amala-jñānaṃ ṣukla-dharmāspadatvataḥ || 26 ||
yathānimittam ākāśaṃ nimittaṃ rūpa-darśane |
śabda-gandha-rasa-sprīṣya-dharmānāṃ ca śravādiṣu || 27 ||
indriyārtheṣu dhīrānāṃ anāsrava-guṇōdaye |
hetuḥ kāya-dvayaṃ tadvad anāvaraṇa-yogataḥ || 28 ||
yad uktam ākāśa-lakṣaṇo buddha iti tat pāramārthikam
āveṇikam tathāgatānāṃ ²⁾buddha-lakṣaṇam abhisamdhāyōktam |
evaṃ hy āha | sa ced dvātrīṃṣan-mahā-puruṣa-lakṣaṇais tathā=
āgato draṣṭavyo 'bhaviṣyat tad-rājāpi cakra-vartī tathāgato
'bhaviṣyad iti | tatra paramārtha-lakṣaṇe yogārtham ārabhya
ṣlokaḥ |

此四行偈以三八行偈略釈應レ知。偈言。
略説三種法一
清淨真法身
謂無漏徧至
及習氣滅故
無為の以不滅
恒等句解釈
死無常及転
以常故清涼
彼究竟足跡
示現於諸根一
法身亦如レ是
5) 具二六根境界一
如虛空無相
淨智白法体
不転故不變
不可思議退
對於恒等句一
実体3) 不失故
無レ闕及無障
及究竟無為、ユエニ
解脫身法身
業智應當レ知
二及一應レ知
煩惱尽無漏
智徧至應レ知
不失名為本
有四失二應レ知
以無死二故恒
寂靜故不退
具二足色声等、
而現二色等相一
此偈明三何義。經中説言。如二虛空相、諸仏亦爾者。此依二第一義一諸仏如来清淨法身自体
相不共法故作二如是説、以二是義、故金剛般若波羅蜜經言内須菩提。於レ意云何。可下以三十
二大人相成就得レ見中如来上不。須菩提言。如二我解二仏所説義一者不下以二相成就得レ見中如来
來上。仏言。如是是。須菩提。不下以二相成就得レ見中如来上。須菩提。若以二相成就二觀
如来一者転輪聖王応二是如来。是故非乙以二相成就得レ見二如来故。此明二何義。以レ依二如
來第一義諦清淨法身二明二如是義。又依二相應義一故説二二偈一。
如二空不思議
徧離二諸分別一
亦不レ可二見取一
常恒及清涼
一切処不レ著
不変与二寂靜一
離二閼羂澀触一

- 1) 閔=礙 宋·元·明·宮本。
- 2) 以=故 宋·元·明·宮本。
- 3) 不失故=故不失 宋·元·明·宮本。
- 4) 足=妙 宋·元·明·宮本。
- 5) 具六根境界=具足六根相 宋·元·明·宮本。

3) T は buddhatva が saṃs-rgyas (buddha)

atha khalv asya çlokasyârthaḥ samāsato 'ṣṭābhiḥ çlokair
veditavyaḥ |

vimukti-dharma-kāyābhyām sva-parârtho nidarçitaḥ |
sva-parârthāçraye tasmin yogo 'cintyādibhir guṇaiḥ || 30 ||
acintyam anugantavyam tri-jñānāviṣayatvataḥ |
(43b)sarva-jñā-jñāna-viṣayam ¹⁾buddhatvam jñāna-dehi-
bhiḥ || 31 ||
çrutasyāviṣayaḥ sauṣmyāc cintāyāḥ paramârthataḥ |
laukyādi-bhāvanāyāç ca dharmatā gahvaratvataḥ || 32 ||
dṛṣṭa-pūrvam na tad yasmād bālair jāty-andha-kāyavat |
āryaiç ca ²⁾sūtikā-madhyā-sthita-bālārka-bimbavat || 33 ||
utpāda-vigamān nityam nirodha-vigamād dhruvam |
çivam etad-dvayābhāvāc chāçvataḥ dharmatā-sthiteḥ
|| 34 ||
çāntam nirodha-satyatvād vyāpi sarvāvabodhataḥ |
akalpam apratiṣṭhānād asaktam kleṣa-hānitaḥ || 35 ||
sarvatrāpratigham sarva-jñeyāvaraṇa-çuddhitaḥ |
paruṣa-sparça-nirmuktaḥ ³⁾mṛidu-karmaṇya-bhāvataḥ
|| 36 ||
adṛiçyam tad arūpitvād agrāhyam animittataḥ |
çubham prakṛiti-çuddhatvād amalam mala-hānitaḥ || 37 ||
yat punar etad ākāçavad asaṃskṛita-guṇāvinirbhāga-vṛitt-
yāpi tathāgatatvam ā-bhavadater acintya-mahôpāya-karuṇā-
jñāna-parikarma-viçeṣeṇa jagad-dhita-sukhādhāna-nimittam ama-
lais tribhiḥ svābhāvika-sāmbhogika-nairmāṇikaiḥ ⁴⁾kāyair anup-
aratam anucchinnaṃ anābhogena pravartata iti draṣṭavyam āve-
ṇika-dharma-yutatvād iti | tatra vṛitty-artham ārabhya buddha-

1) T は buddhatvam が saṃs-rgyas (buddha)

2) T は sūtikā-madhyā-sthita が btsas-paḥi khyim nas.

3) T は mṛidu が gñis med (advaya)

4) T は kāyair を欠く。

此、二行、偈、以、三、八、行、偈、略、釈、應、知、。偈、言、。
解、脫、身、法、身、
彼、處、相、應、義、
以、非、三、慧、境、
細、故、非、三、境、
世、修、慧、不、知、
如、三、智、不、瞞、色、
以、三、生、故、常、
法、性、住、不、變、
不、住、不、三、分、別、
柔、輒、離、三、離、
以、三、自、性、故、淨、
此、偈、明、三、何、義、。虛、空、譬、喻、者、明、諸、佛、如、來、無、為、諸、功、德、不、離、三、法、身、。於、所、有、諸、有、得、不、
可、思、議、勝、大、方、便、業、勝、大、悲、業、勝、大、智、業、。為、與、三、一、切、衆、生、衆、相、。無、垢、清、淨、三、種、佛、身、所、謂、三、佛、
受、法、衆、佛、及、化、身、佛、。常、不、三、休、息、。常、不、三、斷、絕、。自、然、修、行、以、為、利、益、。一、切、衆、生、心、知、。以、下、不、
共、三、余、人、。唯、諸、佛、如、來、法、身、相、應、故、。此、明、三、何、義、。以、依、三、此、身、相、應、諸、行、差、別、故、。
依、三、自、利、利、他、
不、思、議、應、知、
諸、衆、生、佛、體、
以、三、出、世、深、密、
本、來、未、三、曾、見、
不、見、三、日、月、輪、
離、三、二、故、清、涼、
一、切、覺、故、徧、
無、三、智、障、離、三、閼、
離、三、相、不、可、取、
離、三、染、故、無、垢、
離、三、煩、惱、不、著、
証、滅、故、寂、靜、
以、三、不、滅、故、恒、
二、乘、如、三、嬰、兒、
諸、愚、癡、凡、夫、
第、一、非、三、思、思、
一、切、種、智、知、
一、切、諸、功、德、
示、三、自、利、利、他、
依、三、自、利、利、他、
不、思、議、應、知、
諸、衆、生、佛、體、
以、三、出、世、深、密、
本、來、未、三、曾、見、
不、見、三、日、月、輪、
離、三、二、故、清、涼、
一、切、覺、故、徧、
無、三、智、障、離、三、閼、
離、三、相、不、可、取、

1) 示=亦 宋・元・明・宮本。

2) 思=慧 宋・元・明・宮本。

3) 不=無 宋・元・明・宮本。

kāya-vibhāge catvāraḥ ṣlokāḥ |

anādi-madhyāntam abhinnaṁ advayaṁ tridhā-
vimuktaṁ vimalāvikalpakaṁ |

samāhitā-yoginas tat-¹⁾prayatnāḥ paçyanti
yaṁ dharma-dhātu-svabhāvam || 38 ||

ameya-gaṅgā-sikatātivrīttair guṇair acintyair
asamair upetaḥ |

savāsanōnmūlita-sarva (44a)-doṣas tathāgat-
ānām amalāḥ sa dhātuḥ || 39 ||

vicitra-saddharma-mayūkha-vigrahair jagad-
vimokṣārtha-samāhṛitōdyamaḥ |

kriyāsu cintā-maṇi-rāja-ratnavad vicitra-
bhāvo na ca tat-svabhāvavān || 40 ||

lokeṣu yac chānti-pathāvatāra-prapācanā-
vyākaraṇe nidānam |

bimbaṁ tad apy atra sadāvaruddham ākāṣa-
dhātava iva rūpa-dhātuḥ || 41 ||

eṣāṁ khalu caturṇāṁ ṣlokānāṁ ²⁾piṇḍārtho vimṣati-ṣlokair
veditavyaḥ |

yat tad buddhatvam ity uktam sarva-jñatvaṁ svayaṁ-
bhuvām |

nirvṛtiḥ paramācintya-prāptiḥ ³⁾pratyātma-veditā || 42 ||

tat-prabhedas tribhiḥ kāyair vṛtitiḥ svābhāvikādibhiḥ |
gāmbhīryāudārya-māhātmya-guṇa-dharma-prabhāvitaiḥ
|| 43 ||

tatra svābhāvikaḥ kāyo buddhānām pañca-lakṣaṇaḥ |

⁴⁾pañcākāra-guṇōpeto veditavyaḥ samāsataḥ || 44 ||

asaṁskṛitam asaṁbhinnam anta-dvaya-vivarjitaṁ |
kleṣa-jñeya-samāpatti-trayāvaraṇa-niḥṣṛitaṁ || 45 ||

說、
二八偈。

此、八行、偈、以、二、五、偈、略、釋、此、知、偈、言、
出、離、煩、惱、障、
五、功、德、應、知、
明、實、法、報、化、身、者、
唯、自、身、內、証、
及、第、一、義、諦、
向、說、法、身、
猶、如、一、切、色、
授、記、令、入、道、
為、世、間、說、法、
如、摩、尼、寶、王、
令、衆、生、解、脫、
及、一、切、習、氣、
如、來、妙、色、身、
不、思、議、功、德、
具、勝、三、昧、慧、
無、垢、無、分、別、
非、初、非、中、後、
不、破、壞、不、二、
此、甚、深、境、界、
如、是、人、能、見、
唯、如、來、成、就、
清、淨、無、垢、體、
種、勝、妙、法、
常、無、有、二、休、息、
能、現、三、種、形、
示、現、寂、靜、處、
如、來、鏡、像、身、
不、離、於、虛、空、
及、一、切、種、智、
不、可、思、議、法、
應、當、如、是、知、
所、謂、深、快、大、
謂、諸、法、身、
無、為、無、差、別、
智、障、三、昧、障、

遠、離、於、三、界、
非、二、乘、所、知、
出、過、於、恒、沙、
不、與、二、余、人、共、
遠、離、諸、煩、惱、
光、明、以、為、體、
所、作、不、思、議、
而、彼、非、上、實、
教、化、使、淳、熟、
而、不、離、本、體、
自、在、與、涅、槃、
心、供、等、功、德、
彼、三、身、差、別、
無、量、功、德、身、
略、說、五、種、相、
遠、離、於、二、邊、

- 1) T は prayatnāḥ が rtogs-pa (vyutpannāḥ)
- 2) T は piṇḍa を欠く。
- 3) T は dgra-bchom (arhat) が入っている。
- 4) T は ākāra を欠く。

- 1) [以]— 宋・元・明・宮本。
- 2) 身内=内身 宋・元・明・宮本。

vaimalyād avikalpatvād yoginām gocaratvataḥ |
prabhāsvaraṃ viçuddhaṃ ca dharma-dhātoḥ svabhāvataḥ
|| 46 ||

aprameyair asamkhyeyair acintyair asamair guṇaiḥ |
viçuddhi-pārami-prāptair yuktaṃ svābhāvikaṃ vapuḥ
|| 47 ||

udāratvād agaṇyatvāt tarkasyāgocaratvataḥ |
kaivalyād vāsanôcchitter aprameyādayaḥ kramāt || 48 ||
vicitra-dharma-sambhoga-¹⁾rūpa-dharmāvabhāsataḥ |
karuṇā-çuddhi-niṣyanda-sattvārthāsrāmsanatvataḥ || 49 ||
nirvikalpaṃ nirābhogaṃ yathābhiprāya-pūritaḥ |
cintā-maṇi-prabhāvarddheḥ sām̐bhogasya vyava
(44b) sthitiḥ || 50 ||

deçane darçane kṛityāsrāmsane 'nabhisamskṛitau |
atat-svabhāvākhyāne ca citratôktā ca pañcadhā || 51 ||
raṅga-pratyaya-vaicitryād atad-bhāvo yathā maṇeḥ |
sattva-pratyaya-vaicitryād atad-bhāvas tathā vibhoḥ
|| 52 ||

mahā-karuṇayā kṛitsnaṃ lokam ālokyā loka-vit |
dharma-kayād ²⁾aviralam̐ nirmāṇaiç citra-rūpiḥ || 53 ||
³⁾jātakāny upapattiṃ ca tuṣiteṣu cyutiṃ tataḥ |
garbhāvakramaṇaṃ janma çilpa-sthānāni kauçalam || 54 ||
antaḥ-pura-rati-kṛidāṃ naiṣkramyaṃ duḥkha-cārikām |
bodhi-maṇḍôpasam̐krāntiṃ mārā-sainya- pramardanam
|| 55 ||

sambodhiṃ dharma-cakraṃ ca nirvāṇādhigama-kriyām |
kṣetreṣv aparīçuddheṣu darçayaty ā-bhava-sthiteḥ || 56 ||
anitya-duḥkha-nairātmya-çānti-çabdair upāya-vit |
udvejya tri-bhavān sattvān pratārayati nirvṛitau || 57 ||

5

10

15

20

25

厭離三界苦
無我寂靜名
現如是等事
轉無上法輪
往詣於道場
厭離諸欲相
次第入胎生
如來亦如是
依種種諸色
是名要略說
諸業不休息
此神力自在
滿足衆生心
利益諸衆生
示現諸妙色
無邊等佛法
以快不可數
無等諸功德
以法性如是
以離一切垢
以離一切垢

後入於涅槃
方便智慧力
世間無休息
入無余涅槃
降伏諸魔衆
出家行苦行
習學諸伎芸
方便力示現
異本生諸相
有五種自在
及休息隱沒
略說有五種
受樂如如是
自然無休息
淨慈悲習氣
次第不離報
非思量境界
到第一彼岸
無量阿僧祇
故聖人境界

令彼諸衆生
宣說無常苦
於不清淨國
成大妙覺尊
推問諸外道
嬰兒入王宮
從兜率陀退
一切皆不實
如摩尼寶珠
示現不實體
說法及可見
神通力自在
如意寶珠
無虛妄分別
受種種法味
及遠離習氣
實法身相應
不可數思議
清淨光明照

1) 退 = 天 宋・元・明・宮本。

2) 伎 = 技 明本。

1) T は rūpa が raṇ-bshin (svarūpa)

2) T は ma gyos-par (avicalam)

3) T は skye-ba mñon-par skye-ba dan (jātakābhyupapattiṃ)

çānti-mārgāvatirṇāṃṣ ca ¹⁾prāpya nirvāṇa-samjñinah |
 saddharma-puṇḍarikādi-dharma-tattva-prakāṣanaiḥ || 58 ||
 pūrva-grahān nivartyātān prajñōpāya - parigrahāt |
 paripācyōttame yāne vyākaroṭy agra-bodhaye || 59 ||
²⁾saukṣmyāt prabhāva-saṃpatter bāla-sārthātivāhanāt³⁾ |
 gāmbhīryāudārya-māhātmyam eṣu jñeyam yathā-kramam
 || 60 ||
 prathamo dharma-kāyo 'tra rūpa-kāyau tu paṇcimau |
 vyomni rūpa-gatasyēva prathame 'ntyasya vartanam || 61 ||
 tasyāiva kāya-trayasya jagad-dhita-sukhādhāna-vṛittau nitya-
 ārtham ārabhya ṣlokaḥ |
 hetv-ānanyāt sattva-⁴⁾dhātv-akṣayatvāt kārūṇyārddhi-
 jñāna-saṃpatti-yogāt |
 dharmāṇṣvāyān mṛityu-mārāvabhaṅgān naiḥsvā (45a)
 bhāvyaḥ chāṣvato loka-nāthaḥ || 62 ||
 asya piṇḍārthaḥ ṣaḍbhiḥ ṣlokaḥ veditavyaḥ |
 kāya-jīvita-bhogānām tyāgaiḥ saddharma-saṃgrahāt |
 sarva-sattva-hitāyādi-pratijñōttaraṇatvataḥ || 63 ||
 buddhatve suviuddhāyāḥ karuṇāyāḥ pravṛittitaḥ |
 riddhi-pāda-prakāṣāc ca tair avasthāna-çaktitaḥ || 64 ||
 jñānena bhava-nirvāṇa-dvaya-graha-vimuktitaḥ |
 sadācintya-samādhāna-sukha-saṃpatti-yogataḥ || 65 ||
 loke vicarato loka-dharmair anupalepataḥ |
 çamāmṛita-pada-prāptau mṛityu-mārāpracārataḥ || 66 ||
 asaṃskṛita-svabhāvasya muner ādi-praṇāntitaḥ |
 nityam açaṇānām ca⁵⁾çaranābhyupapattitaḥ || 67 ||
 saptabhiḥ kārāṇair ādyair nityatā rūpa-kāyataḥ |
 paṇcimaiḥ ca tribhiḥ çāstur nityatā dharma-kāyataḥ || 68 ||

此二行，傷以六行，偈略，此三，白，此以下，即依如是，三種，於初，二色身，深，微，迴，法，諸，
 降，伏，諸，魔，怨，慈，悲，心，如，意，世，尊，體，常，住，有，一，切，色，身，初，法，身，如，來，過，陰，難，惡，道，授，妙，菩，提，記，般，若，方，便，撰，言，我，得，混，槃，以，入，寂，靜，道，
 如，來，色，身，常，以，常，可，歸，依，故，離，一，切，魔，常，在，於，世，間，離，有，混，槃，心，修，行，四，如，意，究，竟，滿，本，願，棄，捨，身，命，財，
 後，三，種，譬，喻，故，言，歸，依，我，不，為，世，法，染，常，得，心，三，昧，依，彼，力，住，世，得，清，淨，法，撰，取，諸，法，
 善，逝，法，身，常，初，七，種，譬，喻，本，來，寂，靜，故，得，淨，甘，露，處，成，就，樂，相，應，以，成，就，妙，智，起，大，慈，悲，心，為，利，益，衆，生，
 法，中，得，自，在，衆，生，界，不，盡，最，後，身，亦，爾，譬，如，虛，空，中，次，第，說，底，知，令，愚，癡，衆，生，令，淳，熟，上，乘，皆，說，如，實，法，有，是，虛，妄，相，
 略，說，三，偈，

- 1) T は mya-nan ḥdas thob (prāptanirvāṇa)
 2) T は zab (gāmbhīryāt)
 3) T は byis pa don mthun rab ḥdren phyir.
 4) T は dhātv を欠く。
 5) T は skyabs-la-sogs-pa ḥthad-phyir (çaranādyupapattitaḥ)

1) 入 = 示 宋・元・明・宮本。

sa cāyam ācāya-parivṛitti-prabhāvitā tathāgatānāṃ prāpti-
 nayo 'cintya - nayanānugantavya iti | acintyārtham ārabhya
 ṣlokaḥ |

avākyavattvāt paramārtha-saṁgrahād atarka-
bhūmer upamā-nivrittitaḥ |

niruttaratvād bhava-çānty-anudgrahād aci-
ntya āryair api buddha-gocarah || 69 ||

asya piṇḍārthaḥ caturbhiḥ ṣlokair veditavyaḥ |
acintyo 'nabhilāpyatvād alāpyaḥ paramārthataḥ |

paramârtho 'pratarkyatvād atarkyo vyanumeyataḥ ॥ 70 ॥

vyanumeyo 'nuttaratvād ānuttaryam anudgrahāt |

anudgraho 'pratisthānād guṇa-doṣāvikalpanāt || 71 ||
 pañcabhiḥ kāraṇaiḥ sauksmyād acintyo dharma-kāyataḥ |

ṣaṣṭhenâtattva-bhāvitvād acintyo rūpa-kāyataḥ || 72 ||

1)anuttara-jñāna-mahā-kṛipādibhir guṇair aci-
ntyā guṇa-pāragā jināh ।

(45b) atah kramo 'ntyo 'yam api svayāmbh= uvo²⁾ bhiṣeka-labdhā na mahārṣayo vidur iti

|| 73 ||

iti ratna-gotra-vibhāge mahā-yānôttara-tantra-çāstre bodhy- 20
adhikāro nāma dvitīyaḥ paricchedaḥ || 2 ||

III

uktā nirmalā tathatā | ye tad-āçṛitā maṇi-prabhā-varṇa- 25
saṁsthānavad abhinna-prakṛitayo 'tyanta-nirmalā guṇās ta idā=
nīm vaktavyā iti | anantaram buddha-guṇa-vibhāgam ārabhya
çlokaḥ |

svārthaḥ parārthaḥ paramārtha-kāyas tad-
āçritā samvṛiti-kāyatā ca |

究竟一乘宝性論如來功德品第九

論曰。已說無垢真如法身。次說下依二彼無垢真如法身一切功德。如摩尼寶不離光
明形色諸相。如來法身無量無辺自性清淨無垢功德亦復如是。以是義故依二此功德。次說
二偈。

自利亦利他
有_二此世諦_一體

第一義諦身

依^{リテ}ニ彼真諦身^ニ

8) 非^ス三言語所說^ニ
無^ク二^ノ譬喩可^レ說^{ハス}
行偈以^テ五^ノ行偈略釈^{スト}心知^ニ。
不^レ可^レ得^ル思議^カ
4) 以^テ第一義撰^ニ
^ス非^ス思量境二者
7) 以^テ最勝無上^ニ
不^レ取^リ是^レ二者
微細不思議
以^テ得^ル自在一故
第一義諦撰^{ハス}
最上勝妙法^{ナリ}
唯是仏境界^{ナリ}
偈言。
3) 以^テ離^ハ三言語相^ニ
第一義撰者^{ナリ}
6) 以^テ無^ク二^ノ譬喩知^ル
最勝無上者^{ナリトヘ}
不^レ取^リ功徳過^{ヒシヤ}
如來法身常^ニ
如來色身常^ニ
離^ハ諸覺觀地^ニ
不^レ取^リ有涅槃^ヲ
離^ハ三言語相^ニ一者
非^ス思量境⁵⁾界^{コト}
無^ク二^ノ譬喩知^ル二者
不^レ取^リ有涅槃^ヲ
前五種譬喩^{アリ}
第六譬喩者

此^レ一偈^ハ明^ハ二何義^ヲ。諸^レ仏如^レ來依^テ三法身^ニ一轉^ニ得^テ無^ク上^ニ身^ヲ。不^レ可^レ思議^ノ應^レ知^ス。依^テ三不^レ思議^ノ一故^ニ說^ス。三

1) C は73偈と“iti…paricchedah”を欠く。T は S に一致。

2) T は 'bhiṣeka は dbaṅ (vaçita) dbaṅ bskur ba の略語であろう。

1) [偈明何義]—宋·元·明·宮本。

2) 所 = 可 宋·元·明·宮本。

3) 以離言語相 = 以言語相故 宋・元・明・宮本。

4) 以第一義攝 = 第一義攝故 宋・元・明・宮本。

5) 界 = 故 宋·元·明·宮本。

6) 以無譬喻知 = 無譬喻知故 宋·元·明·宮本。

7) 以最勝無上 = 最無上勝故 宋・元・明・宮本。

8) 梵文下註 1) を参照。

prākāra-druma-bhedana-prakiraṇa-cchedād balaṁ vajr-
avat || 7 ||

catur-vaiçāradya-prāpta iti |

sarva-dharmābhisambodhe vibandha-pratiṣedhane |
mārgākhyāne nirodhāptau¹⁾ vaiçāradyaṁ catur-vidham
|| 8 ||

jñeye vastuni sarvathātma-parayor jñānāt svayaṁ jñā-
panād dheye vastuni hāni-kāraṇa-kṛiteḥ sevyē vidhau
sevanāt |

prāptavye ca niruttare 'tivimale prāpteḥ para-prāpaṇād
āryāṇāṁ sva-parārtha-satya-kathanād astambhitatvaṁ
kva-cit || 9 ||

²⁾simhavad iti |

nityaṁ vanānteṣu yathā mṛigēndro nirbhīr
anuttrasta-gatir mṛigebhyaḥ |
munīndra-simho 'pi tathā gaṇeṣu svastho
nirāsthaḥ sthira-vikrama-sthaḥ || 10 ||

aṣṭā-daçāveṇika-buddha-dharma-samanvāgata iti |
skhalitaṁ ravitaṁ nāsti çāstur na muṣitā-smṛitiḥ |
na cāsamāhitaṁ cittaṁ nāpi nānātva-samjñitā || 11 ||

nōpekṣāpratisamkhyāya hānir na cchanda-vīryataḥ |
smṛiti-prajñā-vimuktibhyo vimukti-jñāna-darçanāt || 12 ||
jñāna-pūrvam-gamaṁ karma try-adhva-jñānam anāvṛit-
am |

ity ete 'ṣṭā-daçānye ca guror āveṇikā guṇāḥ || 13 ||
nāsti praskhalitaṁ ravo muṣitatā citte (48a) na sambh-
edataḥ samjñā na sva-rasādhyupekṣaṇam ṛiṣer hānir na
ca cchandataḥ |

vīryāc ca smṛitito viçuddha-vimala-prajñā-vimukteḥ sadā
mukti-jñāna-³⁾nidarçanāc ca nikhila-jñeyārtha-saṁdar-

1) aptau が T は ston-pa (ākhyāne)

2) *Cは師子王譬を後に出す。

3) T は nidarçanāc を欠く。

又依²⁾四無畏¹⁾故說²⁾三偈¹⁾。
能¹⁾刺¹⁾碎¹⁾散¹⁾一¹⁾研¹⁾。
如¹⁾實¹⁾覺¹⁾諸¹⁾法¹⁾。
於¹⁾所¹⁾知¹⁾境¹⁾界¹⁾。
能¹⁾証¹⁾勝¹⁾妙¹⁾果¹⁾。
又依²⁾四無畏¹⁾師子王¹⁾譬¹⁾故說²⁾三偈¹⁾。
譬¹⁾如¹⁾師子王¹⁾。
又依²⁾十八不共¹⁾法¹⁾故說²⁾三偈¹⁾。
又依²⁾十八不共¹⁾法¹⁾故說²⁾三偈¹⁾。
無¹⁾過¹⁾無¹⁾諍¹⁾。
無¹⁾作¹⁾意¹⁾護¹⁾心¹⁾。
諸¹⁾業¹⁾智¹⁾為¹⁾本¹⁾。
世尊¹⁾欲¹⁾精¹⁾進¹⁾。
念¹⁾淨¹⁾智¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
若¹⁾他¹⁾來¹⁾破¹⁾壞¹⁾。
知¹⁾三¹⁾世¹⁾無¹⁾障¹⁾。
欲¹⁾精¹⁾進¹⁾不¹⁾退¹⁾。
無¹⁾妄¹⁾念¹⁾等¹⁾失¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾。
不¹⁾畏¹⁾及¹⁾善¹⁾住¹⁾。
諸¹⁾獸¹⁾中¹⁾自¹⁾在¹⁾。
處¹⁾於¹⁾諸¹⁾羣¹⁾衆¹⁾。
無¹⁾三¹⁾定¹⁾散¹⁾心¹⁾。
念¹⁾慧¹⁾及¹⁾解¹⁾脫¹⁾。
內¹⁾心¹⁾無¹⁾動¹⁾相¹⁾。
知¹⁾見¹⁾常¹⁾不¹⁾失¹⁾。
無¹⁾種¹⁾種¹⁾諸¹⁾想¹⁾。
知¹⁾見¹⁾等¹⁾不¹⁾退¹⁾。
及¹⁾余¹⁾不¹⁾說¹⁾者¹⁾。
非¹⁾作¹⁾心¹⁾捨¹⁾心¹⁾。
示¹⁾現¹⁾可¹⁾知¹⁾境¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
堅¹⁾固¹⁾奮¹⁾迅¹⁾等¹⁾。
不¹⁾怖¹⁾畏¹⁾諸¹⁾獸¹⁾。
是¹⁾四¹⁾種¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
此¹⁾非¹⁾遮¹⁾障¹⁾道¹⁾。
是¹⁾諸¹⁾處¹⁾無¹⁾畏¹⁾。
說¹⁾道¹⁾得¹⁾無¹⁾漏¹⁾。
自¹⁾知¹⁾教¹⁾他¹⁾知¹⁾。
說¹⁾自¹⁾他¹⁾利¹⁾諦¹⁾。
常¹⁾處¹⁾於¹⁾山¹⁾林¹⁾

çanāt || 14 ||

sarva-jñāna-puro - javānuparivarty artheṣu karma-tra-
yam triṣv adhvasv 1)aparāhatā suvipula-jñāna-pravṛittir
dhruvam |

ity eṣā jinatā mahā-karuṇayā yuktāvabuddhā²⁾ jinair
yad bodhāj jagati pravṛittam abhayadaṁ saddharma-ca-
kram mahat || 15 ||

³⁾ākāṣavad iti |

yā kṣity-ādiṣu dharmatā na nabhasaḥ sā dharmatā vidya
(48b) te ye cānāvaraṇādi-lakṣaṇa-guṇā vyomno na te
rūpiṣu |

kṣity-ambu - jvalanānilāmbara-samā lokeṣu sādharmaṇā

⁴⁾buddhāveṇikatā na cāṇv api punar lokeṣu sādharmaṇā
|| 16 ||

dvātrimṣan-mahā-puruṣa-lakṣaṇa-rūpa-dhārīti |

supraṭiṣṭhita-cakrāṅka-vyāyatōtsaṅga-pādātā |

dirghāṅgulikatā jāla-pāṇi-pādāvanaddhatā || 17 ||

tvaṁ-mṛidu-çri-taruṇatā saptōtsada-çarīratā |

eṇeya-jaṅghatā nāga-koçavad vasti-guhyatā || 18 ||

simha-pūrvārdha-kāyatvaṁ nirantara-citāmṇatā |

samvṛitta-skandhatā vṛitta-çlakṣṇānunnāma-bāhutā
|| 19 ||

pralamba-bāhutā çuddha-prabhā-maṇḍala-gātrātā |

kambu-grīvatvam amalāṁ mṛigēndra-hanutā samā || 20 ||

catvārimṇad⁵⁾-daçanātā svacchāvīrala-dantatā |

viçuddha-sama-dantatvaṁ çukla-pravara-damṣṭratā || 21 ||

1) T は thogs-pa med-pa (avyāhata)

2) T は avabuddhā が brñes (avalabdhā)

3) *C は虚空譬を後に出す。

4) T は buddha を 欠く。cāṇv api は T に rdul phran tsaṁ yaṁ とある
から改めた。

5) T は mām-pa (sama) が入っている。

一切諸業等、
是名、如来体、
為一切衆生、
1) 又依三十八不共法、虚空、譬喻、
地水火風等、
諸仏無二障礙、
而諸仏如来、
2) 又依三十二大人相、故說三十一偈、
足下相平滿、
手足悉柔輭、
兩肩前後平、
身膊相洪雅、
威德勢堅固、
淨輭細平密、
身淨光円市、
智為本展轉、
大智慧相応、
轉於大法輪、
故說三偈、
彼法空中無、
猶如虚空相、
所有諸功德、
具足千輻輪、
諸指皆纖長、
左右俱円滿、
如尼拘樹王、
猶如那羅延、
一孔一毛生、
頂上相高顯、
三世無二障、
覺彼大菩提、
無畏勝妙法、
諸色中亦無、
如來在世間、
乃至無一法、
跟踰膝上隆、
鵝王網縵指、
立能手過膝、
體相七処滿、
身色新淨妙、
毛柔輭上顯、
頂如孔雀王、
廣行、
最上勝妙法、
令彼得解脱、
虚空無礙法、
如地水火風、
共余世間有、
伊尼鹿王、
臂肘上下踰、
馬王陰藏相、
上半如師子、
柔輭金色皮、
微細輪、右旋、

1) 梵文下註 3)。今ここに移す。

2) 三十二相に就いて漢と梵蔵の間に著しい順序不同がある。漢訳をその儘にし
て置いた。

3) 踰=宋 宋・元・明・宮本。

4) 拘=俱 宋・元・明・宮本。

prabhūta-jihvatānantācintya-rasa-rasāgratā |
kalaviṅka-rutaṁ brahma-svaratā ca svayambhuvaḥ || 22 ||
nilōtpala-çrī-vṛṣa-pakṣma-netra-sitāmalōrṇa=
ôdita-cāru-vakraḥ |
uṣṇīṣa-çīrṣa-vyavadāta-sūkṣma-suvarṇa-varṇa=
cchavir agra-sattvaḥ || 23 ||
ekaika-viçliṣṭa-mṛdūrdhva-deha-pradakṣiṇā=
varta-susūkṣma-romā |
¹⁾ mahendra-nīlāmala-ratna-keṣo nyagrodha-
pūrṇa-druma-maṇḍalābhah || 24 ||
nārāyaṇa-sthāma-dṛiḥātma-bhāvaḥ saman-
ta-bhadro 'pratimo maha-ṛiṣiḥ |
dvātrimṣad etāny ²⁾ amita-dyutini narendra-
cihnāni vadanti çāstuḥ || 25 ||
³⁾ daka-candravad iti |
vyabhre yathā nabhasi candramaso vibhūtiṁ paç-
yanti nīla-çarad-ambu-mahā-hra (49a) de ca |
saṁbuddha-maṇḍala-taleṣu vibhor vibhūtiṁ tadvaj
jinātmaja-gaṇā vyavalokayanti || 26 ||
itīmāni daça-tathāgata-balāni catvāri vaiçāradyāny aṣṭā-
daçāveṇikā buddha-dharmā dvātrimṣac ca mahā-puruṣa-lakṣaṇa=
āny ekenābhisamkṣipy catuḥ-ṣaṣṭir bhavanti |
guṇāç cāte catuḥ-ṣaṣṭiḥ sanidānāḥ prithak-prithak |
veditavyā yathā-saṁkhyāṁ ratna-sūtrānusārataḥ || 27 ||
eṣāṁ khalu yathôddiṣṭānāṁ eva catuḥ-ṣaṣṭes tathāgata-
guṇānāṁ api yathānupūrvyā ⁴⁾ vistara-vibhāge nirdeṣo ratna-
dārikā-sūtrānusāreṇa veditavyaḥ | yat punar eṣu sthāneṣu ⁵⁾ catur-
vidham eva yathā-kramāṁ vajra-simhāmbara-daka-candrôdāha=

1) T は mahendra を欠く。

2) amita-dyutini が T では bsam mi khyab-pa (acintya)

3) *C は水月譬を後に出す。

4) T は vistara を欠く。

5) T は catur-vidham を欠く。

依此四處次第有四種喻。謂金剛杵及師子王虚空譬喻水中月等。
此偈明何義。向說諸仏如来六十四種功德因果差別。依此次第宝女經中說。又復
六十四功德。修因及果報。一一各差別。
此仏十力四無所畏十八不共法三十二大人相略集。一處是名六十四種功德。應知。偈言。
清淨仏輪中。具三功德勢力。一切世間人。仏子見如来。皆見三月勢力。功德身亦爾。
又依三十二大丈夫相水中月喻。故說三偈。
秋空無雲。月在天及水。一各差別。功徳身亦爾。
通面淨光明。上下齒平。齊。二目淳紺色。妙相三十二。
頤方若師子。髮淨金精色。二牙白。深密内外明。
得味中上味。細薄広長舌。妙音深遠声。所食至喉現。
功徳如蓮華。如是説三人尊。二目淳紺色。瞬眼若牛王。
普身不可嫌。如是一人尊。妙相三十二。一一不雜乱。

1) 淨=青 梵・元・明・宮本。

2) 平齊=齊平 宋・元・明・宮本。

3) 冠頭偈には所食無完過

4) 梵文下註3)。ここに移す。

5) 噫=翳 宋・元・明・宮本。

6) 宝經次第説=宝女經具説 宋・元・明・宮本。

2)

IV

(50a) etayor yathā-kramam dvābhyām aṣṭābhiḥ ca ṣlokaib
pindārtho veditavyaḥ |

5) ratna-svagarbha が T では chu mtsho.

如三清淨水中
見於月影像
一
如三摩尼宝珠
不離三光色相
一
究竟一乘宝性論自然不休息仏業品第十
論曰。已說無垢諸仏功德。次說諸仏如來作業。一彼諸仏業自然而行常不_ニ休息_一。教_ニ化衆_一生_ニ心_一。知_ニ此依_一。略說有_ニ二種_一法。自然而行。以_ニ是義_一。故依_ニ諸仏業_一自然而行常不_ニ休息_一。常作_ニ中仏事_一。故說_ニ六偈_一。

於_ニ可化衆生_一
以_ニ教化方便_一
於_ニ可化衆生_一
起_ニ化衆生業_一
諸仏自在人
於_ニ教化方便_一
常待_ニ処待_一時
徧覺_ニ三知大乘_一
最妙功德聚
如_ニ大海水_一
苦提_ニ広無辺_一
猶如_ニ虚空界_一
於_ニ無量功德_一
徧照_ニ諸衆生_一
有_ニ三仏妙法身_一
無垢功德藏
煩惱障智障
雲霧羅網覆
諸仏慈悲風
吹令_ニ散滅_一尽_ニ一_一

此六_レ行偈義以_ニ三十四偈_一略釈_ニ応_一知_ニ。偈言_ニ。

1) 是_ニ三十二相_一
依_ニ三身_一得_ニ名_一
不離_ニ三十二_一

4) [行]— 宋·元·明·宮本。

¹⁾tasya mähātmye çlokaḥ |

çakra-dundubhivan megha-brahmārka-maṇi-ratnavat |

pratiçrutir ivākāça-prīthivivat tathāgataḥ || 13 ||

asya khalu sūtra-sthānīyasya çlokasya yathā-kramam pariçi-
ṣṭena granthena vistara-vibhāga-nirdeço veditavyaḥ | 5

çakra-pratibhāsatvād iti |

²⁾viçuddha-voidūrya-mayaṁ yathedaṁ syān mahī-talam |

svacchatvāt tatra dṛiçyeta devēndraḥ sâpsaro-gaṇaḥ || 14 ||

prāsādo vaijayantaç ca tad-anye ca divâukasah |

tad-vimānāni citrāṇi tāç ca divyā-vibhūtayaḥ || 15 || 10

atha nārī-nara-gaṇā mahī-tala-nivāsinaḥ |

pratibhāsam tam ālokya praṇidhim kuryur idṛiçam || 16 ||

adyāiva na cirād evaṁ bhavemas tridaççvarāḥ³⁾ |

kuçalam ca samādāya varteraṁs tad avāptaye || 17 ||

pratibhāso 'yam ity evaṁ aviññāyāpi te bhuvah | 15

cyutvā divy upapadyeraṁs tena çuklena karmaṇā || 18 ||

pratibhāsaḥ sa cātyantam avikalpo ni (37a) rihakaḥ | |

evaṁ ca mahatārthena bhuvi syāt pratyupasthitaḥ || 19 ||

tathā çraddhādi-vimale çraddhādi-guṇa-bhāvite |

sattvāḥ paçyanti sambuddham pratibhāsam svacetasi || 20 || 20

lakṣaṇa-vyañjanôpetam vicitrēryā-patha-kriyam |

caṅkramyamāṇam tiṣṭhantaṁ niṣaṇṇam çayanasthitam || 21 ||

bhāsamāṇam çivaṁ dharmam tūṣṇīm-bhūtam samāhitam |

citrāṇi prātihāryāṇi darçayantaṁ mahā-dyutim || 22 ||

tam ca dṛiṣṭvābhiyujyante buddhatvāya spṛihānvitāḥ | 25

tad-dhetum ca samādāya prāpnuvantīpsitam padam || 23 ||

pratibhāsaḥ sa cātyantam avikalpo nirihakaḥ |

evaṁ ca mahatārthena lokeṣu pratyupasthitaḥ || 24 ||

svacitta-pratibhāso ayam iti nāivam prīthag-janāḥ |

jānant yatha ca tat teṣāṁ avandhyaṁ bimba-darçanam || 25 ||

1) tasya を T は dpeḥi (dṛiṣṭāntasya), 多分 deḥi (tasya) の誤りであろう。

2) C は 14 偈から 26 偈を欠く。T は S に一致。

3) T は lha dvaṁ (deveçvara). tri-daça は trāyas-trimṣa の略数であろう。

示現大事、故以譬喻、說一行偈。
帝釈妙鼓雲、梵天日摩尼、響及虚空地、如来身亦爾。
依此一行修多羅、撰取義、偈九種譬、喻、自此以下、說余殘六十六偈、應知。又復依、
彼、說、偈、義、九、種、譬、喻、略、說、彼、義、及、以、次、第、說、如、來、無、上、利、益、一、切、衆、生、修、行、究、竟、以、三、十、九、
偈、解、釋、心、知、偈、言、。
2) (初說帝釈鏡像譬喻偈言。)

1) 喻+(義) 宋・元・明・宮本。

2) これより以下 () の中の釈並に偈頌は冠頭偈にあって、釈論に省略されているものである。対照のため掲げた。

3) 梵文下註 2)。

tad dhi darṣanam āgamyā kramād asmin naye sthitāḥ |
saddharma-kāyaṁ madhya-sthaṁ paçyanti jñāna-cakṣuṣā
|| 26 ||

1) bhūr yadvat syāt samanta-vyapagata-viṣama-sthānāntar
amalā vaiḍūrya-spaṣṭa-çubhrā vimala-maṇi-guṇā çrīmat-
sama-talā |

çuddhatvāt tatra bimbaṁ surapati-bhavanam mātēndra-
marutām utpadyeta krameṇa kṣiti-guṇa-vigamād astam
punar iyāt || 27 ||

tad bhāvāyōpavāsa-vrata-niyamatayā dānādy-abhimukhāḥ
puṣpādīni kṣipeyuh prapīhita-manaso nārī-nara-gaṇāḥ |
vaiḍūrya-svaccha-bhūte manasi muni-pati-cchāyādhigama-
ne citrāṇy utpādayanti pramudita-manasas tadvaj jina-
sutāḥ || 28 ||

yathāiva vaiḍūrya-mahī-tale çucau surēndra-
kāya-pratibimba-sambhavaḥ |

tathā ja (47b) gac-citta-mahī-tale çucau mun-
īndra-kāya-pratibimba-sambhavaḥ || 29 ||

bimbōdaya-vyayam anāvilatāvila-svacitta-pra-
vartana-vaçāj jagati pravṛittam |

lokeṣu yadvad avabhāsam upaiti bimbaṁ tad-
van na tat sad iti nāsad iti prapaçyet || 30 ||

2) deva-dundubhivad iti |

yathāiva divi devānām pūrva-çuklānubhāvataḥ |

yatna-sthāna-mano-rūpa-vikalpa-rahitā sati || 31 ||

anītya-duḥkha-nairātmya-çānta-çabdaiḥ pramādinah |

codayaty amarān sarvān asakṛd deva-dundubhiḥ || 32 ||

vyāpya buddha-svaraṇāivam vibhur jagad açeṣataḥ |

dharmaṁ diçati bhavyebhyo yatnādi-rahito 'pi san || 33 ||

devānām divi divya-dundubhi-ravo yadvat sva-karmōdb=

- 1) C は27・28偈を後にし、29・30偈を前に出している。TはSに合す。
2) 30偈と天鼓譬の間にCは4偈あるが、S,Tは其中第1偈がなく、他は89.
90.91偈として並出している。

次説天中妙鼓譬喻偈言。
5) (天妙法鼓聲、
4) (如來身亦爾、
1) (天主帝釈身、
(如來身亦爾、
(如地普周徧、
(以彼毗瑠璃、
(若男若女等、
(衆生為生彼、
(後時功德盡、
(諸仏子菩薩、
(如彼毗瑠璃、
(如是衆生心、
(帝釈現不現、
(如來有三起滅、
依自業而有、
鏡像有生滅、
鏡像有生滅、
遠離高下穢、
清淨無垢故、
於中見三天主、
修行諸善行、
地滅彼亦滅、
見仏心歡喜、
清淨大地中、
清淨大地中、
依地淨不淨、
依濁不濁心、

5

10

15

20

25

不可得說有、
不可得說有、
大瑠璃明淨、
天主鏡像現、
及莊嚴具、
持戒及布施、
心瑠璃地淨、
為求菩提故、
天主帝釈身、
諸仏如來身、
如是諸世間、
如是諸衆生、
不可得說、
不可得說、
離垢功德平、
及莊嚴具生、
作生彼處願、
散華捨珍寶、
諸仏鏡像現、
起願修諸行、
於中鏡像現、
於中鏡像現、
鏡像現不現、
鏡像現不現、

- 2) 梵文下註 1)。漢訳の冠頭偈には「如彼毗瑠璃…鏡像現不現」を先に出し、
「天主帝釈…起願修諸行」を後に出している。今梵文に従って移す。
2) 地=池 宋・元・明・宮本。
3) 現=見 宋・元・明・宮本。
4) 漢訳の冠頭偈にはここに『不生不滅者…尽諸際常住』と四偈あるが梵文に对照
するため移す。梵文下註 2) 参照。
5) 梵蔵の 31・32・33 偈を欠く。

havo dharmôdāharaṇam muner api tathā loke sva-karmô =
dbhavam |

yatna-sthāna-çarīra-citta-rahitaḥ çabdaḥ sa çānty-āvaho
yadvat tadvad rite catuṣṭaya-mayaṁ dharmāḥ sa çānty-ā =
vahaḥ || 34 ||

saṁgrāma-kleṣa-vṛttav asura-bala-jaya-kriḍā-praṇudanaṁ
dundubhyāḥ çabda- hetu-prabhavam abhayadaṁ yadvat
sura-pure |

sattveṣu kleṣa-duḥkha-pramathana-çamanaṁ mārgôttama-
vidhau dhyānārūpyādi-hetu-prabhavam api tathā loke
nigaditam || 35 ||

¹⁾kasmād iha dharma-dundubhir evādhikṛitā na tad-anye div =
yās tūrya-prakārāḥ te 'pi hi divaukasāṁ pūrva-kṛita-²⁾kuçala-kar =
ma-vaçād aghaṭṭitā eva divya-çravaṇa-mano-hara- çabdam anu =
ruvanti | tais tathāgata-ghoṣasya catuḥ-prakāra-guṇa-vaidhar = 15
myāt | tat pu (48a) naḥ katamat | tad-yathā prādeçikatvam ahita =
tvam asukhatvam anairyāṇikatvam iti | dharma - dundubhyāḥ
punar aprādeçikatvam açeṣa-pramatta-deva-gaṇa-saṁcodanatayā ca
tat-kālānatikramaṇatayā ca paridipitam | hitatvam asurādi-para- 20
cakrôpadrava - bhaya - paritrāṇatayā câpramāda- saṁniyojanatayā
ca | sukhavam asat-kāma-rati-sukha-vivecanatayā ca dharmārāma-
rati-sukhōpasamharaṇatayā ca | nairyāṇikatvam anitya-duḥkha-
çūnyānātma-çabdôccāraṇatayā ca sarvôpadravôpāyāsôpaçānti-kara-
ṇatayā ca paridipitam | ebhiḥ samāsataḥ caturbhir ākārair dharma- 25
dundubhi-sādharmyeṇa buddha-svara-maṇḍalaṁ viçiṣyata iti |
buddha-svara-maṇḍala-viçeṣaṇa-çlokaḥ |

sārva-janyo hita-sukhaḥ prātihārya-trayānvitaḥ |

muner ghoṣo yato divya-tūryebhyo 'to (50a) viçiṣyate
|| 36 ||

eṣāṁ khalu caturṇām ākārāṇām yathā-saṁkhyam eva catur = 30
bhiḥ çlokaḥ samāsa-nirdeṣo veditavyaḥ |

1) C は “kasmād……41偈直前の pratyāyanārtham” を欠く。

2) T は kuçala を欠く。

3)

(諸仏說法音)
(令一切諸天)
(令一切衆生)
(因鼓出長声)
(為世間說法)

2)
示勝禪定道)
(衆生自業聞)
(離怖得寂靜)
(得証寂滅道)
(令修羅退散)

1)
如妙声遠離
仏声亦如是
於彼戰鬪時
如来為衆生

功用処身心
離功用身心
為破修羅力
滅諸煩惱苦

1) 如妙 = 妙如 宮本。

2) 示 = 亦 宋・元・明・宮本。

3) 梵文下註 1)。

çabdā mahānto divi dundubhinām kṣiti-
sthiteṣu çravaṇam na yānti |

samsāra - pātāla - gateṣu loke sambuddha-
1) tūryasya tu yāti çabdaḥ ||

bahvyo 'marāṇām divi tūrya - koṭyo nadanti
kāma-jvalanābhivṛddhau |

ekas tu ghoṣaḥ karuṇātmakānām duḥkhāgni-
hetu-praçama-pravṛttaḥ || 38 ||

çubhā manojñā divi tūrya-nisvanā bhavanti
cittôddhati-vṛddhi-hetavaḥ |

tathāgatānām tu rutaṁ 2) mahātmanām
samādhi-cittārpaṇa-bhāva-vācakam || 39 ||

samāsato yat sukha - kāraṇam divi kṣitav
anantāsv a(50 b) pi loka-dhātuṣu |

açeṣa-loka-spharaṇāvabhāsanām 3) praghoṣam
āgamya tad apy udāhṛitam || 40 ||

kāya-vikurviteṇa daça-dig-açeṣa-loka-dhātu-spharaṇam ṛiddhi-
prātihāryam iti sūcitam | cetaḥ-paryāya-jñānena tat paryāpannam
sarva-sattva-citta-carita-gahanāvabhāsanam ādeçanā-prātihāryam |
vāg - ghoṣôdāharaṇena nairyāṇikīm pratipadam ārabhya tad
avavādānuçāsanam anuçāsti-prātihāryam | ity evam avyāhata-
gater ākāça-dhātuvad aparicchinnā - vartino 'pi buddha - svara -
maṇḍalasya yan na sarvatra sarva - ghoṣôpalabdhiḥ prajñāyate
na tatra buddha-svara-maṇḍalasyāparādha iti | pratyāyanārtham
4) a-tat-prahitānām ātmāparādhe 5) çlokaḥ |

6) yathā sūkṣmān çabdān anubhavati na çrotra-vikalo na
divya-çrotre 'pi çravaṇa-patham āyānti nikhilam |
tathā dharmāḥ sūkṣmāḥ parama-nipuṇa-jñāna-viṣayaḥ

1) T は tūrya が rña (dundubhi)

2) T は mahātmanām が thugs-rjeḥi bdag-ñid (kṛpātmanām)

3) T は praghoṣam が dbyaṅs-ñid (ghoṣatvam?)

4) a-tat-prahitānām が T は de ma-gtogs-pa-rnams kyi.

5) aparādhe が T は ñes-pa-las brtsams-te (aparādhām ārabhya)

6) 此偈は T は 2 偈として S に合す。

(一切世間人不覺自過失。偈言。)
(以聞心不聞細聲。)
(雙不聞細聲。)
天耳聞不偏。

唯智者境界。

prayāty ekeṣāṃ tu çravaṇa-patham akūṣṭha-manasām

|| 41 ||

meghavad iti |

¹⁾prāvṛit-kāle yathā meghaḥ pṛithivyām abhivarṣati |
vāri-skandham nirābhogo nimittaṃ sasya-saṃpadaḥ || 42 ||

²⁾karuṇāmbudatas tadvat saddharma-salilam jinaḥ |
jagat-kuçala-sasyeṣu nirvikalpaṃ pravaraṣati || 43 ||

³⁾loke yathā ⁴⁾kuçala-karma-patha-pravṛitte
varaṣanti vāyu-janitaṃ salilam payodāḥ |
tadvat kṛipānila - jagat - kuçalābhivṛiddheḥ
saddharma - varaṣam abhivarṣati buddha -
meghaḥ || 44 ||

⁵⁾bhaveṣu saṃvit - karuṇāvabhṛitkaḥ kṣarā=
kṣarāsaṅga-nabhas-tala-sthaḥ |
samādhi - dhāraṇy - amalā (51 a) mbu-garbho
munīndra-meghaḥ çubha-sasya-hetuḥ || 45 ||

bhājana-vimātratāyām |

⁶⁾çitaṃ svādu-prasannaṃ mṛidu laghu ca payas tat-
payodād vimuktaṃ kṣārādi-sthāna-yogād atibahu-rasatām
eti yadvat pṛithivyām |
āryāṣṭāṅgāmbu-varṣam suvipula-karuṇā-megha-garbhād
vimuktaṃ santāna - sthāna - bhedād bahu - vidha-rasatām
eti tadvat prajāsu || 46 ||

nirapekṣa-pravṛittau |

yānāgre 'bhiprasannānām madhyānām pratighātinām |
manuṣya-cātaka-preta-sadṛiçā rāçayas trayah || 47 ||
grīṣmānte 'mbudhareṣv asatsu manujā vyomny-apra=
cārāḥ khagā varaṣāsv apy ativarṣaṇa - prapatanāt pretāḥ
kṣitau duḥkhitāḥ |

aprādurbhavanôdaye 'pi karuṇā - meghābhra - dharmām =

1) 2) C は 42, 43 偈を欠く。T は S に合す。

3) 5) C は 44, 45 偈が入替、T は S と同じ。

4) T は karma を欠く。

6) T は 46 偈を 2 偈とし S に合する。

1) (次説、雲雨、譬喩、偈言。)

2) (3) 知、有、起、悲、心、

(仏、雨、淨、穀、因、

(依、悲、等、増、長、

(依止器、世間、雨水、味、變、壞、偈言。)

(譬、如、虛、空、中、

(生、種、種、異、味、

(到、衆、生、心、處、

(無、差、別、心、偈言。)

(信、於、妙、大、乘、

(此、三、聚、相、似、

(身、見、邪、定、聚、

(人、空、鳥、受、苦、

徧、滿、世、間、處、

4) 世、間、依、善、業、

(仏、妙、法、雲、雨、

雨、入、功、徳、水、

如、來、慈、悲、雲、

生、種、種、解、味、

5) 正、定、聚、衆、生、

及、中、謗、法、者、

邪、見、流、生、死、

夏、天、多、雨、水、

定、持、無、垢、蔽、

依、風、生、雲、雨、

到、三、昧、等、住、處、

雨、入、聖、道、水、

人、遮、多、鳥、鬼、

習、氣、不、定、聚、

秋、天、無、雲、雨、

燒、鬼、令、受、苦、

1) 梵文の下註 1) 2) 参照。

2) 4) 梵文の下註 3) 5) 参照。

3) 知 = 智 宋・元・明・宮本。

5) 梵藏は“正定聚衆生……邪見流生死”を欠く。

bhaso dharmākāṅkṣiṇi dharmatā-pratihathe loka ca sāvô-
pamā || 48 ||

sthūlair bindu-nipātanair açanibhir vajrāgni-sampātanaibh
sūkṣma-prāṇaka-çaila-deça-gamikān nāpekṣate toyadaḥ |
sūkṣmāudārika-yukty-upāya-vidhibhiḥ prajñā-kṛipāmbho-
dharas tadvat kleça-gatān dṛiṣṭy-anuçayān nāpekṣate
sarvathā || 49 ||

duḥkhāgni-praçamane |

¹⁾samśāro 'navarāgra-jāti-maraṇas tat-samśritau pañca-
dhā mārگاḥ pañca-vidhe ca vartmani sukhaṁ nōccāra-
saugandhyavat |

tad duḥkhaṁ dhruvam agni-çastra-çiçira-kṣārādi-samś-
parça-jam tac - chāntyai ca sṛijan kṛipā-jala-dharaḥ
saddharma-varṣam mahat || 50 ||

deveṣu cyuti-duḥkham ity avagamāt paryeṣṭi-duḥkham
nṛiṣu prājñā nābhilaṣanti (51 b) deva-manujeṣv aiçvaryam
apy uttamam |

prajñāyāç ca tathāgata - pravacana - çraddhānumānyād
idaṁ duḥkaṁ hetur ayaṁ nirodha iti ca jñānena sam-
prekṣaṇāt || 51 ||

vyādhir jñeyo vyādhi - hetuḥ praheyah
svāsthyam prāpyam bheṣajam sevyam
evam |

duḥkham hetus tan-nirodho 'tha margo
jñeyam heyah sparçitavyo niṣevyah || 52 ||

mahā-brahmavad iti |

²⁾sarvatra deva-bhavane brāhmyād avicalan padāt |
pratibhāsam yathā brahmā darçayaty aprayatnataḥ || 53 ||

³⁾tadvan munir anābhogān nirmāṇaiḥ sarva-dhātuṣu |
dharma-kāyād avicalan bhavyānām eti darçanam || 54 ||

1) S の 50, 51, 52 偈を C は 52, 50, 51 偈の順序で出している。T は S に
合す。

2) 3) C は 53, 54 偈を欠く。T は S に一致。

1) (不護, 衆生, 偈言。)
(天雨, 如, 車軸。)
(金剛, 爆火等。)
(草穀, 稻糧等。)
(於, 麤細, 衆生。)
(諸, 煩惱, 習氣。)
(一切, 智, 不, 護。)
(為, 滅, 苦, 火, 偈言。)
(知, 病, 離, 病, 因。)
(知, 離, 修, 等。)
(五, 道, 中, 受, 樂。)
(諸, 苦, 畢, 竟, 有。)
(知, 天, 中, 退, 苦。)
(人, 天, 自, 在, 樂。)
(亦, 復, 知, 苦, 因。)
(次, 說, 梵, 天, 譬, 喻, 偈言。)
(亦, 復, 知, 苦, 因。)

5

10

15

20

25

30

6) 悲雲雨, 法雨。
我邪見衆生。
相応諸方便。
行人²⁾故不雨。
不護, 微細蟲。
澍下衝大地。
7) 信法, 器能得。
如來亦如是。
般若悲雲雨。
如是種³⁾類等。
苦, 因, 彼, 滅, 道。
波流⁷⁾五道。
寒熱⁸⁾惱等。
降, 大, 妙, 法, 雨。
有智者不⁹⁾求。
已信者知¹⁰⁾苦。
觀, 滅, 及, 知, 道。
慧者信¹⁰⁾法語。
人中追求¹⁰⁾苦。
為, 令, 彼, 除, 滅。
猶如¹⁰⁾臭爛糞。
無始¹⁰⁾世生死。
取, 無, 病, 修, 業。
無始¹⁰⁾世生死。

1) 梵藏に“不護……偈言”を欠く。

2) 故不 = 中故 宮本。

3) 類等 = 種類 宋・元・明・宮本。

4) 6) 9) 梵文下註1) 参照。

5) 病 = 苦 宋・元・明・宮本。

7) 波 = 彼 宋・元・明・宮本。

8) 惱 = 波 宮本。

10) 梵本2)3) を参照。

1) yadvad brahmā vimānān na calati satataṁ kāma- dhātu-praviṣṭaṁ devāḥ paṇyanti cāinaṁ viṣaya-rati-haraṁ darṇanam tac ca teṣāṁ tadvat saddharma-kāyān na calati sugataḥ sarva-lokeṣu cāinaṁ bhavyāḥ paṇyanti ṇaṇvat sakala-mala-haraṁ darṇanam tac ca teṣāṁ 55	5
2) svasyāiva pūrva-praṇidhāna-yogān marud- gaṇānām ca ṇubhānubhāvāt brahmā yathā bhāsam upaity ayatnān nirmāṇa-kāyena tathā svayambhūḥ 56	10
anābhāsa-gamane cyutiṁ garbhākrāntiṁ janana-pitri-veṇma-praviṇanam rati-kriḇāraṇya-pravicaṇa-māra-pramathanam mahā-bodhi-prāptiṁ praṇama-pura - mārga - praṇayanam nidarṇyādhanyānām nayana-patham abhyeti na muniḥ 57	15
sūryavad iti sūrye yathā tapati padma-gaṇa-prabuddhi (XXVa)r ekatra kāla-samaye kumuda-prasuptiḥ buddhi-prasupti-guṇa-doṣa-vidhav akalpaḥ sūryo 'mbujeṣv atha ca tadvad ihārya-sūryaḥ 58	20
3) dvi-vidhaḥ sattva-dhātur avineyo vineyaṇ ca tatra yo vineyas tam adhikri (52 a) tya padmōpamatā svaccha-jala-bhā- janōpamatā ca	
nirvikalpo yathādityaḥ kamalāni sva-raṇmibhiḥ	25
bodhayaty eka-muktābhiḥ pācayaty aparāṇy api 59	
saddharma-kiraṇair evaṁ tathāgata-divā-karaḥ	
vineya-jana-padmeṣu nirvikalpaḥ pravartate 60	
dharma-rūpa-ṇarīrābhyām bodhi-maṇḇāmbaṇrōditaḥ	
jagat-spharati sarva-jñā-dinaṇrij jñāna-raṇmibhiḥ 61	30

1) 2) CはSの55,56偈を倒置し、TはSと同じ。

3) Cは“dvi-vidhaḥ... (63偈) yathārhatāḥ”を欠く。TはSに合す。

5) (而日無分別上 (有智如華開 (亦有一時合上 (如日光初出 (次說日譬喻。偈言。 (示道人涅槃 (現就外道學 (習學諸伎芸 (從天退入胎 (有現不現。偈言。 (梵天過去願 (化仙身亦爾 (諸天見妙色 (而常現世間 (依諸天淨業 (梵宮中不動 (失五欲境界 (衆生見歡喜 (現生有父母 (戲樂及遊行 (降伏於天魔 (諸薄福衆生 (普照諸蓮華 (仏日亦如是 (有罪如華合 (仏日亦如是 (照而無分別 (有同一時開 (照一切衆生 (如日照水華 (成仏轉法輪 (不能見如来 (出家行苦行 (在家示嬰兒 (梵天自然現 (常現於欲界 (仏法身不動 (不樂諸有樂	1) 2)
--	----------

1) 2) 梵文下註1) 2) 参照。

3) 同=能 宮本。

4) 如=而 宋・元・明・宮本。

5) 梵文下註3) を参照。

yataḥ ṣucini sarvatra vineya - salilāṣaye¹⁾ |
ameya-sugatāditya-pratibimbôdayaḥ sakṛit || 62 ||
evam avikalpatve 'pi sati buddhānām tri-vidhe sattva-rāṣau
darṣanādeṣanā-pravṛitti-kramam adhikṛitya ²⁾çailôpamatā |
sadā sarvatra viṣṛite dharma-dhātu-nabhas-tale |
buddha-sūrye vineyādri-tan-nipāto yathārhatāḥ || 63 ||
udita ³⁾iha samantāl lokam ābhāsya yadvat pratata-
daṣaṣatāmṣuḥ sapta-saptiḥ krameṇa |
pratapati vara-madhya-nyūna-ṣaileṣu tadvat pratapati
jīna-sūryaḥ sattva-rāṣau krameṇa || 64 ||
prabhā-maṇḍala-viṣeṣaṇe |
sarva-kṣetra-nabhas-tala-spharaṇatā bhānor na samvid-
yate nāpy ajñāna-tamo 'ndha-kāra-gahana-jñeyārtha-
-saṁdarṣanam |
nānā-varṇa-vikīrṇa-raṣmi - visarair ⁴⁾ekaika-romôdbhavair
bhāsante karuṇātmakā jagati tu jñeyārtha-saṁdarṣakāḥ
|| 65 ||
buddhānām nagara-praveṣa-samaye cakṣur-vihīnā janāḥ
paṇyanty artham anartha-jāla-vigamaṁ vindanti tad
darṣanāt |
mohāndhāḥ ca bhavārṇavāntara-gatā dṛiṣṭy-andha-kārā-
vṛitā buddhārka - prabhayāvabhāsita - dhiyaḥ paṇyanty
adṛiṣṭaṁ padam || 66 ||
cintā-maṇivad iti |
(52 b) yugapad-gocara-sthānām sarvābhiprāya-pūraṇam |
kurute nirvikalpo 'pi prīthak-cintā-maṇir yathā || 67 ||
buddha-cintā-maṇim ⁵⁾tadvat sametya prīthag-āṣayāḥ |
ṣṛiṇvanti dharmatām citrām na kalpayati tāmṣ ca saḥ
|| 68 ||

(次第。偈言。)
(日。初。出。世。間。)
(後。照。中。下。山。)
(先。照。諸。菩。薩。)
(光明。輪。不。同。偈。言。)
(色。智。身。二。法。)
(故。仏。不。同。日。)
(不。破。無。明。暗。)
(光明。雲。羅。網。)
(仏。入。城。聚。落。)
(亦。滅。諸。惡。法。)
(如。來。日。光。照。)
(次。說。摩。尼。珠。譬。喻。偈。言。)
(一時。同。處。住。)
(而。滿。衆。生。願。)
(衆。生。種。種。聞。)

千光次第照
仏日亦如是
後及余衆生
大悲身如空
日不能徧照
不示可知境
示大慈悲体
無眼者得眼
無明沒諸有
見慧未見處
滿足所求意
自在大法王
仏心無分別

先照高山
次第照世間
徧照諸世間
諸国土虛空
放種種諸色
真如妙境界
見仏得大利
邪見黑暗障
摩尼宝無心
同住於悲心

1) Tは āṣaye が snod.
2) Tは çaila が ñi-ma(sūrya).
3) Tは iha が bshin(iva).
4) Tは ekaika-romodbhavair を欠く。
5) Tは maṇim を欠く。

¹⁾yathāvikalpaṃ maṇi-ratnam ipsitaṃ dhanam
 parebhyo viśrijaty ayatnataḥ |
 tathā munir yatnam ṛite yathārhatāḥ parār-
 tham ātiṣṭhati nityam ā-bhavāt || 69 ||
 durlabha-prāpta-bhāvās tathāgatā iti |
 iha śubha-maṇi-prāptir yadvaj jagaty atidurlabhā jala-
 nidhi-gataṃ pātāla-sthaṃ yataḥ spṛhayanti tam |
 na sulabham iti jñeyam tadvaj jagaty atidurbhage manasi
 vividha-kleṣa-graste tathāgata-darśanam || 70 ||
 pratiṣrutkā-ṣabdavad iti |
 pratiṣrutkā-rutaṃ yadvat para-vijñapti-sambhavam |
 nirvikalpam anābhogaṃ nādhyātmaṃ na bahiḥ sthitam
 || 71 ||
 tathāgata-rutaṃ yadvat para-vijñapti-sambhavam |
 nirvikalpam anābhogaṃ nādhyātmaṃ na bahiḥ sthitam
 || 72 ||
 ākāṣavad iti |
 niṣkiṃ-cane nirābhāse nirālambe nirācraṇe |
 cakṣuṣ-patha-vyatikrānte 'py arūpiṇy anidarśane || 73 ||
 yathā nimnōnnataṃ vyomni dṛiṣyate na ca tat tathā |
 buddheṣv api tathā sarvaṃ dṛiṣyate na ca tat tathā || 74 ||
 pṛithivīvad iti |
 sarve mahī-ruhā yadvad avikalpāṃ vasuṃ-dharām |
 niṣṛitya vṛiddhiṃ vairūḍhiṃ vaipulyam upayānti ca || 75 ||
 sambuddha-pṛithivīm evam avikalpāṃ aṣeṣataḥ |
 jagat-kuṣāla-mūlāni vṛiddhiṃ ācṛitya yānti hi || 76 ||
²⁾udāharaṇānāṃ piṇḍārthaḥ |
 na prayatnam ṛite kaṣ-cid dṛiṣṭaḥ kurvan kri (XXVb)
 yām ataḥ |
 vineya-saṃcāya-cchittiyai navadhōktaṃ nidarśanam || 77 ||
 sūtrasya(53a)tasya nāmnāiva dipitaṃ tat prayojanam |
 yatṛāte nava-dṛiṣṭāntā vistareṇa prakāṣitāḥ || 78 ||

1) Cは“yathāvikalpaṃ...darśanam || 70 ||”を欠く。TはSに合す。
 2) Cは“udāharaṇānāṃ...arthāḥ”を欠く。

1) (次説、響、譬、喩、偈言。)
 (譬、如、諸、響、聲、)
 (非、内、非、外、住、)
 (自然、無、分別、)
 (次説、虚、空、譬、喩、偈言。)
 (無、物、不、可、見、)
 (無、色、不、可、見、)
 (仏、中、見、一、切、)
 (次説、地、譬、喩、偈言。)
 (一、切、諸、艸、木、)
 (而、增、長、成、就、)
 (仏、無、分、別、心、)
 2) 遠、離、一、切、業、
 除、諸、疑、網、之、故、
 広、説、此、諸、法、
 依、他、而、得、起、
 如、來、聲、亦、爾、
 非、内、非、外、住、
 無、觀、無、依、止、
 空、中、見、高、下、
 其、義、亦、如、是、
 依、止、大、地、生、
 衆、生、心、善、根、
 而、增、廣、成、就、
 未、會、見、有、果、
 説、九、種、譬、喩、
 彼、修、多、羅、中、
 依、他、心、而、起、
 自、然、無、分、別、
 過、眼、識、境、界、
 而、空、不、如、是、
 地、無、分、別、心、
 依、止、仏、地、生、
 為、一、切、疑、人、
 彼、修、多、羅、名、
 広、説、九、種、譬、喩、

1) 梵文下註1)を参照。

2) 梵文下註2)。

3) 見有=有見 宋・元・明・宮本。

etac-chruta-mayôdāra-jñānālokādy-alamkṛitāḥ	
dhīmanto 'vataranty āçu sakalam buddha-gocaram 79	
ity-artham cakra-vaidūrya-pratibimbādy-udāhṛitāḥ	
navadhôdāhṛitā tasmin tat-piṇḍārtho 'vadhāryate 80	
darṣanādeṣanā vyāptir vikṛitir jñāna-niḥsṛitāḥ	5
mano-vāk-kāya-guhyāni prāptiḥ ca karuṇātmanām 81	
sarvābhoga-parispanda-praṣāntā nirvikalpikāḥ	
dhiyo vimala-vaidūrya-cakra-bimbôdayādivat 82	
pratiñābhoga-çāntatvam hetur dhī-nirvikalpatā	
dṛiṣṭāntaḥ cakra-bimbādih prakṛitārtha-susiddhaye 83	10
ayam ca prakṛito 'trārtho navadhā darṣanādikam	
janmāntardhim ṛite çāstur anabhogāt pravartate 84	
¹⁾ etam evārtham adhikṛityôdāharaṇa-saṁgrāhe catvāraḥ	
çlokāḥ	
yaḥ çakravat dundubhivat payodavat brah-	15
mārka-cintā-maṇi-rāja-ratnavat	
pratiçruti-vyoma-mahivat ā-bhavāt parārtha-	
kṛid yatnam ṛite sa yoga-vit 85	
surendra-ratna - pratibhāsa - darṣanaḥ sudai-	
çiko dundubhivad vibho rutam	20
vibhur mahā - jñāna - kṛipābhra - maṇḍalaḥ	
spharaty anantaṁ jagad-ā-bhavāgrataḥ 86	
anāsravād brahmavad acyutaḥ padād ane-	
kadhā-darṣanam eti nirmिताḥ	
sadārkavaj jñāna-viniḥṣṛita-dyutir viçuddha-	25
cintā-maṇi-ratna-mānasaḥ 87	
²⁾ pratirava iva ghoṣo 'nakṣarôkto jinānām gaganam iva	
çarīram vyāpy arūpi dhruvam ca	
kṣitir iva nikhilānām çukla-dharmāuṣadinām jagata iha	
samantād āspa (53 b) dam buddha-bhūmih 88	30

1) Cは“etam... (87偈)mānasaḥ”を欠く。

2) Cは此偈を冠頭偈の大地譬の中に出している。大地譬の中に反響、虚空譬まで挙げているから諸譬の総合偈としてS・Tの如く前三偈がCにもあったものと思われる。

(仏、声、猶、如、響、)
(徧、不、可、見、常、)
(徧、為、諸、衆、生、)
(白、淨、妙、法、藥、)

1)

彼、名、智、境、界、
具、足、仏、境、界、
九、種、諸、譬、喻、
以、離、諸、相、智、
離、諸、功、用、心、
如、大、毗、瑠、璃、
故、究、竟、寂、靜、
為、成、三、種、種、義、
說、三、種、見、等、
是、名、為、略、說、

以、無、名、字、說、
如、依、地、諸、法、
徧、不、限、於、一、人、
徧、為、諸、衆、生、

快、妙、智、莊、嚴、
說、彼、天、帝、釈、
應、知、彼、要、義、
身、口、意、業、密、
無、分、別、寂、靜、
帝、釈、等、譬、喻、
以、有、淨、智、慧、
故、說、三、種、見、等、
離、生、離、三、神、通、

仏、身、如、虛、空、
一、切、諸、妙、藥、
依、仏、地、諸、法、
不、限、於、一、人、

有、智、者、速、入、
瑠、璃、鏡、像、等、
見、說、及、徧、至、
大、慈、悲、者、得、
以、智、故、無、垢、
智、究、竟、滿、足、
是、故、無、分、別、
為、成、三、種、義、者、
諸、仏、現、是、事、

1) 梵文下註1)を参照。

¹⁾katham punar anenôdāharaṇa-nirdeṣena sataṁ anutpannā
aniruddhā ca buddhā bhagavanta utpadyamānā nirudhyamānā
ca saṁdṛiṣyante sarva-jagati cāṣāṁ anābhogena buddha-kāryā-
pratipraçabdhir iti paridīpitam |

2)

çubham vaiḍūryavac citte buddha-darçana-hetukam |
tad-viçuddhir asaṁhārya - çraddhēndriya - virūḍhitā || 89 ||
çubhōdaya-vyayād buddha-pratibimbōdaya-vyayaḥ |
munir nōdeti na vyeti çakravād dharma-kāyataḥ || 90 ||
ayatnāt kṛityam ity evaṁ darçanādi pravartate |
dharma-kāyād anutpādānīrodhād ā-bhava-sthiteḥ || 91 ||
ayam eṣāṁ samāśārtha-aupamyānām kramāḥ punaḥ |
pūrvakasyōttareṇōkto vaidharmya-parihārataḥ || 92 ||
buddhatvam pratibimbābham tadvan na ca na ghoṣavat |
deva-dundubhivat tadvan na ca no sarvathārtha-kṛit
|| 93 ||
mahā-meghōpamam tadvan na ca no sārtha-bijavat |
mahā-brahmōpamam tadvan na ca nātyanta-pācakam
|| 94 ||
sūrya-maṇḍalavat tadvan na nātyanta-tamo 'paham |
cintā-maṇi-nibham tadvan na ca no durlabhōdayam || 95 ||
pratiçrutkōpamam tadvan na ca pratya-sambhavam |
ākāṣa-sadṛiṣam tadvan na ca çukla-spadam ca tat || 96 ||
pṛithivī-maṇḍala-prakhyam tat-pratiṣṭhāçrayatvataḥ |
laukya-lokōttarāçeṣa-jagat-⁴⁾kuçala-sampadam || 97 ||
buddhānām bodhim āgamyā lokōttara-pathōdayāt |
çukla-karma-patha - dhyānāpramāṇārūpya - sambhava iti
|| 98 ||

5)

- 1) Cは“katham... paridīpitam”を欠く。
- 2) Cの下註2)参照。
- 3) Tは maṇḍalavat が gzugs-bshin (bimbavat)。
- 4) Tは kuçala を欠く。
- 5) Cの下註7)参照。

2) (不生不滅者即是如来。偈言。)
(如三毗瑠璃滅)
(如来不出世)
(彼淨心不壞)
(仏像⁴⁾亦生滅)
(此業自然有)
(尽諸際常住)
(種種義譬喻)
(仏体如三鏡像)
(如三妙法鼓)
(非不作三利益)
(如梵天不動)
(非不彼諸暗)
(猶如三彼雷響)
(非不爲一切)
(而非不住持)
(荷⁵負諸世間)
(出世間妙法)
(及以四空定)
(有如是諸業)

5

10

15

20

25

7) 一時非前後
諸如來自然
成就諸白業
種種諸物上故
一切種種物
衆生作依止
非不⁶⁾因緣⁶⁾成
如³⁾彼如意宝
而非³⁾不³⁾淳熟
而亦非³⁾不生
非不³⁾作³⁾法³⁾
如³⁾彼瑠璃地
先喻解異後
見是等現前
如來不生滅
信根³⁾芽增長
玻璃宝地存
彼鏡像亦滅
如來不生滅

無³⁾可³⁾化³⁾衆生³⁾
示³⁾現³⁾仏³⁾妙³⁾像³⁾
白淨法生滅
猶如³⁾帝釈王³⁾
法身不生滅
後喻解異前
人非³⁾不³⁾有³⁾聲
如³⁾彼大雲雨
種種諸種子
如³⁾彼大日輪
而非³⁾不³⁾希有
猶如³⁾彼虚空
猶如³⁾彼大地
以³⁾依³⁾彼大地
依³⁾諸³⁾仏³⁾善³⁾提³⁾
諸³⁾禪³⁾四³⁾無³⁾量
常住³⁾諸³⁾世³⁾間
作³⁾如³⁾是³⁾妙³⁾業³⁾

- 1) 梵文下註1) 参照。
- 2) “不生不滅……尽諸際常住”は帝釈譬の次にあつたものを対照のため移す。
梵蔵は“不生不滅……如来不出世”を欠く。
- 3) 芽 = 牙 宋・宮本。
- 4) 亦 = 示 明本。
- 5) 法 = 仏 宋・元・明・宮本。
- 6) 成 = 有 宋・元・明・宮本。
- 7) 梵蔵は“諸如來自然……作如是妙業”を欠く。

V

buddha-dhātur buddha-bodhir buddha-dharmā buddha-kṛt-
yam |

iha jina-viçaye 'dhimukta-buddhir guna-gana-

bhājanatām upaiti dhīmān |

abhibhavati sa sarva-sattva-punya-prasavam

acintya-guṇâbhilāsa-yogāt || 2 ||

yo dadyān maṇi-saṃskṛitāni kanaka-kṣetrāṇi bodhy-ar-
thiko buddha-kṣetra-rajah-samāny ahar-aho dharmêṣva-
rebhyaḥ sadā |

yaç cānyaḥ ṣṛiṇuyād itaḥ padam api ṣrutvādhimucyed
 ayam tasmād dāna-mayāc chubhād bahu-taram puṇyam
 samāsādayet || 3 ||

yah çilam tanu-vān-manobhir amalaim rakṣed anābho-
gavad dhīmān bodhim anuttarām abhilaṣan kalpān
anekān api |

yaç cānyaḥ ṣṛiṇuyād itaḥ padam api ṣrutvādhimucyed
 ayam tasmāc chīla-mayāc chubhād bahu-taram puṇyam
 samāsādayet || 4 ||

dhyāyed dhyānam apīha yas tri-bhuvana-kleṣāgni-nirvā-
pakam divya - brahma - vihāra - pārami - gataḥ sambodhy-

究竟一乘宝性論校量信功德品第十一
論曰。向說三種佛法。自此已下。明有慧人於彼法中能生信心。依彼信者所得功德。說二十四偈。

仏性仏菩提、
所不能思議、
得無量功德、
不思議果報、
若有人能捨、
無量仏国土、
是人如是施、
妙境界一句、
若有智慧人、
自然常護持、
是人所得福、
妙境界一句、
若人入禪定、
無菩提方便、

仏法及仏業、
此諸仏境界、
勝一切衆生、
得無量功德、
摩尼珠珍宝、
為求仏菩提、
無量恒沙劫、
聞已復能信、
奉持無上戒、
為求仏菩提、
不可得思議、
聞已復能信、
焚三界煩惱、

諸出世淨人、
若有能信者、
以求仏菩提、
故勝諸世間、
徧布十方界、
施与諸法王、
若復有人聞、
過施福無量、
身口意業淨、
如是無量劫、
若復有人聞、
過戒福無量、
過天行彼岸、

1) 梵文下註¹⁾ 参照。

1) Cは“iti ratna...samāptah || 4 ||”を欠く。

2) Tはsthānesv が gnas bshi-po(catur-sthānesv).

itīdam āptāgama-yukti-samṣrayād udāhṛitam
kevalam ātma-cuddhaye |
dhiyādhimuktyā kuṣalōpasampadā samanvitā
ye tad anugrahāya ca || 16 ||

2) pradīpa-vidyun-maṇi-candra-bhāskarān pra-
titya paṇyanti yathā sacakṣuṣaḥ |
mahārtha - dharma - pratibhā - prabhākaram
munim pratityēdam udāhṛitam tathā || 17 ||

3) yad arthavad dharma - padōpasamhitam tri-
dhātu-samkleṣa-nibarhaṇam vacaḥ |
bhavec ca yac chānty - anuṣamsa - darṣakam
tad uktam ārṣam viparitam anyathā || 18 ||

4) yat syād avikṣipta - manobhir uktam ṇās-
tāram ekam jinam uddiṣadbhiḥ |
mokṣā (XXVI b) pti - sambhāra-pathānukūlam
mūrdhnā tad apy ārṣam iva praticchet || 19 ||

5) yasmān nēha jināt supaṇḍita-tamo loke 'sti kaṣ-cit kva-
cit sarva-jñāḥ sakalam sa veda vidhivat-tattvam param
nāparaḥ |

tasmād yat svayam eva nītam ṛiṣiṇā sūtram vicālyam
na tat saddharma-pratibādhanaṁ hi tad api syān nīti-
bhedān muneḥ || 20 ||

āryāmṇ cāpavadanti tan nigaditam dharmam ca garhanti
yat sarvaḥ so 'bhīveṣa-darṣana-kṛitaḥ kleṣo vimūḍhāt-
manām |

1) C の下註 1) 参照。

2) T k ji-ltar bṇad-pa ḥdi las brtsams te tshigs-su-bṇad-pa(katham
nīyate tām ārabhya ḡlokaḥ)がある。

3) gaṇ bṇad-pa de las brtsams te tshigs-su-bṇad-pa (kim nirdeṣam
tam ārabhya ḡlokaḥ)がある。

4) gaṇ gis bṇad-pa de las brtshams te tshigs-su-bṇad-pa(kena nirde-
ṣena tam ārabhya ḡlokaḥ)がある。

5) T k bdag bsrūn-baḥi thabs las brtsams te tshigs-su-bṇad-pa (ātma-
samrakṣanopāyam ārabhya ḡlokaḥ)がある。

1) 又自、此已下、明、向、所、說、義、依、何、等、法、說、依、何、等、義、說、依、何、等、相、說、初、依、彼、法、故、說、二、偈。

我、此、所、說、法、
修、多、羅、相、心、
2) 我、此、所、說、法、
自、此、已、下、次、依、彼、義、故、說、三、偈。

依、燈、電、摩、尼、
皆、能、見、三、界、
自、此、已、下、次、依、彼、相、故、說、三、偈。

若、一、切、所、說、
遠、離、於、三、界、
自、此、已、下、次、依、彼、相、故、說、三、偈。

雖、說、法、句、義、
食、等、垢、所、纏、
世、典、善、言、說、
遠、離、煩、惱、垢、
以、離、於、諸、佛、
如、實、知、法、者、
思、者、是、謗、法、
此、諸、邪、思、惟、

為、自、心、清、淨、
若、有、智、慧、人、
亦、為、攝、彼、人、
日、月、等、諸、明、
依、法、光、明、
故、我、說、此、法、
有、義、有、法、句、
及、示、寂、靜、法、
余、者、顛、倒、說、
斷、三、界、煩、惱、
又、於、法、中、
彼、三、尚、可、受、
無、漏、智、慧、人、
一、切、世、間、中、
如、來、說、了、義、
不、識、自、意、故、
煩、惱、愚、癡、人、

3) 無、明、覆、慧、眼、
取、少、分、說、者、
何、況、諸、如、來、
所、說、修、多、羅、
更、無、勝、智、慧、
彼、不、可、思、議、
謗、聖、及、壞、法、
妄、見、所、計、故、

能、令、修、行、者、
最、勝、無、上、道、
慧、眼、者、能、見、
一、切、有、眼、者、
依、諸、如、來、教、
聞、能、信、受、者、

1) 梵藏 “又自此……說二偈”を欠く。

2) 我 = 依 宋・元・明・宮本。

3) 無明 = 無眼 宮本。

tasman nābhīniveṣa-dṛiṣṭi-maline tasmin niveṣyā matiḥ
 cūddham vastram upaiti raṅga-vikṛitīm na sneha-paṅkān-
 kitam || 21 ||

1) dhī-māndyād adhimukti-ṣukla-virahān mithyābhimānā-
 cṛayāt saddharma - vyasanāvṛitātmakatayā neyārtha-
 tattva-grahāt |

lobha-gredhatayā ca darṣana-vaṣād dharma-dviṣām seva-
 nād ārād dharma-bhṛitām ca hīna-rucayo dharmān
 kṣipanty arhatām || 22 ||

2) nāgner nōgra-viṣād aher na vadhakān naivāṣanibhyas
 tathā bhetavyam viduṣām atīva tu yathā gambhira-
 dharma-kṣateḥ |

kuryur jivita-viprayogam anala-vyālāri-vajrāgnayas tad-
 dhetor na punar vrajed atibhayām āvīcīkānām gatim || 23 ||

yo 'bhikṣaṇam pratisevya pāpa-suhṛidaḥ syād buddha-
 duṣṭācayo mātā-pitr-arihad-vadhācaraṇa-kṛit saṅghāgra-
 bhattā naraḥ |

syāt tasyāpi tato vimuktir aciram dharmārtha-nidhyānato
 dharme yasya tu mānasam pratihatam tasmai vimuktiḥ
 kutaḥ || 24 ||

3)

ratnāni vyavadāna-dhātum amalām bodhim guṇān karma
 ca vyākṛityārtha-padāni sapta vidhivad yat puṇyam
 āptam mayā |

tenēyam janatāmitāyusaṃ ṛiṣim paçyed ananta-dyutiṃ
 dṛiṣṭvā cāmala-dharma-cakṣur udayād bodhim parāmāp-
 nuyāt || 25 ||

- 1) Tには āms-paḥi rgyu las brtsams te tshigs-su-bḥad-pa (vinaṣṭa-
 hetum ārabhya ḥlokaḥ)がある。
 2) Tには āms-paḥi ḥbras-bu las brtsam te tshigs-su-bḥad-pa(vinaṣṭa-
 phalam ārabhya ḥlokaḥ)がある。
 3) Cの下註1)参照。

5

10

15

20

25

故不_レ應_レ執_レ著_レ垢膩不可_レ染_レ著_レ邪見諸垢法_一
 自_レ此已下依_レ謗正法_一故說_レ三偈_一
 愚不_レ信_レ白法_一
 著_レ供養恭敬_一
 樂_レ著_レ小乘法_一
 自_レ此已下依_レ謗正法_一得_レ惡果報_一故說_レ六偈_一
 智不_レ應_レ畏_レ師子虎狼等_一
 應_レ畏_レ謗_レ深法_一
 雖_レ近_レ惡知識_一
 破_レ壞_レ和合偈_一
 若_レ復有_レ余人_一
 自_レ此已下依_レ於_レ說法_一法師_一生_レ敬重心_一故說_レ三偈_一
 若_レ人_レ令_レ衆生_一
 彼人_レ是_レ智者_一
 自_レ此已下依_レ彼_レ說法_一所得_レ功德_一以_レ用_レ迴向_一故說_レ三偈_一
 三寶_一清淨性_一
 依_レ此諸功德_一
 我_レ及_レ余信者_一
 既_レ見_レ彼_レ已_一
 願_レ於_レ命終時_一
 善_レ提_レ功德業_一
 過去謗法障_一
 遠_レ離_レ善智識_一
 不_レ信_レ於_レ大乘_一
 因陀羅_一霹靂_一
 不_レ能_レ令_レ人_一
 決定_レ令_レ人_一
 及_レ殺_レ害_レ父母_一
 以_レ繫_レ念_レ正法_一
 彼人_レ無量劫_一
 彼_レ是我_レ父母_一
 迴_レ邪見_一顛倒_一
 我_レ略說_レ七種_一
 見_レ無量壽_一佛_一
 願_レ得_レ離_レ垢眼_一
 成_レ無上_一菩提_一
 與_レ私_レ經_一相_レ應_一
 無_レ辺_レ功德身_一
 成_レ無上_一菩提_一
 亦是_レ善知識_一
 令_レ入_レ正_レ道_一故_一
 可_レ畏_レ阿鼻_一獄_一
 可_レ畏_レ阿鼻_一獄_一
 斷_レ諸_レ聖人_一命_一
 能_レ解_レ脫_レ彼_レ處_一
 不_レ可_レ得_レ解_レ脫_一
 刀杖_一諸_一惡獸_一
 執_レ著_レ不_レ了_レ義_一
 親_レ近_レ謗_レ法_一者_一
 故_レ謗_レ諸_レ佛_一法_一
 以_レ淨_レ衣_一受_レ色_一

1) 梵藏は "自此已下……令入正道故" を欠く。

2) 学=覚。宮本。

eṣām api daṣānām ṣlokānām piṇḍārthas tribhiḥ ṣlokair
veditavyaḥ |

yataṣ ca yan nimittam ca yathā ca yad udāhṛitam |
yan niṣyanda-phalam ṣlokaḥ caturbhiḥ paridīpitam || 26 ||
ātma-¹⁾saṃrakṣaṇōpāyo dvābhyām ekena ca kṣateḥ |
hetuḥ phalam atha dvābhyām ṣlokābhyām paridīpitam
|| 27 ||

5

saṃsāra-maṇḍala-kṣāntir bodhi-prāptiḥ samāsataḥ |
dvidhā-dharmārtha-vādasya phalam antyena darṣitam
|| 28 ||

10

³⁾iti ratna-gotra-vibhāge mahā-yānōttara-tantra-ṣāstre 'nuṣaṃ=
sādhikāro nāma pañcamah paricchedaḥ ṣlokārtha-saṃgraha-vyāk-
hyānataḥ samāptaḥ || 5 ||

究竟一乘宝性論卷第四
自、此、已、下、略、說、一、句、義、偈、言、
依、何、等、法、而、說、
如、彼、法、而、說、
彼、一、切、諸、法、
以、七、行、偈、說、
六、偈、示、彼、因、
深、生、敬、重、心、
略、說、三、種、法、

2)
依、何、等、義、而、說、
如、彼、義、而、說、
六、行、偈、示、現、
明、誹、謗、正、法、
以、二、偈、示、現、
大、衆、聞、忍、受、
示、現、彼、果、報、

依、何、等、相、而、說、
如、彼、相、而、說、
護、自、身、方、便、
故、有、三、行、偈、
於、彼、說、法、人、
得、彼、大、菩、提、

- 1) 句=向 宋・元・明・宮本。
2) 梵藏“以二偈……深生敬重心”を欠く。
3) 第四=第五 宋・元・明・宮本。

1) bdag-ñid dag-pa yis thabs(ātma-saṃṣodhanopāya?).
2) Cの下註2)参照。Tも欠く。
3) Cは“iti ratna...samāptaḥ”を欠く。T、D版はSに一致するが、P版はこの間に teg-pa chen-po rgyud bla-maḥi bstan-bcos. mgon-po byams-pas mdsad-pa rdsogs-so (mahāyanottaratantram nātha-maitreyena kṛitam samāptam) がある。

あ　と　が　き

本書は E. H. JOHNSTON の出版した RATNAGOTRAVIBHĀGA-MAHĀYĀNOTTARATANTRA-ÇĀSTRA をローマナイズし漢訳と対照して、昭和30年の大崎学報103号から34年の110号に掲載したものの集録である。

梵本全体が殆んど蔵訳と一致することから、此書では梵本を蔵訳との対照の上に読み進んだ。例えば、P. 75 の25偈の tathāvyatirekataḥ を蔵訳は tathā vyatirekataḥ、漢訳は tathā avyatirekataḥ と読んでいるが、蔵訳の読方に従った如きである。梵蔵の不一致な点は竜谷大学月輪賢隆博士より終始御慈教を仰ぎ、それらを詳しく註記すべきであったが、いずれ機を見て出版を予定している蔵和对訳宝性論に譲る。

漢訳の訓点に当たっても月輪博士より訓点本を貸与に預り、併せて坂本幸男博士より宇井博士の訓点を施されたものを拝借し、それによったものであるが、自分の不明をも省ず改めた個処も少くなかった。また大谷大学山口益博士より弥勒の五論書について御指導賜り、東北大学金倉円照博士、山田竜城博士、羽田野伯猷博士より種々御高教を賜り且つ蔵外の宝性論異本を参照させて頂いた。

今、大崎学報所載の梵漢対照を出版するに当たり、梵本の明らかに誤植であるのに気付かなかった個処を宇井伯寿博士の宝性論研究（昭和34年10月出版）に従って訂正させて頂いた。

今日まで御指導下さった日蓮宗教学研究所長望月敏厚博士、布施浩岳博士、石川海淨名誉教授、並びに日蓮宗教学研究所員の諸先生に心から謝意を表する。

本書が少しでも学界に資するところがあるとすれば、それは恩師諸先生の賜に外ならないのであって、不備な点は凡て著者の浅学の致すところである。

本書の如き特殊研究の上梓に斡旋の労をとって下さった坂本博士、それを快諾して下さった山喜房書店主青木正男氏に厚く御礼申上げる。

なお、本書では、—ā— = —a+a—, —ā— = —ā+a—, 又は、= —a+ā— で、āi は ai, āu は au とした。

著　　者

著　者　略　歴

昭和16年 立正大学文学部仏教学科卒業
昭和17年より3カ年日蓮宗管長の命により内地留学
昭和20年 立正大学講師
昭和24年 立正大学助教授
著　　述
昭和30年 釈尊とその思想
昭和35年 勝　鬘　經

昭和36年3月1日印刷
昭和36年3月5日発行

梵漢究一乘宝性論研究
対照
Y 1,200

著　　者　　中　　村　　瑞　　隆

発行者　　青　　木　　正　　雄

東京都文京区本郷6丁目9番地

印刷者　　内　　山　　康　　則

東京都板橋区志村本蓮沼153

発行所　　有限会社 山喜房仏書林

東京・本郷・東京大学赤門前

振替・東京1900番

電話{(921) 5361
(991) 3332}番

誠和印刷KK・帝都製本KK

RATNAGOTRAVIBHĀGA MAHĀYĀNOTTARATANTRA-
ÇĀSTRA

1. COMPARED WITH SANSKRIT AND CHINESE.
2. TIBETAN AND JAPANESE.
3. INDEX: SANSKRIT-TIBETAN-CHINESE, TIBETAN-SANSKRIT AND CHINESE-SANSKRIT.

文学博士 小野正康著	日本仏教の倫理学的研究	1,800
文学博士 文平川彰著	律蔵の研究	2,200
文学博士 文勝又俊教著	仏教に於ける心識説の研究	2,000
文学博士 文玉城康四郎著	心把捉の展開 ——天台実相観を中心として——	1,500
文学博士 文梶芳光運著	原始般若經の研究	

池田澄達著 中村元補	チベット文法入門	200
池田澄達著	チベット語読本	400
岩本裕著	サンスクリット文法	650
〃	サンスクリット読本	400
文学博士 文水野弘元著	パーリ語文法	1,000
〃	パーリ語仏教読本	650
文学博士 文長井真琴著	独習巴利語文法	380
梵文中論	プラサンナパダー	2,500
荻原雲来著	梵漢対訳 仏教辞典	4,000
荻原・土田	校訂 梵文法華經	3,500

Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 Unported

You are free:



to **Share** — to copy, distribute and transmit the work



to **Remix** — to adapt the work

Under the following conditions:



Attribution — You must attribute the work in the manner specified by the author or licensor (but not in any way that suggests that they endorse you or your use of the work).



Noncommercial — You may not use this work for commercial purposes.



Share Alike — If you alter, transform, or build upon this work, you may distribute the resulting work only under the same or similar license to this one.

With the understanding that:

Waiver — Any of the above conditions can be **waived** if you get permission from the copyright holder.

Public Domain — Where the work or any of its elements is in the **public domain** under applicable law, that status is in no way affected by the license.

Other Rights — In no way are any of the following rights affected by the license:

- Your fair dealing or **fair use** rights, or other applicable copyright exceptions and limitations;
- The author's **moral** rights;
- Rights other persons may have either in the work itself or in how the work is used, such as **publicity** or privacy rights.

Notice — For any reuse or distribution, you must make clear to others the license terms of this work. The best way to do this is with a link to this web page.